

令和 5 年度
#8000 情報収集分析事業報告書
【全体版】

公益社団法人日本小児科医会

2024 年 3 月

目次

I. 事業概要	3～5
II. 情報収集・分析方法	6～18
III. 全調査都道府県(全体版)の集計結果	19～42
IV. 全調査都道府県(全体版)の考察	43～115
IV-1. #8000 事業の月別相談件数	43
IV-2. 都道府県別、小児医療圏別の年少人口対相談件数(#8000 利用率)	44～50
IV-3. #8000 事業の時間帯別ニーズ(相談件数の時間変動)	51～80
IV-4. #8000 事業の相談対象児の分析	81～88
IV-5. #8000 事業の相談者の分析	89～91
IV-6. #8000 事業の相談対応の分析	92～113
IV-7. 新型コロナウイルス関連相談	114～115
V. 総括	116～122
V-1. 令和 5 年度#8000 情報収集分析事業の要約	116～118
V-2. #8000 事業の経年変化	119～120
V-3. #8000 情報収集分析事業から得られた課題と対策	121～122
VI. 結語	122
VII. 引用資料	123

I. 事業概要

I-1. #8000 情報収集分析事業の背景と目的

2000 年前後に、時間外小児救急医療の需要増加と 24 時間体制の救急医療提供体制の困難性を背景に、小児救急医療の危機が起こり、その対応策として小児救急電話相談事業（現在は子ども医療電話相談事業、以下「#8000 事業」という。）が発案された。平成 16 年度に行われた小児救急受療行動調査では、保護者の 77%が小児救急電話相談事業への期待を示しており¹⁾、#8000 事業はわが国の小児救急医療政策・子育て支援政策の支柱として期待され開始された。

#8000 事業は、平成 16 年から国庫補助事業として開始され、平成 22 年から全国の 47 都道府県で実施されている。令和 4 年度は全国で年間 1,156,196 件の相談が寄せられ、子育て中の保護者の不安に寄り添う事業として活用されている。また、「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」における「いのちをまもり、医療をまもる」国民プロジェクト宣言（平成 30 年度）²⁾や、成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針（令和 2 年度）³⁾において、#8000 事業の整備と活用が指摘されている。

#8000 事業は都道府県事業として進められていたが、全国の#8000 事業の状況を一括して調査・分析することはなかった。そこで、平成 29 年度より、厚生労働省は、都道府県#8000 事業の全国均てん化、相談対応者の質の向上と保護者への啓発等を目的に、相談内容や対応等に関する情報を収集し分析する#8000 情報収集分析事業（以下「本事業」という。）⁴⁾を開始した。平成 29 年度から、公益社団法人日本小児科医会が厚生労働省の委託を受けて実施している。

I-2. #8000 情報収集分析事業の内容

上記の目的を達成するため、本事業は、#8000 事業における必要不可欠な調査項目肢を定めて（図 2）、全国のデータを収集・保存し一括して分析を行うことにより、#8000 事業の特性、都道府県間の差違を調べ、#8000 事業の質の向上と均てん化に資する資料を作成して、集計・分析結果を保護者、都道府県、小児医療提供者、#8000 事業者等に提供する。

本事業のプロセスは以下の通りである。

- ① 都道府県に事業への参加を依頼し、都道府県#8000 事業担当会議で事業概要を説明する。
- ② 都道府県の参加登録と#8000 データ収集方式の選択を受ける。
- ③ 調査期間に#8000 事業に関するデータを収集（※）する。

（※）#8000 事業に関するデータの収集方法は、構築した情報収集分析システム（NDS-8000-2）システムへの直接入力、マークシートへの記入（図 3）、Excel/GSV ファイルの提出、手書き入力データを AI-OCR で処理、の 4 方式がある。（図 4、5）

- ④ 収集したデータを一括して処理・集計・分析する。
- ⑤ 報告書を作成する。

さらに、広報事業として、保護者、都道府県、小児医療提供者、#8000 事業者等への情報提供を行うとともに、啓発事業として、保護者を対象として#8000 市民公開講座の開催、こども救急ガイドブック（都道府県作成）、こどもの救急 ONLINE（日本小児科学会作成）、救急医療情報システム（都道府県作成）等の小児救急医療情報ツールとの連携・活用の推進を行う。

I-3. #8000 情報収集分析事業の実施体制

I-3-1. 事業主体

公益社団法人日本小児科医会

I-3-2. 小児救急電話相談情報収集分析事業ワーキンググループの体制

吉澤穰治、渡部誠一、桑原正彦、小山典久、福井聖子

吉澤は企画・立案を行った。渡部は事業遂行、都道府県・事業者との連絡、全体版報告書作成・取り纏め、AI-OCR を用いたデータ収集を行った。福井は、大阪府の#8000 応答率の解析を行った。各委員は全体版報告書校正、都道府県版報告書の考察を分担して担当した。

I-3-3. 会議日程等の事業の過程

事業進捗を円滑に進めるため、#8000WG 会議（以後、WG 会議と略す。）を週 1 回行った。事業の進行、調整のため、都道府県#8000事業担当者、広域民間事業者との個別会議を行い、かつ、都道府県#8000 担当者を一同に集めて事業説明、報告および意見交換（都道府県#8000 担当者会議）を行った。以上の会議は全てオンラインで行った。

#8000 事業啓発活動として、#8000 市民公開講座を 2023 年 10 月 1 日に Web 形式で行った。その準備会議を複数回行った。市民公開講座の概要を YouTube で公開した。

会議実績を表 1 に示す。

表 1. 会議実績

年月日	会議名	年月日	会議名	年月日	会議名
2023.06.23	WG会議	2023.08.03	高知県会議	2023.09.22	たまひよ会議
2023.06.23	都道府県#8000担当者会議	2023.08.03	オフィスポケット会議	2023.09.29	WG会議
2023.06.30	WG会議	2023.08.03	群馬県会議	2023.10.01	市民公開講座
2023.07.07	WG会議	2023.08.04	佐賀県会議	2023.10.02	宮城県会議
2023.07.14	WG会議	2023.08.04	滋賀県会議	2023.10.06	WG会議
2023.07.14	たまひよ会議	2023.08.04	熊本県会議	2023.10.06	WG会議
2023.07.20	WG会議	2023.08.04	東京海上日動会議	2023.10.06	厚生労働省会議
2023.07.20	宮城県会議	2023.08.04	ファストドクター会議	2023.10.20	WG会議
2023.07.20	福井県会議	2023.08.04	WG会議	2023.10.27	WG会議
2023.07.20	広島県会議	2023.08.04	鹿児島県会議	2023.11.10	WG会議
2023.07.20	宮城県会議	2023.08.04	岡山県会議	2023.11.17	WG会議
2023.07.21	大分県会議	2023.08.09	栃木県会議	2023.11.24	WG会議
2023.07.21	神奈川県会議	2023.08.09	栃木県会議	2023.12.01	WG会議
2023.07.26	香川県会議	2023.08.09	埼玉県会議	2023.12.08	WG会議
2023.07.26	北海道会議	2023.08.09	千葉県会議	2023.12.11	WG会議
2023.07.26	鳥取県会議	2023.08.09	新潟県会議	2023.12.18	WG会議
2023.07.26	徳島県会議	2023.08.09	宮崎県会議	2023.12.25	WG会議
2023.07.27	長崎県会議	2023.08.10	愛知県会議	2023.12.29	WG会議
2023.07.27	石川県会議	2023.08.10	ダイヤルサービス会議	2024.01.05	WG会議
2023.07.27	京都府会議	2023.08.10	和歌山県会議	2024.01.12	WG会議
2023.07.27	岐阜県会議	2023.08.10	三重県会議	2024.01.19	WG会議
2023.07.27	静岡県会議	2023.08.10	沖縄県会議	2024.01.24	日本医師会会議
2023.07.28	メディカルコンシェルジュ会議	2023.08.17	WG会議	2024.01.26	広島県会議
2023.07.28	福岡県会議	2023.08.18	たまひよ会議	2024.01.29	WG会議
2023.07.28	奈良県会議	2023.08.24	WG会議	2024.02.02	都道府県#8000担当者会議
2023.07.28	東京都会議	2023.08.25	WG会議	2024.02.09	WG会議
2023.08.02	岩手県会議	2023.08.30	山梨県会議	2024.02.16	WG会議
2023.08.02	山形県会議	2023.08.30	宮城県会議	2024.02.22	WG会議
2023.08.02	兵庫県会議	2023.08.31	広島県県会議	2024.03.01	WG会議
2023.08.02	島根県会議	2023.08.31	岩手県会議	2024.03.06	WG会議
2023.08.02	富山県会議	2023.08.31	大阪府県会議	2024.03.08	WG会議
2023.08.02	秋田県会議	2023.09.01	たまひよ会議	2024.03.15	WG会議
2023.08.02	T-PEC会議	2023.09.06	広島県会議	2024.03.22	WG会議
2023.08.02	法研会議	2023.09.08	WG会議	2024.03.29	WG会議
2023.08.03	茨城県会議	2023.09.11	WG会議		
2023.08.03	山梨県会議	2023.09.15	WG会議		

※ WG 会議＝#8000WG 会議、都道府県#8000 担当者会議＝都道府県#8000 事業担当者会議。広域民間事業者との会議はダイヤルサービス、T-PEC、法研、東京海上日動、オフィスポケット、メディカルコンシェルジュ、ファストドクターとの会議。啓発事業・市民公開講座の打合せはたまひよ会議（ベネッセコーポレーション たまひよとの会議）。

Ⅱ. 情報収集・分析方法

#8000 事業は平成 18 年に民間事業者の活用が可能となつてから⁵⁾、広域民間事業者への移行、あるいは地元事業者と広域民間事業者を組み合わせる都道府県が増えてきた。47 都道府県全ての#8000 事業実施状況を表 20(平日)、表 21(土曜日)、表 22(日祝日)に 1 時間毎に示し、実施事業者を地元事業者・広域民間事業者に分けて示した。

都道府県別に、広域民間事業者、地元事業者、本事業への参加、本事業へのデータ提供の状況を表 3 に示した。

データ取得率について、各調査項目の都道府県別データ取得率を表 4 に示した。

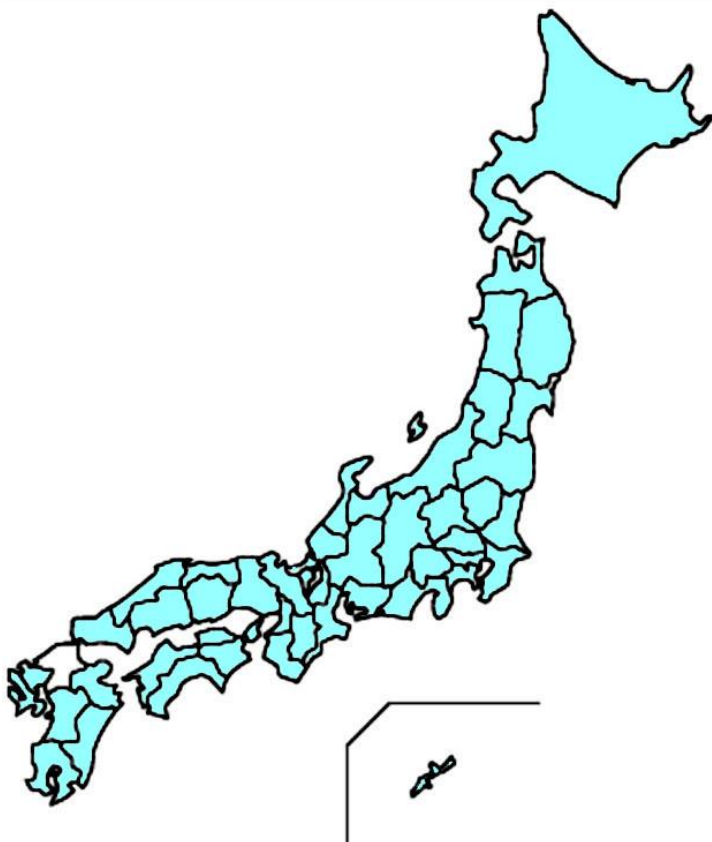
Ⅱ-1. 調査期間

調査期間は、令和 5 年 9～11 月の 3 か月間である。令和 2 年度までの調査期間は 12～2 月であったが、データ収集と分析を年度内に完了できないこと、積雪が多い地域では冬期の医療アクセスの悪化の影響を受けることから、令和 3 年度から 9～11 月に変更した。

Ⅱ-2. 参加都道府県(図 1)

福岡県を除く 46 都道府県が参加して、過去最大となった。

図 1. 令和 5 年度 #8000 情報収集分析事業に参加した 46 都道府県



II-3. 47 都道府県の#8000 事業実施時間帯と事業者(地元事業者、広域民間事業者)

平日(表 2-1)準夜帯は、12 県は 18 時、30 県は 19 時、1 県は 19:30、1 県は 20 時から開始し、3 県は 24 時間実施している。深夜帯は、1 県は 1 時、1 県は 6 時、2 県は 7 時、36 県は 8 時、7 県は 9 時まで実施している。

17 道府県を地元事業者が担当し、そのうち 5 府県は地元事業者単独、12 道県は広域民間事業者を併用している。42 都道府県を広域民間事業者が担当している。

表 2-1. 都道府県の#8000 事業の平日(除祝日)の実施時間帯と事業者

No.	都道府県名	広域 民間 事業者	平日（除祝日）																											
			日勤帯										準夜帯							深夜帯（翌日）										
			8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時			
1	北海道	A												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民		
2	青森県	A											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
3	岩手県	A												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
4	宮城県	A												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
5	秋田県	B												地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
6	山形県	C												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
7	福島県	D												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
8	茨城県	E	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
9	栃木県													地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	
10	群馬県	B												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
11	埼玉県	E	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
12	千葉県													地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	
13	東京都	F											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
14	神奈川県	F											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
15	新潟県	B												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
16	富山県	A	民											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
17	石川県	B											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
18	福井県	A	民											地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
19	山梨県													地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	
20	長野県	F												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
21	岐阜県	F											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
22	静岡県	C	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
23	愛知県	F												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
24	三重県	B												民30	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
25	滋賀県	F											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
26	京都府	B												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
27	大阪府													地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地
28	兵庫県	B											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
29	奈良県	F											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
30	和歌山県	D	民											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
31	鳥取県	B												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
32	島根県	A	民											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
33	岡山県	C												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
34	広島県	E												地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
35	山口県	G												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
36	徳島県	A											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
37	香川県	D												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
38	愛媛県	B												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
39	高知県														地	地	地	地	地	地										
40	福岡県	D												地民	地民	地民	地民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
41	佐賀県	C												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
42	長崎県	C											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
43	熊本県	D												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
44	大分県	C												地民*	地民*	地民*	地民*	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
45	宮崎県	C												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
46	鹿児島県	D												地民	地民	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
47	沖縄県	B												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民

2023年9月の実施状況。地:地元事業者が対応、民:広域民間事業者が対応、地民:地元事業者と広域民間事業者双方が対応。

民30:三重県は19:30開始。地民*:大分県は火・木・金曜日(祝日を含め)のみ地元事業者が広域民間事業者と共に対応する。

土曜日(表 2-2)日勤帯は、17 県は実施し(24 時間実施 3 県を含む)、そのうち 9 都県は日勤帯午前から、1 県は 12 時、4 県は 13 時、3 県は 15 時から実施している。30 道府県は土曜日日勤帯に実施していない。深夜帯は、1 県は 1 時、1 県は 6 時、1 県は 7 時、19 県は 8 時、25 県は 9 時まで実施している。

15 道府県を地元事業者が担当し、そのうち 5 都府県は地元事業者単独、10 道県は広域民間事業者を併用している。42 都道府県を広域民間事業者が担当している。

表 2-2 都道府県の#8000 事業の土曜日(除祝日)の実施時間帯と事業者

No.	都道府県名	広域 民間 事業者	土曜日（除祝日）																											
			日勤帯										準夜帯							深夜帯（翌日）										
			8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時			
1	北海道	A												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民				
2	青森県	A							民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
3	岩手県	A												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
4	宮城県	A												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
5	秋田県	B												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
6	山形県	C												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
7	福島県	D												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
8	茨城県	E	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
9	栃木県												地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地			
10	群馬県	B											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
11	埼玉県	E	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
12	千葉県													地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地			
13	東京都	F	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
14	神奈川県	F										民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
15	新潟県	B											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
16	富山県	A	民					民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
17	石川県	B						民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
18	福井県	A	民											地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
19	山梨県									地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地				
20	長野県	F											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
21	岐阜県	F	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
22	静岡県	C	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
23	愛知県	F											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
24	三重県	B											民30	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
25	滋賀県	F										民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
26	京都府	B								民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
27	大阪府													地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地			
28	兵庫県	B										民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
29	奈良県	F							民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
30	和歌山県	D	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
31	鳥取県	B	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
32	島根県	A	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
33	岡山県	C										民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
34	広島県	E											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
35	山口県	G											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
36	徳島県	A										民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
37	香川県	D											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
38	愛媛県	B						民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
39	高知県														地	地	地	地	地											
40	福岡県	D					民	民	民	民	民	民	民	地民	地民	地民	地民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
41	佐賀県	C												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
42	長崎県	C										民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
43	熊本県	D								民	民	民	民	地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
44	大分県	C											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
45	宮崎県	C												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
46	鹿児島県	D												地民	地民	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			
47	沖縄県	B	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民			

2023年9月の実施状況。地:地元事業者が対応、民:広域民間事業者が対応、地民:地元事業者と広域民間事業者双方が対応。

民30:三重県は19:30開始。

日祝日(表 2-3)は、28 都県は日勤帯に実施している。25 都県は土曜日～日曜日に切れ目なく実施している。19 道府県は日祝日日勤帯に実施していない。

16 道府県を地元事業者が担当し、そのうち 5 府県は地元事業者単独、11 道県は広域民間事業者を併用している。42 道都道府県を広域民間事業者が担当している。

表 2-3. 都道府県の#8000 事業の日祝日の実施時間帯と事業者

No.	都道府県名	広域 民間 事業者	日曜祝日																											
			日勤帯										準夜帯							深夜帯（翌日）										
			8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時			
1	北海道	A											地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民		
2	青森県	A	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
3	岩手県	A												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
4	宮城県	A												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
5	秋田県	B												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
6	山形県	C												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
7	福島県	D												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
8	茨城県	E	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
9	栃木県		地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	
10	群馬県	B	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
11	埼玉県	E	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
12	千葉県													地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	
13	東京都	F	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
14	神奈川県	F											民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
15	新潟県	B												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
16	富山県	A	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
17	石川県	B	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
18	福井県	A	民	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
19	山梨県		地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	
20	長野県	F												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
21	岐阜県	F	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
22	静岡県	C	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
23	愛知県	F												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
24	三重県	F	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
25	滋賀県	F		民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
26	京都府	B												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
27	大阪府													地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	
28	兵庫県	B	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
29	奈良県	F	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
30	和歌山県	D	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
31	鳥取県	B	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
32	島根県	A	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
33	岡山県	C	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
34	広島県	E												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
35	山口県	G												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
36	徳島県	A	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
37	香川県	D												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
38	愛媛県	B	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
39	高知県													地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	
40	福岡県	D	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	地民	地民	地民	地民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
41	佐賀県	C												地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
42	長崎県	C	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
43	熊本県	D	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
44	大分県	C		民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	地民*	地民*	地民*	地民*	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
45	宮崎県	C												民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
46	鹿児島県	D	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	
47	沖縄県	B	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	地	地	地	地	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	

2023年9月の実施状況。地:地元事業者が対応、民:広域民間事業者が対応、地民:地元事業者と広域民間事業者双方が対応。

民30:三重県は19:30開始。地民*:大分県は祝日が火・木・金の場合に地元事業者が広域民間事業者と共に対応する。日曜日は含まない。

Ⅱ-4. 調査項目、マークシート

調査項目(図2)は前年からほぼ変更はない。

都道府県#8000 事業担当者会議、都道府県や広域民間事業者7社との個別会議で、本事業の調査項目の説明と前年度のデータ取得率について話し合った。相談対象児年齢の範囲設定の不一致、緊急度判定の都道府県差違、データ取得率が低い項目(相談者の年代、相談の分類・目的、兄弟の有無、医師の助言・対応、相談対応者が考えた受診すべき診療科、相談対応の対応感想・対応で困ったこと)の本事業における調査のねらいを説明した。

実際の入力フォームとして、マークシート(図3)を示す。

図2. #8000 情報収集分析事業の調査項目(令和5年度)

No.	調査項目	入力欄、選択該									
1	都道府県名										
2	相談対応者ID										
3	相談開始年月日										
4	相談開始時刻										
5	相談終了時刻										
6	市区町村名										
7	相談者の続柄	母親	父親	祖母	祖父	その他					
8	相談者の年代	10代	20代	30代	40代	50代以上					
9	相談対象児年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	
		7歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳以上		
	相談対象児月齢	0か月	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	
		9か月	10か月	11か月							
10	相談対象児性別	男	女								
11	兄弟の有無(第1子あるいは子ども一人家庭)	兄弟いる	兄弟いない	不明							
12	主訴(複数選択可)	発熱	嘔気・嘔吐	咳	喘鳴(息苦しそう)	鼻水・鼻づまり	下痢	腹痛	便の異常(血便・便秘)	頭痛	
		けいれん・ふるえ	啼泣・なきやまない	発疹(じんましん)	頭部打撲	頭部以外の外傷	異物誤飲	熱傷	耳・鼻・のどの異常	目の異常	
		歯・口腔の異常	尿の異常	薬	予防接種	その他					
13	相談の分類・目的	救急医療相談(緊急助言)	医療機関案内	救急医療相談+医療機関案内	医療その他(救急以外)	薬	ホームケア	育児相談	その他		
14	発症時期	1時間前以降～直前	6時間前以降	12時間前以降	1日以上前以降						
15	相談前受診(受診後電話相談)の有無	相談前受診あり	相談前受診なし	不明							
16	相談対応者(看護師)による緊急度判定(受診の判断)	119番をすすめた	直ぐに病院に行くようにすすめた	翌日に受診することをすすめた	何かあれば受診することをすすめた	受診をする必要がない	その他				
17	医師の助言・対応	医師から助言を受けた	医師が対応した	医師の助言・対応なし	不明						
18	相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科	小児科	耳鼻咽喉科	脳神経外科	小児外科・一般外科	整形外科	皮膚科	歯科・口腔外科	眼科	その他	
19	相談対応者の満足度(相談対応者からの印象)	満足	不満気	不明							
20	相談対応者(看護師)の対応困難(対応で困ったこと)	対応困難あり	対応困難なし	不明							
21	相談対応者(看護師)の相談業務経験年数	5年未満	5年以上10年未満	10年以上							
22	新型コロナウイルス関連	関連あり	関連なし								

図 3. マークシート(令和 5 年度版)

(表面)

#8000 相談対応記録シート

◆管理番号・覚知

良い例	悪い例
☒	☐ ☐ ☐

相談対応者

相談管理番号	都道府県 番号	相談対応者 ID	相談日			相談開始時刻			相談終了時刻		
			年	月	日	時	分	時	分		
0		0	20			午前	0		午前	0	
1		1	2	3	0	午後	1		午後	1	
2		2	2	4	1		2			2	
3		3	2	5	2		3			3	
4		4	2	6	3		4			4	
5		5			4		5			5	
6		6			5		6			6	
7		7			6		7			7	
8		8			7		8			8	
9		9			8		9			9	

SAMPLE
2023. 08. 18

◆相談対象児情報

相談対象児の年齢			
☐ 0 か月	☐ 1 か月	☐ 2 か月	☐ 3 か月
☐ 4 か月	☐ 5 か月	☐ 6 か月	☐ 7 か月
☐ 8 か月	☐ 9 か月	☐ 10 か月	☐ 11 か月
☐ 1 歳	☐ 2 歳	☐ 3 歳	☐ 4 歳
☐ 5 歳	☐ 6 歳	☐ 7 歳	☐ 8 歳
☐ 9 歳	☐ 10 歳	☐ 11 歳	☐ 12 歳
☐ 13 歳	☐ 14 歳	☐ 15 歳	☐ 16 歳以上

相談対象児の性別	☐ 男 ☐ 女	相談対象児の兄弟の有無	☐ いる ☐ いない ☐ 不明
----------	---	-------------	--

相談対象児の在住市区町村名を記入してください

--

◆相談者情報

相談者（電話をかけてきた方）はどなたですか？							
☐ 母親	☐ 父親	☐ 祖母	☐ 祖父	☐ その他（ ）			
相談者（電話をかけてきた方）の年代は？							
☐ 10 代	☐ 20 代	☐ 30 代	☐ 40 代	☐ 50 代	☐ 60 代	☐ 70 代	☐ 80 代以上

◆相談内容

主訴（複数選択可）			
☐ 発熱	☐ 嘔気・嘔吐	☐ 咳	☐ 喘鳴（息苦しそう）
☐ 下痢	☐ けいれん・ふるえ	☐ 発疹（じんましん）	☐ 啼泣・なきやまない
☐ 頭痛	☐ 腹痛	☐ 鼻水・鼻づまり	☐ 耳漏
☐ 頭部打撲	☐ 頭部以外の外傷	☐ 異物誤飲	☐ 熱傷
☐ 耳・鼻・のどに関する	☐ 目に関する	☐ 歯・口腔内に関する	☐ 便の異常（血便・便秘）
☐ 尿の異常	☐ 予防接種	☐ 薬	☐ その他
※その他を選択した方はこちらに記入してください ()			

(裏面)

COVID19 関連					
☐ COVID19 関連の相談					
発症時期					
☐ 1時間前以降～直前	☐ 6時間前以降	☐ 12時間前以降	☐ 1日前以降	☐ 2日以上前以降	☐ その他
※その他を選択した方はここに記入してください ()					
相談前の受診の有無					
☐ あり			☐ なし		

◆緊急度判定

看護師による緊急度判定					
☐ 119番をすすめた		☐ すぐに病院に行くようにすすめた		☐ 翌日に受診することをすすめた	
☐ 何かあれば受診することをすすめた		☐ 受診をする必要がない		☐ その他	
※その他を選択した方はここに記入してください ()					
医師の助言					
☐ 医師の助言なし		☐ 医師から助言を受けた		☐ 医師の助言・対応は不要だった	
相談対応者が受診すべきと考えた診療科（緊急度によらず、該当すると考えた診療科）					
☐ 小児科		☐ 耳鼻科		☐ 脳神経外科	
☐ 整形外科		☐ 皮膚科		☐ 小児外科・一般外科	
☐ 歯科・口腔外科		☐ 眼科		☐ その他の診療科 ()	

SAMPLE
2023. 08. 18

◆相談結果

相談の分類（相談の目的）				（※）受診の必要性の相談は救急医療相談（緊急助言）にチェック			
☐ 救急医療相談（緊急助言）	☐ 医療機関案内	☐ 救急医療相談+医療機関案内	☐ 医療その他（※）				
☐ 薬	☐ ホームケア	☐ 育児相談	☐ その他（)				

◆調査事項

相談者の満足度（相談対応看護師からみた印象）		
☐ 満足した	☐ どちらでもない	☐ 不満気
看護師の対応感想		
☐ 困ったことがあった		☐ 困ったことはなかった
※困ったことがあった場合、具体的に記入してください ()		
相談内容メモ		

Ⅱ-5. データ収集とデータ取り込み

Ⅱ-5-1. データ収集分析システム、National Database System #8000（NDS-8000-2）

本事業は、National Database System #8000-2（以下 NDS-8000-2 という）を用いて実施した。NDS-8000-2 システムは、サイボウズ社クラウドサービス kintone で構築した。本システムに相談対応内容を直接入力するか、あるいはデータを取込んで、一括して集計を行った。

令和 4 年度の NDS-8000-1 から、今年度の NDS-8000-2 に変更した理由は、NDS-8000-1（Microsoft Dynamics 365）に比べて、時差による対応時刻のずれが起こりにくくなること、カスタマイズが容易になること、ライセンス料金が安価になり、機能性、効率性が改善することである。NDS-8000-2 の入力画面のデモ画面を、日本小児科医会ホームページの#8000・家庭看護力醸成サイトに掲載した。

今年度は、広島県が、NDS-8000-2 を採用して入力したが、広島県の希望に沿ってカスタマイズすることで、より使いやすいシステムになった。他県についても希望があれば対応できる。

Ⅱ-5-2. データ収集方式、NDS-8000-2 へのデータ取り込み

データを収集して NDS-8000-2 へ取り込む作業は、4 つの方式を用いた（図 5）。

【方式 1: NDS-8000 入力】

NDS-8000-2 に直接デジタル入力する。広島県が採用した。広島県相談対応者（看護師）と話し合い、相談対応者が扱いやすいように、相談対象児の在住市区町村のカスタマイズ（相談員が入力しやすいように頻度も考慮した順序）、仮登録機能の追加（相談対応終了時に仮登録し、後に修正・本登録する機能）を行った。

【方式 2: マークシート】

マークシート（図 3）に記入する。高知県が採用した。マークシートをスキャンしてデジタル化するが、スキャン時のエラーの修正を要する。

【方式 3: Excel/CSV ファイル】

都道府県・民間事業者が独自システムで収集したデータを、Excel/CSV ファイルに変換して提供いただき、それから本事業の調査項目・選択肢との突合作業・確認作業（図 5 プロセス A）を行って、NDS-8000-2 に取り込む。44 都道府県、7 広域民間事業者がこの方式を用いた。都道府県と民間事業者の負担は少ないが、都道府県の調査項目と本事業の調査項目（表 2）が一致しないため突合作業とエラーの発見・修正に時間を要し、突合作業によっても改善できずにデータ取得率が低下することが課題である。都道府県、広域民間事業者の調査項目・選択肢と本事業の調査項目・選択肢が一致していないことが背景にある。

【方式 4: AI-OCR】

手書き入力でデジタル化できてなくて本事業でデータ取得できていない地元事業者に対して、AI-OCR の導入を令和 5 年度から開始した。今年度は岩手県、宮城県、山梨県 3 県が参加した。3 県の記録用紙を PDF ファイルで取り寄せ、県ごとの OCR の書式を作成して読み取りを行った。AI 化はまだ十分ではないが、3 県から負担軽減の感想が得られ、参加県とデータ収集を改善できた。栃木県は独自で AI-OCR を用いてデータ作成を行った。

図 4. NDS-8000-2 のイメージ

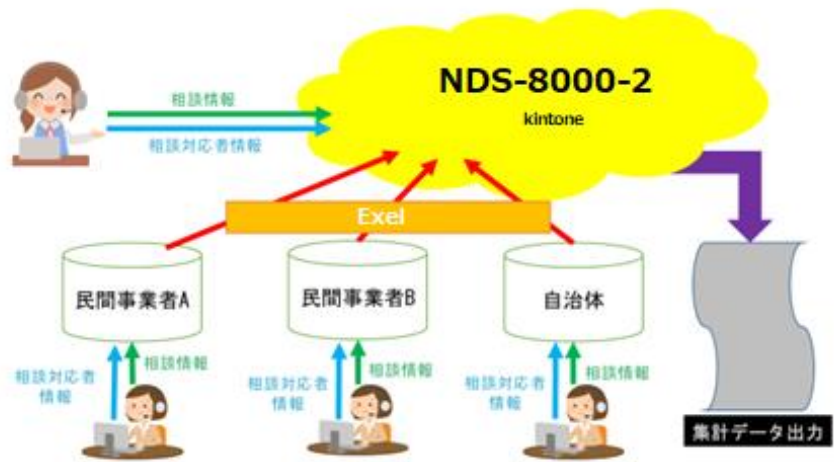
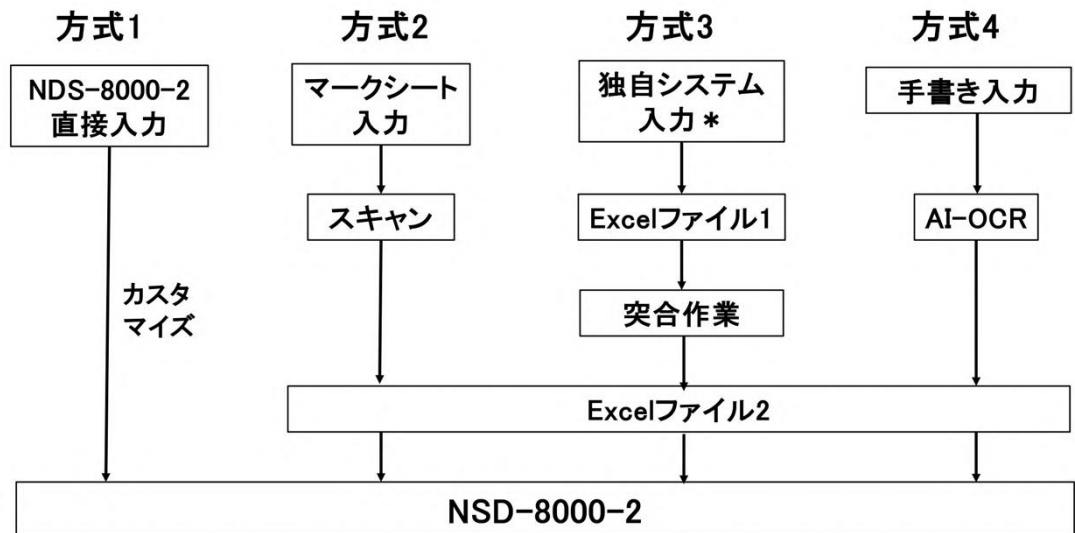


図 5. #8000 情報収集分析事業のデータ収集の 4 つの方式

#8000情報収集分析事業のデータ収集の4つの方式



方式3は調査項目が本事業と異なることがあり、NDS-#8000-2に取り込む前の突合作業に時間を要する。手書き入力に対応するため、方式4を新たに開始した。NDS-8000-2は方式1を採用する県の要望に合わせてカスタマイズが行えるメリットがある。

Ⅱ-5-3. 都道府県の#8000 事業委託、#8000 情報収集分析事業参加状況

都道府県の#8000 事業委託、本事業参加状況、本事業のデータ収集方式を表 3 に示した。17 道府県を地元事業者が担当し、42 都道府県を広域民間事業者が担当している。5 府県は地元事業者単独、12 道県は広域民間事業者を併用している。

広域民間事業者は 7 社で(ABCDEFGG で表示)、A 社 8 県、B 社 10 県、C 社 7 県、D 社 6 県、E 社 3 県、F 社 7 県、G 社 1 県を担当している。

福井県は地元事業者からのデータを得られなかった。福岡県は参加を得られなかった。

Ⅱ-5-4. データ取得率、未記入値、不明値の問題

相談対象児年齢の 1 歳未満の包括と 1 歳以上での複数年齢の包括が減少して、相談対象児年齢のデータ取得がかなり改善したので、相談対象児年齢と他の項目のクロス集計が可能になった。茨城県、埼玉県、広島県、佐賀県は相談対象児年齢 1～6 か月未満をまとめてデータ収集していて、1～3 か月未満、3～6 か月未満に分かれないため、相談対象児年齢についての一部の評価で、除外して検討した。

都道府県別データ取得状況、取得率(表 4)は、前年度とあまり変わらなかった。調査項目自体のデータ取得を行っていない場合、保護者からの聞き取りが難しい場合、および、選択肢が本事業の調査項目(図 2、3)と合わない場合があった。

Ⅲ集計結果において、相談対象児年齢、主訴、緊急度判定以外の調査項目では、未記入・不明を除いた割合を併記して、Ⅳ考察で未記入・不明を除いた割合を用いて考察した。第一子あるいは子ども一人家庭、相談間受診の有無は、あり・なしの比なので、未記入・不明を除いた処理は関係ない。

今年度はできるだけ多くの調査項目について、都道府県別分析を行った。

表 3. 都道府県の#8000 事業委託、データ収集方式、#8000 情報収集分析事業データ提供

都道府県 番号	都道府県名	地元事業者 実施	広域民間 事業者委託	広域民間事 業者委託先	令和 5 年度 本事業参加	データ収 集方式	地元事業 者データ提 供	広域民間 事業者デ ータ提供
1	北海道	○	○	A	○	3	○	○
2	青森県		○	A	○	3		○
3	岩手県	○	○	A	○	3、4	○	○
4	宮城県	○	○	A	○	3、4	○	○
5	秋田県	○	○	B	○	3	○	○
6	山形県		○	C	○	3		○
7	福島県		○	D	○	3		○
8	茨城県		○	E	○	3		○
9	栃木県	○			○	3	○	
10	群馬県		○	B	○	3		○
11	埼玉県		○	E	○	3		○
12	千葉県	○			○	3	○	
13	東京都		○	F	○	3		○
14	神奈川県		○	F	○	3		○
15	新潟県		○	B	○	3		○
16	富山県		○	A	○	3		○
17	石川県		○	B	○	3		○
18	福井県	○	○	A	○	3	×	○
19	山梨県	○			○	4	○	
20	長野県		○	F	○	3		○
21	岐阜県		○	F	○	3		○
22	静岡県		○	C	○	3		○
23	愛知県		○	F	○	3		○
24	三重県		○	B	○	3		○
25	滋賀県		○	F	○	3		○
26	京都府		○	B	○	3		○
27	大阪府	○			○	3	○	
28	兵庫県		○	B	○	3		○
29	奈良県		○	F	○	3		○
30	和歌山県		○	D	○	3		○
31	鳥取県		○	B	○	3		○
32	島根県		○	A	○	3		○
33	岡山県		○	C	○	3		○
34	広島県	○	○	E	○	1、3	○	○
35	山口県		○	G	○	3		○
36	徳島県		○	A	○	3		○
37	香川県		○	D	○	3		○
38	愛媛県		○	B	○	3		○
39	高知県	○			○	2	○	
40	福岡県	○	○*	D	×		×	×
41	佐賀県	○	○	C	○	3	○	○
42	長崎県		○	C	○	3		○
43	熊本県	○	○	D	○	3	○	○
44	大分県	○	○*	C	○	3	○	○
45	宮崎県		○	C	○	3		○
46	鹿児島県	○	○*	D	○	3	○	○
47	沖縄県	○	○	B	○	3	○	○

表 4. #8000 情報収集分析事業の各調査項目の都道府県別データ取得率

都道府県番号	都道府県名	広域民間事業者	地元事業者	相談対象児年齢のデータ取得(取込)困難 (複数月齢、複数年齢データのため)	相談対象児男女	相談の分類・目的	相談者の続柄	相談者の年代	兄弟の有無(第1子あるいは子ども一人家庭)	発症時期	相談前受診(受診後電話相談)の有無	相談対応時間(相談対応に要した時間)	相談対応者(看護師)による緊急度判定(受診の判断)	医師の助言・対応	相談者の満足度(相談対応者からの印象)	相談対応者の相談業務経験年数	相談対応者の対応感想(対応困難)	相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科	相談対応者が受診すべきと考えた診療科のデータ取得率	相談対象児年齢以外でデータ取得率なしの項目数
データ取得あり都道府県数					45	45	46	31	27	38	40	44	46	44	45	31	29	41		
データ取得率					95.5%	95.2%	98.9%	33.6%	21.8%	62.9%	83.5%	80.1%	97.5%	94.1%	91.2%	43.2%	33.6%	59.3%		
1	北海道	A	地	-	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	93.9%	0
2	青森県	A		-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	100.0%	0
3	岩手県	A	地	-	◎	▲	◎	▲	▲	▲	▲	◎	◎	▲	◎	◎	▲	▲	29.1%	0
4	宮城県	A	地	-	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	37.4%	0
5	秋田県	B	地	-	◎	◎	◎	○	▲	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	37.4%	0
6	山形県	C		-	◎	■	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	2
7	福島県	D		-	◎	◎	◎	◎	■	■	■	◎	◎	◎	◎	■	■	◎	98.1%	5
8	茨城県	E		1-6か月未満	◎	◎	◎	■	○	■	◎	■	◎	◎	◎	■	■	■	0.0%	6
9	栃木県		地	-	◎	◎	◎	■	■	■	■	◎	◎	■	◎	■	■	■	0.0%	8
10	群馬県	B		-	◎	◎	◎	◎	○	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	1
11	埼玉県	E		1-6か月未満	◎	◎	◎	■	▲	■	◎	■	◎	◎	○	■	■	■	0.0%	6
12	千葉県		地	-	◎	◎	◎	■	■	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	0.0%	4
13	東京都	F		-	◎	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	◎	94.5%	4
14	神奈川県	F		-	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■	0.0%	4
15	新潟県	B		-	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	0
16	富山県	A		-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	100.0%	0
17	石川県	B		-	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	0
18	福井県	A		-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	0
19	山梨県		地	-	◎	◎	◎	■	■	○	■	◎	◎	■	■	■	■	○	58.3%	7
20	長野県	F		-	◎	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	◎	93.9%	4
21	岐阜県	F		-	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	◎	93.9%	3
22	静岡県	C		-	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	1
23	愛知県	F		-	◎	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	◎	94.2%	4
24	三重県	B		-	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	0
25	滋賀県	F		-	◎	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	◎	94.4%	4
26	京都府	B		-	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	0
27	大阪府		地	-	◎	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	○	37.2%	3
28	兵庫県	B		-	◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	0
29	奈良県	F		-	◎	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	◎	93.9%	4
30	和歌山県	D		-	◎	◎	◎	◎	■	■	■	◎	◎	◎	◎	■	■	◎	97.3%	5
31	鳥取県	B		-	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	0
32	島根県	A		-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	100.0%	0
33	岡山県	C		-	◎	◎	◎	◎	■	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	80.2%	1
34	広島県	E	地	1-6か月未満	◎	◎	◎	▲	○	○	◎	▲	◎	◎	○	▲	▲	▲	15.3%	0
35	山口県	G		-	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	85.3%	1
36	徳島県	A		-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	100.0%	0
37	香川県	D		-	◎	◎	◎	▲	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	■	■	◎	98.1%	4
38	愛媛県	B		-	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	0
39	高知県		地	-	◎	◎	◎	■	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	98.1%	1
41	佐賀県	C	地	-	○	○	○	○	■	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	38.2%	1
42	長崎県	C		-	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	74.0%	1
43	熊本県	D	地	-	◎	◎	◎	▲	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	98.7%	0
44	大分県	C	地	-	■	▲	◎	■	■	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	55.4%	3
45	宮崎県	C		-	◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	100.0%	0
46	鹿児島県	D	地	-	◎	○	○	■	■	■	■	◎	◎	◎	◎	○	■	○	49.8%	5
47	沖縄県	B	地	-	○	○	◎	○	▲	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	○	45.7%	0
※データ取得率：◎70%以上、○30%以上70%未満、▲0%を除く30%未満、■データなし（0%）																				

Ⅱ-6. 全調査都道府県および都道府県別の検討

参加 46 都道府県の集計を行い、令和 5 年の人口統計⁶⁾を用いて各都道府県の年少人口(15 歳未満)千人に対する 1 か月当たりの相談件数、小児科医師・小児外科医師⁷⁾1 人に対する 1 か月当たりの相談件数を求めた。小児医療圏—市町村対応表⁷⁾を用いて小児医療圏ごとの相談件数を求めた(Ⅲ-2)。

今年度は、データ取得状況、未記入への対応等が十分に進んで来たこと、46 都道府県の参加を得たこと、広域民間事業者の新たな参加があったこと、都道府県の広域民間事業者の委託先が多くの変更があったことから、本事業の最大の目的である全国均てん化のために、できる限り都道府県比較の結果を掲載することにした。

広域民間事業者名は A～G で記号化した。広域民間事業者により一定の傾向があることから、都道府県比較では広域民間事業者記号を併記した。

Ⅱ-7. 新型コロナウイルス関連の電話相談の検討

令和3年度から新型コロナウイルス関連を調査項目に加えている。流行が下火になってきたことから、新型コロナウイルス関連の集計・分析を縮小した。

Ⅱ-8. 倫理

本事業は昭和大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。個人情報に関しては、匿名化処理し、個人情報の保護に留意した。

Ⅱ-9. 報告書の掲載

全体版(全都道府県、本報告書)は、概要版も含めて、厚生労働省ホームページの子ども医療電話相談事業(#8000)についての項目に掲載した。

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/10/tp1010-3.html>

都道府県版(各都道府県の集計結果)は、日本小児科医会ホームページの#8000・家庭看護力醸成サイトに掲載した。

<https://www.jpa-web.org/sharp8000.html>

Ⅲ. 全調査都道府県(全体版)の集計結果

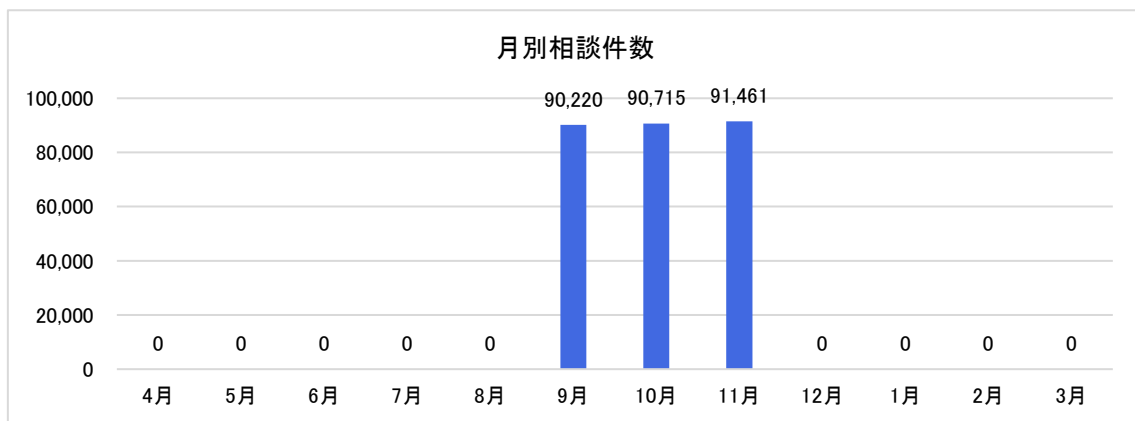
今年度は令和5年9月～11月の3か月間、91日間を対象に調査を行い、総相談件数272,396件の#8000データを収集した。

Ⅲ-1. 月別相談件数

【全国】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	-	-	-	-	-	90,220	90,715	91,461	-	-	-	-	272,396

※ 2023年9月～2023年11月に調査して272,396件のデータを収集した。前年度同時期(249,637件)の1.09倍に増加した。



※ 2023年9月～2023年11月に調査して、272,396件のデータを収集した。

Ⅲ-2. 小児医療圏別年少人口対、小児科医師・小児外科医師対相談件数、小児医療圏別相談件数【全国】

神奈川県を除く、45 道府県で小児医療圏のデータが得られた、神奈川県は横浜市と川崎市がそれぞれ複数の小児医療圏に分かれており、区の情報を得られないため、小児医療圏を求めることが出来なかった。

都道府県別の小児医療圏別小児医療圏別相談件数(令和 5 年 9 月～令和 5 年 11 月の 1 か月平均)を以下に示す。

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
北海道	01201	南渡島	300	100	44	0	44	32,887	3.0	2.3	2.3
	01202	南檜山	5	2	1	0	1	1,540	1.1	1.7	1.7
	01203	北渡島檜山	5	2	2	0	2	2,740	0.6	0.8	0.8
	01204	札幌	2,256	752	346	14	360	260,007	2.9	2.2	2.1
	01205	後志	102	34	18	0	18	17,376	2.0	1.9	1.9
	01206	南空知	69	23	12	0	12	12,922	1.8	1.9	1.9
	01207	中空知	31	10	9	0	9	8,141	1.3	1.1	1.1
	01208	北空知	10	3	2	0	2	2,343	1.4	1.7	1.7
	01209	西網走	134	45	17	0	17	15,979	2.8	2.6	2.6
	01210	東網走	161	54	18	0	18	22,613	2.4	3.0	3.0
	01211	日高	26	9	4	0	4	6,344	1.4	2.2	2.2
	01212	上川中部	286	95	78	3	81	38,916	2.4	1.2	1.2
	01213	上川北部	30	10	8	0	8	5,547	1.8	1.3	1.3
	01214	富良野	13	4	5	0	5	4,039	1.1	0.9	0.9
	01215	留萌	11	4	2	0	2	3,622	1.0	1.8	1.8
	01216	宗谷	24	8	5	0	5	5,831	1.4	1.6	1.6
	01217	北網走	82	27	21	0	21	20,786	1.3	1.3	1.3
	01218	遠紋	22	7	6	0	6	5,939	1.2	1.2	1.2
	01219	十勝	208	69	23	7	30	36,717	1.9	3.0	2.3
	01220	釧路	120	40	21	0	21	20,810	1.9	1.9	1.9
	01221	根室	15	5	6	0	6	7,761	0.6	0.8	0.8
	99999	医療圏未記入	403	134							
	計		4,313	1,438	648	24	672	532,860	2.7	2.2	2.1
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	5.0	3.8	3.8

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
青森県	02201	津軽地域	604	201	56	2	58	27,627	7.3	3.6	3.5
	02202	八戸地域	639	213	25	2	27	33,266	6.4	8.5	7.9
	02203	青森地域	962	321	36	0	36	29,421	10.9	8.9	8.9
	02204	西北五地域	158	53	7	0	7	10,321	5.1	7.5	7.5
	02205	上十三地域	279	93	13	1	14	17,636	5.3	7.2	6.6
	02206	下北地域	91	30	8	0	8	6,590	4.6	3.8	3.8
	99999	医療圏未記入	9	3							
	計		2,742	914	145	5	150	124,861	7.3	6.3	6.1
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	2.4	2.5	2.5

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
岩手県	03201	盛岡	957	319	81	3	84	52,550	6.1	3.9	3.8
	03202	岩手中部	273	91	19	0	19	23,228	3.9	4.8	4.8
	03203	胆江	101	34	7	0	7	13,651	2.5	4.8	4.8
	03204	両磐	133	44	8	0	8	11,384	3.9	5.5	5.5
	03205	気仙	58	19	8	0	8	4,963	3.9	2.4	2.4
	03206	釜石	32	11	2	0	2	3,790	2.8	5.3	5.3
	03207	宮古	53	18	5	0	5	6,752	2.6	3.5	3.5
	03208	久慈	18	6	4	0	4	5,219	1.1	1.5	1.5
	03209	二戸	16	5	5	0	5	4,292	1.2	1.1	1.1
	99999	医療圏未記入	11	4							
	計		1,652	551	139	3	142	125,829	4.4	4.0	3.9
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	5.5	5.0	5.0

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
宮城県	04201	仙南	271	90	11	0	11	16,474	5.5	8.2	8.2
	04202	仙台	4,193	1,398	238	21	259	183,855	7.6	5.9	5.4
	04203	大崎・栗原	383	128	16	0	16	26,454	4.8	8.0	8.0
	04204	石巻・登米・気仙沼	412	137	24	1	25	32,793	4.2	5.7	5.5
	99999	医療圏未記入	80	27							
	計		5,339	1,780	289	22	311	259,576	6.9	6.2	5.7
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.8	1.4	1.5

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
秋田県	05201	大館・鹿角	55	18	7	0	7	9,020	2.0	2.6	2.6
	05202	北秋田	6	2	2	0	2	2,274	0.9	1.0	1.0
	05203	能代・山本	36	12	6	0	6	5,585	2.1	2.0	2.0
	05204	秋田周辺	492	164	76	9	85	38,034	4.3	2.2	1.9
	05205	由利本荘・にかほ	73	24	9	0	9	9,001	2.7	2.7	2.7
	05206	大仙・仙北	81	27	8	0	8	10,679	2.5	3.4	3.4
	05207	横手	74	25	9	0	9	7,830	3.2	2.7	2.7
	05208	湯沢・雄勝	43	14	3	0	3	4,680	3.1	4.8	4.8
	99999	医療圏未記入	17	6							
	計		877	292	120	9	129	87,103	3.4	2.4	2.3
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	4.8	4.8	4.8

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
山形県	06201	村山	1,077	359	89	4	93	59,814	6.0	4.0	3.9
	06202	最上	75	25	6	0	6	6,844	3.7	4.2	4.2
	06203	圈隈	238	79	21	0	21	20,668	3.8	3.8	3.8
	06204	庄内	260	87	24	3	27	26,354	3.3	3.6	3.2
	99999	医療圏未記入									
	計		1,650	550	140	7	147	113,680	4.8	3.9	3.7
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.8	1.2	1.3

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
福島県	07201	県北	1,205	402	86	4	90	48,749	8.2	4.7	4.5
	07202	県中	1,243	414	66	4	70	59,101	7.0	6.3	5.9
	07203	県南	181	60	11	0	11	15,979	3.8	5.5	5.5
	07204	相双	105	35	8	0	8	15,669	2.2	4.4	4.4
	07205	いわき	614	205	19	0	19	34,646	5.9	10.8	10.8
	07206	会津・南会津	320	107	19	0	19	26,597	4.0	5.6	5.6
	99999	医療圏未記入	42	14							
	計		3,710	1,237	209	8	217	200,741	6.2	5.9	5.7
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	3.7	2.5	2.5

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
茨城県	08201	日立地域	773	258	12	0	12	22,963	11.2	21.5	21.5
	08202	県央・県北地域	5,602	1,867	96	9	105	86,568	21.6	19.5	17.8
	08203	土浦広域地域	2,057	686	45	4	49	39,235	17.5	15.2	14.0
	08204	鹿行南部地域	760	253	13	0	13	22,404	11.3	19.5	19.5
	08205	稲敷地域	1,720	573	17	0	17	29,001	19.8	33.7	33.7
	08206	常総地域	1,799	600	25	2	27	36,714	16.3	24.0	22.2
	08207	茨城西南地域	1,471	490	22	0	22	31,995	15.3	22.3	22.3
	08208	つくば市・筑西地域	2,870	957	86	15	101	59,201	16.2	11.1	9.5
	99999	医療圏未記入	924	308							
	計		17,976	5,992	316	30	346	328,081	18.3	19.0	17.3
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.9	3.0	3.5

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
栃木県	09201	宇都宮・日光	2,186	729	50	3	53	72,022	10.1	14.6	13.7
	09202	那須・塩谷・南部須	1,248	416	40	2	42	40,164	10.4	10.4	9.9
	09203	芳賀	331	110	17	1	18	16,076	6.9	6.5	6.1
	09204	小山	1,134	378	74	7	81	34,762	10.9	5.1	4.7
	09205	鹿沼・栃木	970	323	48	4	52	31,552	10.2	6.7	6.2
	09206	両毛	608	203	34	0	34	26,556	7.6	6.0	6.0
	99999	医療圏未記入	153	51							
	計		6,630	2,210	263	17	280	221,132	10.0	8.4	7.9
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.6	2.9	2.9

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
群馬県	10201	西毛	1,824	608	64	0	64	62,545	9.7	9.5	9.5
	10202	東毛	1,386	462	55	2	57	63,007	7.3	8.4	8.1
	10203	中毛	984	328	25	0	25	30,560	10.7	13.1	13.1
	10204	北毛	1,842	614	133	9	142	62,656	9.8	4.6	4.3
	99999	医療圏未記入	4	1							
	計		6,040	2,013	277	11	288	218,768	9.2	7.3	7.0
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.5	2.8	3.0

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
埼玉県	11201	児玉	406	135	4	0	4	14,484	9.3	33.8	33.8
	11202	熊谷・深谷	1,406	469	33	2	35	47,947	9.8	14.2	13.4
	11203	東部北	1,646	549	49	0	49	59,635	9.2	11.2	11.2
	11204	東部南	3,708	1,236	106	10	116	136,221	9.1	11.7	10.7
	11205	川口	2,224	741	55	1	56	71,459	10.4	13.5	13.2
	11206	さいたま市	5,261	1,754	252	16	268	171,853	10.2	7.0	6.5
	11207	中央	2,018	673	33	1	34	60,068	11.2	20.4	19.8
	11208	戸田・蕨	923	308	24	0	24	27,681	11.1	12.8	12.8
	11209	朝霞	1,976	659	51	2	53	60,355	10.9	12.9	12.4
	11210	川越	2,175	725	101	8	109	75,529	9.6	7.2	6.7
	11211	所沢	2,194	731	63	0	63	69,521	10.5	11.6	11.6
	11212	坂戸・飯能	904	301	61	8	69	36,797	8.2	4.9	4.4
	11213	比企	523	174	11	0	11	19,591	8.9	15.8	15.8
	11214	秩父	161	54	7	0	7	9,330	5.8	7.7	7.7
	99999	医療圏未記入	2,662	887							
	計		28,187	9,396	850	48	898	860,471	10.9	11.1	10.5
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.9	6.9	7.7

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
千葉県	12201	千葉	2,304	768	183	19	202	110,944	6.9	4.2	3.8
	12202	東葛南部	3,755	1,252	179	14	193	216,405	5.8	7.0	6.5
	12203	東葛北部	2,956	985	141	6	147	175,118	5.6	7.0	6.7
	12204	印旛	1,460	487	98	3	101	87,650	5.6	5.0	4.8
	12205	香取海浜	272	91	26	0	26	23,133	3.9	3.5	3.5
	12206	山武長生夷隅	632	211	21	2	23	37,468	5.6	10.0	9.2
	12207	安房	223	74	14	1	15	10,036	7.4	5.3	5.0
	12208	君津	585	195	18	2	20	37,626	5.2	10.8	9.8
	12209	市原	324	108	23	0	23	29,200	3.7	4.7	4.7
	99999	医療圏未記入	114	38							
	計		12,625	4,208	703	47	750	727,580	5.8	6.0	5.6
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	2.0	3.1	2.8

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
東京都	13201	区北	6,216	2,072	437	25	462	357,870	5.8	4.7	4.5
	13202	区東	5,050	1,683	618	46	664	292,632	5.8	2.7	2.5
	13203	区西南	7,612	2,537	869	39	908	406,994	6.2	2.9	2.8
	13204	多摩	8,307	2,769	678	15	693	501,188	5.5	4.1	4.0
	13205	島しょ	9	3	2	0	2	2,681	1.1	1.5	1.5
	99999	医療圏未記入	958	319							
	計		28,152	9,384	2,604	125	2,729	1,561,365	6.0	3.6	3.4
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	5.6	3.1	3.0

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
神奈川県	14201	川崎北部	2,654	885	219	11	230	186,166	4.8	4.0	3.8
	14202	川崎南部									
	14203	横浜北部	2,733	911	530	23	553	435,537	2.1	1.7	1.6
	14204	横浜西部									
	14205	横浜南部									
	14206・14207 14208・14209 14210・14211 14212・14213	県域 (横浜市・川崎市・相模 原市を除く市町村)	4,089	1,363	348	9	357	366,629	3.7	3.9	3.8
	14214	相模原	982	327	90	6	96	81,173	4.0	3.6	3.4
	99999	医療圏未記入	275	92							
	計		10,733	3,578	1,187	49	1,236	1,069,505	3.3	3.0	2.9
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	2.3	2.4	2.4

※ 神奈川県は、川崎市、横浜市の小児医療圏のデータが得られなかった(区の情報が無い)。

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
新潟県	15201	下越	201	67	21	0	21	21,207	3.2	3.2	3.2
	15202	新潟	1,117	372	130	13	143	98,608	3.8	2.9	2.6
	15203	県央	267	89	23	0	23	22,568	3.9	3.9	3.9
	15204	中越	475	158	55	2	57	46,470	3.4	2.9	2.8
	15205	魚沼	117	39	14	0	14	15,780	2.5	2.8	2.8
	15206	上越	252	84	21	2	23	27,353	3.1	4.0	3.7
	15207	佐渡	22	7	5	0	5	4,758	1.5	1.5	1.5
	99999	医療圏未記入	4	1							
	計		2,455	818	269	17	286	236,744	3.5	3.0	2.9
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	2.6	2.7	2.6

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
富山県	16201	新川	214	71	9	0	9	11,355	6.3	7.9	7.9
	16202	富山	1,418	473	94	3	97	55,975	8.4	5.0	4.9
	16203	高岡	750	250	38	0	38	32,358	7.7	6.6	6.6
	16204	砺波	273	91	13	1	14	13,035	7.0	7.0	6.5
	99999	医療圏未記入	1	0							
	計		2,656	885	154	4	158	112,723	7.9	5.7	5.6
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.3	1.6	1.6

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
石川県	17201	南加賀	562	187	23	0	23	27,343	6.9	8.1	8.1
	17202	石川中央	1,965	655	141	12	153	90,931	7.2	4.6	4.3
	17203	能登中部	133	44	15	1	16	10,698	4.1	3.0	2.8
	17204	能登北部	28	9	4	0	4	4,138	2.3	2.3	2.3
	99999	医療圏未記入									
	計		2,688	896	183	13	196	133,110	6.7	4.9	4.6
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	3.1	3.5	3.5

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
福井県	18201	嶺北	584	195	106	1	107	76,272	2.6	1.8	1.8
	18202	嶺南	87	29	16	0	16	16,205	1.8	1.8	1.8
	99999	医療圏未記入	2	1							
	計		673	224	122	1	123	92,477	2.4	1.8	1.8
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.4	1.0	1.0

※ 福井県は、地元事業者データを収集できなかった。

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
山梨県	19201	国中地域	2,863	954	100	4	104	72,940	13.1	9.5	9.2
	19202	富士・東部地域	570	190	21	0	21	18,024	10.5	9.0	9.0
	99999	医療圏未記入	113	38							
	計		3,546	1,182	121	4	125	90,964	13.0	9.8	9.5
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.2	1.1	1.0

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
長野県	20201	佐久	371	124	24	1	25	24,633	5.0	5.2	4.9
	20202	上小	355	118	19	0	19	22,318	5.3	6.2	6.2
	20203	諏訪	287	96	25	0	25	21,676	4.4	3.8	3.8
	20204	上伊那	273	91	16	1	17	21,599	4.2	5.7	5.4
	20205	飯伊	220	73	13	0	13	18,788	3.9	5.6	5.6
	20206	木曽	18	6	2	0	2	2,109	2.8	3.0	3.0
	20207	松本	664	221	132	7	139	50,524	4.4	1.7	1.6
	20208	大北	60	20	5	0	5	5,386	3.7	4.0	4.0
	20209	長野	890	297	60	1	61	61,347	4.8	4.9	4.9
	20210	北信	92	31	7	0	7	8,568	3.6	4.4	4.4
	99999	医療圏未記入	79	26							
	計		3,309	1,103	303	10	313	236,948	4.7	3.6	3.5
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.9	3.6	3.9

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
岐阜県	21201	岐阜圏域	2,661	887	179	8	187	142,417	6.2	5.0	4.7
	21202	西濃	633	211	36	0	36	40,915	5.2	5.9	5.9
	21203	東濃	530	177	36	0	36	35,724	4.9	4.9	4.9
	21204	飛騨	204	68	14	0	14	15,489	4.4	4.9	4.9
	99999	医療圏未記入	107	36							
	計		4,135	1,378	265	8	273	234,545	5.9	5.2	5.0
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	1.4	1.2	1.3

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
静岡県	22201	賀茂	81	27	4	0	4	4,167	6.5	6.8	6.8
	22206	富士	1,023	341	35	0	35	44,245	7.7	9.7	9.7
	22209	志太・榛原	1,534	511	47	0	47	53,556	9.5	10.9	10.9
	22210	中東遠	1,940	647	37	0	37	60,160	10.7	17.5	17.5
	22213	熱海伊東	179	60	7	0	7	6,959	8.6	8.5	8.5
	22214	駿東田方	1,927	642	71	2	73	72,054	8.9	9.0	8.8
	22215	静岡	3,108	1,036	104	6	110	75,099	13.8	10.0	9.4
	22216	西部	3,486	1,162	129	6	135	104,764	11.1	9.0	8.6
	99999	医療圏未記入	43	14							
	計		13,321	4,440	434	14	448	421,004	10.5	10.2	9.9
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	2.1	2.6	2.6

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
愛知県	23202	海部	367	122	20	0	20	39,741	3.1	6.1	6.1
	23204	尾張東部	658	219	100	11	111	67,396	3.3	2.2	2.0
	23205	尾張西部	551	184	59	0	59	64,264	2.9	3.1	3.1
	23206	尾張北部	851	284	76	4	80	93,065	3.0	3.7	3.5
	23207	知多半島	775	258	92	6	98	84,250	3.1	2.8	2.6
	23208	西三河北部	210	70	36	1	37	61,909	1.1	1.9	1.9
	23209	西三河南部西	823	274	63	2	65	97,661	2.8	4.4	4.2
	23210	西三河南部東	765	255	45	0	45	59,400	4.3	5.7	5.7
	23211	東三河北部	28	9	2	0	2	5,011	1.9	4.7	4.7
	23212	東三河南部	833	278	71	0	71	88,162	3.1	3.9	3.9
	23213	名古屋・尾張中部	3,046	1,015	399	18	417	299,940	3.4	2.5	2.4
	99999	医療圏未記入	232	77							
		計	9,139	3,046	963	42	1,005	960,799	3.2	3.2	3.0
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	3.9	3.2	3.2

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
三重県	24201	北勢	1,857	619	83	1	84	104,970	5.9	7.5	7.4
	24202	中勢伊賀	801	267	99	6	105	50,371	5.3	2.7	2.5
	24203	南勢志摩	641	214	46	1	47	47,119	4.5	4.6	4.5
	24204	東紀州	52	17	4	0	4	5,649	3.1	4.3	4.3
	99999	医療圏未記入	28	9							
		計	3,379	1,126	232	8	240	208,109	5.4	4.9	4.7
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.9	2.8	3.0

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
滋賀県	25203	東近江	630	210	31	5	36	29,932	7.0	6.8	5.8
	25205	大津	1,250	417	86	3	89	45,127	9.2	4.8	4.7
	25206	湖西	60	20	7	0	7	4,760	4.2	2.9	2.9
	25207	湖南	1,342	447	67	2	69	51,858	8.6	6.7	6.5
	25208	甲賀	397	132	12	0	12	17,953	7.4	11.0	11.0
	25209	湖東	478	159	14	0	14	20,380	7.8	11.4	11.4
	25210	湖北	420	140	23	0	23	19,119	7.3	6.1	6.1
	99999	医療圏未記入	115	38							
		計	4,692	1,564	240	10	250	189,129	8.3	6.5	6.3
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.2	3.9	3.9

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
京都府	26201	丹後	58	19	11	0	11	9,284	2.1	1.8	1.8
	26202	中丹	278	93	32	1	33	22,575	4.1	2.9	2.8
	26203	南丹	166	55	18	2	20	14,753	3.8	3.1	2.8
	26204	京都・乙訓	2,533	844	316	22	338	171,066	4.9	2.7	2.5
	26205	山城北	531	177	66	2	68	50,969	3.5	2.7	2.6
	26206	山城南	220	73	17	1	18	17,970	4.1	4.3	4.1
	99999	医療圏未記入	10	3							
		計	3,796	1,265	460	28	488	286,617	4.4	2.8	2.6
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.3	2.4	2.3

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
大阪府	27201	豊能	2,557	852	197	17	214	142,674	6.0	4.3	4.0
	27202	三島	1,537	512	128	6	134	96,225	5.3	4.0	3.8
	27203	北河内	2,118	706	120	4	124	129,522	5.5	5.9	5.7
	27204	中河内	1,590	530	75	4	79	90,361	5.9	7.1	6.7
	27205	南河内	971	324	96	2	98	65,352	5.0	3.4	3.3
	27206	堺市	1,635	545	108	0	108	99,315	5.5	5.0	5.0
	27207	泉州	1,727	576	151	10	161	106,334	5.4	3.8	3.6
	27208	大阪市	4,535	1,512	442	25	467	292,333	5.2	3.4	3.2
	99999	医療圏未記入	266	89							
		計	16,936	5,645	1,317	68	1,385	1,022,116	5.5	4.3	4.1
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.2	2.1	2.1

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
兵庫県	28201	神戸・三田	2,827	942	333	21	354	188,229	5.0	2.8	2.7
	28202	阪神	3,122	1,041	264	11	275	204,013	5.1	3.9	3.8
	28203	東播磨	2,307	769	85	4	89	93,995	8.2	9.0	8.6
	28204	北播磨	643	214	32	1	33	29,431	7.3	6.7	6.5
	28205	播磨姫路	1,528	509	90	5	95	99,597	5.1	5.7	5.4
	28206	但馬	239	80	20	0	20	17,186	4.6	4.0	4.0
	28207	丹波	107	36	12	0	12	11,563	3.1	3.0	3.0
	28208	淡路	144	48	18	0	18	13,740	3.5	2.7	2.7
	99999	医療圏未記入	50	17							
		計	10,967	3,656	854	42	896	657,754	5.6	4.3	4.1
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.6	3.3	3.2

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
奈良県	29201	奈良	1,343	448	52	0	52	39,165	11.4	8.6	8.6
	29202	東和	794	265	28	0	28	21,454	12.3	9.5	9.5
	29203	西和	1,351	450	30	3	33	40,268	11.2	15.0	13.6
	29204	中和	1,784	595	60	4	64	44,880	13.3	9.9	9.3
	29205	南和	177	59	3	0	3	4,944	11.9	19.7	19.7
	99999	医療圏未記入	200	67							
		計	5,649	1,883	173	7	180	150,711	12.5	10.9	10.5
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.2	2.3	2.3

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
和歌山県	30201	和歌山	1,280	427	74	3	77	47,116	9.1	5.8	5.5
	30202	那賀	365	122	19	0	19	13,691	8.9	6.4	6.4
	30203	橋本	192	64	7	0	7	8,580	7.5	9.1	9.1
	30204	有田	200	67	4	0	4	7,665	8.7	16.7	16.7
	30205	御坊	118	39	10	0	10	6,529	6.0	3.9	3.9
	30206	田辺	234	78	19	0	19	13,255	5.9	4.1	4.1
	30207	新宮	45	15	10	0	10	5,599	2.7	1.5	1.5
	99999	医療圏未記入	49	16							
		計	2,483	828	143	3	146	102,435	8.1	5.8	5.7
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	3.4	11.1	11.1

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
鳥取県	31201	東部	622	207	38	0	38	26,653	7.8	5.5	5.5
	31202	中部	196	65	15	0	15	12,034	5.4	4.4	4.4
	31203	西部	633	211	72	2	74	28,043	7.5	2.9	2.9
	99999	医療圏未記入	2	1							
		計	1,453	484	125	2	127	66,730	7.3	3.9	3.8
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.4	1.9	1.9

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
島根県	32201	松江	789	263	37	0	37	29,436	8.9	7.1	7.1
	32202	雲南	84	28	4	0	4	5,299	5.3	7.0	7.0
	32203	出雲	705	235	36	4	40	23,433	10.0	6.5	5.9
	32204	大田	93	31	4	0	4	5,210	6.0	7.8	7.8
	32205	浜田	128	43	10	0	10	7,787	5.5	4.3	4.3
	32206	益田	75	25	5	0	5	6,236	4.0	5.0	5.0
	32207	隠岐	11	4	1	0	1	2,054	1.8	3.7	3.7
	99999	医療圏未記入	6	2							
		計	1,891	630	97	4	101	79,455	7.9	6.5	6.2
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	5.6	2.1	2.1

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
岡山県	33201	県南東部	2,742	914	177	10	187	110,231	8.3	5.2	4.9
	33202	県南西部	1,480	493	117	8	125	89,812	5.5	4.2	3.9
	33203	高梁・新見	51	17	6	0	6	4,717	3.6	2.8	2.8
	33204	真庭	58	19	2	0	2	4,704	4.1	9.7	9.7
	33205	津山・英田	353	118	21	0	21	20,222	5.8	5.6	5.6
	99999	医療圏未記入	3	1							
		計	4,687	1,562	323	18	341	229,686	6.8	4.8	4.6
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.3	3.5	3.5

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
広島県	34201	広島	2,984	995	203	12	215	175,623	5.7	4.9	4.6
	34202	広島西	272	91	28	0	28	17,845	5.1	3.2	3.2
	34203	呉	260	87	30	0	30	23,003	3.8	2.9	2.9
	34204	広島中央	413	138	25	0	25	29,063	4.7	5.5	5.5
	34205	尾三	275	92	25	1	26	24,827	3.7	3.7	3.5
	34206	福山・府中	974	325	53	4	57	63,359	5.1	6.1	5.7
	34207	備北	48	16	9	0	9	8,913	1.8	1.8	1.8
	99999	医療圏未記入	217	72							
		計	5,443	1,814	373	17	390	342,633	5.3	4.9	4.7
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	3.2	3.4	3.2

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
山口県	35201	岩国	188	63	17	0	17	15,119	4.1	3.7	3.7
	35202	柳井・周南	576	192	35	0	35	35,256	5.4	5.5	5.5
	35203	山口・防府・萩	868	289	46	3	49	41,938	6.9	6.3	5.9
	35204	宇部・小野田	380	127	53	2	55	27,016	4.7	2.4	2.3
	35205	下関・長門	477	159	32	1	33	29,817	5.3	5.0	4.8
	99999	医療圏未記入	204	68							
		計	2,693	898	183	6	189	149,146	6.0	4.9	4.7
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.7	2.6	2.6

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
徳島県	36201	東部	2,664	888	80	1	81	59,040	15.0	11.1	11.0
	36202	南部	481	160	25	0	25	13,632	11.8	6.4	6.4
	36203	西部	134	45	6	0	6	6,507	6.9	7.4	7.4
	99999	医療圏未記入	4	1							
	計		3,283	1,094	111	1	112	79,179	13.8	9.9	9.8
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	2.2	1.7	1.7

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
香川県	37201	大川	119	40	6	0	6	6,524	6.1	6.6	6.6
	37202	小豆	13	4	3	0	3	2,346	1.8	1.4	1.4
	37203	高松	1,963	654	82	5	87	57,225	11.4	8.0	7.5
	37204	中讃	720	240	48	4	52	33,999	7.1	5.0	4.6
	37205	三豊	246	82	12	0	12	13,268	6.2	6.8	6.8
	99999	医療圏未記入	46	15							
	計		3,107	1,036	151	9	160	113,362	9.1	6.9	6.5
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	6.3	5.7	5.4

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
愛媛県	38201	宇摩・新居浜・西条	692	231	29	1	30	35,612	6.5	8.0	7.7
	38202	今治	218	73	20	0	20	16,447	4.4	3.6	3.6
	38203	松山、八幡浜・大洲	2,423	808	130	5	135	89,581	9.0	6.2	6.0
	38204	宇和島	126	42	13	0	13	9,207	4.6	3.2	3.2
	99999	医療圏未記入									
	計		3,459	1,153	192	6	198	150,847	7.6	6.0	5.8
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	2.0	2.5	2.4

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
高知県	39201	安芸	19	6	3	0	3	3,494	1.8	2.1	2.1
	39202	中央	803	268	84	2	86	57,509	4.7	3.2	3.1
	39203	高幡	36	12	4	0	4	4,503	2.7	3.0	3.0
	39204	幡多	35	12	13	0	13	7,512	1.6	0.9	0.9
	99999	医療圏未記入	15	5							
	計		908	303	104	2	106	73,018	4.1	2.9	2.9
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	2.9	3.6	3.4

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
佐賀県	41201	中部・東部	880	293	84	4	88	62,813	4.7	3.5	3.3
	41202	北部・西部	154	51	18	0	18	25,196	2.0	2.9	2.9
	41203	南部	125	42	18	0	18	18,491	2.3	2.3	2.3
	99999	医療圏未記入	927	309							
	計		2,086	695	120	4	124	106,500	6.5	5.8	5.6
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	2.4	1.5	1.4

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
長崎県	42201	長崎	1,756	585	93	4	97	58,158	10.1	6.3	6.0
	42202	佐世保県北	920	307	34	0	34	38,731	7.9	9.0	9.0
	42203	県央	678	226	72	1	73	37,266	6.1	3.1	3.1
	42204	県南	195	65	5	0	5	14,575	4.5	13.0	13.0
	42205	五島	37	12	3	0	3	3,431	3.6	4.1	4.1
	42206	上五島	12	4	2	0	2	1,652	2.4	2.0	2.0
	42207	舌岐	9	3	4	0	4	2,959	1.0	0.8	0.8
	42208	対馬	12	4	4	0	4	3,070	1.3	1.0	1.0
	99999	医療圏未記入	3	1							
	計		3,622	1,207	217	5	222	159,842	7.6	5.6	5.4
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	10.1	16.3	16.3

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
熊本県	43201	有明・鹿本圏域	479	160	14	0	14	24,005	6.7	11.4	11.4
	43202	熊本中央圏域	4,141	1,380	176	17	193	130,487	10.6	7.8	7.2
	43203	菊池圏域	883	294	17	1	18	31,187	9.4	17.3	16.4
	43204	八代圏域	248	83	12	3	15	15,476	5.3	6.9	5.5
	43205	天草圏域	123	41	15	0	15	10,879	3.8	2.7	2.7
	43206	芦北圏域	24	8	19	0	19	4,352	1.8	0.4	0.4
	43207	球磨圏域	72	24	10	1	11	9,613	2.5	2.4	2.2
	99999	医療圏未記入	74	25							
	計		6,044	2,015	263	22	285	225,999	8.9	7.7	7.1
	医療圏最大と最小の較差(倍)		-	-	-	-	-	-	5.9	43.3	41.0

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
大分県	44201	東部	350	117	34	2	36	20,815	5.6	3.4	3.2
	44202	中部	2,012	671	104	6	110	72,060	9.3	6.4	6.1
	44203	南部	94	31	5	0	5	6,563	4.8	6.3	6.3
	44204	豊肥	75	25	5	0	5	4,732	5.3	5.0	5.0
	44205	西部	128	43	5	0	5	9,650	4.4	8.5	8.5
	44206	北部	305	102	17	1	18	19,190	5.3	6.0	5.6
	99999	医療圏未記入	13	4							
		計	2,977	992	170	9	179	133,010	7.5	5.8	5.5
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.1	2.5	2.7

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
宮崎県	45201	県央	1,335	445	84	4	88	68,949	6.5	5.3	5.1
	45202	県西	442	147	25	1	26	34,395	4.3	5.9	5.7
	45203	県北	261	87	20	0	20	26,957	3.2	4.4	4.4
	45204	県南	59	20	10	0	10	7,503	2.6	2.0	2.0
	99999	医療圏未記入	2	1							
		計	2,099	700	139	5	144	137,804	5.1	5.0	4.9
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.5	3.0	2.9

都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
鹿児島県	46201	薩摩	1,623	541	132	18	150	103,001	5.3	4.1	3.6
	46202	北薩	287	96	17	1	18	24,393	3.9	5.6	5.3
	46203	姶良・伊佐	466	155	30	2	32	32,329	4.8	5.2	4.9
	46204	大隅	234	78	14	1	15	28,458	2.7	5.6	5.2
	46205	熊毛	16	5	4	0	4	4,754	1.1	1.3	1.3
	46206	奄美	54	18	5	2	7	14,106	1.3	3.6	2.6
	99999	医療圏未記入	20	7							
		計	2,700	900	202	24	226	207,041	4.3	4.5	4.0
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	4.8	4.3	4.1

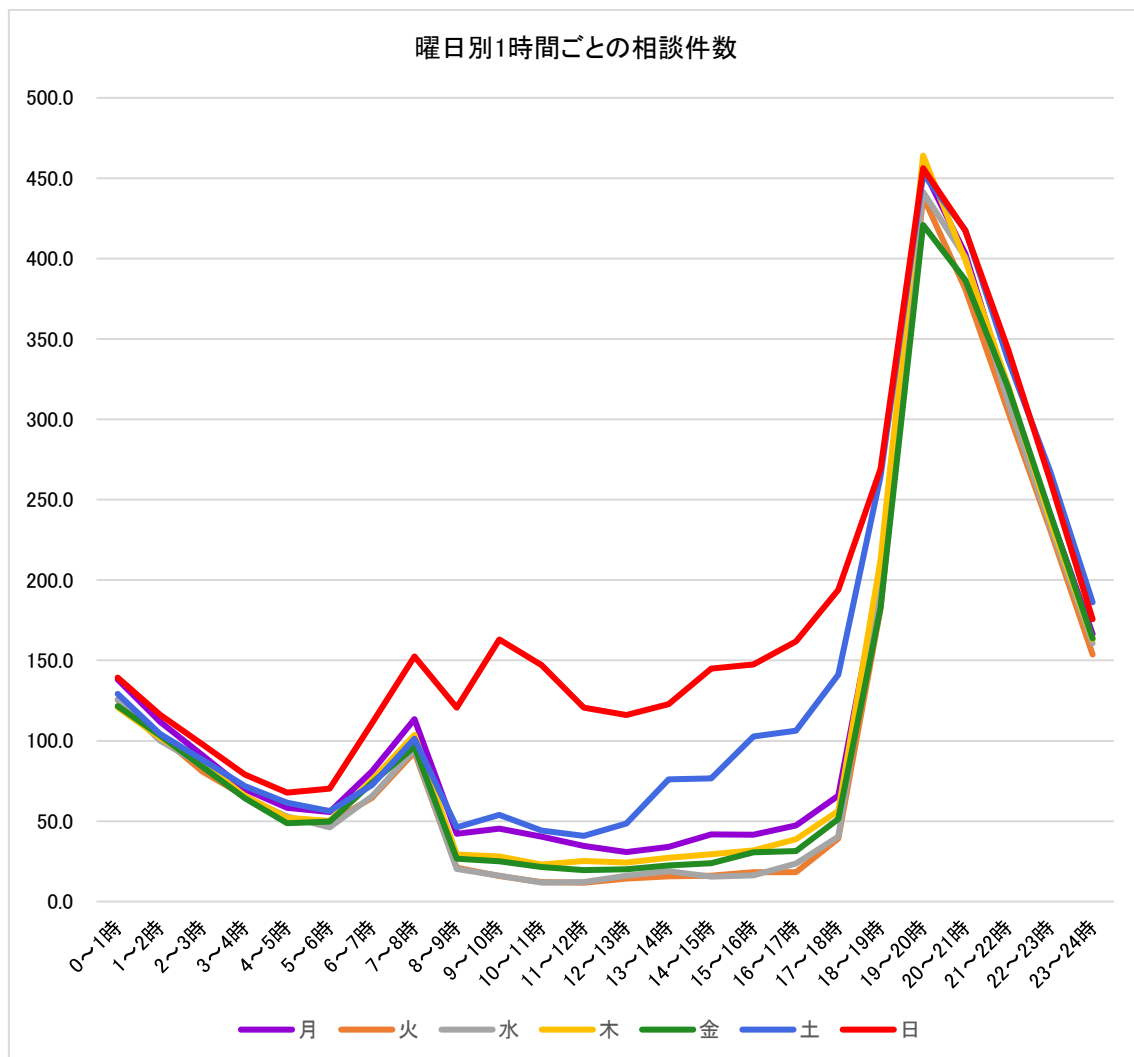
都道府 県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師 数(人)	小児外科医 師数(人)	2科合計医師 数(人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数(1か月)	小児科医師1人 に対する相談件 数(1か月)	小児科または小外科 医師1人に対する相談 件数(1か月)
沖縄県	47201	北部	292	97	15	1	16	16,017	6.1	6.5	6.1
	47202	中部	1,873	624	64	0	64	88,401	7.1	9.8	9.8
	47203	南部	2,978	993	153	6	159	121,700	8.2	6.5	6.2
	47204	宮古	176	59	5	0	5	8,432	7.0	11.7	11.7
	47205	八重山	122	41	7	0	7	9,243	4.4	5.8	5.8
	99999	医療圏未記入	53	18							
		計	5,494	1,831	244	7	251	243,793	7.5	7.5	7.3
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.9	2.0	2.0

Ⅲ-3. 曜日別 1 時間ごとの相談件数

【全国】

時間帯	月	火	水	木	金	土	日	計	割合
0～1 時	138.2	125.6	125.5	120.8	121.6	129.2	139.3	128.6	4.3%
1～2 時	111.9	103.0	100.1	101.8	103.3	104.4	116.2	105.8	3.5%
2～3 時	90.8	80.8	84.7	86.0	83.7	88.2	97.7	87.4	2.9%
3～4 時	69.8	65.5	64.8	65.8	64.3	71.8	78.9	68.7	2.3%
4～5 時	58.3	51.9	53.0	52.2	48.7	61.5	67.8	56.2	1.9%
5～6 時	55.6	49.1	46.2	50.1	49.7	56.4	70.2	53.9	1.8%
6～7 時	81.1	64.5	65.5	75.6	73.8	72.4	110.8	77.7	2.6%
7～8 時	113.5	92.9	94.5	103.6	96.4	101.4	152.5	107.8	3.6%
8～9 時	42.2	21.0	20.3	29.2	26.6	46.2	120.7	43.7	1.5%
9～10 時	45.4	15.8	16.0	28.1	25.1	53.8	163.0	49.6	1.7%
10～11 時	40.4	12.0	11.8	23.0	21.5	44.2	147.1	42.8	1.4%
11～12 時	34.6	11.7	12.1	25.2	19.5	40.8	120.5	37.8	1.3%
12～13 時	30.8	14.2	16.0	24.2	20.2	48.5	116.1	38.6	1.3%
13～14 時	34.0	15.7	18.8	27.2	22.5	75.9	122.8	45.3	1.5%
14～15 時	41.8	16.1	15.5	29.5	23.8	76.7	144.9	49.8	1.7%
15～16 時	41.5	18.2	16.3	31.8	30.6	102.7	147.5	55.5	1.9%
16～17 時	47.3	18.2	23.6	38.8	31.5	106.3	161.9	61.1	2.0%
17～18 時	65.9	39.1	40.3	56.3	51.2	141.2	193.9	84.0	2.8%
18～19 時	203.8	182.1	202.1	212.4	182.7	264.6	269.1	216.7	7.2%
19～20 時	456.0	438.5	441.4	464.1	420.9	452.8	456.2	447.1	14.9%
20～21 時	403.0	381.1	400.8	399.0	386.7	417.7	417.2	400.8	13.4%
21～22 時	317.0	305.2	311.0	321.3	320.2	337.5	343.9	322.3	10.8%
22～23 時	240.8	231.4	233.8	237.4	241.5	267.5	262.1	244.9	8.2%
23～24 時	166.5	153.7	160.7	163.1	163.7	186.1	175.5	167.0	5.6%
未記入	0.0	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.0%
計	2930.0	2507.8	2575.2	2766.7	2630.0	3347.8	4196.2	2993.4	100.0%

※ 相談開始時刻のデータである。月～土曜日の祝日は各曜日に算入している。1 日当たりの相談件数を算出した。準夜帯 19～20 時(相談開始)をピークとして、以後漸減して 0～1 時に 3～4 分の 1 に、深夜帯はさらに減少し、4～5 時あるいは 5～6 時に最低(9～10 分の 1)に減少、7～8 時に小さな山(4～5 分の 1)になる。日祝日日勤帯はピーク時の約 1/3 で一定している。祝日の影響が含まれてしまうので、Ⅳ考察では平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群の検討を行う。



※ 相談開始時刻のデータである。月～土曜日の祝日は各曜日に算入している。1日当たりの相談件数を算出した。準夜帯 19～20 時（相談開始）をピークとして、以後漸減して 0～1 時に 3～4 分の 1 に、深夜帯はさらに減少し、4～5 時あるいは 5～6 時に最低（9～10 分の 1）に減少、7～8 時に小さな山（4～5 分の 1）になる。日祝日日勤帯はピーク時の約 1/3 で一定している。祝日の影響が含まれてしまうので、IV 考察では平日（除祝日）、土曜日（除祝日）、日祝日 3 群の検討を行う。

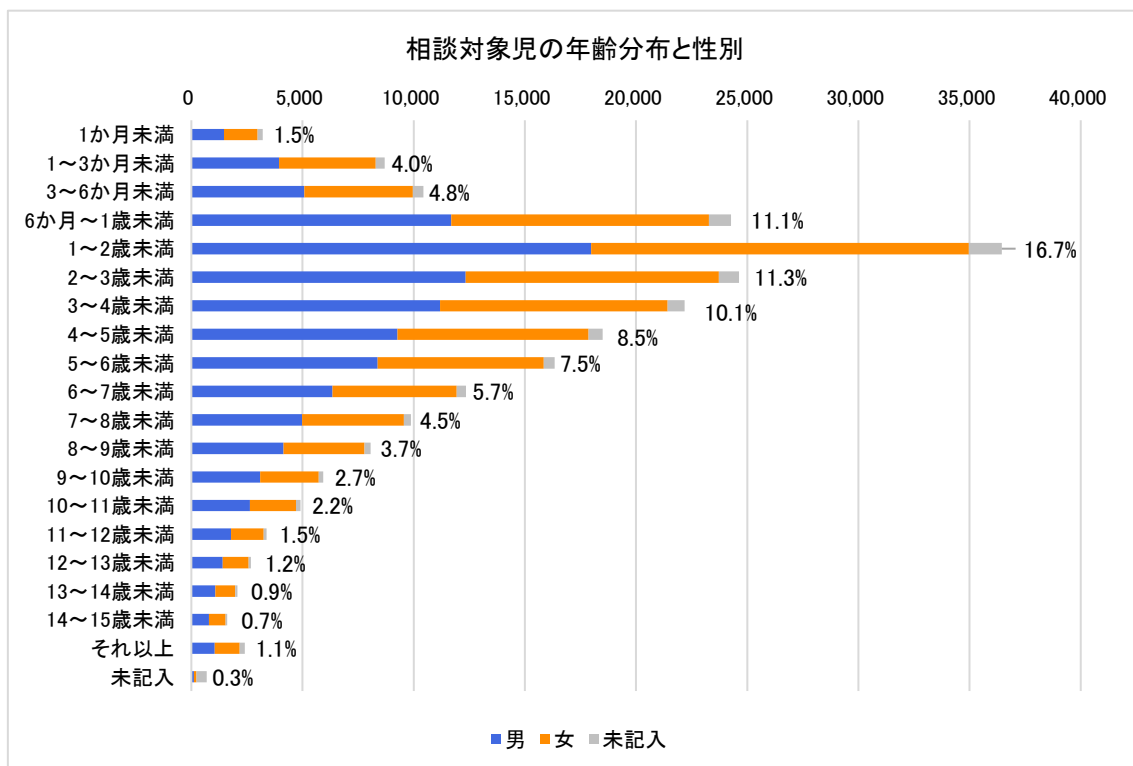
Ⅲ-4. 相談対象児の年齢分布と性別

【全国】

相談対象児年齢	男	女	未記入	計	割合
1 か月未満	1,474	1,503	235	3,212	1.5%
1～3 か月未満	3,948	4,338	411	8,697	4.0%
3～6 か月未満	5,076	4,880	488	10,444	4.8%
6 か月～1 歳未満	11,690	11,592	986	24,268	11.1%
1～2 歳未満	17,984	16,989	1,474	36,447	16.7%
2～3 歳未満	12,338	11,383	911	24,632	11.3%
3～4 歳未満	11,183	10,244	752	22,179	10.1%
4～5 歳未満	9,273	8,599	632	18,504	8.5%
5～6 歳未満	8,382	7,464	490	16,336	7.5%
6～7 歳未満	6,354	5,575	429	12,358	5.7%
7～8 歳未満	4,975	4,586	310	9,871	4.5%
8～9 歳未満	4,146	3,646	275	8,067	3.7%
9～10 歳未満	3,100	2,629	199	5,928	2.7%
10～11 歳未満	2,634	2,078	202	4,914	2.2%
11～12 歳未満	1,779	1,469	130	3,378	1.5%
12～13 歳未満	1,416	1,167	101	2,684	1.2%
13～14 歳未満	1,076	902	96	2,074	0.9%
14～15 歳未満	798	744	69	1,611	0.7%
それ以上	1,056	1,113	240	2,409	1.1%
未記入	109	119	463	691	0.3%
計(件数)	108,791	101,020	8,893	218,704	100.0%
計(割合)	49.7%	46.2%	4.1%	100.0%	-

※ 1～6 か月をまとめている茨城県、埼玉県、広島県、佐賀県 4 県を除く 42 都道府県のデータを示す。男女比は 1.08 である。

Ⅳ考察では、1 歳未満をまとめて、46 道府県の相談対象児年齢分布を示す。



※ 1～6 か月をまとめている茨城県、埼玉県、広島県、佐賀県 4 県を除く 42 都道府県のデータを示す。男女比は 1.08 である。

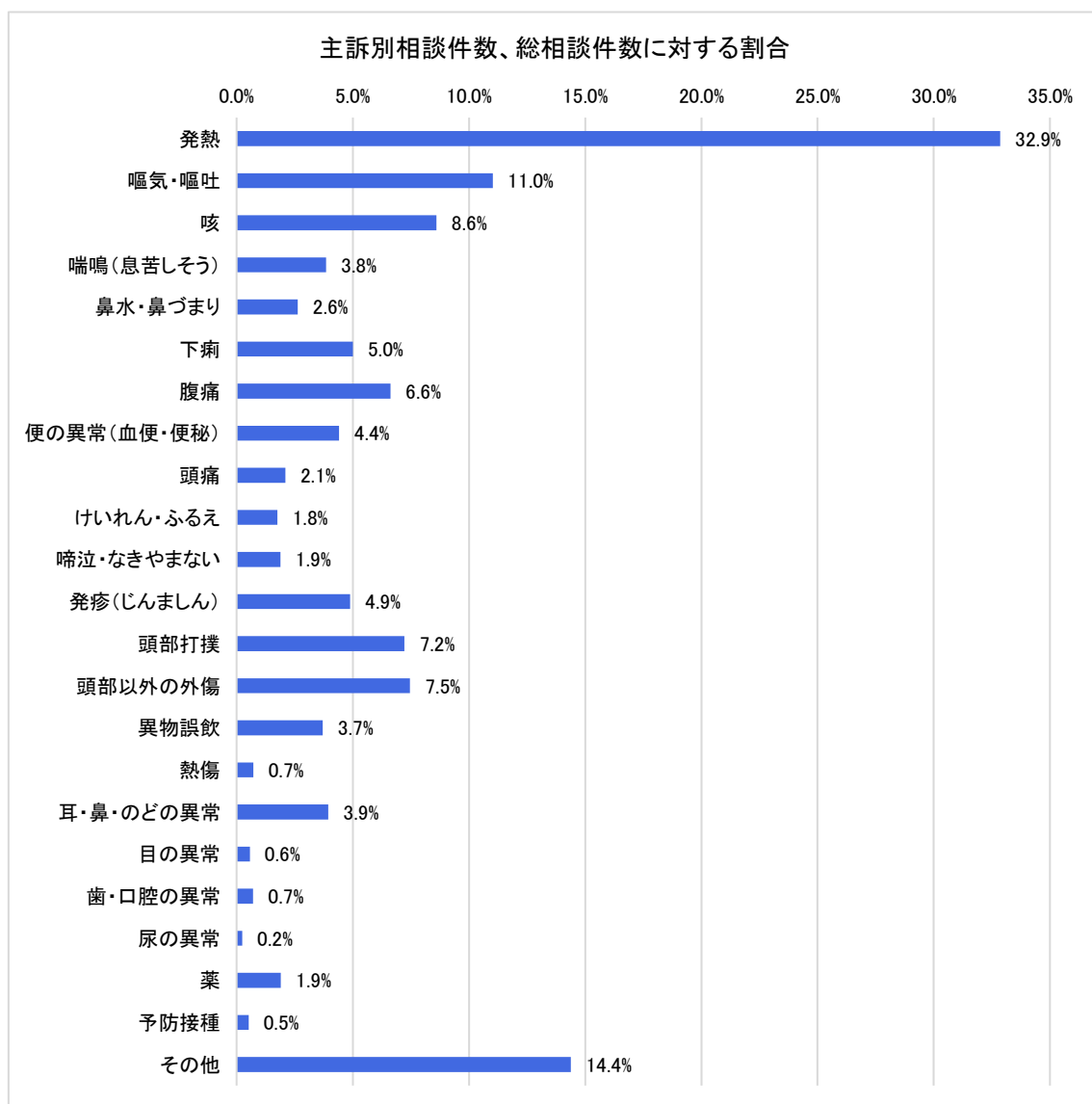
Ⅳ考察では、1 歳未満をまとめて、46 道府県の相談対象児年齢分布を示す。

Ⅲ-5. 主訴別相談件数

【全国】

主訴	回答数	総相談件数(272,396 件)に対する割合
発熱	89,499	32.9%
嘔気・嘔吐	30,030	11.0%
咳	23,436	8.6%
喘鳴(息苦しそう)	10,479	3.8%
鼻水・鼻づまり	7,165	2.6%
下痢	13,623	5.0%
腹痛	18,049	6.6%
便の異常(血便・便秘)	12,019	4.4%
頭痛	5,730	2.1%
けいれん・ふるえ	4,796	1.8%
啼泣・なきやまない	5,151	1.9%
発疹(じんましん)	13,311	4.9%
頭部打撲	19,678	7.2%
頭部以外の外傷	20,330	7.5%
異物誤飲	10,108	3.7%
熱傷	1,970	0.7%
耳・鼻・のどの異常	10,750	3.9%
目の異常	1,548	0.6%
歯・口腔の異常	1,936	0.7%
尿の異常	662	0.2%
薬	5,178	1.9%
予防接種	1,410	0.5%
その他	39,182	14.4%
計	346,040	127.0%

※ 複数回答あり。総相談件数(272,396 件)に対する割合を示した。割合順では発熱 32.9%、嘔気・嘔吐 11.0%、咳 8.6%、頭部以外の外傷 7.5%、頭部打撲 7.2%、腹痛 6.6%、下痢 5.0%、発疹(じんましん) 4.9%、便の異常 4.4%、耳・鼻・のどの異常 3.9%、喘鳴 3.8%、異物誤飲 3.7%であった。



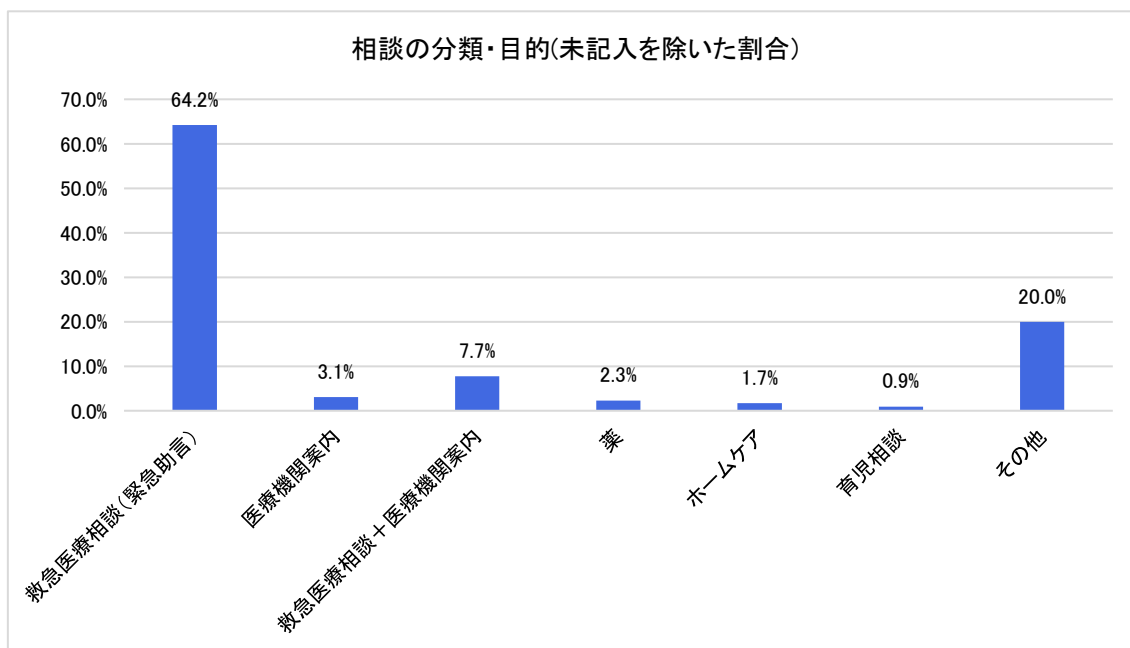
※ 複数回答あり。総相談件数(272,396 件)に対する割合を示した。割合順では発熱 32.9%、嘔気・嘔吐 11.0%、咳 8.6%、頭部以外の外傷 7.5%、頭部打撲 7.2%、腹痛 6.6%、下痢 5.0%、発疹(じんましん) 4.9%、便の異常 4.4%、耳・鼻・のどの異常 3.9%、喘鳴 3.8%、異物誤飲 3.7%であった。

Ⅲ-6. 相談の分類・目的

【全国】

相談の分類・目的	件数	割合	未記入を除いた割合
救急医療相談(緊急助言)	166,571	61.2%	64.2%
医療機関案内	7,967	2.9%	3.1%
救急医療相談＋医療機関案内	20,096	7.4%	7.7%
薬	5,913	2.2%	2.3%
ホームケア	4,502	1.7%	1.7%
育児相談	2,457	0.9%	0.9%
その他	51,889	19.0%	20.0%
未記入	13,001	4.8%	－
計	272,396	100.0%	－

※ 45 都道府県からデータが得られた。救急医療相談と医療機関案内の両方の情報提供の希望があり、救急医療相談＋医療機関案内に分類している。未記入を除いた割合をみると、救急医療相談のニーズは救急医療相談(緊急助言)と救急医療相談＋医療機関案内を合わせて 71.9%、医療機関案内のニーズは医療機関案内と救急医療相談＋医療機関案内を合わせて 10.8% である。育児相談は 0.9%と少ない。



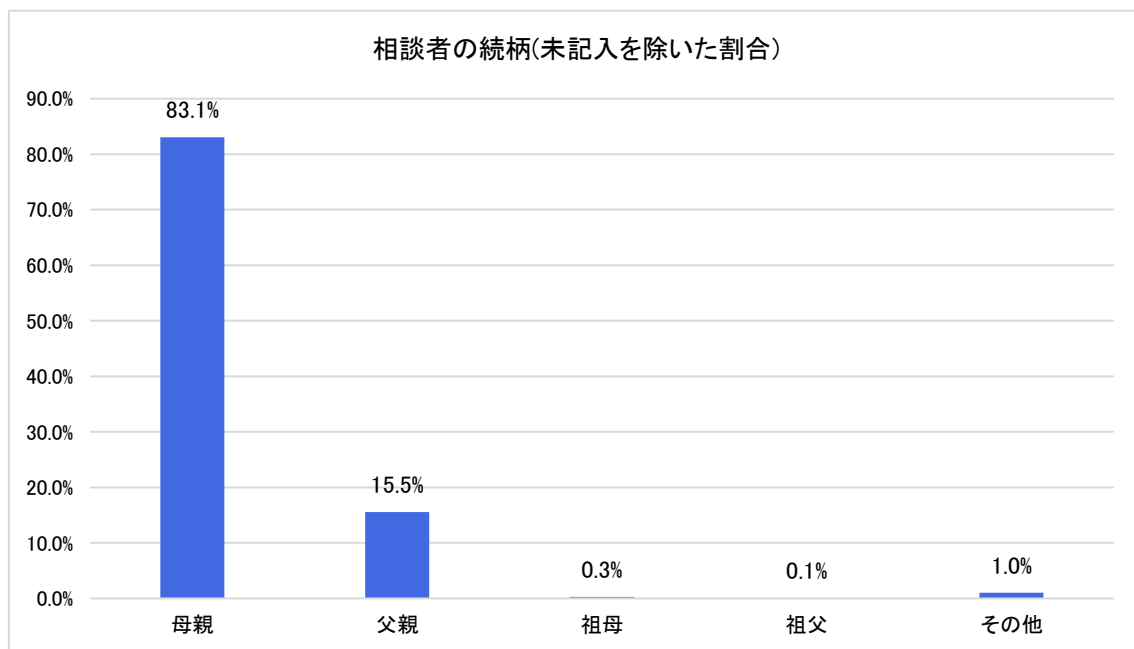
※ 45 都道府県からデータが得られた。救急医療相談と医療機関案内の両方の情報提供の希望があり、救急医療相談＋医療機関案内に分類している。未記入を除いた割合をみると、救急医療相談のニーズは救急医療相談(緊急助言)と救急医療相談＋医療機関案内を合わせて 71.9%、医療機関案内のニーズは医療機関案内と救急医療相談＋医療機関案内を合わせて 10.8% である。育児相談は 0.9%と少ない。

Ⅲ-7. 相談者の続柄

【全国】

続柄	件数	割合	未記入を除いた割合
母親	223,853	82.2%	83.1%
父親	41,897	15.4%	15.5%
祖母	820	0.3%	0.3%
祖父	171	0.1%	0.1%
その他	2,783	1.0%	1.0%
未記入	2,872	1.1%	－
計	272,396	100.0%	－

※ 46 都道府県全てからデータが得られた。「その他」は両親が電話の途中で代わった場合や、親戚、本人などである。



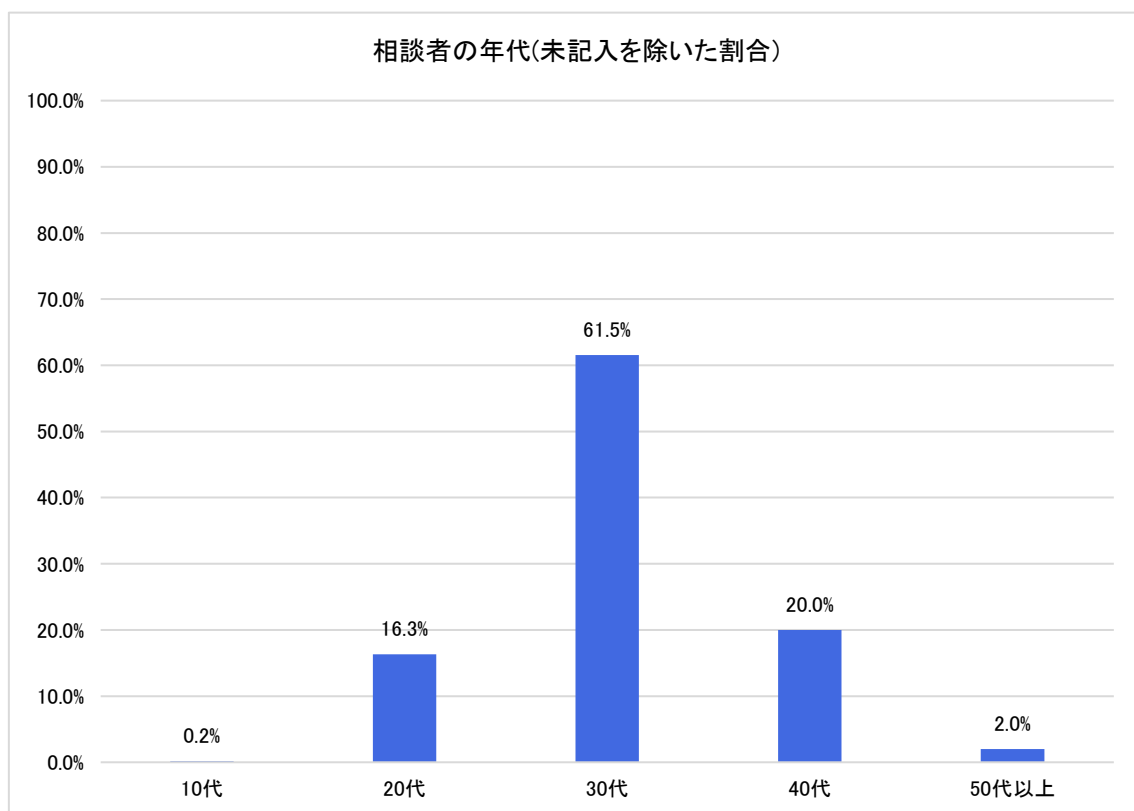
※ 46 都道府県全てからデータが得られた。「その他」は両親が電話の途中で代わった場合や、親戚、本人などである。

Ⅲ-8. 相談者の年代

【全国】

年齢	件数	割合	未記入を除いた割合
10代	153	0.1%	0.2%
20代	14,909	5.5%	16.3%
30代	56,286	20.7%	61.5%
40代	18,295	6.7%	20.0%
50代以上	1,833	0.7%	2.0%
未記入	180,920	66.4%	—
計	272,396	100.0%	—

※ 33 道府県からデータが得られた。人口が多い都府県からデータが得られない傾向がある。40代が経年的に増加傾向である。



※ 33 道府県からデータが得られた。人口が多い都府県からデータが得られない傾向がある。40代が増加傾向である。

Ⅲ-9. 兄弟の有無(第1子あるいは子ども一人の家庭の検討)

【全国】

兄弟の有無	件数	割合	不明を除いた割合
兄弟いる	29,170	10.7%	49.2%
兄弟いない	30,114	11.1%	50.8%
不明	213,112	78.2%	—
計	272,396	100.0%	—

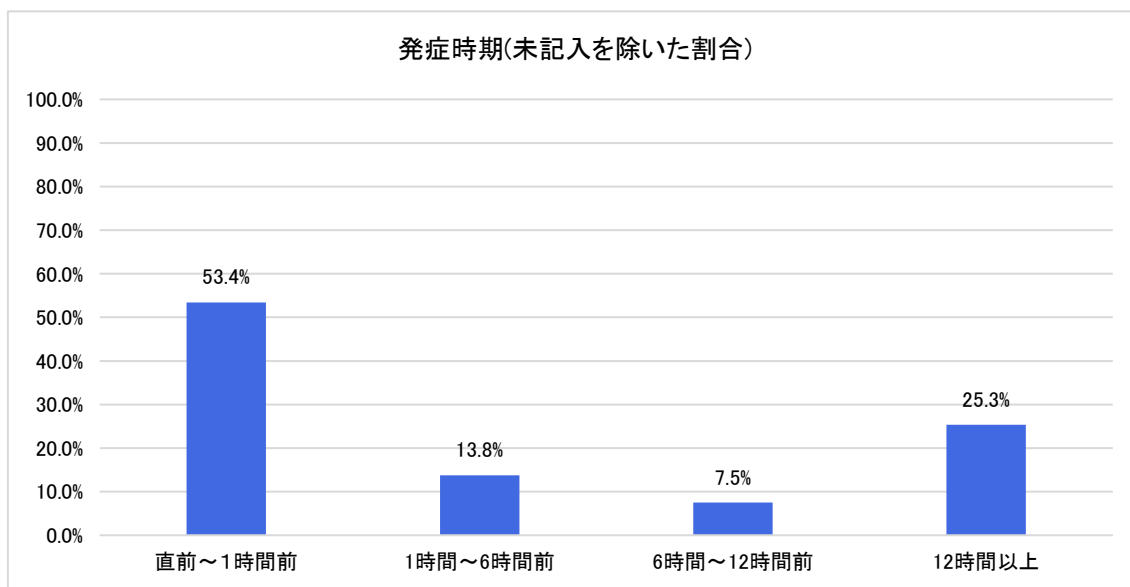
※ 27 道県からデータが得られた。兄弟がいない/(いる+いない)比は第1子あるいは子ども一人の家庭に相当する。50.8%で、微増し50%を超えた。

Ⅲ-10. 発症時期

【全国】

発症時期	件数	割合	未記入を除いた割合
直前～1時間前	91,598	33.6%	53.4%
1時間～6時間前	23,621	8.7%	13.8%
6時間～12時間前	12,818	4.7%	7.5%
12時間以上	43,430	15.9%	25.3%
未記入	100,929	37.1%	—
計	272,396	100.0%	—

※ 36 都道府県からデータが得られている。選択肢の表現を変更している(直前～1時間前、1時間～6時間前、6時間～12時間前、12時間以上)。未記入を除いた検討で、1時間前から(発症後1時間以内)が53.4%で、発症12時間以内が74.7%で、多くが発症後短時間で相談している。



※ 36 都道府県からデータが得られている。選択肢の表現を変更している(直前～1時間前、1時間～6時間前、6時間～12時間前、12時間以上)。未記入を除いた検討で、1時間前から(発症後1時間以内)が53.4%で、発症12時間以内が74.7%で、多くが発症後短時間で相談している。

Ⅲ-11. 相談前受診(受診後電話相談)の有無

【全国】

相談前受診(受診後電話相談)の有無	件数	割合	不明を除いた割合
相談前受診あり	48,286	17.7%	21.2%
相談前受診なし	179,111	65.8%	78.8%
不明	44,999	16.5%	－
計	272,396	100.0%	－

※ 受診したが、不安でその後に電話相談した場合である。40 都道府県からデータが得られている。相談前受診あり/(相談前受診あり+なし)=21.2%に増えていて、新型コロナウイルスパンデミック前に戻る傾向がある。

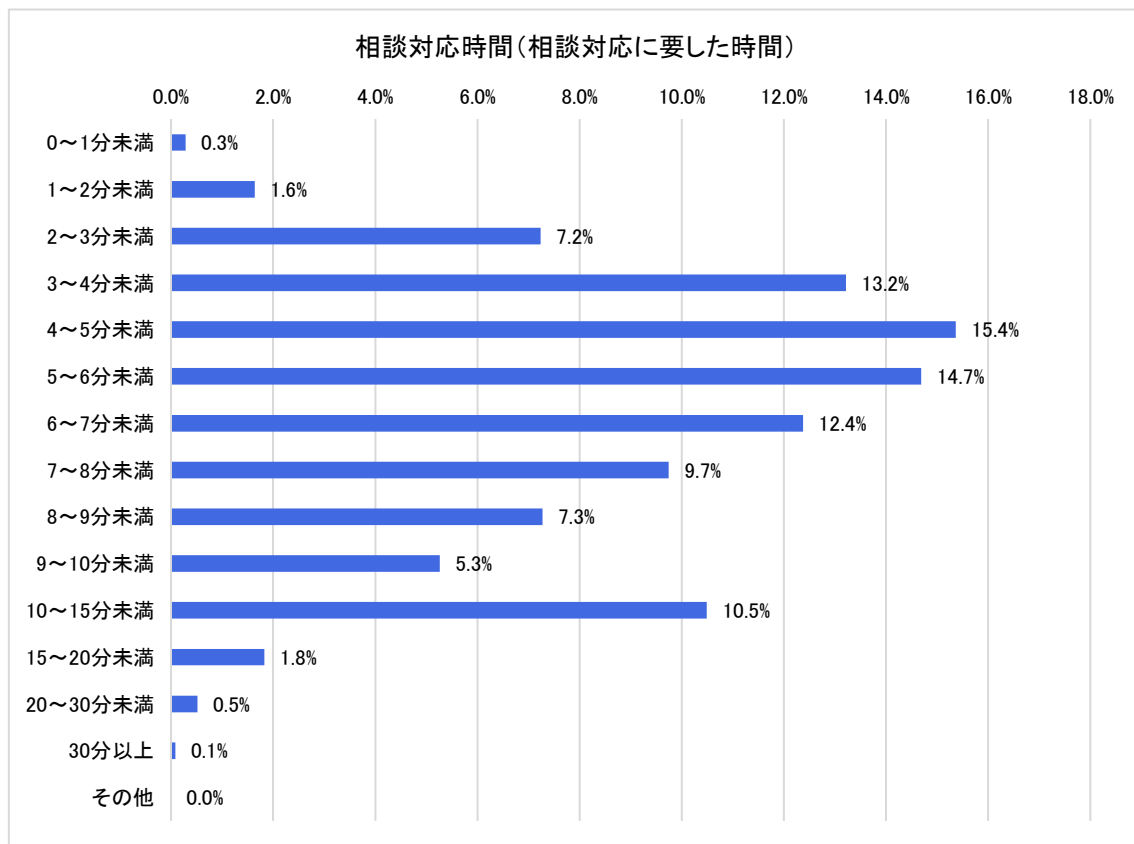
Ⅲ-12. 相談対応時間(相談対応に要した時間)

【全国】

相談対応時間	件数	割合	未記入を除いた割合
0～1 分未満	624	0.2%	0.3%
1～2 分未満	3,574	1.3%	1.6%
2～3 分未満	15,794	5.8%	7.2%
3～4 分未満	28,834	10.6%	13.2%
4～5 分未満	33,531	12.3%	15.4%
5～6 分未満	32,049	11.8%	14.7%
6～7 分未満	27,003	9.9%	12.4%
7～8 分未満	21,267	7.8%	9.7%
8～9 分未満	15,869	5.8%	7.3%
9～10 分未満	11,486	4.2%	5.3%
10～15 分未満	22,890	8.4%	10.5%
15～20 分未満	3,983	1.5%	1.8%
20～30 分未満	1,130	0.4%	0.5%
30 分以上	188	0.1%	0.1%
その他	0	0.0%	0.0%
未記入	54,174	19.9%	－
計	272,396	100.0%	－

※ 42 都道府県からデータが得られている。茨城県、埼玉県、広島県の一部では相談対応終了時刻のデータがなく、山口県は相談対応時間に通話終了後の記録処理時間を含んでいるため、除外した。(修正・差替予定)

相談対応時間は 4～5 分未満が最も多い。10 分以上は 28,191 件、10.3%、15 分以上は 5,301 件 1.9%で、相談対応時間が長い例が増えている。



※ 42 都道府県からデータが得られている。茨城県、埼玉県、広島県の一部では相談対応終了時刻のデータがなく、山口県は相談対応時間に通話終了後の記録処理時間を含んでいるため、除外した。(修正・差替予定)

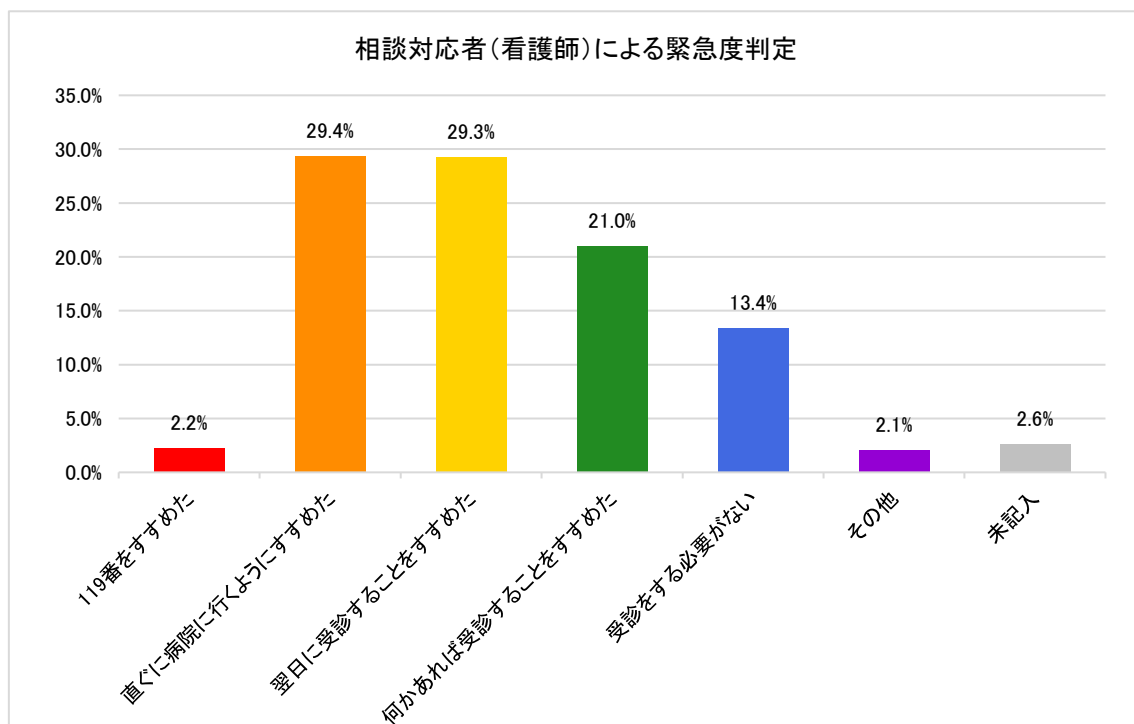
相談対応時間は 4～5 分未満が最も多い。10 分以上は 28,191 件、10.3%、15 分以上は 5,301 件 1.9%で、相談対応時間が長い例が増えている。

Ⅲ-13. 相談対応者(看護師)による緊急度判定(受診の判断)

【全国】

相談対応者(看護師)による緊急度判定	件数	割合	未記入を除いた割合
119番をすすめた	6,096	2.2%	2.3%
直ぐに病院に行くようにすすめた	80,048	29.4%	30.2%
翌日に受診することをすすめた	79,739	29.3%	30.1%
何かあれば受診することをすすめた	57,205	21.0%	21.6%
受診をする必要がない	36,550	13.4%	13.8%
その他	5,649	2.1%	2.1%
未記入	7,109	2.6%	-
計	272,396	100.0%	-

※ 未記入を除かない割合で検討する。119番と直ぐ受診が増えている(合わせて32.5%)。



※ 未記入を除かない割合で検討する。119番と直ぐ受診が増えている(合わせて31.6%)。

Ⅲ-14. 医師の助言・対応

【全国】

医師の助言・対応	件数	割合	未記入を除いた割合
医師から助言を受けた	970	0.4%	0.4%
医師が対応した	338	0.1%	0.1%
医師の助言・対応なし	254,969	93.6%	99.5%
不明	16,119	5.9%	－
計	272,396	100.0%	－

※ 44 都道府県からデータが得られている。医師の助言・対応を要したのは 1308 件で、前年度 394 件より増加した。医師の助言・対応は少ない。山口県、広域民間事業者 G で医師の助言が多い。

Ⅲ-15. 相談者の満足度(相談対応者からの印象)

【全国】

満足度	件数	割合	未記入(不明)を除いた割合
満足	247,052	90.7%	99.5%
不満気	1,242	0.5%	0.5%
不明	24,102	8.8%	－
計	272,396	100.0%	－

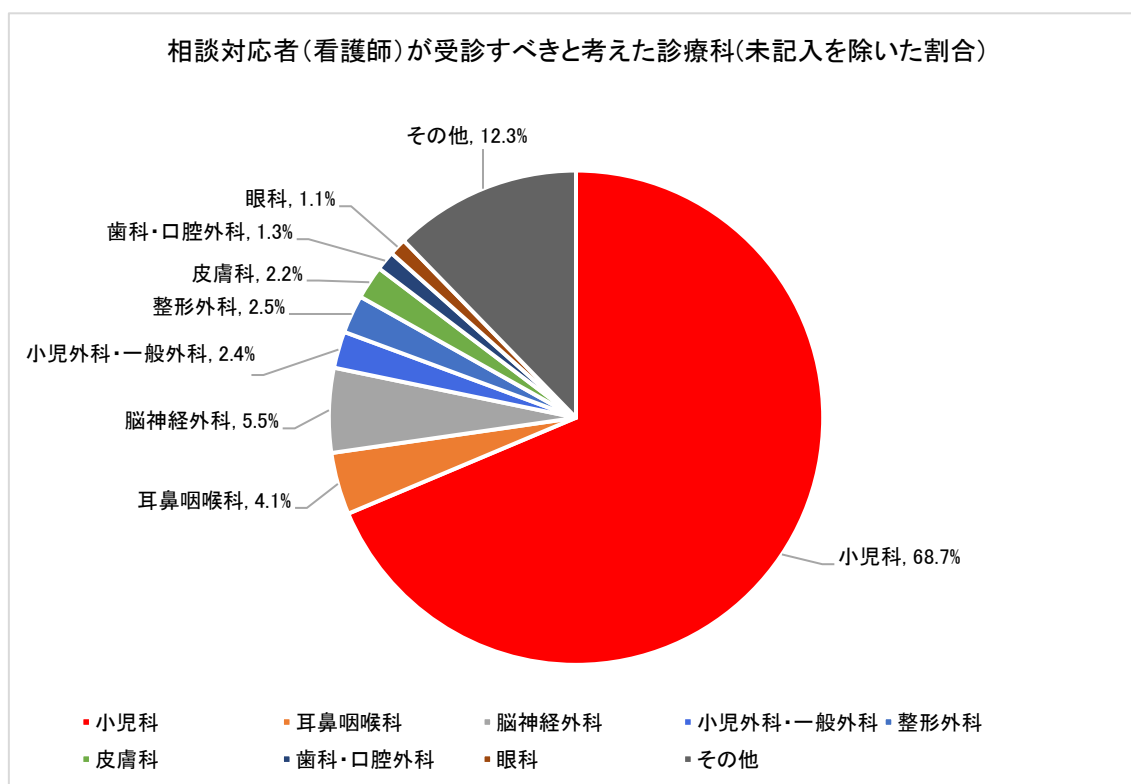
※ 45 道府県からデータが得られている。満足度は高い(99.5%)。

Ⅲ-16. 相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科

【全国】

診療科	件数	割合	未記入を除いた割合
小児科	110,908	40.7%	68.7%
耳鼻咽喉科	6,563	2.4%	4.1%
脳神経外科	8,933	3.3%	5.5%
小児外科・一般外科	3,875	1.4%	2.4%
整形外科	4,027	1.5%	2.5%
皮膚科	3,531	1.3%	2.2%
歯科・口腔外科	2,047	0.8%	1.3%
眼科	1,823	0.7%	1.1%
その他	19,839	7.3%	12.3%
未記入	110,850	40.7%	—
計	272,396	100.0%	—

※ 41 都道府県からデータが得られている。県ごとに全てでデータが得られるわけではなく、未記入率が高くなる(表 4 参照)。



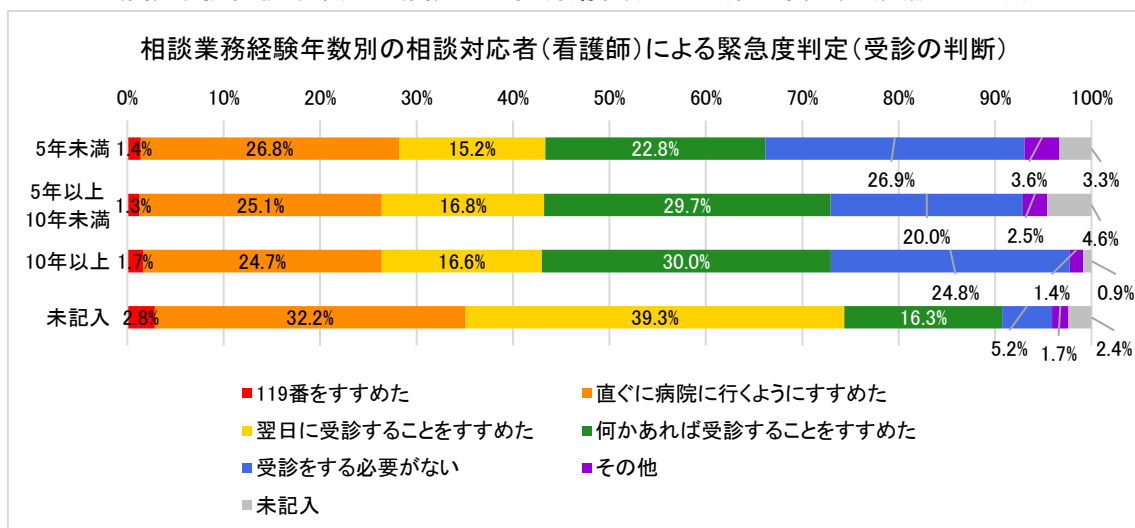
※ 41 都道府県からデータが得られている。県ごとに全てでデータが得られるわけではなく、未記入率が高くなる(表 4 参照)。

Ⅲ-17. 相談業務経験年数別の相談対応者(看護師)による緊急度判定(受診の判断) 【全国】

相談対応者(看護師)による緊急度判定	相談業務 経験年数	5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上	未記入	計
119 番をすすめた	件数	636	429	634	4,397	6,096
	割合	1.4%	1.3%	1.7%	2.8%	2.2%
直ぐに病院に行くようにすすめた	件数	12,229	8,566	9,389	49,864	80,048
	割合	26.8%	25.1%	24.7%	32.2%	29.4%
翌日に受診することをすすめた	件数	6,933	5,731	6,313	60,762	79,739
	割合	15.2%	16.8%	16.6%	39.3%	29.3%
何かあれば受診することをすすめた	件数	10,418	10,117	11,385	25,285	57,205
	割合	22.8%	29.7%	30.0%	16.3%	21.0%
受診をする必要がない	件数	12,289	6,801	9,415	8,045	36,550
	割合	26.9%	20.0%	24.8%	5.2%	13.4%
その他	件数	1,649	859	533	2,608	5,649
	割合	3.6%	2.5%	1.4%	1.7%	2.1%
未記入	件数	1,517	1,561	327	3,704	7,109
	割合	3.3%	4.6%	0.9%	2.4%	2.6%
計	件数	45,671	34,064	37,996	154,665	272,396
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 31 道府県からデータが得られている。割合の母数は相談業務経験年数毎である。均てん化してきている。

相談業務経験年数別の相談対応者(看護師)による緊急度判定(受診の判断)



※ 31 道府県からデータが得られている。割合の母数は相談業務経験年数毎である。均てん化してきている。

Ⅲ-18. 相談対応者(看護師)の対応感想(対応困難) 【全国】

相談対応者(看護師)の対応感想	件数	割合	未記入(不明)を除いた割合
対応困難あり	295	0.1%	0.3%
対応困難なし	91,195	33.5%	99.7%
不明	180,906	66.4%	-
計	272,396	100.0%	-

※ 29 道府県からデータが得られている。対応困難は 295 件で、前年度(118 件)より増えた。

IV. 全調査都道府県(全体版)の考察

《令和5年度#8000 情報収集分析事業の調査対象》

令和5年度の本事業の調査対象は、p7～9、表2-1～2-3により、46都道府県、対象年少人口は全国比95.5%で、ほぼ全国状況を把握できている。日祝日日勤帯実施は、27都県で、対象年少人口は全国比49.4%で、半数で日祝日日勤帯に#8000サービスを提供できていない。

《調査結果の未記入・不明のデータの処理》

データ取得状況を p17 表 4 に示して、Ⅲ.集計結果では、未記入・不明を除かない割合と未記入・不明を除いた割合を併記した。Ⅳ.考察では、開始時刻、相談対象児年齢、主訴、兄弟の有無（第1子あるいは子ども一人の家庭）、緊急度判定以外の調査項目について、未記入・不明を除いた割合を用いて分析した。前年度と同様の処理である。

IV-1. #8000 事業の月別相談件数

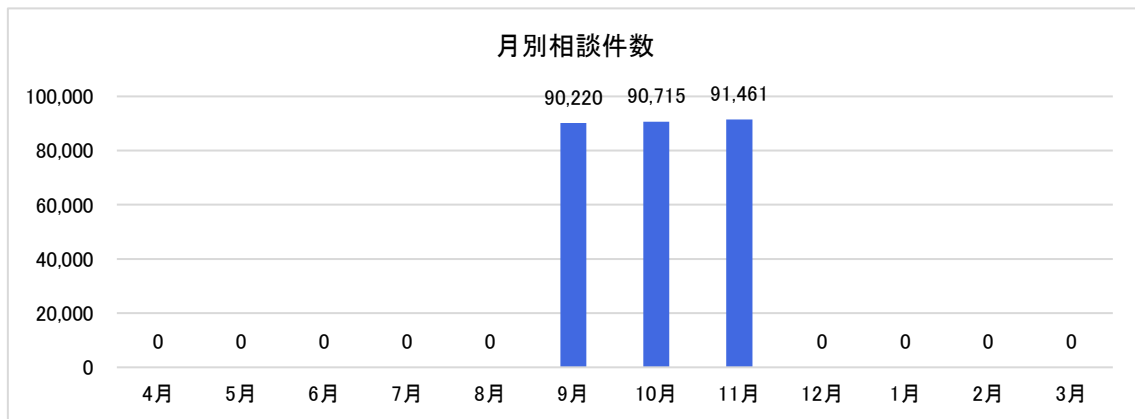
調査対象期間は、前年度と同じく9月～11月である。月別相談件数は、9月90,220件、10月90,715件、11月91,461件、総相談件数総数272,396件で、前年度(参加県45)の1.09倍に増加した。参加県は46都道府県、対象年少人口は全国の95.5%で、対象年少人口千人対総相談件数/月は6.5であった。

表5. 月別相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	-	-	-	-	-	90,220	90,715	91,461	-	-	-	-	272,396

※ p20、Ⅲ-1 再掲。2023年9月～2023年11月に調査して272,396件のデータを収集した。

図6. 月別相談件数



※ 2023年9月～2023年11月に調査して、272,396件のデータを収集した。

IV-2. 都道府県別、小児医療圏別の年少人口対相談件数(#8000 利用率)

都道府県別、小児医療圏別年少人口対相談件数を求めて、都道府県間、小児医療圏間の差がないかをみた。都道府県小児医療圏別に年少人口対相談件数を算出して、都道府県別のⅢ-2の表(p20～27)を作成し、それを元に表 6-1、図 7-1、表 6-2、図 7-2 を作成した。年少人口対相談件数は、#8000 利用率と見なすことができる。

《都道府県別年少人口対相談件数》

年少人口千人対相談件数/月は、地元データがない福井県を除いて、全相談件数/全年少人口 6.5、都道府県平均 7.1、中央値 5.4、最大値 18.3、最小値 2.7 で、都道府県間で 6 倍以上の差があった。小児科医師・小児外科医師数対相談件数は、全相談件数/全小児科医師・小児外科医師数 5.1、都道府県平均 5.7、中央値 5.4、最大値 17.3、最小値 2.1 であった。都道府県間差は 6 倍以上と大きい。

年少人口千人対相談件数/月の経年変化は(表 7)、新型コロナウイルスパンデミック時に一時減少していたが、今年度は全相談件数/全年少人口 6.5 と新型コロナウイルスパンデミック前の令和元年度レベル(6.6)に戻っている。次年度は医師の働き方改革による夜間休日小児救急医療体制の縮小のために、#8000 のニーズが高まることが予想される。

《各都道府県内小児医療圏別年少人口対相談件数》

県内の小児医療圏間で差がないかをみた(Ⅲ-2の医療圏別相談件数の表、表 8)。年少人口千人対相談件数/月の都道府県内小児医療圏間較差(表 7)は、平均 2.9、中央値 2.3、最大値 10.1、最小値 1.2 で、5.0 倍以上の自治体は北海道、岩手県、東京都、島根県、香川県、長崎県、熊本県、7 都県であった。利用率が低い医療圏は、広大な面積や島しょ等のいわゆるへき地であることが多い。へき地は、医療資源、対象人口、人口密度、医療アクセスなどの因子を含む。

《年少人口対相談件数、#8000 利用率に影響する因子と#8000 実施体制の全国均てん化》

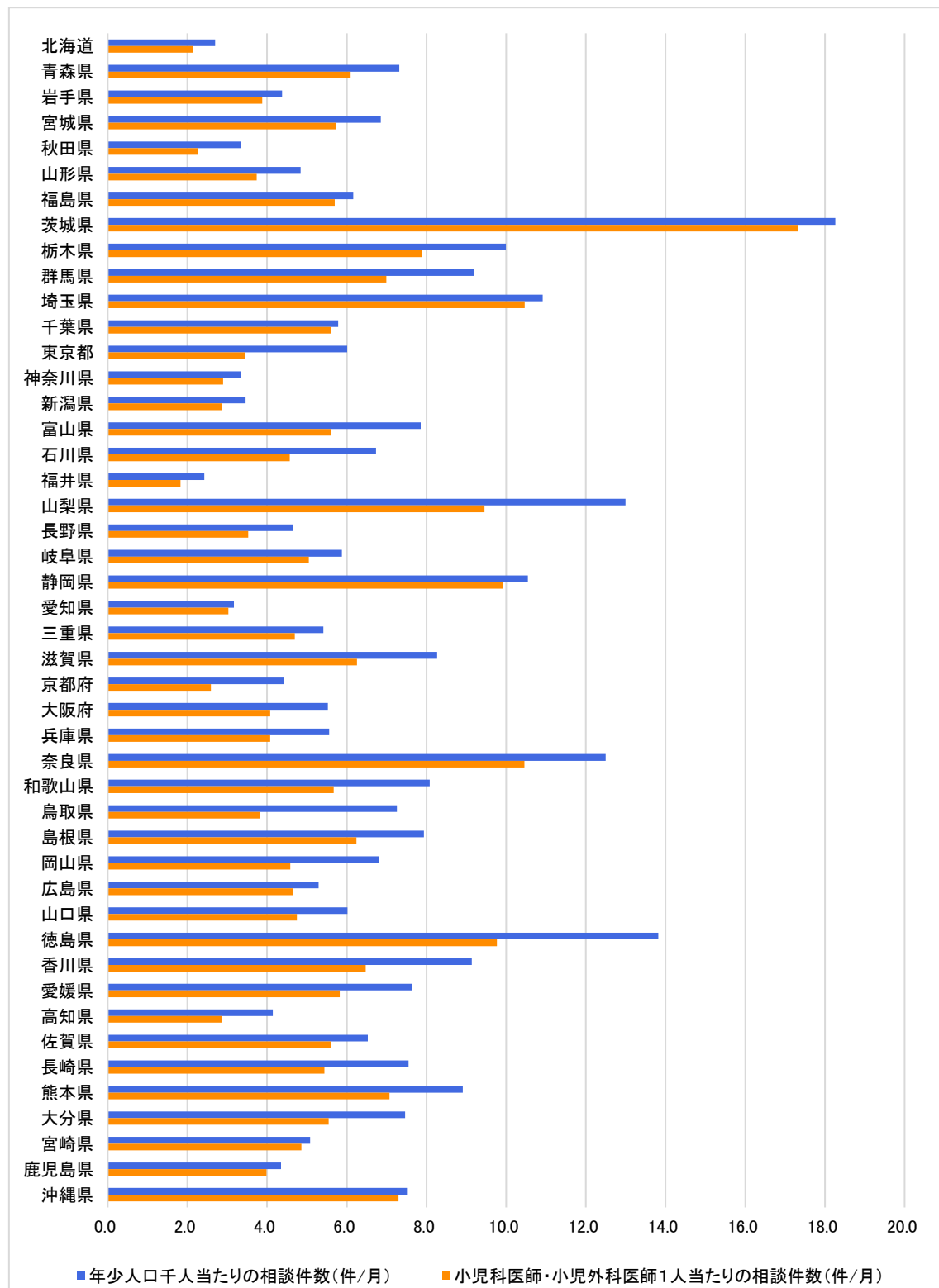
年少人口対相談件数、#8000 利用率は都道府県間、小児医療圏間で大きな差を認めた。影響する因子には、#8000 のニーズ以外に、#8000 実施体制(#8000 実施時間帯、#8000 回線数)、#8000 の認知度(広報)、へき地等の地理的社会的状況が考えられる。#8000 実施時間帯、#8000 回線数、#8000 の認知度は、医療整備計画で改善する可能性がある。へき地等の地理的社会的状況は、年少人口密度が低く、医療資源が乏しいことが考えられるが、それだからこそ、#8000 の利用が十分になることを期待する。都道府県、市町村は、小児人口、子育て家庭の状況と#8000 のニーズを見きわめながら、#8000 実施体制(#8000 実施時間帯、#8000 回線数)の全国均てん化を進めていくことが必要であると思われる。なお、時間帯別#8000 回線数の情報は今年度得られていないので、次年度の課題とする。

表 6-1. 都道府県別、年少人口千人対相談件数(件/月)、小児科医師・小児外科医師 1 人対相談件数(件/月)、および年少人口千人対相談件数(件/月)の都道府県内小児医療圏間較差

都道府県番号	都道府県名	15歳未満年少人口(人)	小児科医師・小児外科医師数	1か月間の相談件数	年少人口千人当たりの相談件数(件/月)	小児科医師・小児外科医師1人当たりの相談件数(件/月)	都道府県内小児医療圏較差
1	北海道	532,860	672	1,438	2.7	2.1	5.0
2	青森県	124,861	150	914	7.3	6.1	2.4
3	岩手県	125,829	142	551	4.4	3.9	5.5
4	宮城県	259,576	311	1,780	6.9	5.7	1.8
5	秋田県	87,103	129	292	3.4	2.3	4.8
6	山形県	113,680	147	550	4.8	3.7	1.8
7	福島県	200,741	217	1,237	6.2	5.7	3.7
8	茨城県	328,081	346	5,992	18.3	17.3	1.9
9	栃木県	221,132	280	2,210	10.0	7.9	1.6
10	群馬県	218,768	288	2,013	9.2	7.0	1.5
11	埼玉県	860,471	898	9,396	10.9	10.5	1.9
12	千葉県	727,580	750	4,208	5.8	5.6	2.0
13	東京都	1,561,365	2,729	9,384	6.0	3.4	5.6
14	神奈川県	1,069,505	1,236	3,578	3.3	2.9	2.3
15	新潟県	236,744	286	818	3.5	2.9	2.6
16	富山県	112,723	158	885	7.9	5.6	1.3
17	石川県	133,110	196	896	6.7	4.6	3.1
18	福井県	92,477	123	224	2.4	1.8	1.4
19	山梨県	90,964	125	1,182	13.0	9.5	1.2
20	長野県	236,948	313	1,103	4.7	3.5	1.9
21	岐阜県	234,545	273	1,378	5.9	5.0	1.4
22	静岡県	421,004	448	4,440	10.5	9.9	2.1
23	愛知県	960,799	1,005	3,046	3.2	3.0	3.9
24	三重県	208,109	240	1,126	5.4	4.7	1.9
25	滋賀県	189,129	250	1,564	8.3	6.3	2.2
26	京都府	286,617	488	1,265	4.4	2.6	2.3
27	大阪府	1,022,116	1,385	5,645	5.5	4.1	1.2
28	兵庫県	657,754	896	3,656	5.6	4.1	2.6
29	奈良県	150,711	180	1,883	12.5	10.5	1.2
30	和歌山県	102,435	146	828	8.1	5.7	3.4
31	鳥取県	66,730	127	484	7.3	3.8	1.4
32	島根県	79,455	101	630	7.9	6.2	5.6
33	岡山県	229,686	341	1,562	6.8	4.6	2.3
34	広島県	342,633	390	1,814	5.3	4.7	3.2
35	山口県	149,146	189	898	6.0	4.7	1.7
36	徳島県	79,179	112	1,094	13.8	9.8	2.2
37	香川県	113,362	160	1,036	9.1	6.5	6.3
38	愛媛県	150,847	198	1,153	7.6	5.8	2.0
39	高知県	73,018	106	303	4.1	2.9	2.9
41	佐賀県	106,500	124	695	6.5	5.6	2.4
42	長崎県	159,842	222	1,207	7.6	5.4	10.1
43	熊本県	225,999	285	2,015	8.9	7.1	5.9
44	大分県	133,010	179	992	7.5	5.5	2.1
45	宮崎県	137,804	144	700	5.1	4.9	2.5
46	鹿児島県	207,041	226	900	4.3	4.0	4.8
47	沖縄県	243,793	251	1,831	7.5	7.3	1.9
全国		14,065,782	17,962	90,799	6.5	5.1	
福井県を除く		13,973,305	17,839	90,574	6.5	5.1	

※ 年少人口千人対相談件数/月は(地元データがない福井県を除いて)全相談件数/全年少人口 6.5、都道府県平均 7.1、中央値 5.4、最大値 18.3、最小値 2.7 であった。

図 7-1. 都道府県別、都道府県別、年少人口千人対相談件数(件/月)、小児科医師・小児外科医師 1 人対相談件数(件/月)



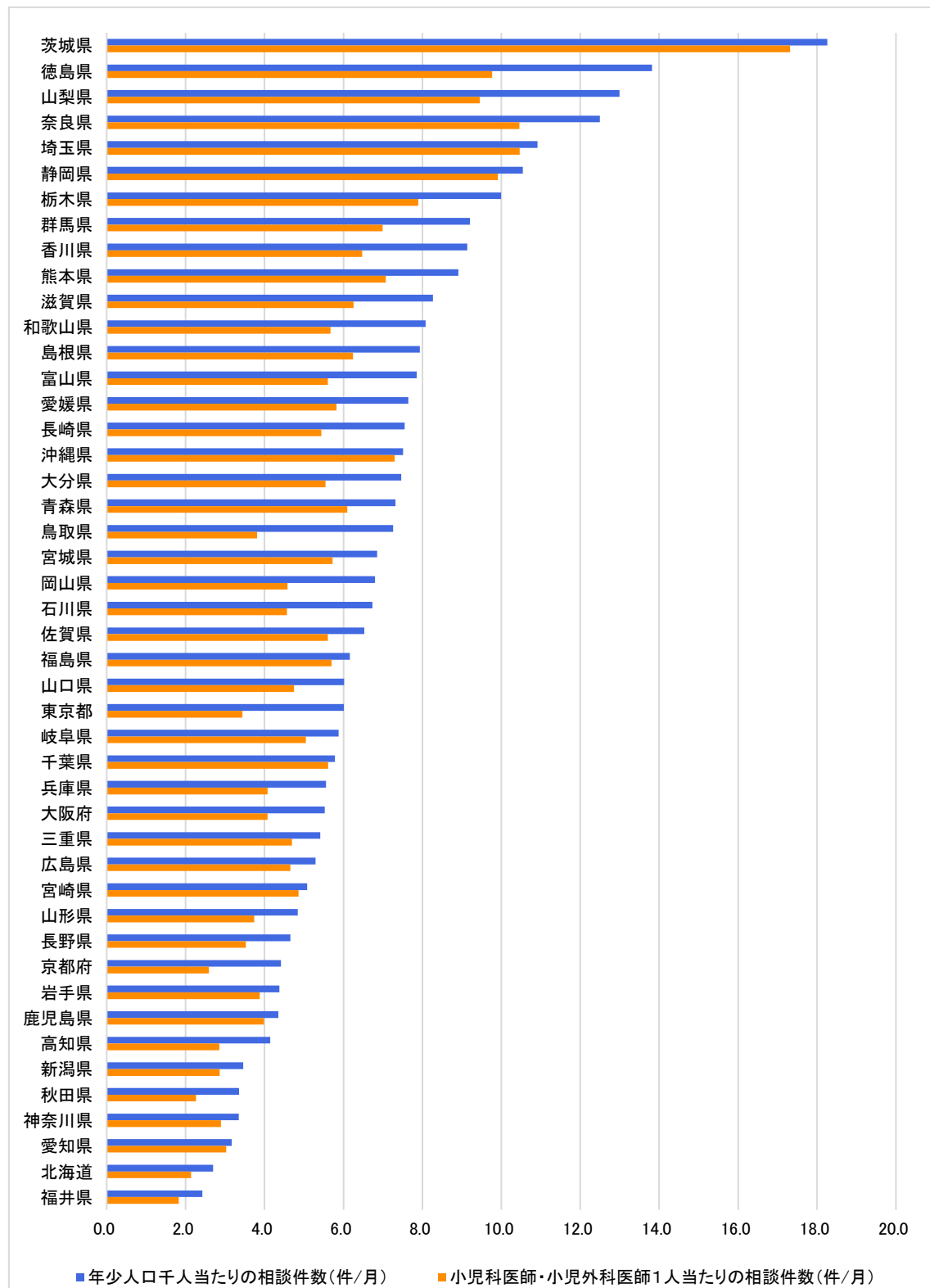
※ 年少人口千人対相談件数/月は(地元データがない福井県を除いて)全相談件数/全年少人口 6.5、都道府県平均 7.1、中央値 5.4、最大値 18.3、最小値 2.7 であった。

表 6-2. 都道府県別、年少人口千人対相談件数(件/月)、小児科医師・小児外科医師 1 人対相談件数(件/月)、および年少人口千人対相談件数(件/月)の都道府県内小児医療圏間較差(降順)

都道府県番号	都道府県名	15歳未満年少人口(人)	小児科医師・小児外科医師数	1か月間の相談件数	年少人口千人当たりの相談件数(件/月)	小児科医師・小児外科医師1人当たりの相談件数(件/月)	都道府県内小児医療圏較差
8	茨城県	328,081	346	5,992	18.3	17.3	1.9
36	徳島県	79,179	112	1,094	13.8	9.8	2.2
19	山梨県	90,964	125	1,182	13.0	9.5	1.5
29	奈良県	150,711	180	1,883	12.5	10.5	1.2
11	埼玉県	860,471	898	9,396	10.9	10.5	1.9
22	静岡県	421,004	448	4,440	10.5	9.9	2.1
9	栃木県	221,132	280	2,210	10.0	7.9	1.6
10	群馬県	218,768	288	2,013	9.2	7.0	1.5
37	香川県	113,362	160	1,036	9.1	6.5	6.3
43	熊本県	225,999	285	2,015	8.9	7.1	5.9
25	滋賀県	189,129	250	1,564	8.3	6.3	2.2
30	和歌山県	102,435	146	828	8.1	5.7	3.4
32	島根県	79,455	101	630	7.9	6.2	5.6
16	富山県	112,723	158	885	7.9	5.6	1.3
38	愛媛県	150,847	198	1,153	7.6	5.8	2.0
42	長崎県	159,842	222	1,207	7.6	5.4	10.1
47	沖縄県	243,793	251	1,831	7.5	7.3	1.9
44	大分県	133,010	179	992	7.5	5.5	2.1
2	青森県	124,861	150	914	7.3	6.1	2.4
31	鳥取県	66,730	127	484	7.3	3.8	1.4
4	宮城県	259,576	311	1,780	6.9	5.7	1.8
33	岡山県	229,686	341	1,562	6.8	4.6	2.3
17	石川県	133,110	196	896	6.7	4.6	3.1
41	佐賀県	106,500	124	695	6.5	5.6	2.4
7	福島県	200,741	217	1,237	6.2	5.7	3.7
35	山口県	149,146	189	898	6.0	4.7	1.7
13	東京都	1,561,365	2,729	9,384	6.0	3.4	5.6
21	岐阜県	234,545	273	1,378	5.9	5.0	1.4
12	千葉県	727,580	750	4,208	5.8	5.6	2.0
28	兵庫県	657,754	896	3,656	5.6	4.1	2.6
27	大阪府	1,022,116	1,385	5,645	5.5	4.1	1.2
24	三重県	208,109	240	1,126	5.4	4.7	1.9
34	広島県	342,633	390	1,814	5.3	4.7	8.7
45	宮崎県	137,804	144	700	5.1	4.9	2.5
6	山形県	113,680	147	550	4.8	3.7	1.8
20	長野県	236,948	313	1,103	4.7	3.5	1.9
26	京都府	286,617	488	1,265	4.4	2.6	2.3
3	岩手県	125,829	142	551	4.4	3.9	5.5
46	鹿児島県	207,041	226	900	4.3	4.0	4.8
39	高知県	73,018	106	303	4.1	2.9	2.9
15	新潟県	236,744	286	818	3.5	2.9	2.6
5	秋田県	87,103	129	292	3.4	2.3	4.8
14	神奈川県	1,069,505	1,236	3,578	3.3	2.9	2.3
23	愛知県	960,799	1,005	3,046	3.2	3.0	3.9
1	北海道	532,860	672	1,438	2.7	2.1	5.0
18	福井県	92,477	123	224	2.4	1.8	1.4
全国		14,065,782	17,962	90,799	6.5	5.1	
福井県を除く		13,973,305	17,839	90,574	6.5	5.1	

※ 年少人口千人対相談件数/月は(地元データがない福井県を除いて)全相談件数/全年少人口 6.5、都道府県平均 7.1、中央値 5.4、最大値 18.3、最小値 2.7 であった。

図 7-2 都道府県別、都道府県別、年少人口千人対相談件数(件/月)、小児科医師・小児外科医師 1 人対相談件数(件/月)(降順)



※ 年少人口千人対相談件数/月は(地元データがない福井県を除いて)全相談件数/全年少人口 6.5、都道府県平均 7.1、中央値 5.4、最大値 18.3、最小値 2.7 であった。

表 7. 年少人口(15 歳未満)千人対相談件数(件/月)の令和元年～5 年度の経年変化

都道府県 番号	都道府県名	年少人口千人当たりの相談件数(件/月)				
		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	北海道	2.4	0.7	2.4	2.6	2.7
2	青森県	5.2	3.9	4.6	5.9	7.3
3	岩手県	－	1.6	－	2.7	4.4
4	宮城県	1.9	1.1	1.6	2.3	6.9
5	秋田県	－	1.2	0.6	3.0	3.4
6	山形県	3.1	1.7	1.8	3.0	4.8
7	福島県	4.0	2.5	3.5	5.2	6.2
8	茨城県	11.5	7.2	9.7	16.1	18.3
9	栃木県	－	－	－	5.7	10.0
10	群馬県	9.3	5.2	6.2	7.7	9.2
11	埼玉県	12.2	7.4	8.2	10.9	10.9
12	千葉県	4.8	3.0	3.8	5.3	5.8
13	東京都	8.0	5.2	6.0	8.3	6.0
14	神奈川県	1.0	0.6	1.3	3.4	3.3
15	新潟県	3.4	2.1	2.3	2.7	3.5
16	富山県	8.0	3.7	4.6	6.1	7.9
17	石川県	6.5	3.7	4.7	5.3	6.7
18	福井県*	2.0	1.2	1.3	2.0	2.4
19	山梨県	－	6.5	7.4	－	13.0
20	長野県	3.2	1.7	3.2	3.7	4.7
21	岐阜県	5.4	2.9	3.0	3.8	5.9
22	静岡県	7.3	4.8	5.2	7.9	10.5
23	愛知県	2.9	2.2	2.1	3.5	3.2
24	三重県	4.5	2.4	2.8	3.6	5.4
25	滋賀県	8.5	4.8	5.4	6.5	8.3
26	京都府	5.5	3.5	3.6	4.4	4.4
27	大阪府	4.8	3.3	4.4	5.5	5.5
28	兵庫県	5.6	3.8	4.5	4.8	5.6
29	奈良県	13.1	7.5	9.1	9.4	12.5
30	和歌山県	6.1	4.0	4.2	6.4	8.1
31	鳥取県	8.5	5.3	4.1	4.5	7.3
32	島根県	6.8	4.8	5.4	5.8	7.9
33	岡山県	6.0	3.2	3.3	4.2	6.8
34	広島県	5.8	3.8	4.3	5.2	5.3
35	山口県	5.2	3.6	4.0	4.8	6.0
36	徳島県	10.5	6.6	6.6	9.0	13.8
37	香川県	9.4	5.3	5.7	7.7	9.1
38	愛媛県	7.2	3.9	3.8	4.9	7.6
39	高知県	－	2.4	3.2	4.2	4.1
41	佐賀県	5.3	1.3	1.3	6.0	6.5
42	長崎県	6.5	4.3	3.9	5.9	7.6
43	熊本県	－	－	－	7.7	8.9
44	大分県	－	9.2	9.8	6.4	7.5
45	宮崎県	4.6	4.1	3.9	3.8	5.1
46	鹿児島県	4.3	1.4	1.6	3.9	4.3
47	沖縄県	3.4	2.8	2.9	6.7	7.5
	全体*	6.6	4.0	4.6	5.9	6.5

※ 新型コロナウイルスパンデミックにより令和 2～3 年度に減少したが、令和 5 年度はパンデミック以前の令和元年レベルに戻っている。

表 8. 年少人口対相談件数の都道府県内小児医療圏間較差の都道府県比較

都道府 県番号	都道府県名	年少人口千人当たりの相談件数(件/月)			
		都道府県全体	小児医療圏別最大	小児医療圏別最小	小児医療圏間較差
1	北海道	2.7	3.0	0.6	5.0
2	青森県	7.3	10.9	4.6	2.4
3	岩手県	4.4	6.1	1.1	5.5
4	宮城県	6.9	7.6	4.2	1.8
5	秋田県	3.4	4.3	0.9	4.8
6	山形県	4.8	6.0	3.3	1.8
7	福島県	6.2	8.2	2.2	3.7
8	茨城県	18.3	21.6	11.2	1.9
9	栃木県	10.0	10.9	6.9	1.6
10	群馬県	9.2	10.7	7.3	1.5
11	埼玉県	10.9	11.2	5.8	1.9
12	千葉県	5.8	7.4	3.7	2.0
13	東京都	6.0	6.2	1.1	5.6
14	神奈川県	3.3	4.8	2.1	2.3
15	新潟県	3.5	3.9	1.5	2.6
16	富山県	7.9	8.4	6.3	1.3
17	石川県	6.7	7.2	2.3	3.1
18	福井県	2.4	2.6	1.8	1.4
19	山梨県	13.0	13.1	10.5	1.2
20	長野県	4.7	5.3	2.8	1.9
21	岐阜県	5.9	6.2	4.4	1.4
22	静岡県	10.5	13.8	6.5	2.1
23	愛知県	3.2	4.3	1.1	3.9
24	三重県	5.4	5.9	3.1	1.9
25	滋賀県	8.3	9.2	4.2	2.2
26	京都府	4.4	4.9	2.1	2.3
27	大阪府	5.5	6.0	5.0	1.2
28	兵庫県	5.6	8.2	3.1	2.6
29	奈良県	12.5	13.3	11.2	1.2
30	和歌山県	8.1	9.1	2.7	3.4
31	鳥取県	7.3	7.8	5.4	1.4
32	島根県	7.9	10.0	1.8	5.6
33	岡山県	6.8	8.3	3.6	2.3
34	広島県	5.3	5.7	1.8	3.2
35	山口県	6.0	6.9	4.1	1.7
36	徳島県	13.8	15.0	6.9	2.2
37	香川県	9.1	11.4	1.8	6.3
38	愛媛県	7.6	9.0	4.4	2.0
39	高知県	4.1	4.7	1.6	2.9
41	佐賀県	6.5	4.7	2.0	2.4
42	長崎県	7.6	10.1	1.0	10.1
43	熊本県	8.9	10.6	1.8	5.9
44	大分県	7.5	9.3	4.4	2.1
45	宮崎県	5.1	6.5	2.6	2.5
46	鹿児島県	4.3	5.3	1.1	4.8
47	沖縄県	7.5	8.2	4.4	1.9

※ 年少人口千人対相談件数/月の都道府県内小児医療圏間較差は、平均 2.9、中央値 2.3、最大値 10.1、最小値 1.2 で、5.0

以上は北海道、岩手県、東京都、島根県、香川県、長崎県、熊本県、7 都県であった。

IV-3. 相談件数の時間変動（1 時間ごとの相談件数）

1 時間ごとの相談件数を 24 時間の線グラフにすることで、相談件数の時間変動曲線を描くことが出来る(p28、Ⅲ-3 曜日別 1 時間ごとの相談件数)。前年度報告書で、平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群に分けて 1 日当たり相談件数の時間変動曲線を作成して、全体および都道府県ごとの検討を行い、#8000 相談件数は時間変動が大きいこと、一定のパターンを示すこと、時間変動曲線から回線の飽和(話し中)を推定できることが明らかになった。

《平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群の対象年少人口対相談件数の時間変動》

1 時間ごとの相談件数の推移、すなわち相談件数の時間変動を、平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日の 3 群に分けて(表 9-1)、さらに 1 日当たりにした(表 9-2、図 8-1)。都道府県により #8000 実施時間帯が異なるので、標準化するために 3 群別の 1 時間ごとの対象年少人口を算出して、対象年少人口対相談件数の時間変動を求めた(表 9-3、図 8-2)。その結果、以下の特徴を認めた。準夜帯のピークは平日と土曜日・日祝日で異なり、平日は 19～20 時にピークがあり、土曜日・日祝日はピークが 18～21 時と幅広くなる。21 時～6 時は 3 群(平日、土曜日、日祝日)とも同様のパターンで、21 時から深夜帯に向けて急速に減少して、深夜帯は準夜帯ピーク時の 1/3～1/7 に減り、4～6 時が最低である。6 時以降は再上昇し始めて、平日と土曜日の日勤帯午前中は 8～10 時にピーク時の 1/3(0～1 時と同等)になる。日祝日は日勤帯の前の 7～8 時から上昇し始め、9～10 時にピーク時の 7 割まで上昇する。

表 9-3 を用いて、曜日を平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日の 3 群、時間帯を準夜帯(17～24 時)、深夜帯(0～8 時)、日勤帯(8～17 時)3 群、計 9 群に分けて、1 日当たりの曜日別、時間帯別、対象年少人口対相談件数を比較した(表 9-4)。この分析により、土曜日、日祝日の準夜帯は平日準夜帯よりも少し多くなること、日祝日日勤帯の総和は、準夜帯の総和と同程度で、大きなニーズがあることがわかる。

《各都道府県の相談件数時間変動曲線》

図 8-3-1～46 で、各都道府県の相談件数時間変動曲線を示した。都道府県別では時間帯で対象年少人口が変わることがないので、対象年少人口対の処理は行っていない。標準化した図 8-2 と他県と比較しながら、それぞれの都道府県が現状を認識して、より良い #8000 実施体制を構築されることを望む。各都道府県の時間変動曲線を読む時の注目点は、準夜帯早期にピークがあること、深夜帯にニーズが下がること、日祝日日勤帯のニーズは比較的多いこと、準夜帯早期のピークが平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群で等しい場合は回線数の飽和による話中が疑われることである。

《相談件数の時間変動曲線からみた、#8000 のニーズ》

相談件数の時間変動を標準化して分析して、かつ、参加した 46 都道府県全ての相談件数時間変動曲線を描くことで、#8000 のニーズを捉えることが出来た。#8000 のニーズに合わせて、かつ、今後の働き方改革による小児救急医療提供体制の変化を考慮して、#8000 実施体制の検討

が必要である。日祝日日勤帯のニーズは高く、土曜日日勤帯午後と日祝日日勤帯の#8000 実施が望ましいと考える。また、土曜日、日祝日の準夜帯は平日準夜帯に比べてピークが早く長いこと、日祝日の早朝のニーズは平日や土曜日より高いという特徴があることから、土曜日、日祝日の準夜帯の開始時間を早めたり、回線数を調整することが望ましいと考える。

ただし、やみくもに#8000 サービスだけを充実させるのではなく、家庭看護力醸成⁹⁾、小児救急医療情報ツールの活用も必要である。小児救急医療情報ツールは、こどもの救急(ONLINE-QQ)、こども救急ガイドブック、#8000、救急医療情報システムの4つを指し、日本小児科医会の小児救急医療情報ツール¹⁰⁾に説明と各都道府県のリンク先を掲載している。

表 9-1. 相談件数の時間変動 [平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群の 1 時間ごとの相談件数] 【全国】

時間帯	平日(除祝日)	土曜日(除祝日)	日祝日	計	割合
0～1 時	7,617	1,532	2,553	11,702	4.3%
1～2 時	6,286	1,269	2,075	9,630	3.5%
2～3 時	5,136	1,065	1,754	7,955	2.9%
3～4 時	3,952	859	1,443	6,254	2.3%
4～5 時	3,171	736	1,206	5,113	1.9%
5～6 時	2,946	662	1,297	4,905	1.8%
6～7 時	4,185	830	2,055	7,070	2.6%
7～8 時	5,810	1,147	2,856	9,813	3.6%
8～9 時	1,282	484	2,214	3,980	1.5%
9～10 時	1,011	528	2,975	4,514	1.7%
10～11 時	784	439	2,676	3,899	1.4%
11～12 時	787	412	2,240	3,439	1.3%
12～13 時	881	523	2,105	3,509	1.3%
13～14 時	1,033	864	2,223	4,120	1.5%
14～15 時	1,024	858	2,647	4,529	1.7%
15～16 時	1,146	1,182	2,724	5,052	1.9%
16～17 時	1,381	1,231	2,948	5,560	2.0%
17～18 時	2,485	1,648	3,510	7,643	2.8%
18～19 時	11,670	3,182	4,865	19,717	7.2%
19～20 時	26,982	5,443	8,264	40,689	14.9%
20～21 時	23,895	5,010	7,567	36,472	13.4%
21～22 時	19,038	4,037	6,254	29,329	10.8%
22～23 時	14,286	3,206	4,796	22,288	8.2%
23～24 時	9,784	2,235	3,181	15,200	5.6%
未記入	10	0	4	14	0.0%
計	156,582	39,382	76,432	272,396	100.0%
日数	61	12	18		

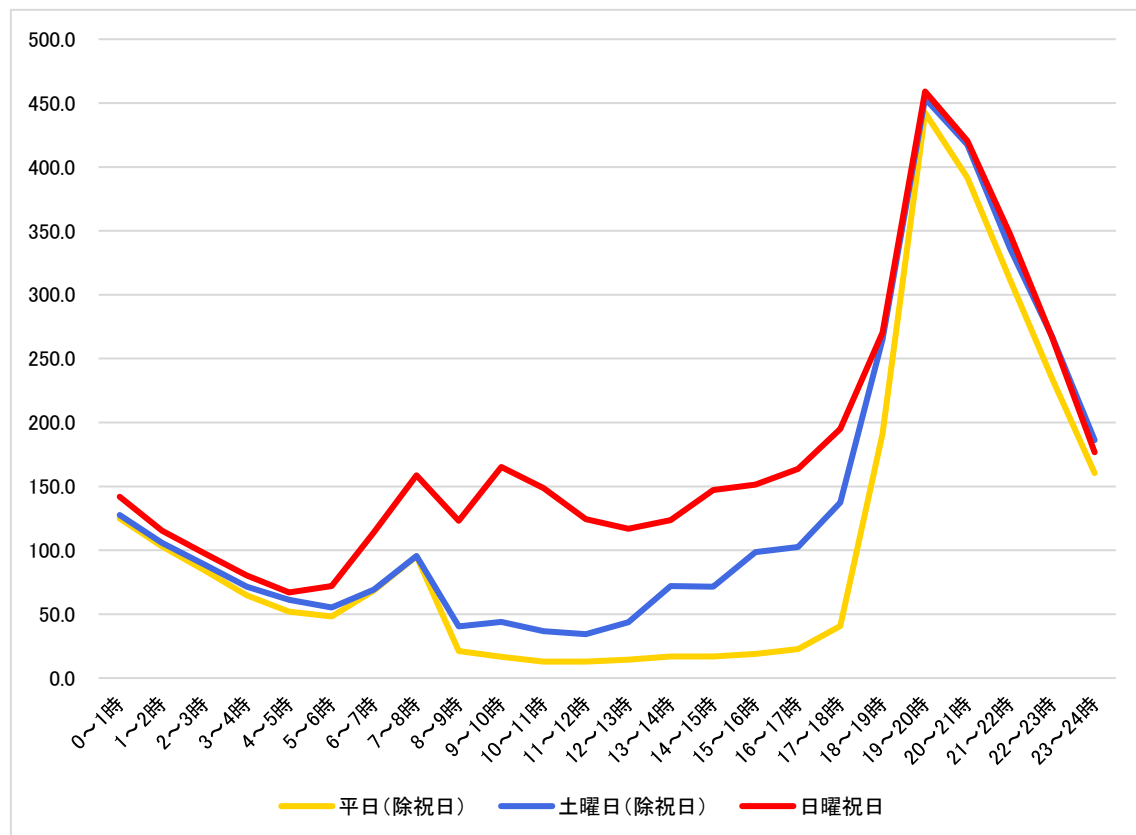
※ 月～金曜日の祝日を日祝日に算入する調整を行って、平日、土曜日、日祝日の 3 群に分けた。平日 61 日、土曜日 12 日、日祝日 18 日になった。

表 9-2. 相談件数の時間変動 [平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群の 1 日当たり、1 時間ごとの相談件数] 【全国】

時間帯	平日(除祝日)	土曜日(除祝日)	日祝日
0～1 時	124.9	127.7	141.8
1～2 時	103.0	105.8	115.3
2～3 時	84.2	88.8	97.4
3～4 時	64.8	71.6	80.2
4～5 時	52.0	61.3	67.0
5～6 時	48.3	55.2	72.1
6～7 時	68.6	69.2	114.2
7～8 時	95.2	95.6	158.7
8～9 時	21.0	40.3	123.0
9～10 時	16.6	44.0	165.3
10～11 時	12.9	36.6	148.7
11～12 時	12.9	34.3	124.4
12～13 時	14.4	43.6	116.9
13～14 時	16.9	72.0	123.5
14～15 時	16.8	71.5	147.1
15～16 時	18.8	98.5	151.3
16～17 時	22.6	102.6	163.8
17～18 時	40.7	137.3	195.0
18～19 時	191.3	265.2	270.3
19～20 時	442.3	453.6	459.1
20～21 時	391.7	417.5	420.4
21～22 時	312.1	336.4	347.4
22～23 時	234.2	267.2	266.4
23～24 時	160.4	186.3	176.7
未記入	0.2	0.0	0.2
計	2566.9	3281.8	4246.2

※ 月～金曜日の祝日を日祝日に算入する調整を行って、平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日の 3 群に分けた。平日(除祝日)60 日、土曜日(除祝日)13 日、日祝日 18 日になった。1 日当たりの相談件数の時間変動を求めた。

図 8-1. 相談件数の時間変動 [平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群の 1 日当たり、1 時間ごとの相談件数]



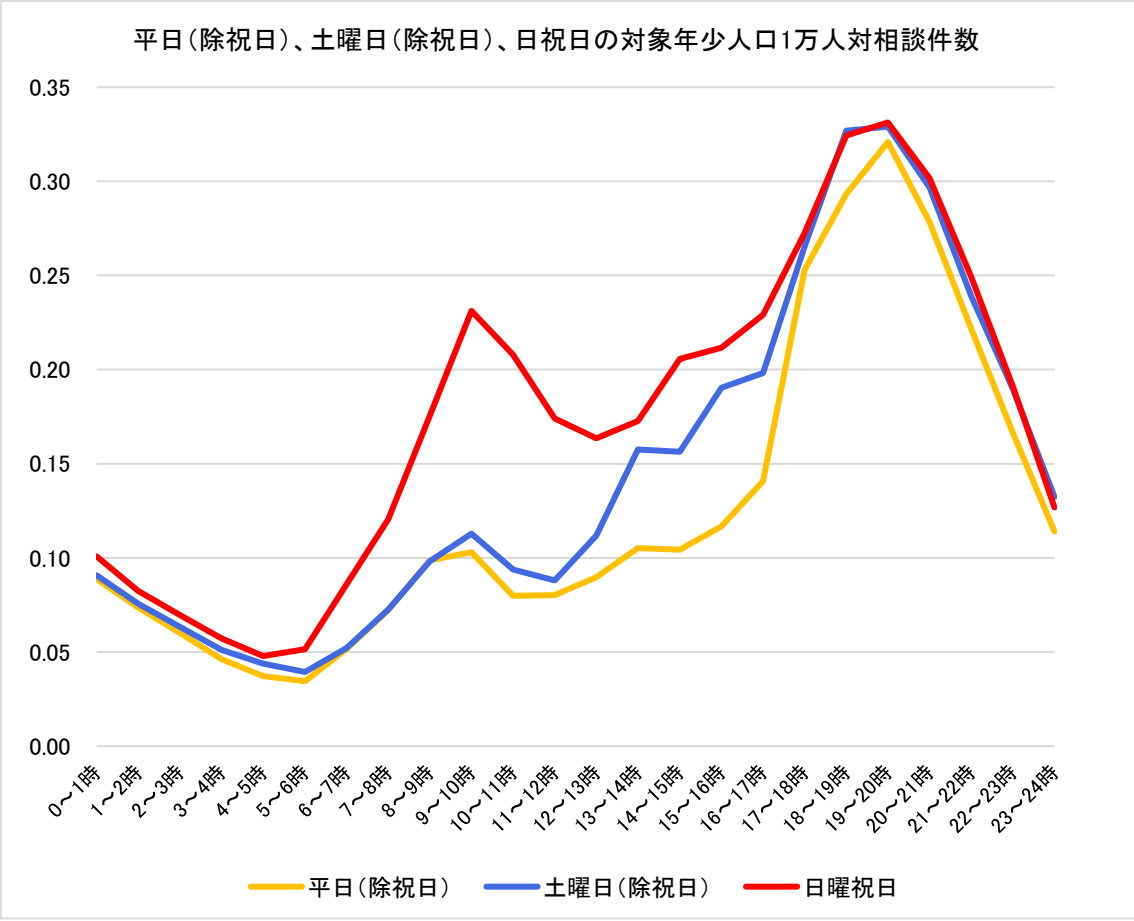
※ 月～金曜日の祝日を日祝日に算入する調整を行って、平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日の 3 群に分けた。平日(除祝日)60 日、土曜日(除祝日)13 日、日祝日 18 日になった。1 日当たりの相談件数の時間変動を求めた。

表 9-3. 相談件数の時間変動 [平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群の 1 日当たり、1 時間ごとの対象年少人口対相談件数] 【全国】

時間帯	平日(除祝日)	土曜日(除祝日)	日祝日
0～1 時	0.09	0.09	0.10
1～2 時	0.07	0.08	0.08
2～3 時	0.06	0.06	0.07
3～4 時	0.05	0.05	0.06
4～5 時	0.04	0.04	0.05
5～6 時	0.03	0.04	0.05
6～7 時	0.05	0.05	0.09
7～8 時	0.07	0.07	0.12
8～9 時	0.10	0.10	0.18
9～10 時	0.10	0.11	0.23
10～11 時	0.08	0.09	0.21
11～12 時	0.08	0.09	0.17
12～13 時	0.09	0.11	0.16
13～14 時	0.11	0.16	0.17
14～15 時	0.10	0.16	0.21
15～16 時	0.12	0.19	0.21
16～17 時	0.14	0.20	0.23
17～18 時	0.25	0.27	0.27
18～19 時	0.29	0.33	0.32
19～20 時	0.32	0.33	0.33
20～21 時	0.28	0.30	0.30
21～22 時	0.22	0.24	0.25
22～23 時	0.17	0.19	0.19
23～24 時	0.11	0.13	0.13
未記入	0.00	0.00	0.00
計	3.03	3.48	4.18

※ 対象年少人口対相談件数の時間変動を求めた。準夜帯のピークは平日と土曜日・日祝日で異なり、平日は 19～20 時にピークがあり、土曜日・日祝日はピークが 18～21 時と幅広くなる。21 時～6 時は 3 群(平日、土曜日、日祝日)とも同様のパターンで、21 時から深夜帯に向けて急速に減少して、深夜帯は準夜帯ピーク時の 1/3～1/7 に減り、4～6 時が最低である。6 時以降は再上昇し始めて、平日と土曜日の日勤帯午前中は 8～10 時にピーク時の 1/3(0～1 時と同等)になる。日祝日は日勤帯の前の 7～8 時から上昇し始め、9～10 時にピーク時の 7 割まで上昇する。

図 8-2. 平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群の 1 日当たりの時間帯別、対象年少人口対相談件数(相談件数の時間変動)



※ 対象年少人口対相談件数の時間変動を求めた。準夜帯のピークは平日と土曜日・日祝日で異なり、平日は 19~20 時にピークがあり、土曜日・日祝日はピークが 18~21 時と幅広くなる。21 時~6 時は 3 群(平日、土曜日、日祝日)とも同様のパターンで、21 時から深夜帯に向けて急速に減少して、深夜帯は準夜帯ピーク時の 1/3~1/7 に減り、4~6 時が最低である。6 時以降は再上昇し始めて、平日と土曜日の日勤帯午前中は 8~10 時にピーク時の 1/3(0~1 時と同等)になる。日祝日は日勤帯の前の 7~8 時から上昇し始め、9~10 時にピーク時の 7 割まで上昇する。

表 9-4. 曜日別、時間帯別、9 群の相談件数の比較

時間帯	平日(除祝日)	土曜日(除祝日)	日祝日
準夜帯	1.65	1.78	1.80
深夜帯	0.46	0.49	0.62
日勤帯	0.92	1.21	1.77

※. 表 9-3 を用いて、曜日を平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日の 3 群、時間帯を準夜帯(17~24 時)、深夜帯(0~8 時)、日勤帯(8~17 時)3 群に分けて、計 9 群の 1 日当たりの曜日別、時間帯別、対象年少人口対相談件数を比較した。

表 12 で得られた 1 日当たりの時間帯別、対象年少人口対相談件数を、準夜帯(17~24 時)、深夜帯(0~8 時)、日勤帯(8~17 時)3 群それぞれの総和で示す。

図 8-3-1. 相談件数の時間変動【北海道】

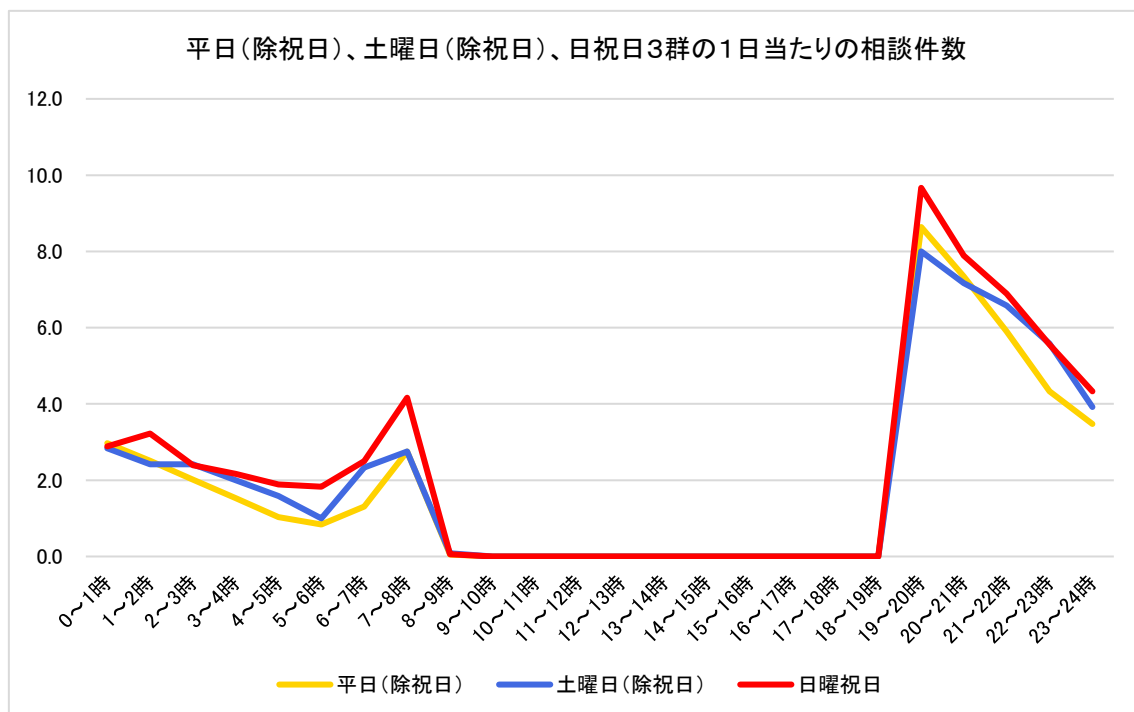


図 8-3-2. 相談件数の時間変動【青森県】

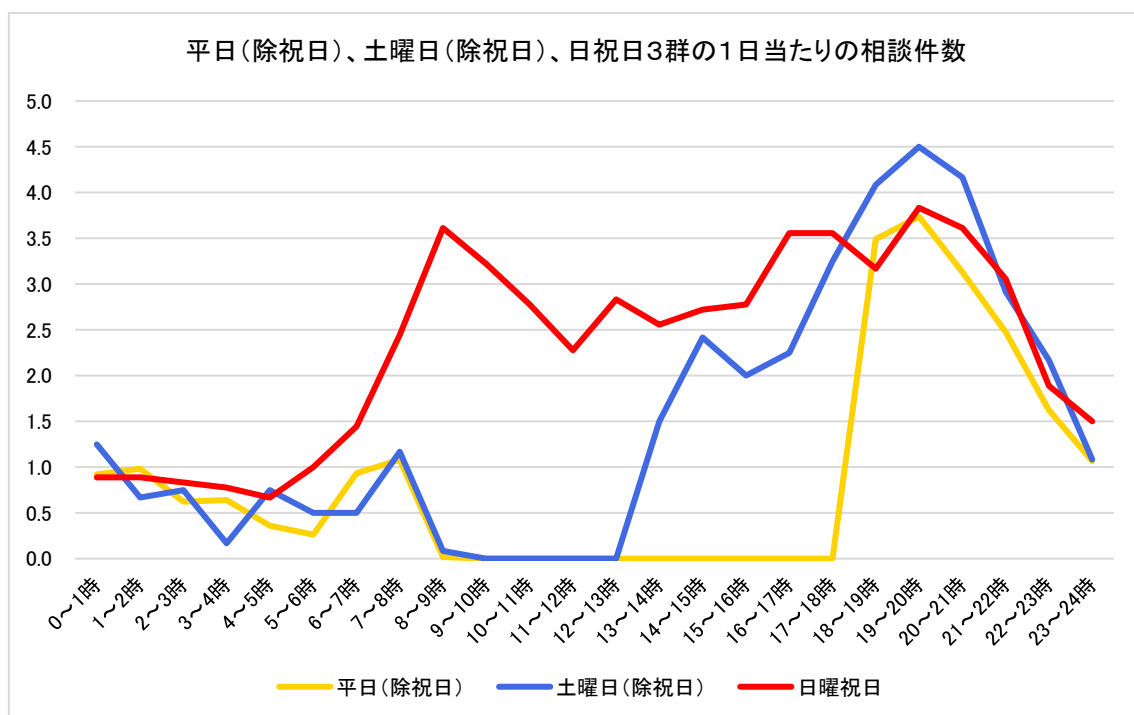


図 8-3-3. 相談件数の時間変動【岩手県】

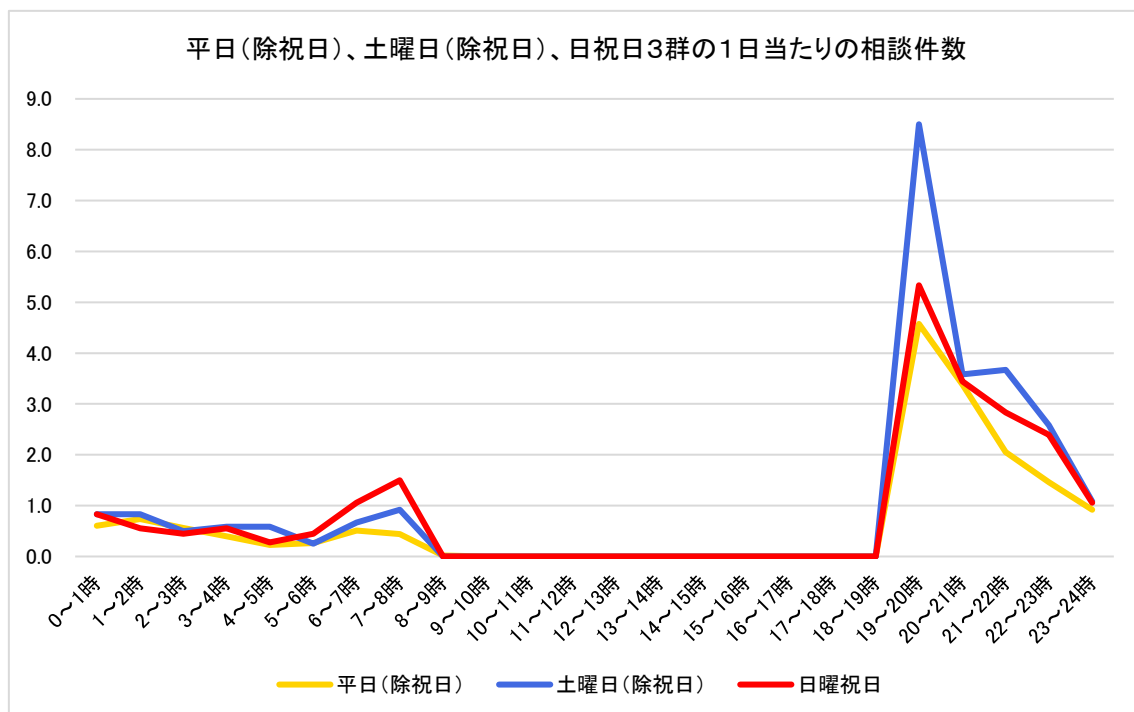


図 8-3-4. 相談件数の時間変動【宮城県】

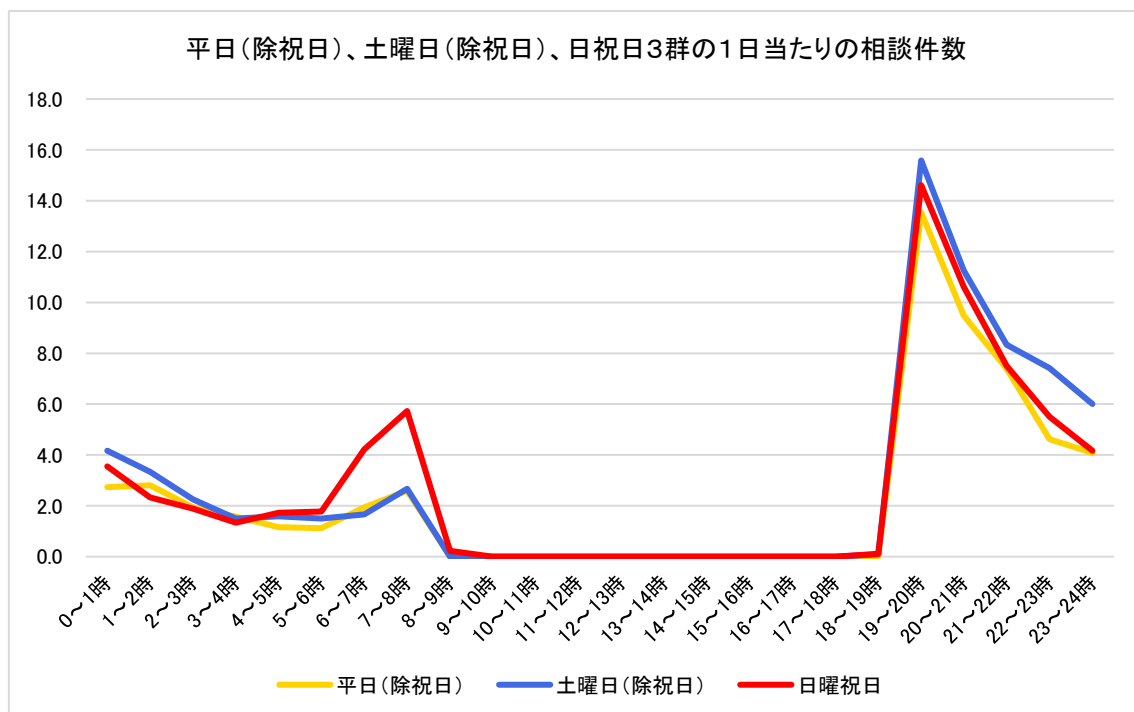


図 8-3-5. 相談件数の時間変動【秋田県】

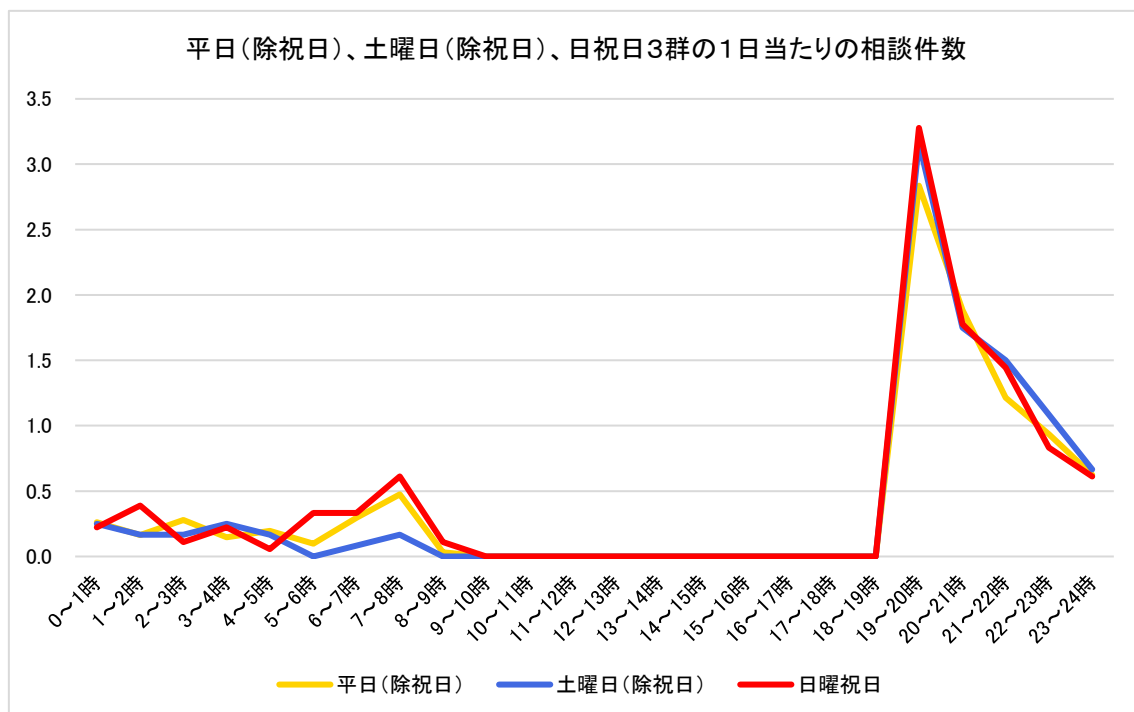


図 8-3-6. 相談件数の時間変動【山形県】

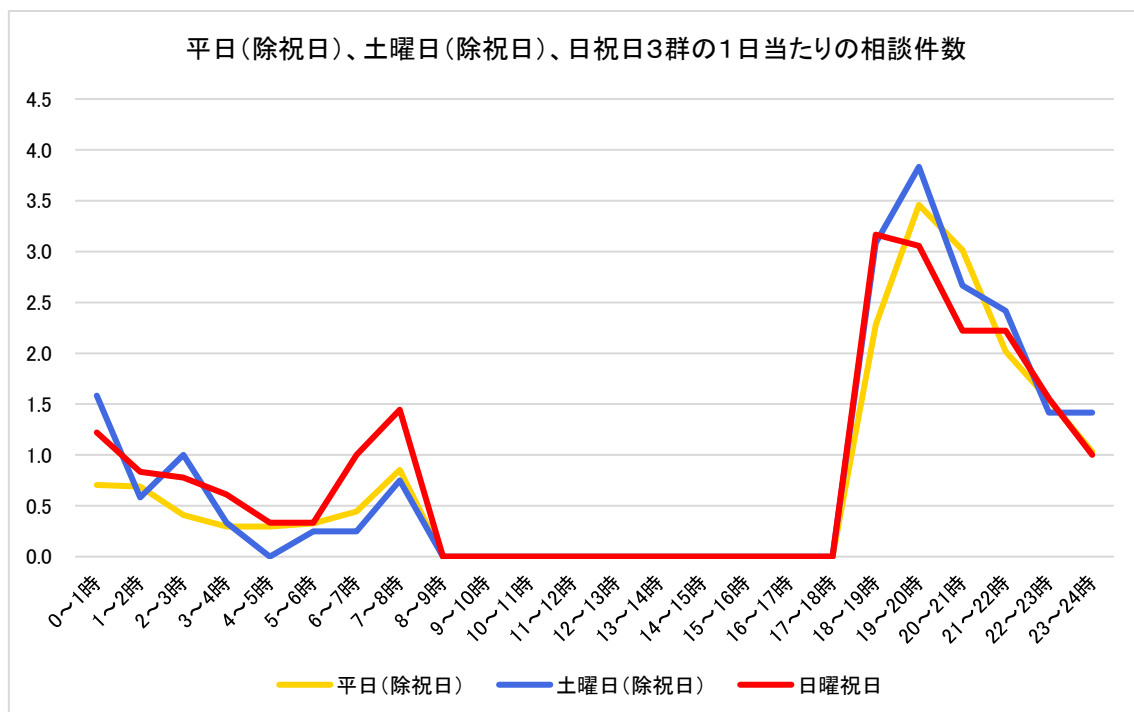


図 8-3-7. 相談件数の時間変動【福島県】

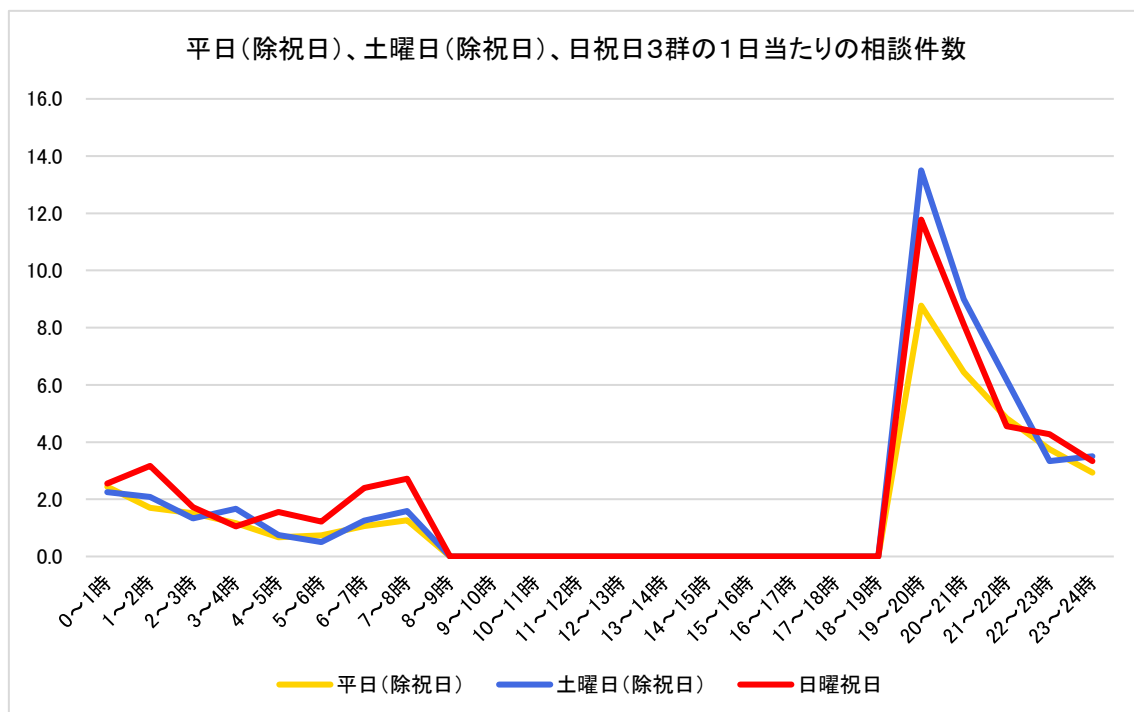


図 8-3-8. 相談件数の時間変動【茨城県】

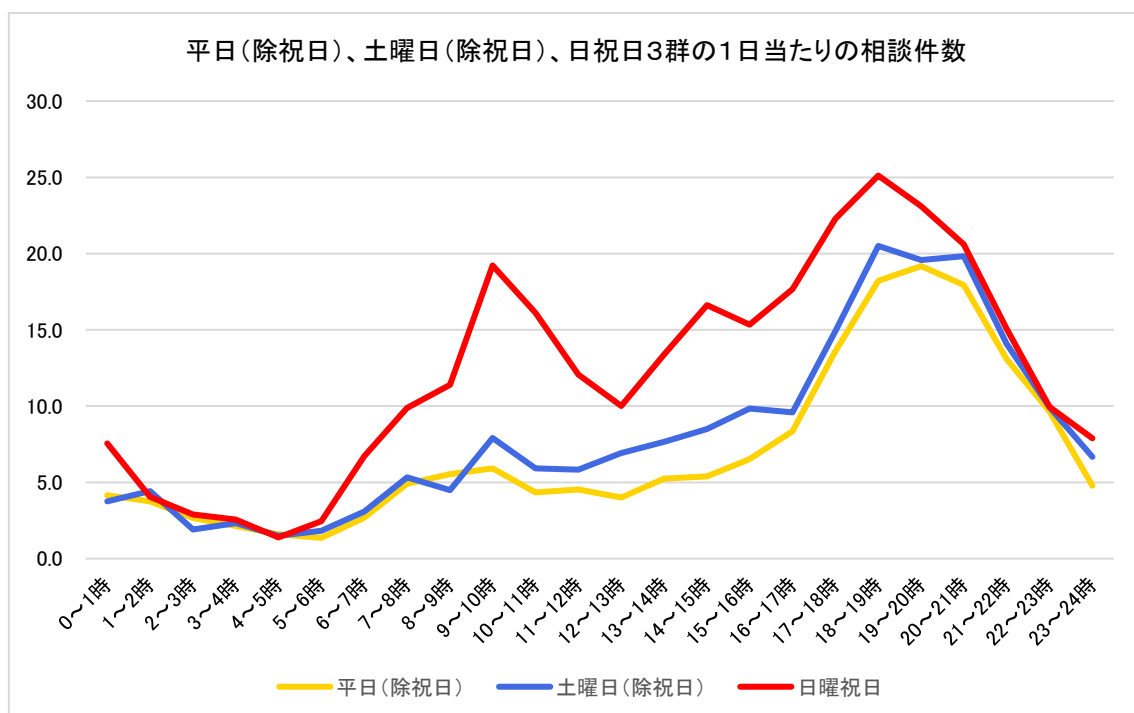


図 8-3-9. 相談件数の時間変動【栃木県】

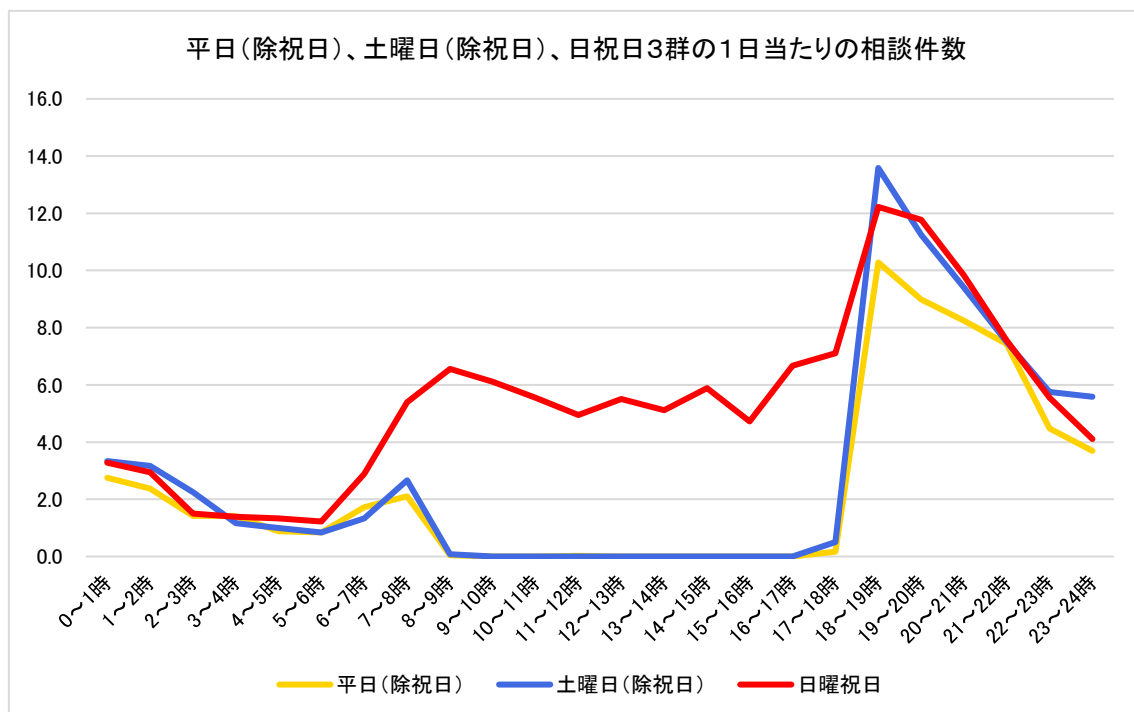


図 8-3-10. 相談件数の時間変動【群馬県】

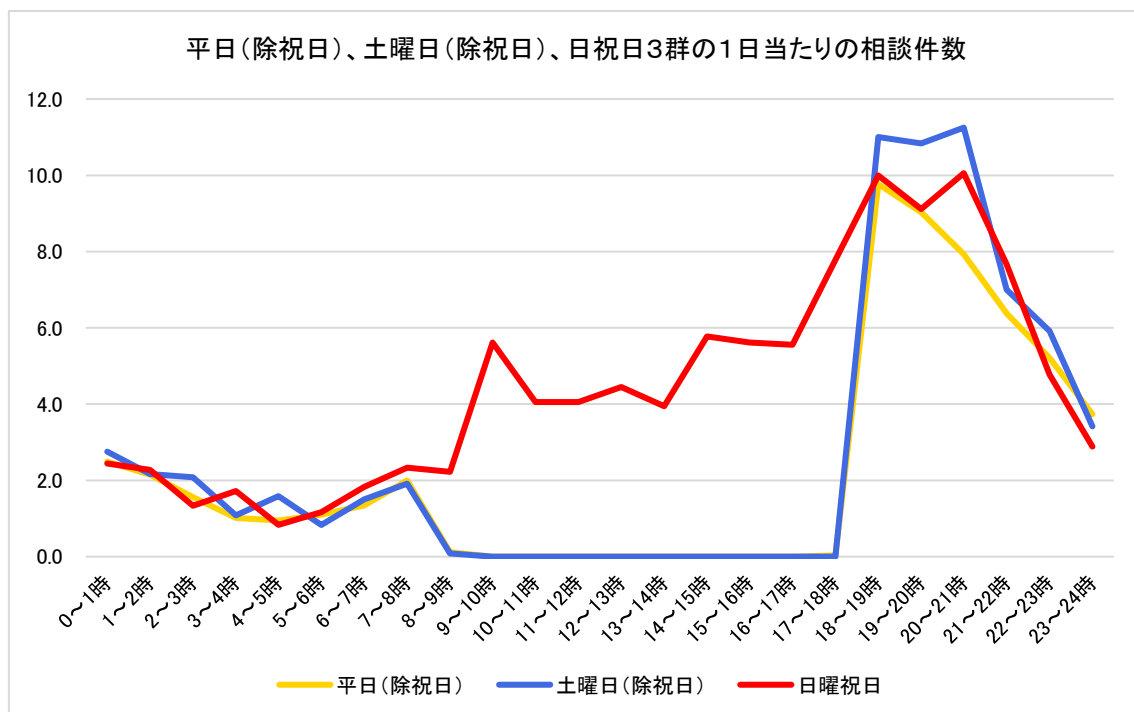


図 8-3-11. 相談件数の時間変動【埼玉県】

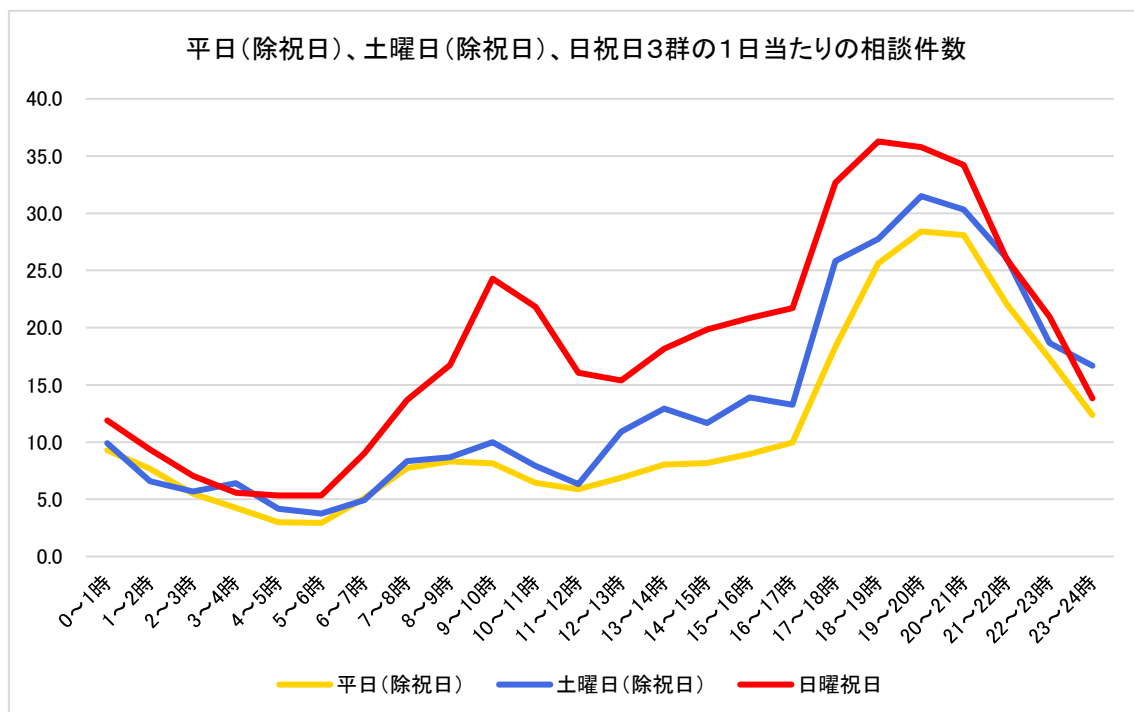


図 8-3-12. 相談件数の時間変動【千葉県】

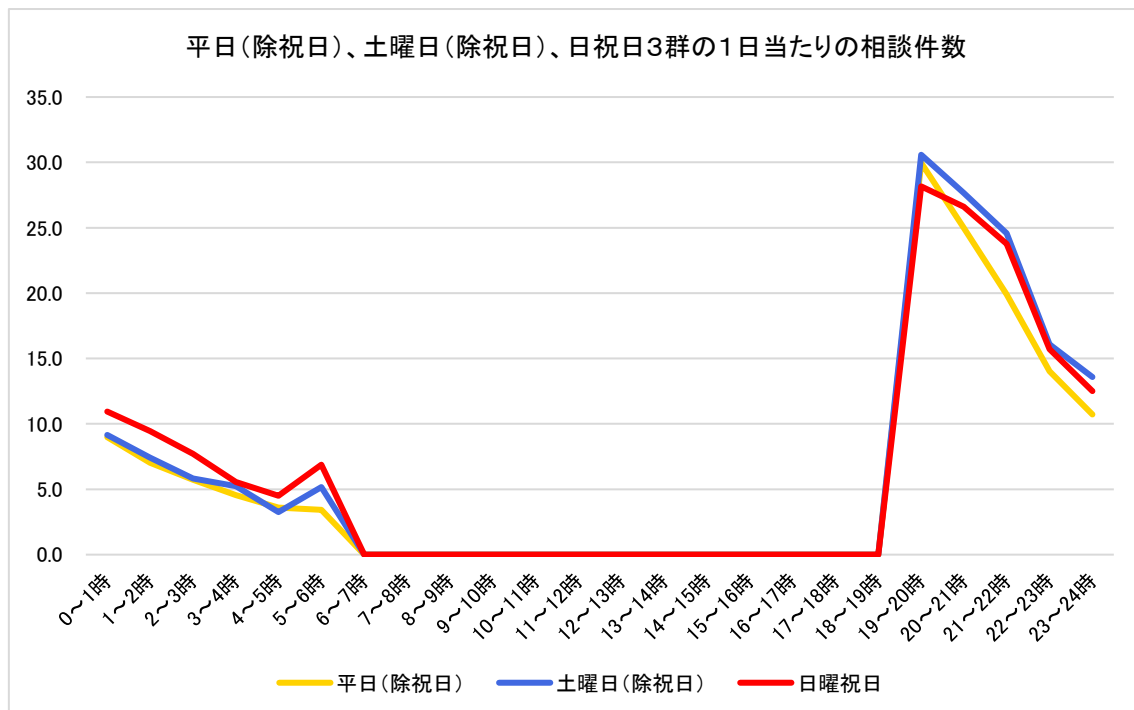


図 8-3-13. 相談件数の時間変動【東京都】

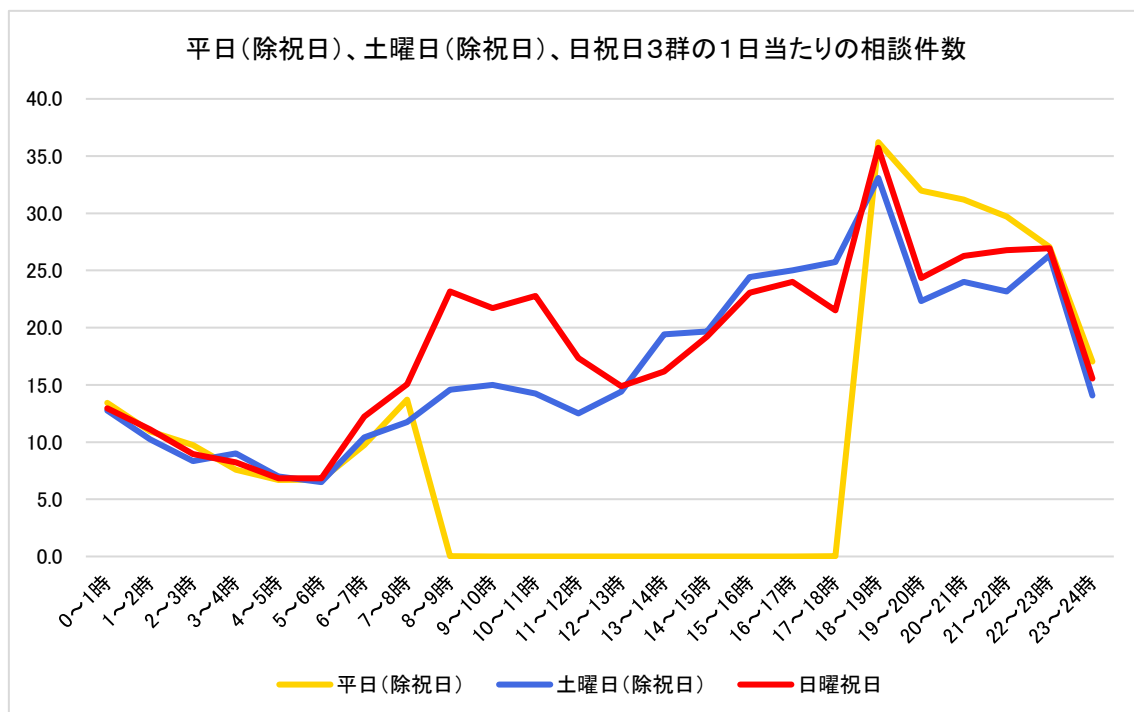


図 8-3-14. 相談件数の時間変動【神奈川県】

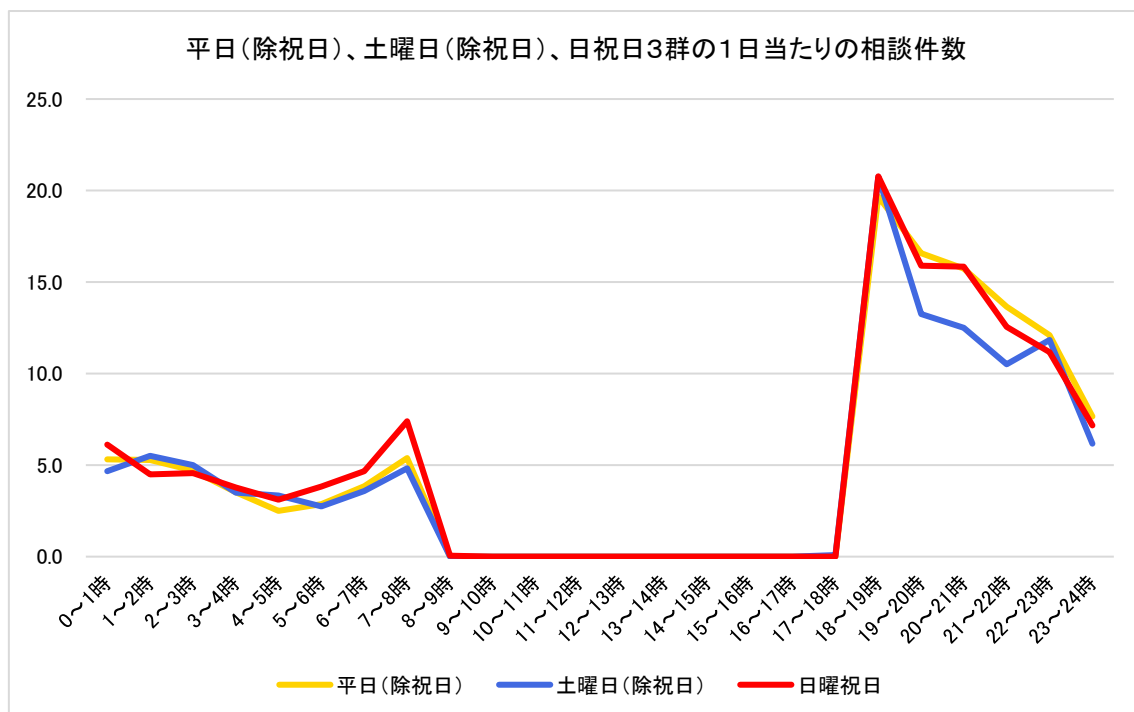


図 8-3-15. 相談件数の時間変動【新潟県】

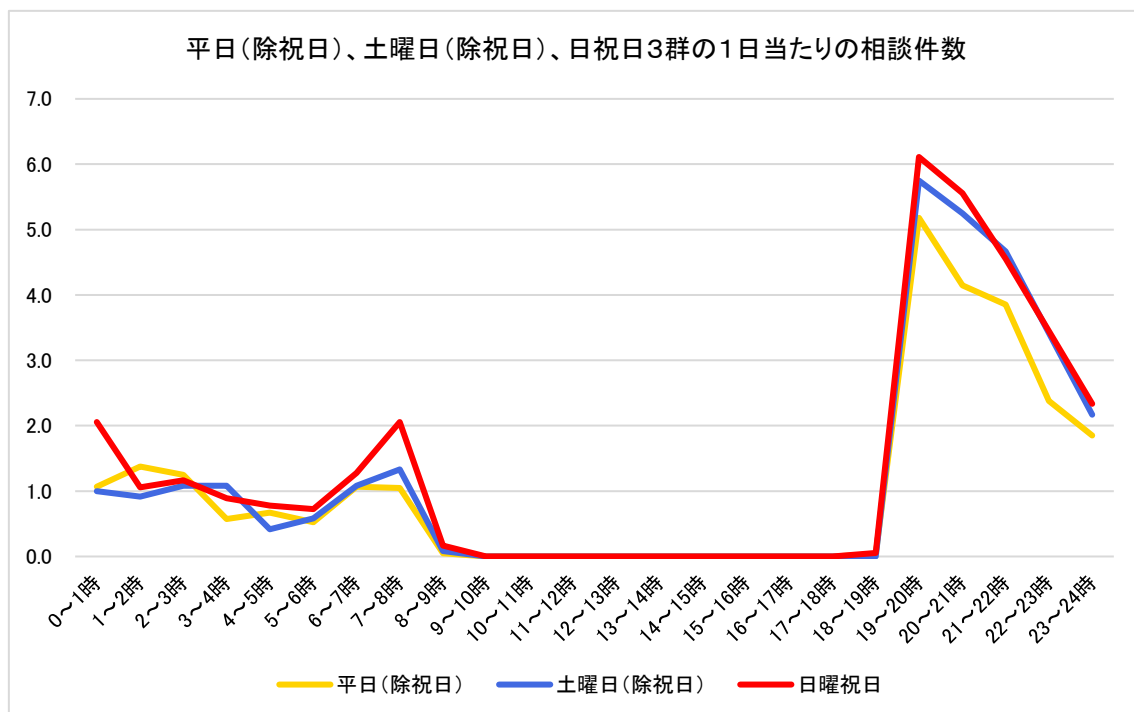


図 8-3-16. 相談件数の時間変動【富山県】

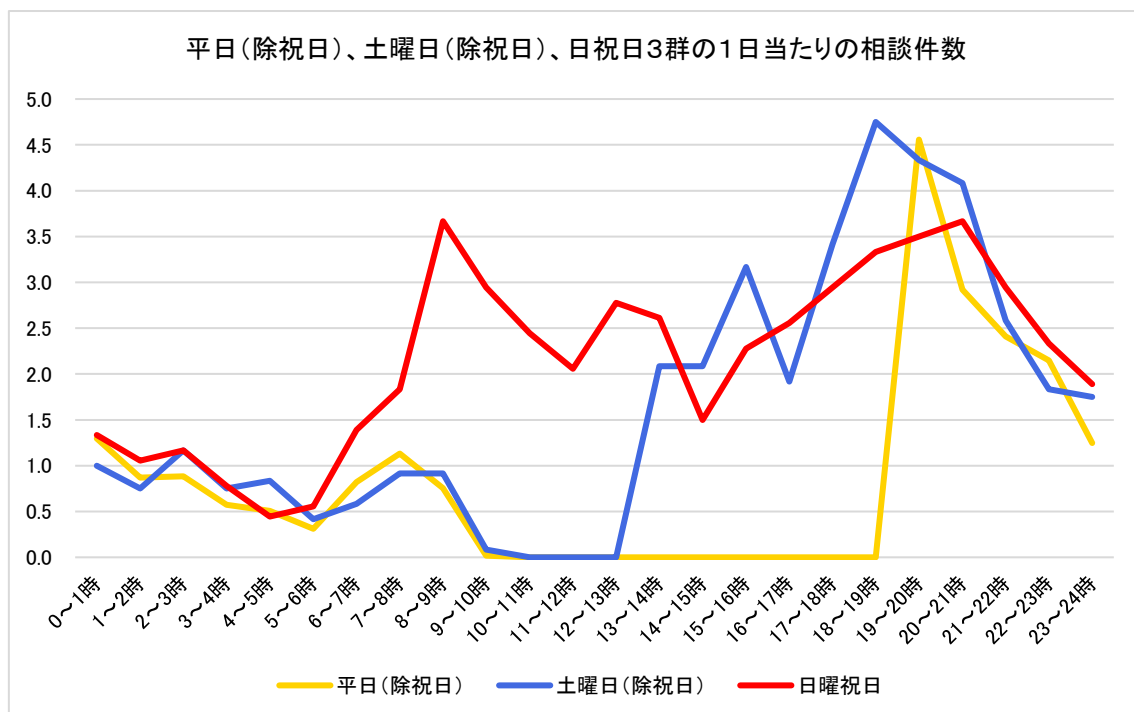


図 8-3-17. 相談件数の時間変動【石川県】

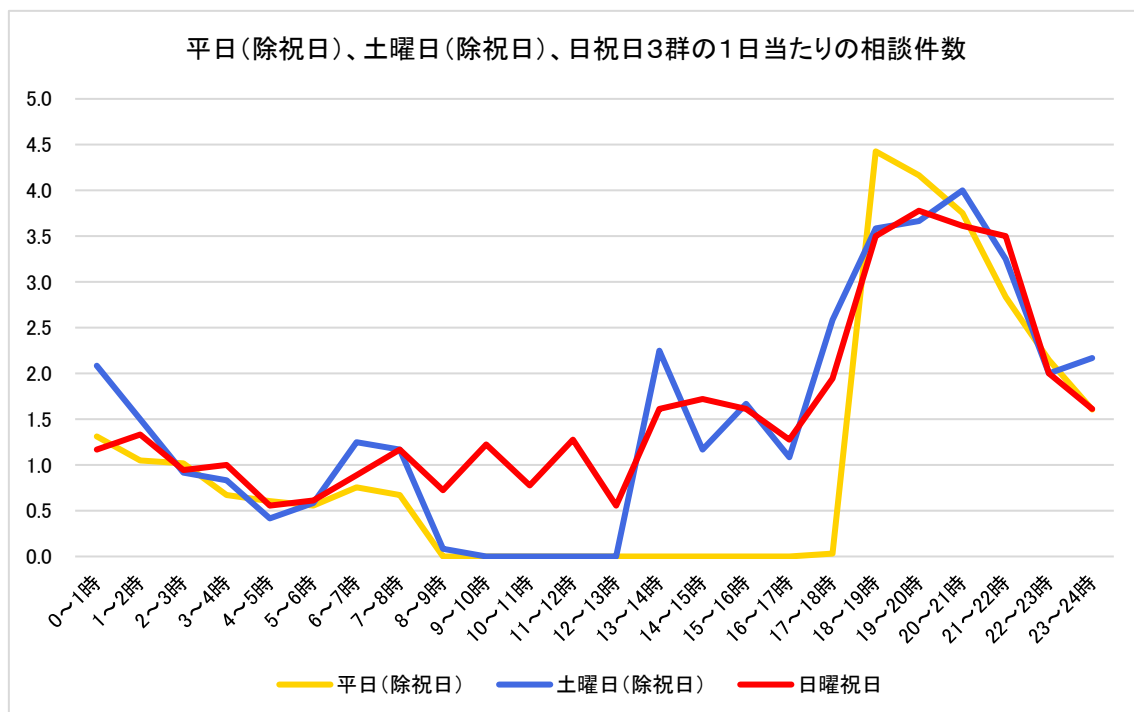
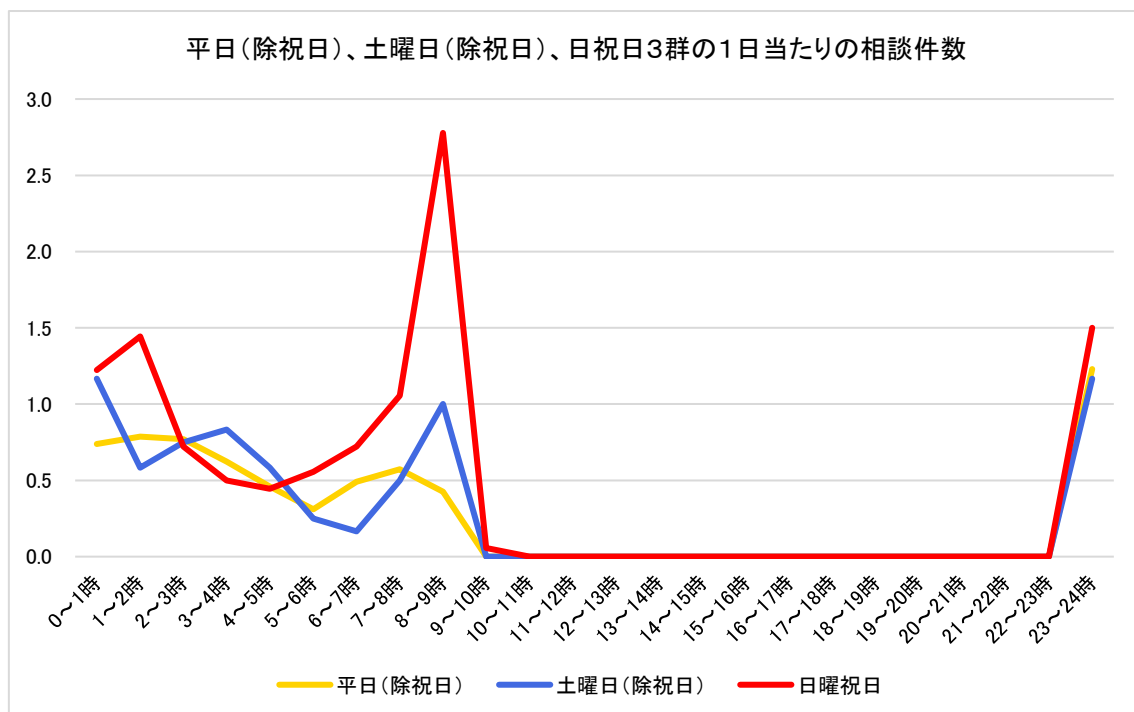


図 8-3-18. 相談件数の時間変動【福井県】（地元データなしのため準夜帯 23 時までのデータなし）



※ 福井県は地元データが得られていない。

図 8-3-19. 相談件数の時間変動【山梨県】

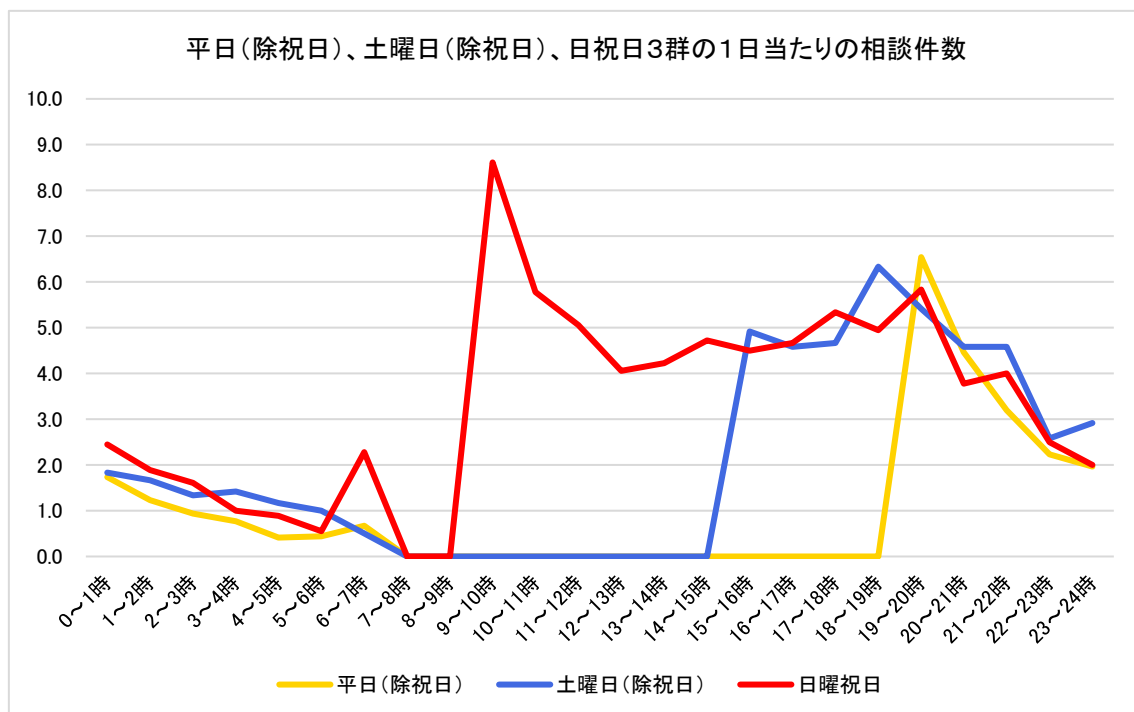


図 8-3-20. 相談件数の時間変動【長野県】

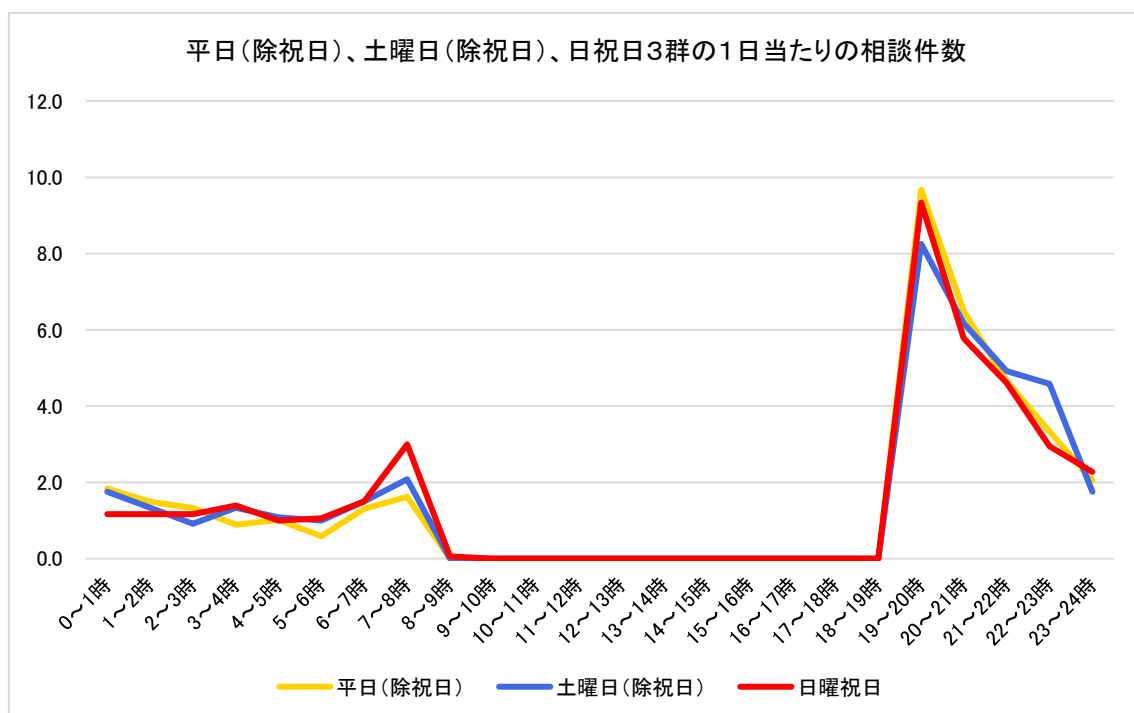


図 8-3-21. 相談件数の時間変動【岐阜県】

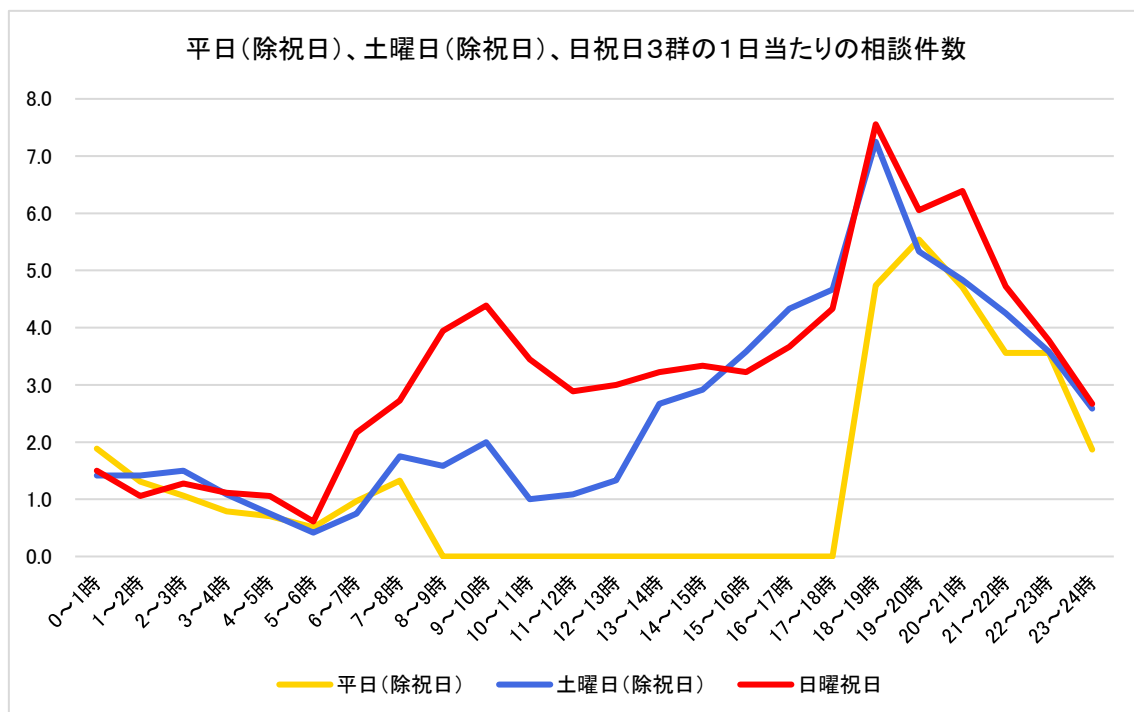


図 8-3-22. 相談件数の時間変動【静岡県】

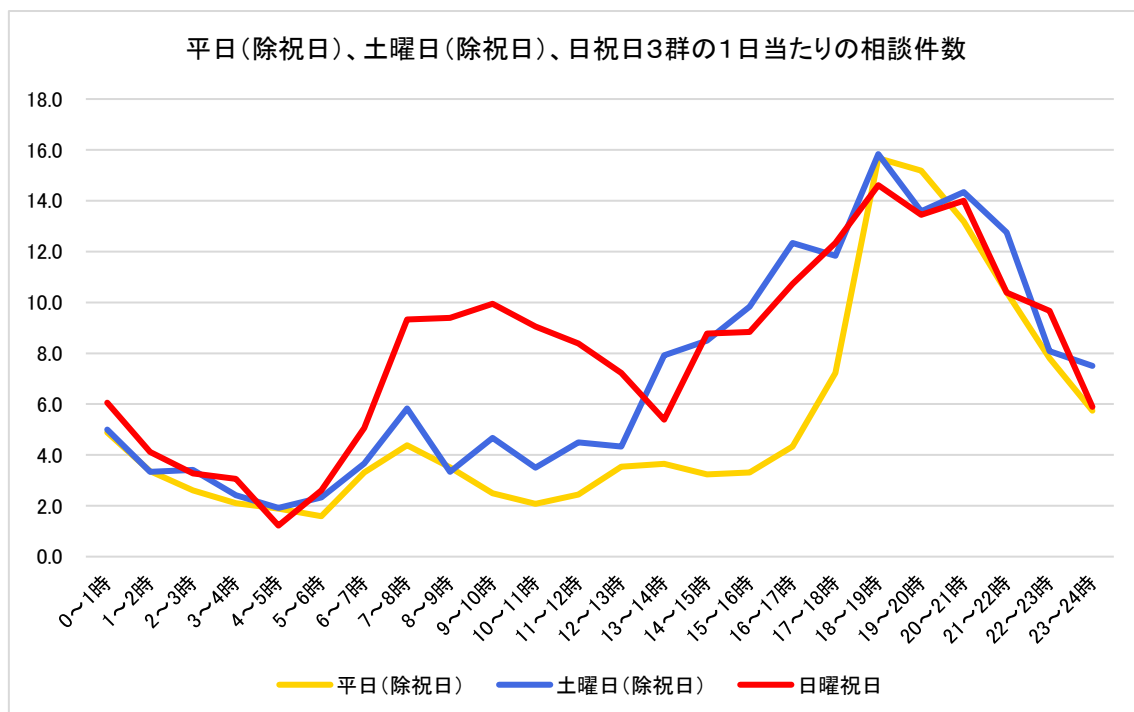


図 8-3-23. 相談件数の時間変動【愛知県】

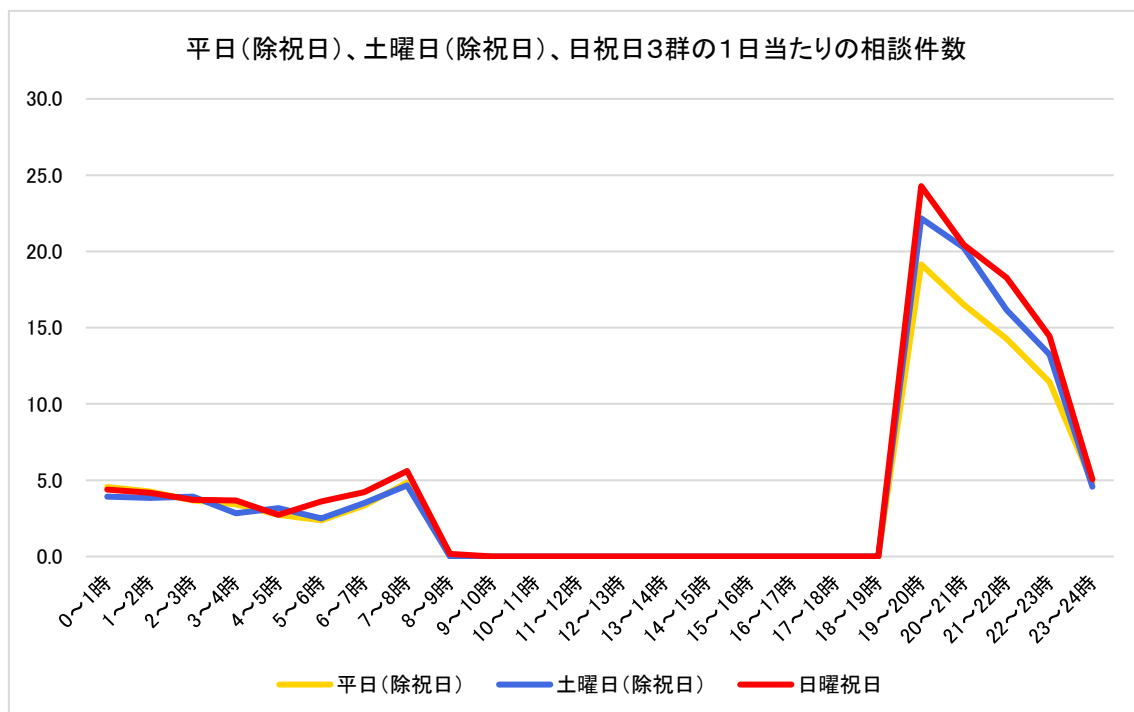


図 8-3-24. 相談件数の時間変動【三重県】

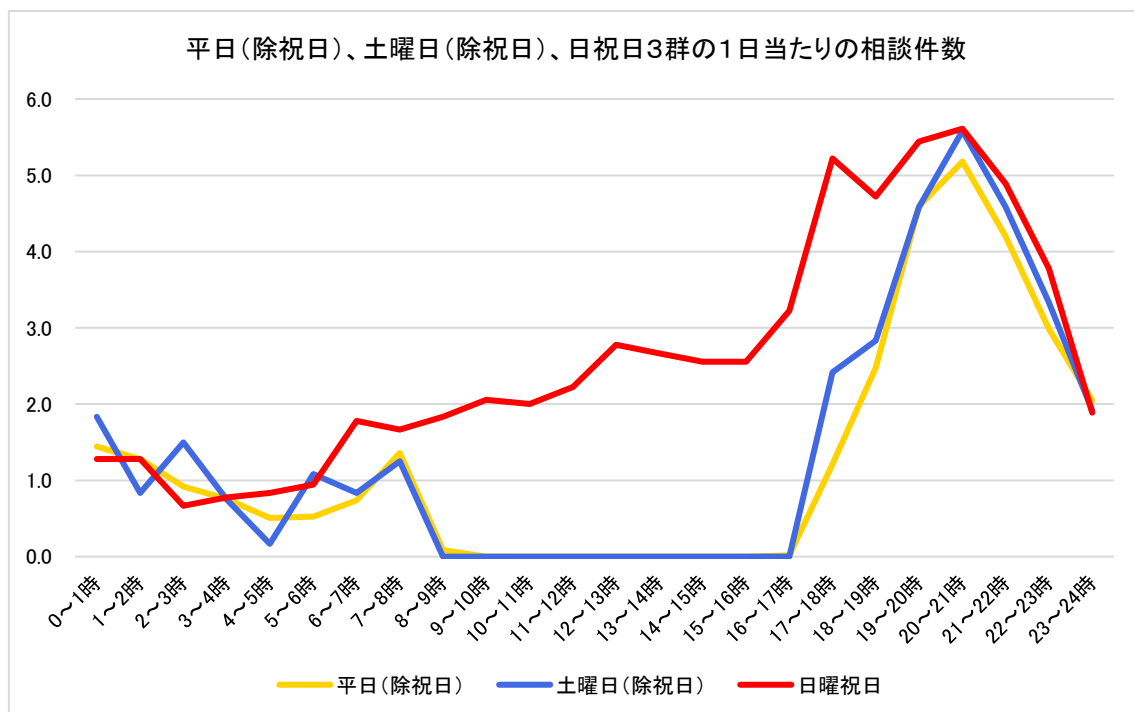


図 8-3-25. 相談件数の時間変動【滋賀県】

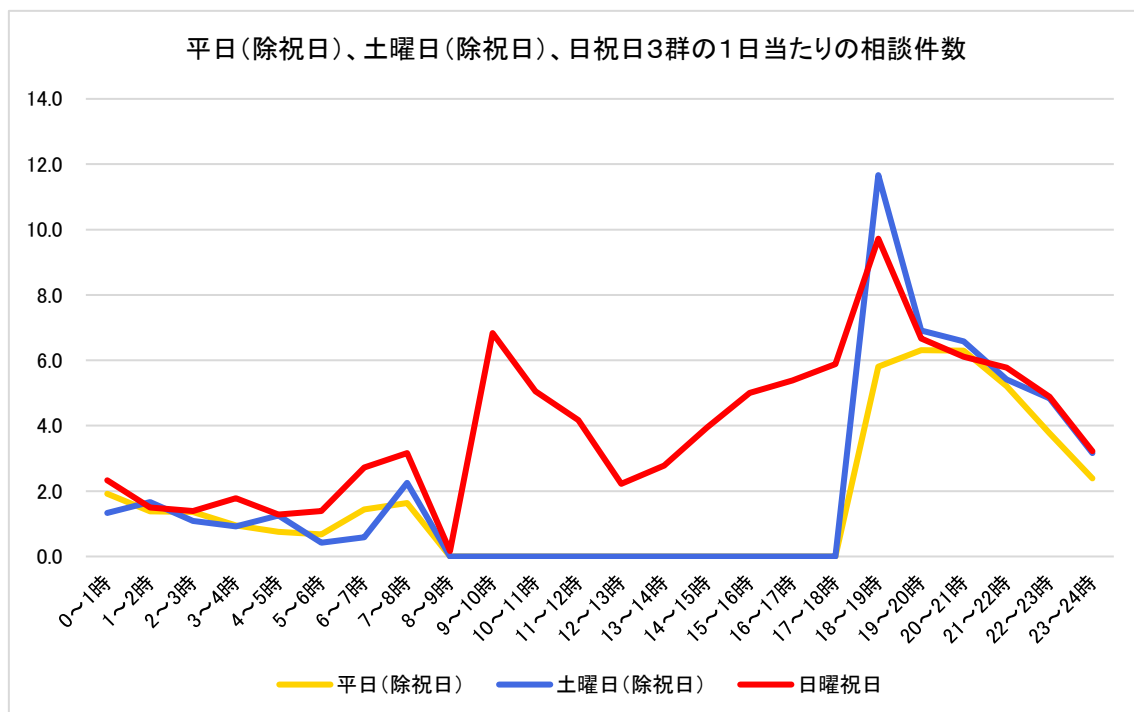


図 8-3-26. 相談件数の時間変動【京都府】

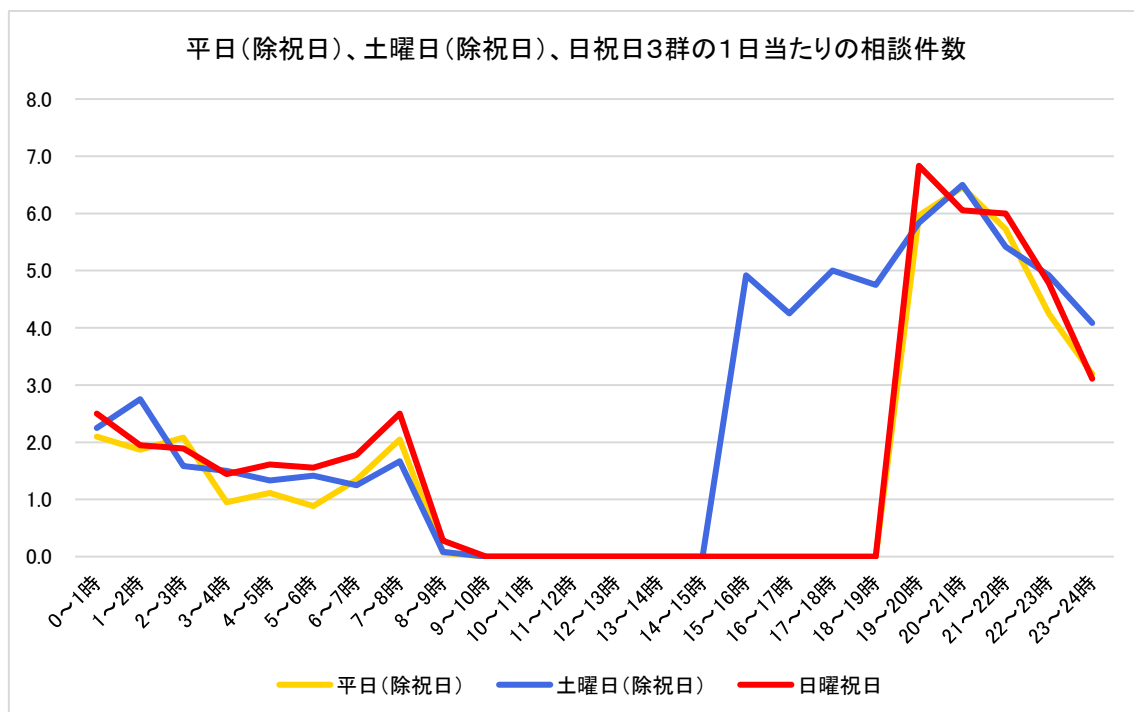


図 8-3-27. 相談件数の時間変動【大阪府】

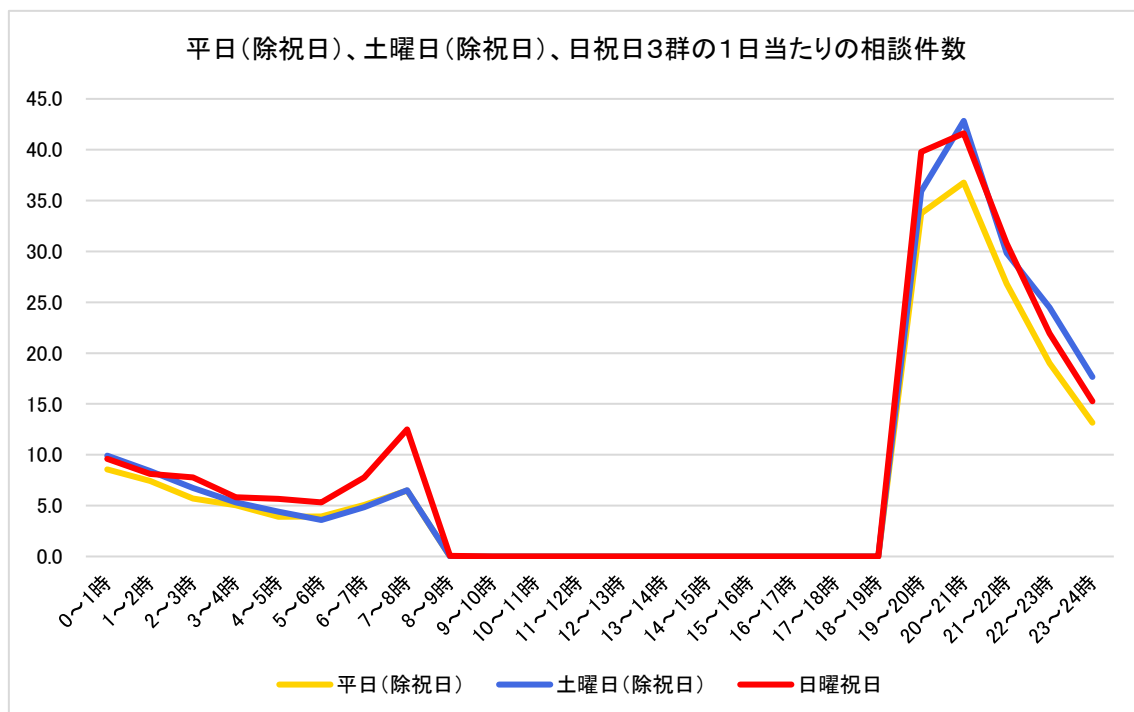


図 8-3-28. 相談件数の時間変動【兵庫県】

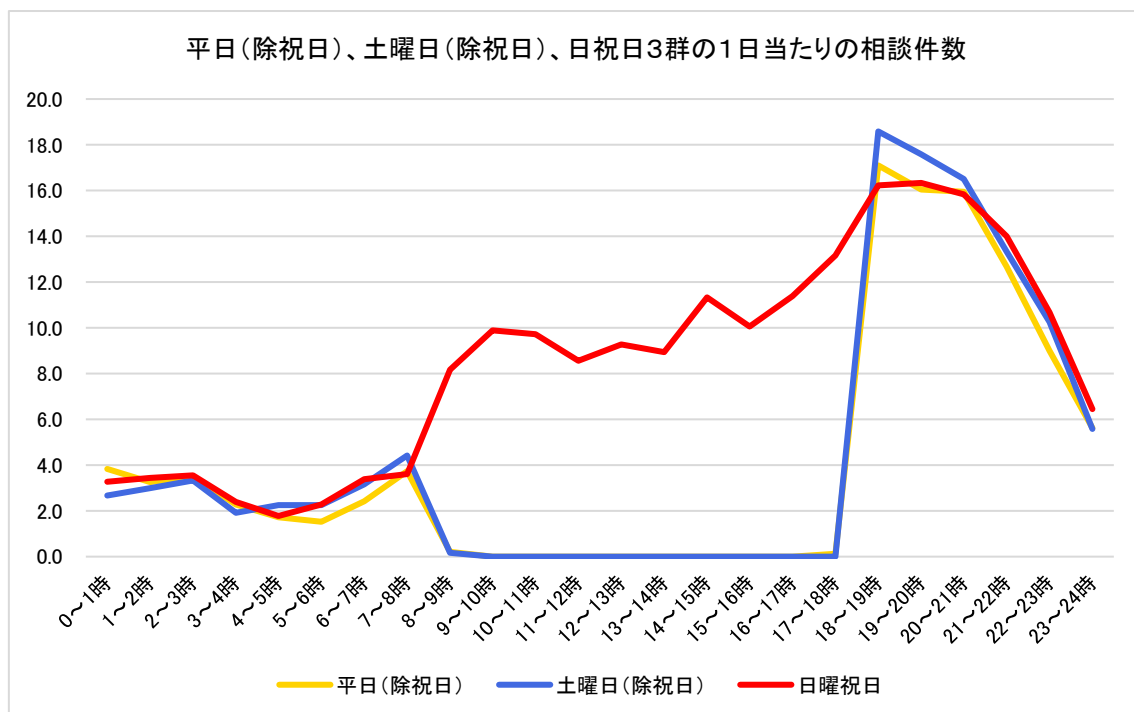


図 8-3-29. 相談件数の時間変動【奈良県】

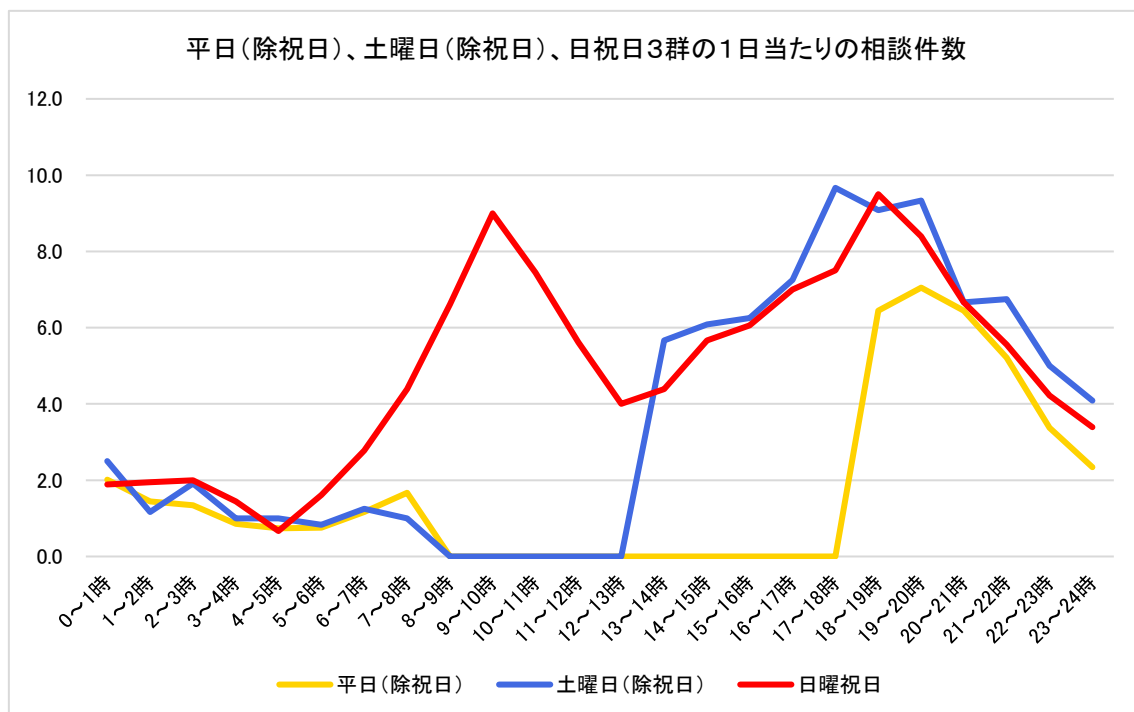


図 8-3-30. 相談件数の時間変動【和歌山県】

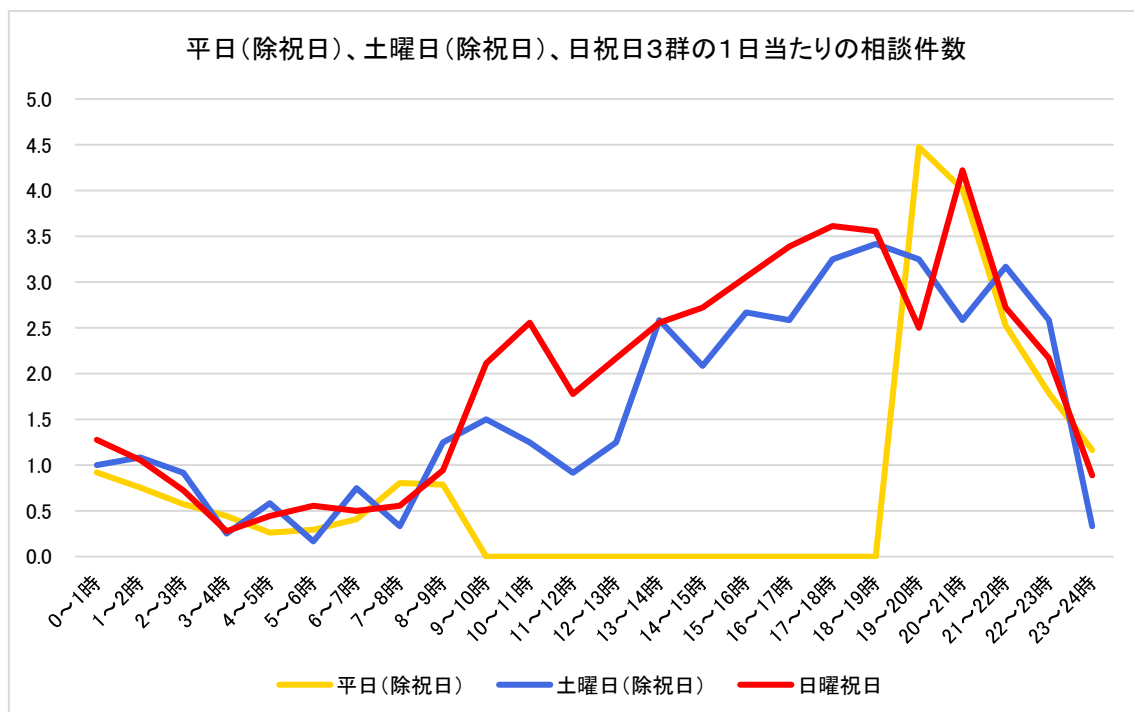


図 8-3-31. 相談件数の時間変動【鳥取県】

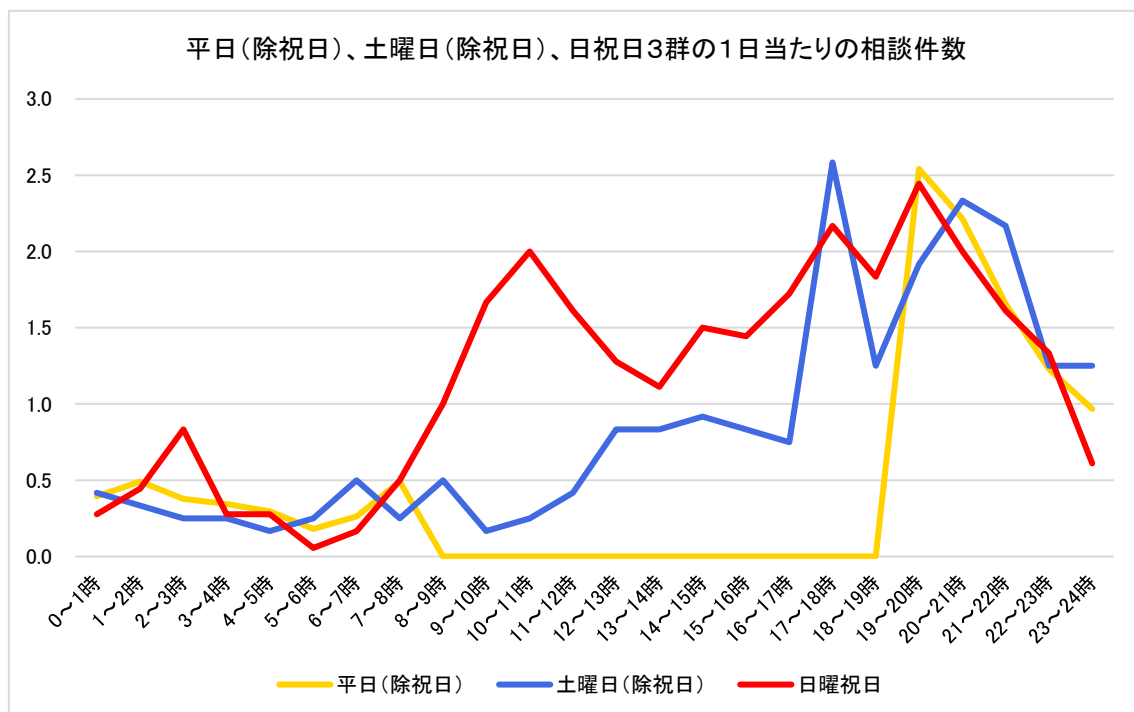


図 8-3-32. 相談件数の時間変動【島根県】

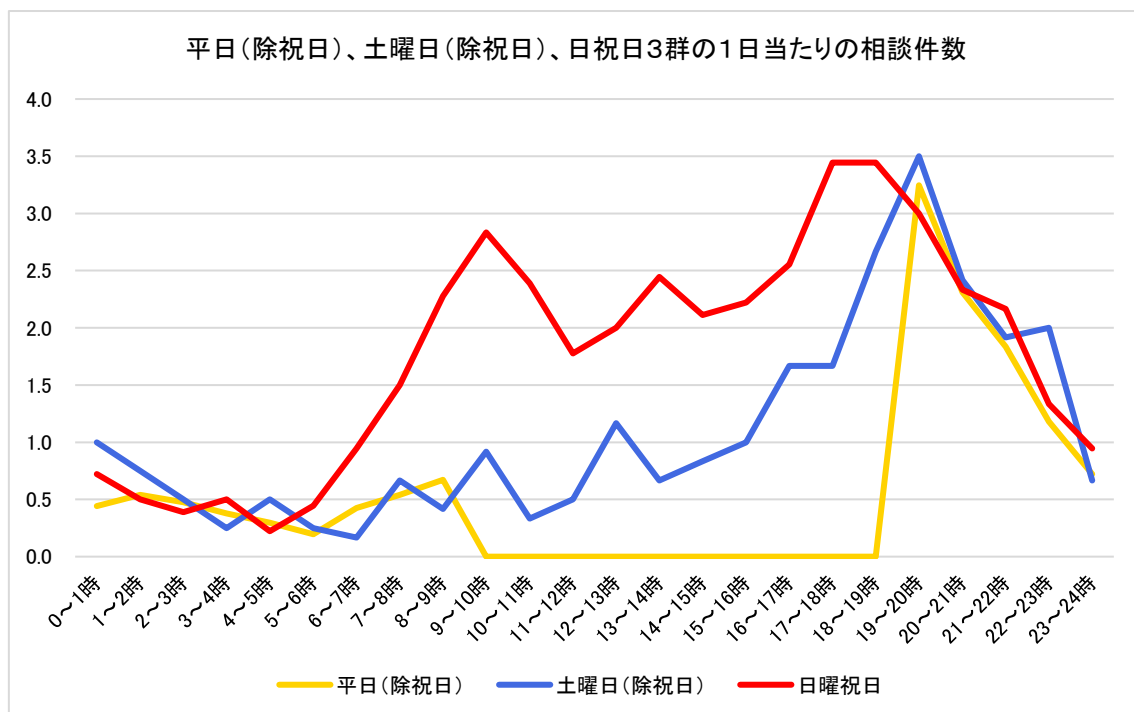


図 8-3-33. 相談件数の時間変動【岡山県】

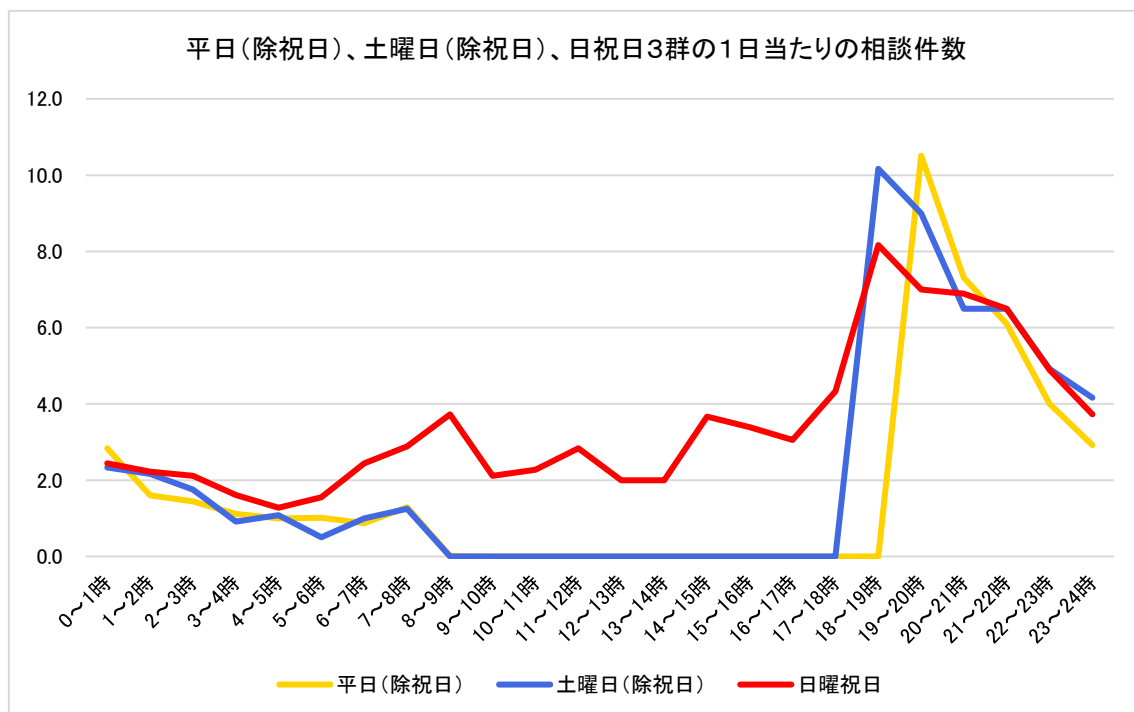


図 8-3-34. 相談件数の時間変動【広島県】

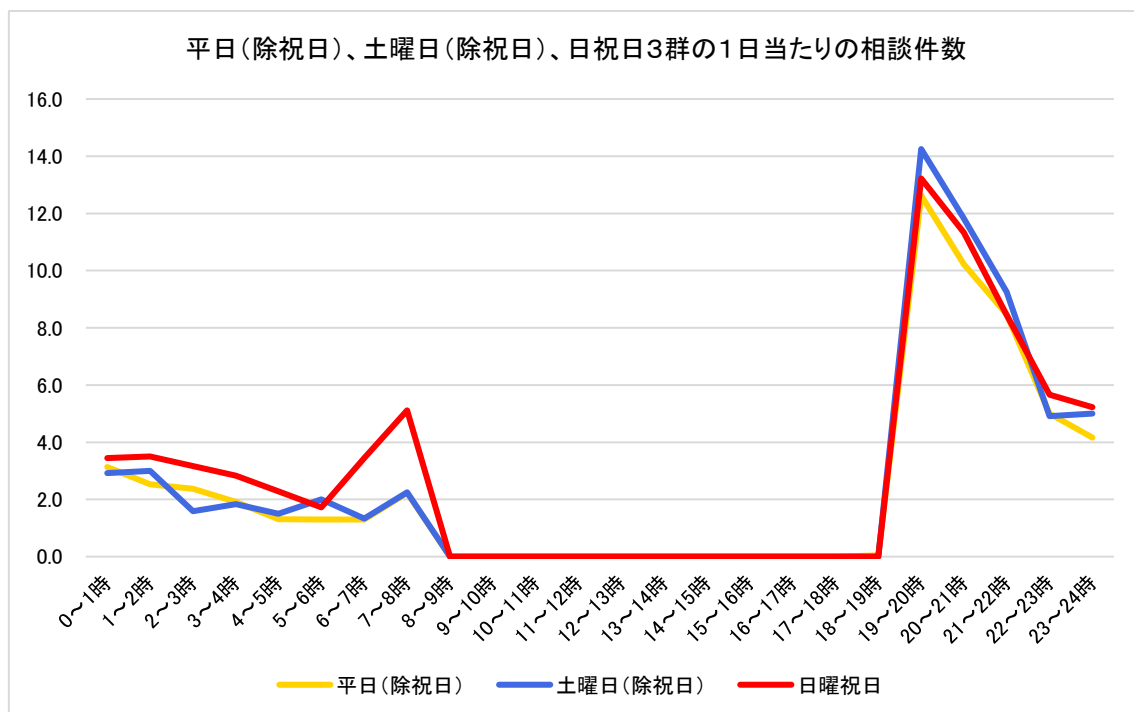


図 8-3-35. 相談件数の時間変動【山口県】

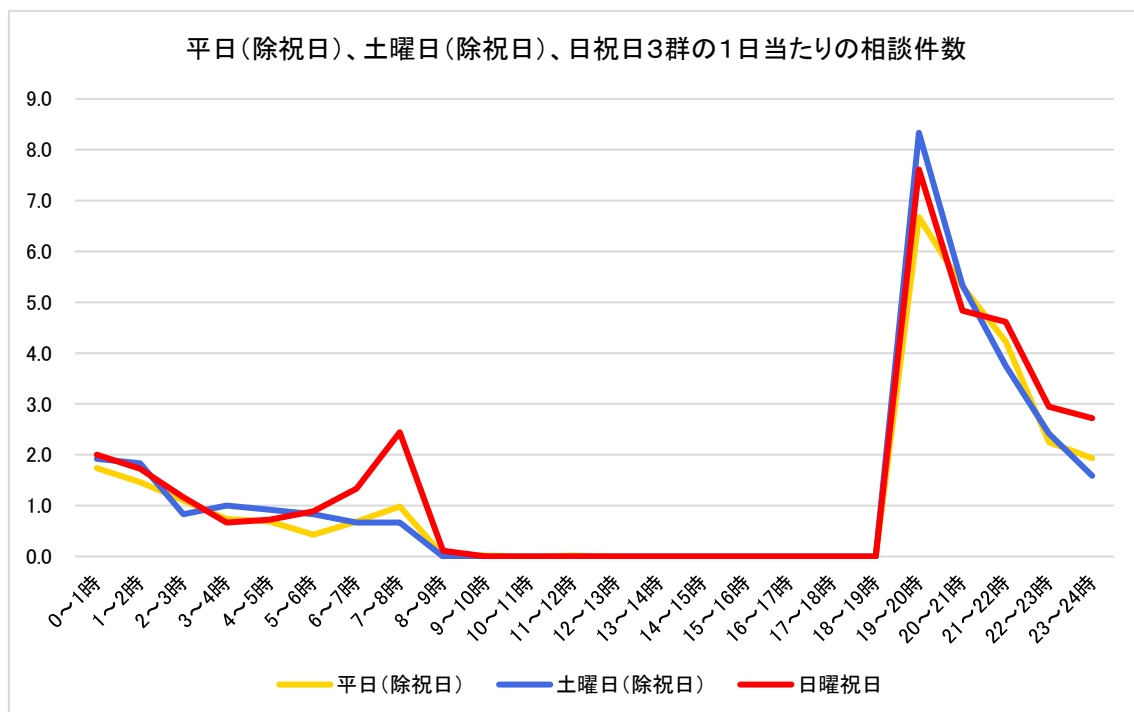


図 8-3-36. 相談件数の時間変動【徳島県】

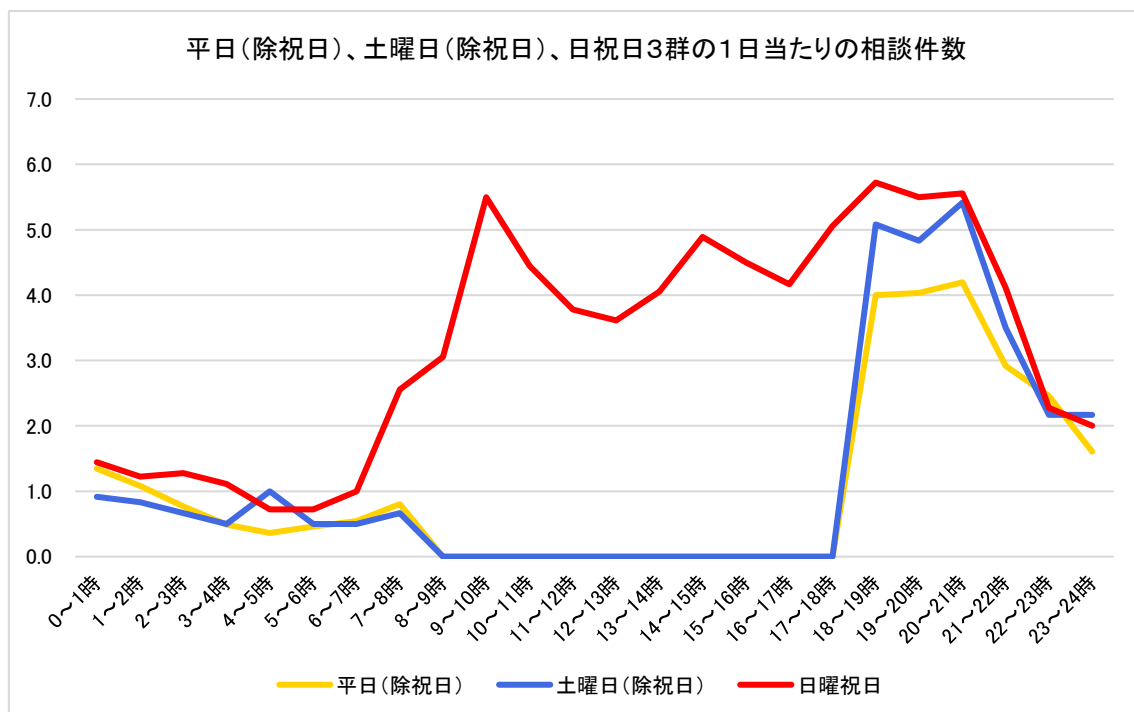


図 8-3-37. 相談件数の時間変動【香川県】

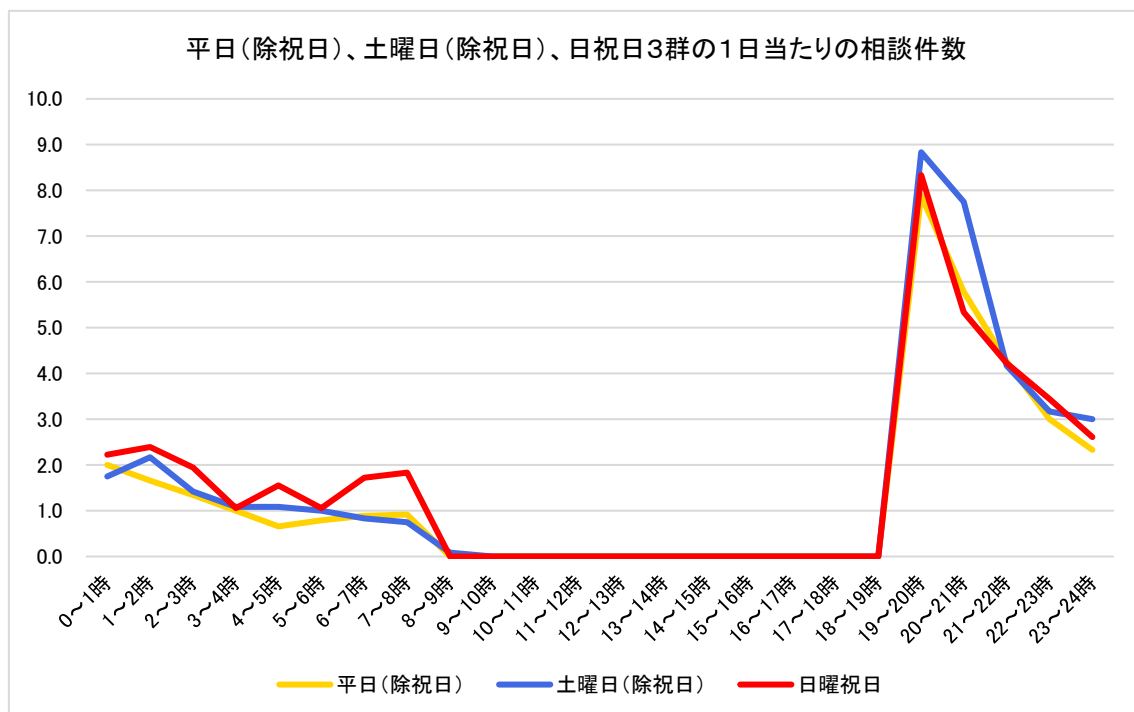


図 8-3-38. 相談件数の時間変動【愛媛県】

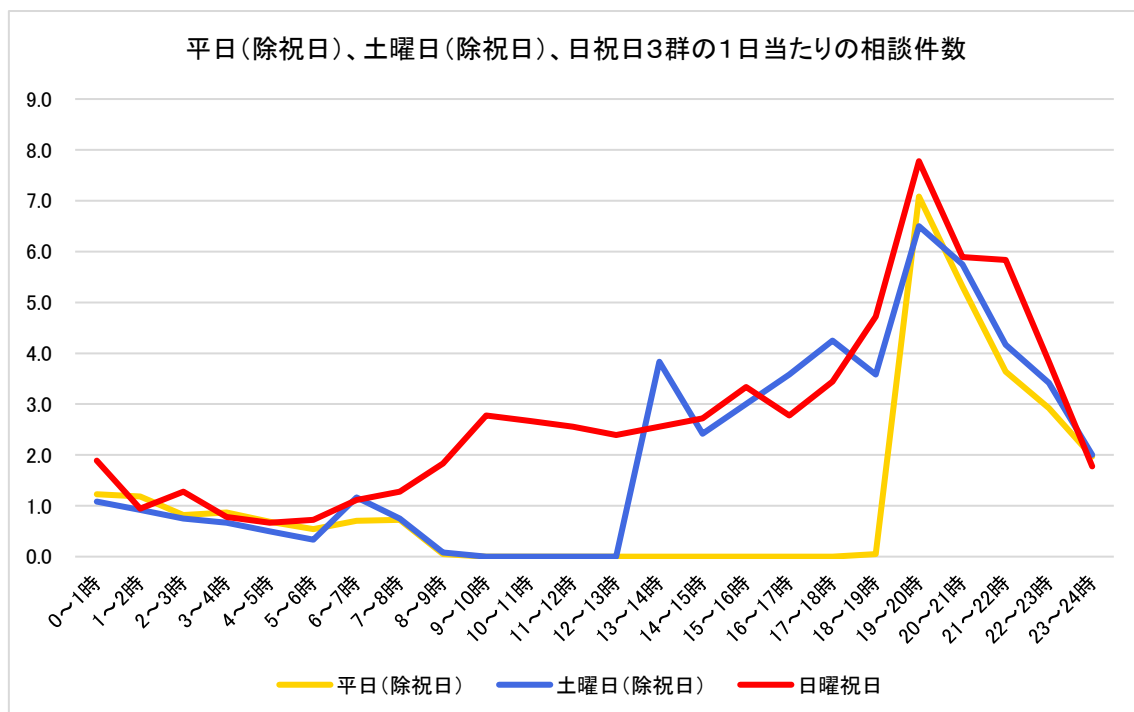


図 8-3-39. 相談件数の時間変動【高知県】

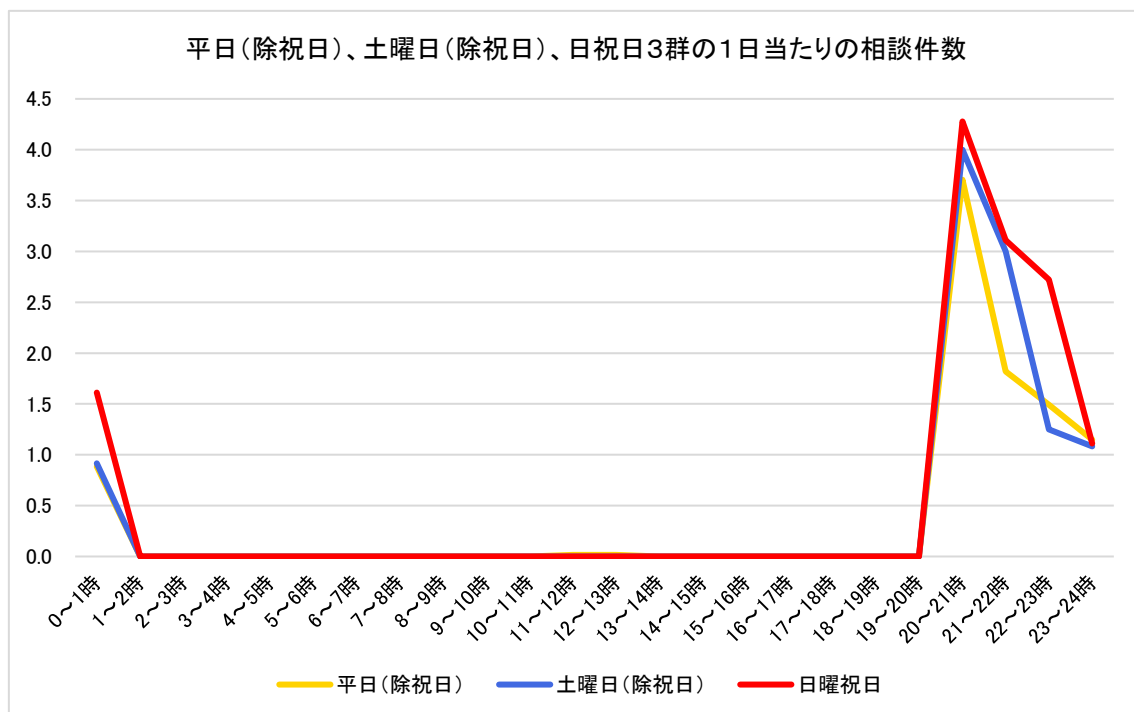


図 8-3-40. 相談件数の時間変動【佐賀県】

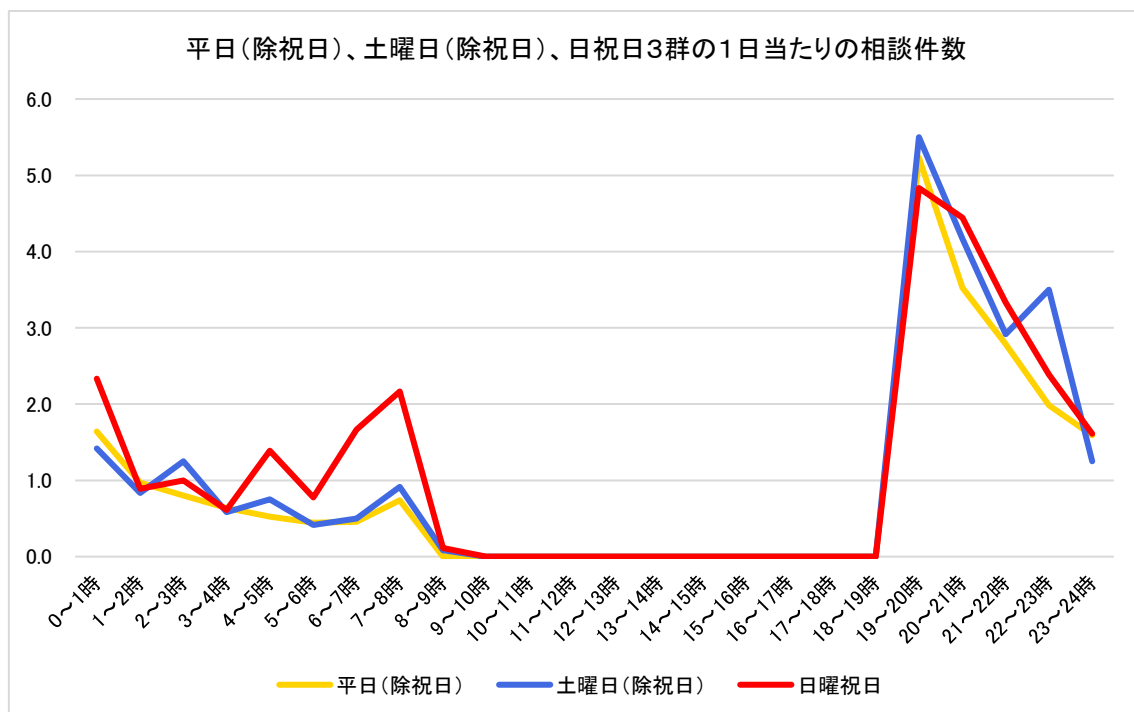


図 8-3-41. 相談件数の時間変動【長崎県】

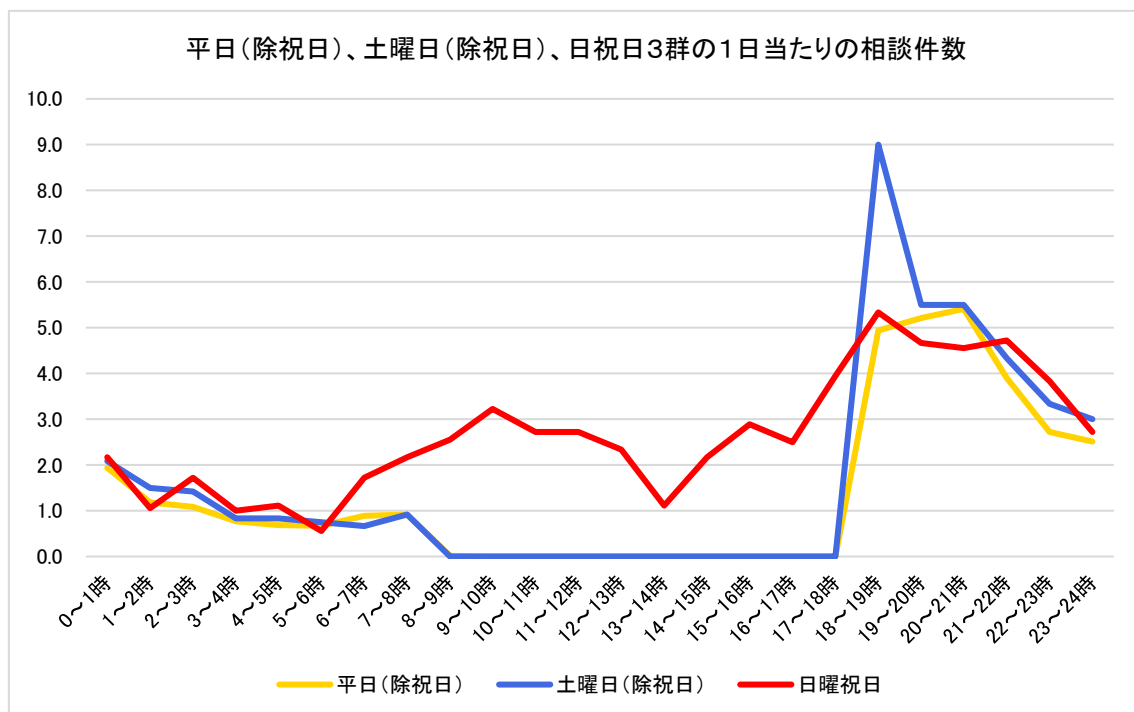


図 8-3-42. 相談件数の時間変動【熊本県】

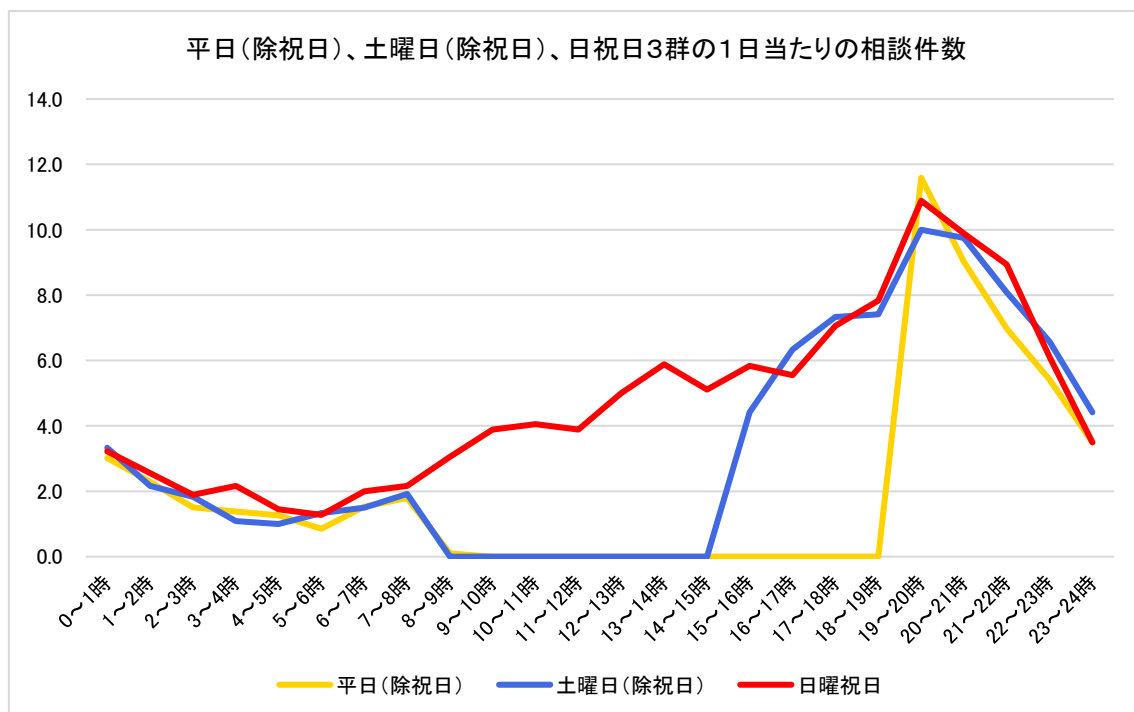


図 8-3-43. 相談件数の時間変動【大分県】

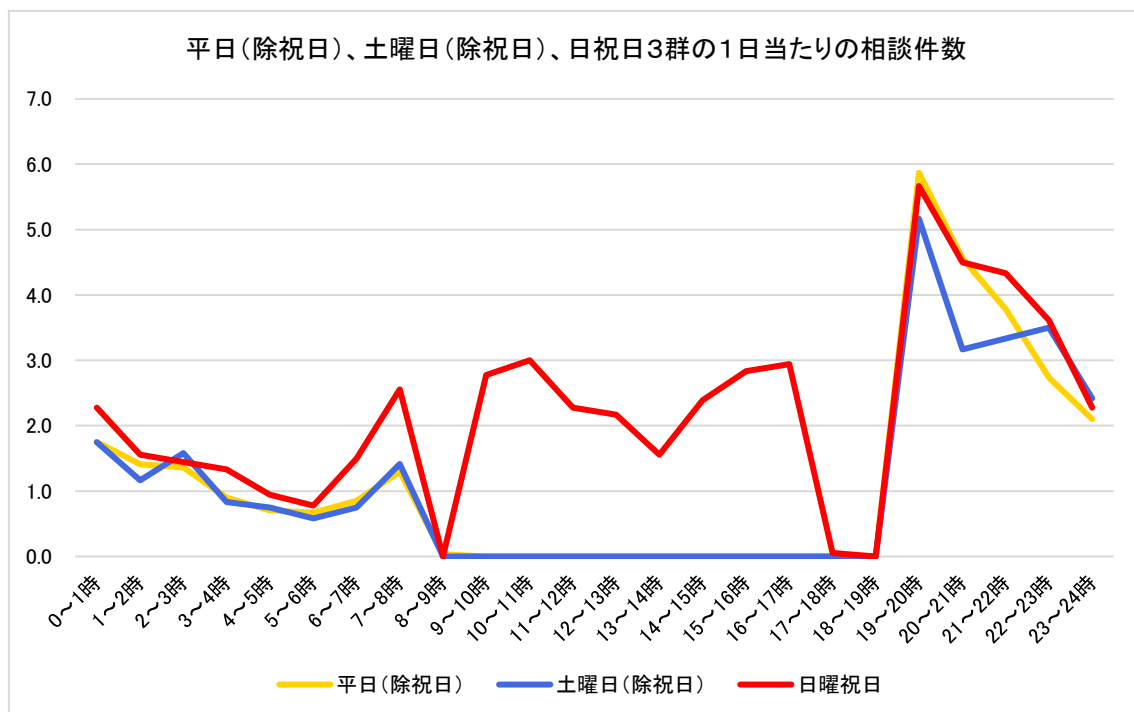


図 8-3-44. 相談件数の時間変動【宮崎県】

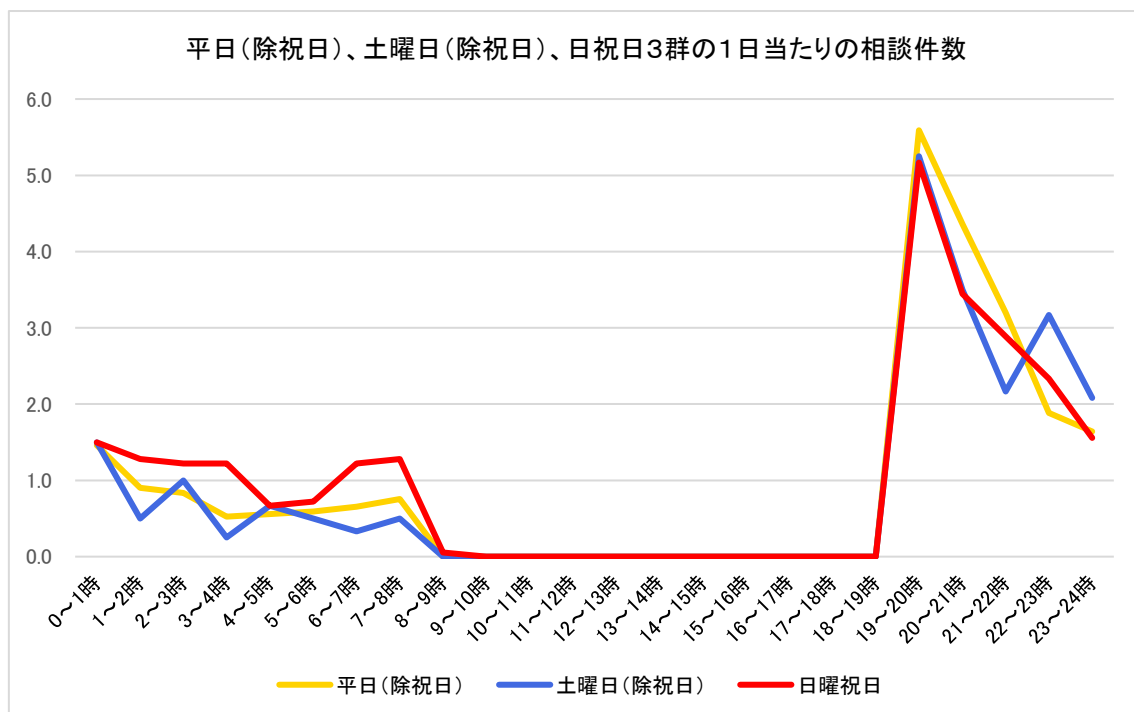


図 8-3-45. 相談件数の時間変動【鹿児島県】

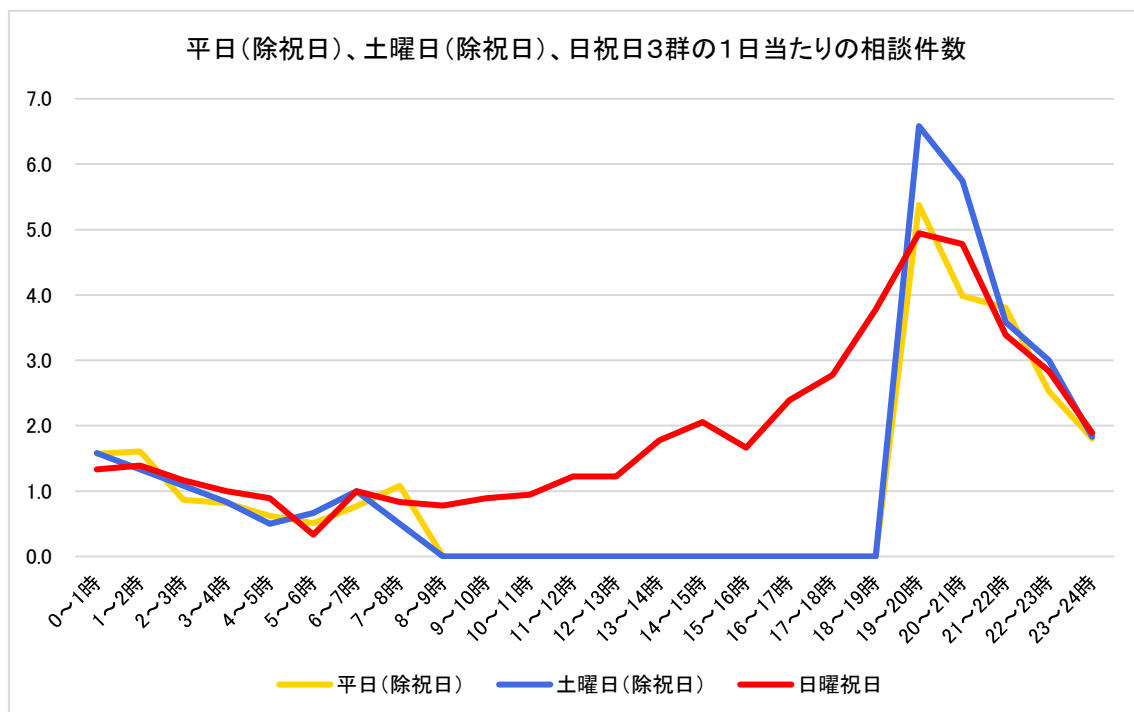
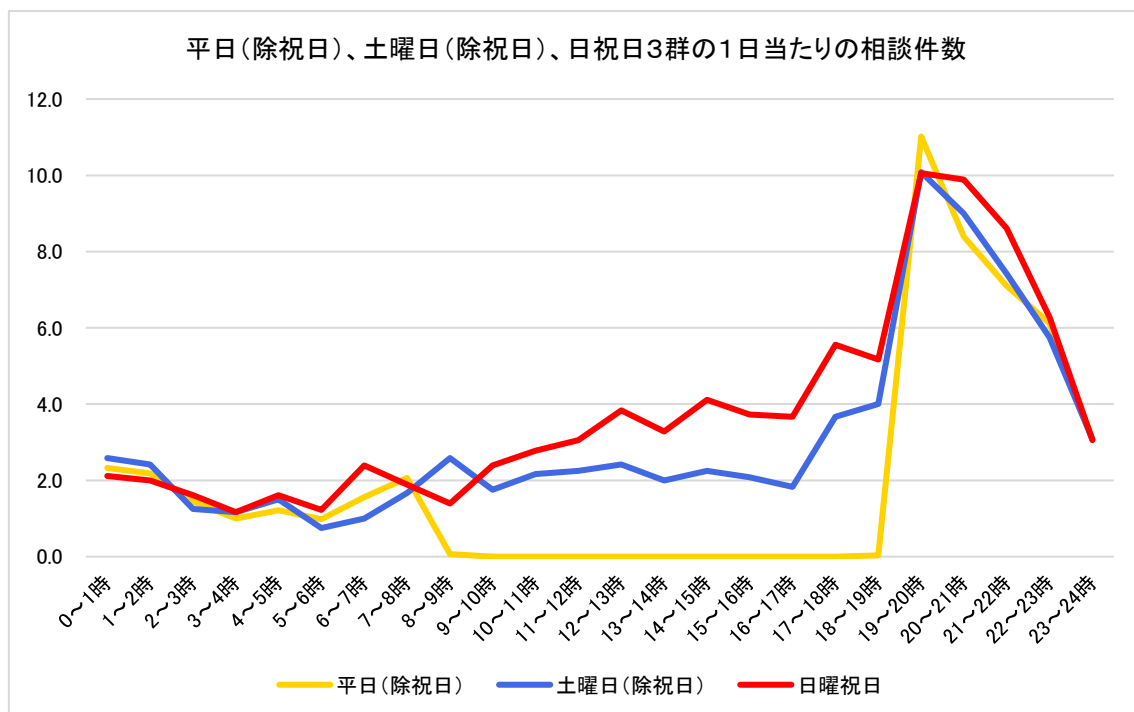


図 8-3-46. 相談件数の時間変動【沖縄県】



IV-4. #8000 事業の相談対象児の分析

相談対象児年齢、性別、主訴、第1子あるいは子ども一人の家庭の検討を行い、#8000を利用する小児の特徴を分析する。

《相談対象児年齢・性別》

1歳未満を一括した相談対象児年齢分布(表10、図9)は、1歳未満が最多(20.8%)で年齢とともに減少する。3歳未満48.2%、6歳未満74.2%で、6歳以上が1/4である。低年齢児が多い傾向は変わらない。男女比は1.10で昨年(1.19)より下がった。第1子あるいは子ども一人の家庭は全体で50.8%(p37Ⅲ-9)で、50%を超えた

《主訴》

#8000事業の主訴は複数回答を可として、総相談件数272,396件に対する割合を求めた。割合順で発熱32.9%、嘔気・嘔吐11.0%、咳8.6%、頭部以外の外傷7.5%、頭部打撲7.2%、腹痛6.6%、下痢5.0%、発疹(じんましん)4.9%、便の異常4.4%、耳・鼻・のどの異常3.9%、喘鳴3.8%、異物誤飲3.7%であった。系統別では、消化器系主訴(嘔気・嘔吐、下痢、腹痛、便の異常)27.1%、呼吸器系主訴(咳、喘鳴(息苦しそう)、鼻水・鼻づまり、耳・鼻・のどの異常)19.0%、外因系主訴(頭部打撲、頭部以外の外傷、異物誤飲、熱傷)19.1%であった。主訴および系統別主訴の割合の経年変化は(表11-1、表11-2)、令和2～3年度新型コロナウイルスパンデミックの時期に発熱と消化器系主訴の減少と外因系主訴の増加があったが、パンデミック後の令和4～5年度に令和元年度レベルに戻る傾向があり、新型コロナウイルスパンデミックの影響による一過性の変化と考えられた。しかし、呼吸器系主訴は令和3年度以降に増加した傾向を維持していることが注目される。新型コロナウイルスで保護者の呼吸器系主訴への関心が増したことも一因であるが、小児救急医療提供側は小児呼吸器疾患への対応と啓発活動を充実させるべきと考える。

《発熱、外因系主訴、呼吸器系主訴、第1子あるいは子ども一人の家庭の割合の都道府県比較》

主な調査項目の都道府県・広域民間事業者別比較を表12-1(都道府県順)、表12-2(事業者順)に示す。発熱の割合は、中央値36.1%、最大値46.9%、最小値22.0%であった。外因系主訴の割合は、中央値18.4%、最大値26.2%、最小値5.2%であった。呼吸器系主訴の割合は、中央値17.8%、最大値41.2%、最小値10.5%であった。第1子あるいは子ども一人の家庭の割合は、中央値51.8%、最大値68.5%、最小値36.2%であった。これらは、都道府県による差はあるが、事業者による傾向は見られない。

《第1子あるいは子ども一人の家庭における主訴の特徴》

第1子あるいは子ども一人の家庭は全体で50.8%であった。主訴別の第1子あるいは子ども一人の家庭の割合を見た(表13、図10)。第1子あるいは子ども一人の家庭で多くなる主訴(平均+1SD以上)は、啼泣・泣き止まない、下痢、便の異常、予防接種であった。前年度は啼泣・泣き止

まない、下痢、便の異常、予防接種、鼻汁・鼻づまりの4つであった。他に、頭部打撲、異物誤飲、熱傷などの外因系主訴も多い傾向があった。

《#8000 を利用する小児の特徴》

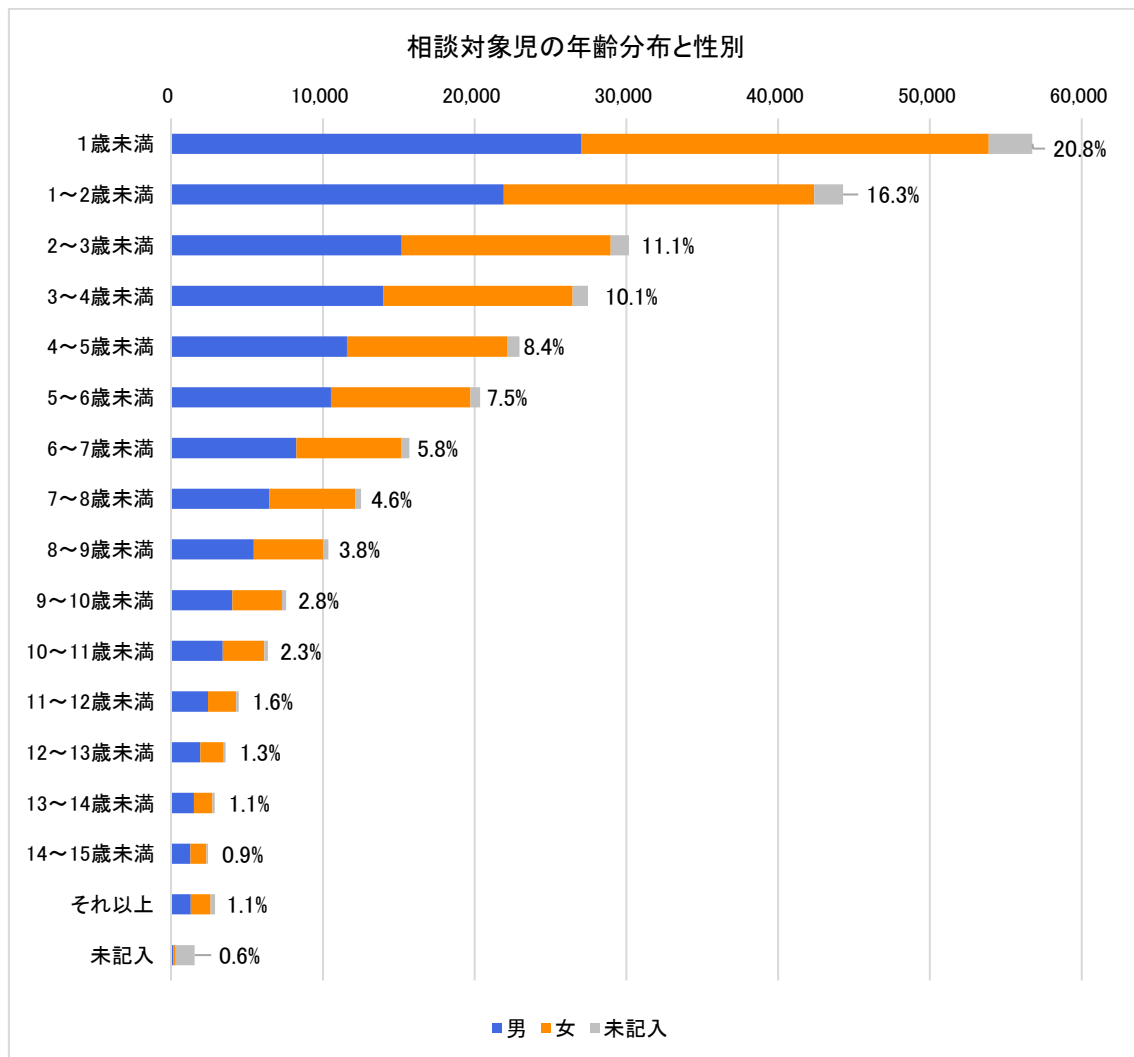
#8000 相談対象児は低年齢児が多く、1 歳未満が最多である。主訴は発熱が最多で3割で、消化器系、呼吸器系、外因系が2割ずつで、新型コロナウイルスパンデミックの時期にみられた発熱・消化器系主訴の減少と外因系主訴の増加は是正されてパンデミック前に戻った。呼吸器系主訴のみ漸増傾向である。第1子あるいは子ども一人の家庭は1/2で、第1子あるいは子ども一人の家庭で多くなる主訴は、啼泣・泣き止まない、下痢、便の異常、予防接種であった。

表 10. 相談対象児の年齢分布と性別

相談対象児年齢	男	女	未記入	計	割合
1歳未満	27,041	26,838	2,870	56,749	20.8%
1～2 歳未満	21,927	20,453	1,899	44,279	16.3%
2～3 歳未満	15,190	13,771	1,200	30,161	11.1%
3～4 歳未満	13,980	12,486	1,000	27,466	10.1%
4～5 歳未満	11,594	10,573	800	22,967	8.4%
5～6 歳未満	10,537	9,189	643	20,369	7.5%
6～7 歳未満	8,258	6,898	553	15,709	5.8%
7～8 歳未満	6,464	5,669	392	12,525	4.6%
8～9 歳未満	5,449	4,561	356	10,366	3.8%
9～10 歳未満	4,050	3,267	259	7,576	2.8%
10～11 歳未満	3,409	2,738	245	6,392	2.3%
11～12 歳未満	2,429	1,870	171	4,470	1.6%
12～13 歳未満	1,925	1,542	139	3,606	1.3%
13～14 歳未満	1,503	1,239	131	2,873	1.1%
14～15 歳未満	1,284	1,040	106	2,430	0.9%
それ以上	1,306	1,302	290	2,898	1.1%
未記入	150	151	1,259	1,560	0.6%
計(件数)	136,496	123,587	12,313	272,396	100.0%
計(割合)	50.1%	45.4%	4.5%	100.0%	—

※ 1 歳未満を一括して示した。46 都道府県のデータである。1 歳未満 20.8%、3 歳未満 48.2%、6 歳未満 74.2%。男女比 1.10。

図 9. 相談対象児の年齢分布と性別



※ 1歳未満を一括して示した。46都道府県のデータである。1歳未満 20.8%、3歳未満 48.2%、6歳未満 74.2%。男女比 1.10。

表 11-1. 主訴の割合の経年変化(令和元年～5 年度)

主訴	令和元年	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
発熱	31.9%	22.4%	23.3%	31.3%	32.9%
嘔気・嘔吐	16.2%	12.1%	10.3%	9.2%	11.0%
咳	5.5%	3.9%	6.4%	9.4%	8.6%
喘鳴(息苦しそう)	1.2%	1.2%	3.6%	5.0%	3.8%
鼻水・鼻づまり	2.3%	2.4%	2.9%	2.8%	2.6%
下痢	6.2%	4.2%	4.5%	4.3%	5.0%
腹痛	6.8%	6.3%	6.1%	5.5%	6.6%
便の異常(血便・便秘)	1.5%	1.5%	1.7%	1.5%	4.4%
頭痛	1.3%	1.1%	1.2%	1.5%	2.1%
けいれん・ふるえ	1.6%	1.3%	1.4%	1.6%	1.8%
啼泣・なきやまない	1.4%	2.7%	2.8%	2.2%	1.9%
発疹(じんましん)	5.2%	5.6%	5.9%	4.7%	4.9%
頭部打撲	6.7%	10.3%	11.2%	7.4%	7.2%
頭部以外の外傷	7.3%	13.8%	10.6%	8.4%	7.5%
異物誤飲	3.7%	6.2%	5.8%	4.6%	3.7%
熱傷	0.9%	1.4%	1.2%	0.8%	0.7%
耳漏	0.9%	0.7%	－	－	－
耳・鼻・のどの異常	3.7%	4.0%	4.3%	5.5%	3.9%
目の異常	1.0%	0.9%	0.7%	0.5%	0.6%
歯・口腔の異常	1.3%	2.2%	1.3%	0.8%	0.7%
尿の異常	0.4%	0.5%	0.3%	0.2%	0.2%
薬	1.4%	1.2%	1.2%	1.4%	1.9%
予防接種	0.7%	1.1%	1.2%	0.8%	0.5%
その他	8.6%	6.8%	14.6%	17.6%	14.4%

※ 令和3年度から耳漏を耳・鼻・のどの異常に一括した。

表 11-2 主訴の系統別割合の経年変化

主訴	令和元年		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	回答数	総相談件数 (241,387件) に対する割合	回答数	総相談件数 (153,726件) に対する割合	回答数	総相談件数 (179,280件) に対する割合	回答数	総相談件数 (249,637件) に対する割合	回答数	総相談件数 (272,396件) に対する割合
発熱	77,038	31.9%	34,410	22.4%	41,780	23.3%	78,253	31.3%	89,499	32.9%
消化器系	74,241	30.8%	36,985	24.1%	40,445	22.6%	51,226	20.5%	73,721	27.1%
呼吸器系	30,620	12.7%	17,586	11.4%	30,799	17.2%	56,572	22.7%	51,830	19.0%
外因系	45,107	18.7%	48,689	31.7%	51,833	28.9%	52,698	21.1%	52,086	19.1%
他系統	57,349	23.8%	36,930	24.0%	54,931	30.6%	78,036	31.3%	78,904	29.0%
計	284,355	117.8%	174,600	113.6%	219,788	122.6%	316,785	126.9%	346,040	127.0%

※ 系統別に、消化器系主訴(嘔気・嘔吐、下痢、腹痛、便の異常)、呼吸器系主訴(咳、喘鳴(息苦しそう)、鼻水・鼻づまり、耳・鼻・のどの異常)、外因系主訴(頭部打撲、頭部以外の外傷、異物誤飲、熱傷)をまとめて、経年変化をみた。令和2～3年度新型コロナウイルスパンデミックの時期に、発熱と消化器系主訴の減少と外因系主訴の増加があったが、共に令和4～5年度に、令和元年度に戻る、いわゆる一過性の経過であった。しかし、呼吸器系主訴は令和3年度以降に増加した傾向を維持していることが注目される。

表 12-1. 主な調査項目の都道府県・広域民間事業者別比較(都道府県順)

都道府県 番号	都道府県	広域民 間事業 者	発熱	外因系 主訴	呼吸器 系主訴	第1子あ るいは 子ども1 人家庭	相談者 が父親	救急医 療相談	医療機 関案内	相談前 受診あ り/(あり +なし)	119番	直ぐ受 診	小児科	その 他の 診療 科	医師の 助言	医師の 対応	対応困 難
	46都道府県		32.9%	19.1%	19.0%	50.8%	15.4%	72.0%	10.8%	21.2%	2.2%	29.4%	68.7%	12.3%	0.4%	0.1%	0.3%
1	北海道	A	42.9%	15.7%	26.5%	49.9%	13.4%	40.2%	22.0%	22.5%	1.0%	12.4%	84.5%	0.7%	0.4%	0.0%	0.2%
2	青森県	A	41.7%	18.8%	25.3%	40.1%	13.6%	13.8%	15.0%	21.3%	0.9%	20.8%	75.8%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%
3	岩手県	A	37.8%	14.0%	21.2%	46.7%	14.0%	12.5%	12.3%	21.3%	1.0%	20.1%	86.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
4	宮城県	A	37.5%	14.3%	26.1%	45.5%	14.6%	35.3%	11.6%	21.0%	3.7%	16.4%	85.6%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%
5	秋田県	B	35.8%	13.1%	17.6%	61.7%	15.2%	87.2%	3.2%	30.4%	0.3%	16.6%	83.5%	1.8%	0.8%	0.0%	0.0%
6	山形県	C	31.2%	16.0%	14.7%	—	15.5%	—	0.0%	29.9%	0.7%	31.2%	77.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%
7	福島県	D	31.9%	14.0%	21.8%	—	15.7%	89.2%	0.0%	—	2.0%	41.7%	79.4%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
8	茨城県	E	32.5%	17.4%	17.6%	68.5%	15.2%	85.1%	7.6%	16.8%	4.3%	19.7%	—	—	0.1%	0.0%	0.0%
9	栃木県	地	37.2%	16.5%	20.3%	—	15.9%	14.7%	41.0%	—	0.4%	16.3%	—	—	0.0%	0.0%	0.0%
10	群馬県	B	35.8%	21.2%	12.6%	52.5%	16.0%	64.0%	0.0%	18.7%	1.3%	36.3%	75.9%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
11	埼玉県	E	26.9%	19.9%	18.2%	48.3%	16.3%	89.8%	4.5%	15.7%	6.1%	26.5%	—	—	0.2%	0.0%	0.0%
12	千葉県	地	44.0%	16.0%	41.2%	—	17.9%	99.8%	0.0%	16.8%	1.5%	28.3%	—	—	0.7%	0.0%	0.0%
13	東京都	F	22.0%	20.3%	13.0%	—	16.7%	96.6%	0.0%	22.3%	1.7%	41.7%	54.5%	30.8%	0.0%	0.3%	0.0%
14	神奈川県	F	27.7%	24.1%	19.5%	53.4%	16.7%	96.8%	0.2%	23.3%	2.0%	42.4%	—	—	0.4%	0.0%	0.0%
15	新潟県	B	33.2%	22.1%	14.1%	61.2%	18.4%	71.9%	7.0%	23.7%	2.7%	25.3%	76.1%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
16	富山県	A	36.4%	20.4%	20.7%	39.1%	15.1%	12.5%	11.7%	20.2%	3.2%	15.0%	75.9%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%
17	石川県	B	31.3%	23.7%	12.0%	52.5%	16.1%	70.1%	12.0%	17.0%	1.3%	26.0%	70.3%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%
18	福井県	A	42.6%	9.1%	30.8%	41.8%	15.9%	12.5%	16.0%	16.5%	0.3%	21.4%	86.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
19	山梨県	地	46.7%	13.1%	23.5%	—	15.1%	80.2%	0.0%	—	0.9%	24.4%	74.4%	13.1%	0.0%	0.0%	0.0%
20	長野県	F	22.7%	21.0%	17.0%	—	16.2%	96.2%	0.0%	23.3%	2.0%	41.1%	55.2%	30.7%	0.0%	0.7%	0.0%
21	岐阜県	F	25.0%	18.9%	13.6%	—	13.7%	96.0%	0.0%	22.6%	1.7%	40.5%	58.5%	27.8%	0.0%	0.8%	0.0%
22	静岡県	C	34.6%	20.7%	18.1%	—	13.6%	—	0.3%	24.8%	1.1%	29.5%	75.2%	1.3%	0.0%	0.0%	0.2%
23	愛知県	F	22.5%	17.2%	15.7%	—	14.5%	96.4%	0.0%	23.4%	2.1%	41.0%	60.5%	25.6%	0.0%	0.7%	0.0%
24	三重県	B	34.9%	23.9%	11.0%	52.8%	14.1%	70.3%	0.0%	17.2%	2.6%	31.2%	72.4%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25	滋賀県	F	25.7%	18.5%	14.8%	—	16.2%	96.4%	0.0%	19.8%	1.4%	42.3%	52.8%	34.6%	0.0%	0.6%	0.0%
26	京都府	B	36.5%	23.9%	12.1%	58.5%	16.7%	70.8%	11.2%	23.5%	1.5%	26.2%	75.6%	1.8%	0.0%	0.0%	0.2%
27	大阪府	地	40.1%	20.9%	26.9%	—	15.3%	60.7%	60.7%	24.3%	0.9%	25.6%	37.3%	37.2%	0.0%	0.0%	0.0%
28	兵庫県	B	34.9%	26.2%	10.6%	57.1%	14.5%	82.2%	16.3%	20.7%	2.0%	25.0%	72.5%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
29	奈良県	F	27.6%	21.5%	13.6%	—	14.7%	96.9%	0.0%	20.9%	1.9%	45.4%	52.9%	31.7%	0.0%	0.5%	0.0%
30	和歌山県	D	30.8%	19.8%	15.1%	—	15.6%	90.6%	0.0%	—	1.9%	39.8%	75.6%	0.7%	0.1%	0.0%	0.0%
31	鳥取県	B	37.0%	22.8%	10.5%	51.2%	17.3%	65.7%	10.5%	23.8%	3.1%	24.8%	77.2%	1.3%	0.1%	0.0%	0.2%
32	島根県	A	42.0%	18.1%	18.8%	38.8%	15.3%	13.5%	14.5%	18.8%	0.5%	18.0%	76.6%	0.3%	0.0%	0.6%	0.0%
33	岡山県	C	36.4%	18.6%	21.1%	—	14.7%	—	0.4%	26.8%	0.9%	27.2%	77.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.2%
34	広島県	E	31.7%	15.4%	23.7%	36.2%	15.9%	73.3%	20.8%	19.3%	4.0%	23.2%	70.2%	0.6%	0.4%	0.0%	13.4%
35	山口県	G	37.6%	17.3%	24.0%	54.5%	16.5%	80.6%	11.6%	22.6%	2.7%	19.3%	83.0%	1.0%	23.8%	0.0%	1.3%
36	徳島県	A	46.2%	16.5%	18.0%	36.4%	15.2%	15.7%	19.4%	21.5%	0.5%	21.2%	78.8%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%
37	香川県	D	25.7%	18.3%	19.1%	38.2%	16.3%	88.7%	0.0%	—	1.6%	43.5%	75.6%	1.1%	0.1%	0.0%	0.0%
38	愛媛県	B	40.7%	21.0%	10.8%	58.7%	14.6%	67.9%	12.4%	23.7%	2.1%	25.4%	77.3%	1.4%	0.1%	0.0%	0.1%
39	高知県	地	46.9%	14.8%	29.4%	—	16.2%	76.1%	19.6%	28.9%	0.0%	24.7%	82.7%	0.6%	0.0%	0.0%	1.3%
41	佐賀県	C	38.5%	5.2%	15.8%	—	15.3%	97.7%	84.1%	31.8%	0.7%	20.9%	86.2%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
42	長崎県	C	36.5%	19.2%	17.2%	—	14.6%	—	0.4%	17.7%	1.4%	28.4%	76.9%	1.0%	0.1%	0.0%	0.1%
43	熊本県	D	36.8%	14.9%	15.3%	60.5%	13.7%	80.5%	39.6%	26.3%	0.9%	27.2%	83.0%	2.4%	0.1%	0.0%	0.3%
44	大分県	C	41.9%	15.0%	30.0%	—	13.8%	92.7%	0.0%	28.6%	1.0%	20.6%	78.5%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
45	宮崎県	C	28.3%	17.0%	15.8%	43.9%	15.6%	76.9%	47.8%	28.3%	1.4%	37.0%	76.9%	1.2%	0.2%	0.0%	0.3%
46	鹿児島県	D	32.5%	19.8%	16.2%	—	12.6%	82.9%	2.3%	—	1.7%	28.4%	79.4%	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%
47	沖縄県	B	43.4%	17.0%	23.1%	52.5%	14.8%	68.6%	8.0%	32.6%	1.0%	20.4%	82.9%	1.6%	0.6%	0.0%	0.1%

※ 広域民間事業者を記号 A～G で示す。

表 12-2. 主な調査項目の都道府県・広域民間事業者別比較(事業者順)

都道府県 番号	都道府県	広域民 間事業 者	発熱	外因系 主訴	呼吸器 系主訴	第1子あ るいは 子ども1 人家庭	相談者 が父親	救急医 療相談	医療機 関案内	相談前 受診あ り/(あり +なし)	119番	直ぐ受 診	小児科	その他 の診療 科	医師の 助言	医師の 対応	対応困 難
	46都道府県		32.9%	19.1%	19.0%	50.8%	15.4%	72.0%	10.8%	21.2%	2.2%	29.4%	68.7%	12.3%	0.4%	0.1%	0.3%
1	北海道	A	42.9%	15.7%	26.5%	49.9%	13.4%	40.2%	22.0%	22.5%	1.0%	12.4%	84.5%	0.7%	0.4%	0.0%	0.2%
2	青森県	A	41.7%	18.8%	25.3%	40.1%	13.6%	13.8%	15.0%	21.3%	0.9%	20.8%	75.8%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%
3	岩手県	A	37.8%	14.0%	21.2%	46.7%	14.0%	12.5%	12.3%	21.3%	1.0%	20.1%	86.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
4	宮城県	A	37.5%	14.3%	26.1%	45.5%	14.6%	35.3%	11.6%	21.0%	3.7%	16.4%	85.6%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%
16	富山県	A	36.4%	20.4%	20.7%	39.1%	15.1%	12.5%	11.7%	20.2%	3.2%	15.0%	75.9%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%
18	福井県	A	42.6%	9.1%	30.8%	41.8%	15.9%	12.5%	16.0%	16.5%	0.3%	21.4%	86.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
32	島根県	A	42.0%	18.1%	18.8%	38.8%	15.3%	13.5%	14.5%	18.8%	0.5%	18.0%	76.6%	0.3%	0.0%	0.6%	0.0%
36	徳島県	A	46.2%	16.5%	18.0%	36.4%	15.2%	15.7%	19.4%	21.5%	0.5%	21.2%	78.8%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%
5	秋田県	B	35.8%	13.1%	17.6%	61.7%	15.2%	87.2%	3.2%	30.4%	0.3%	16.6%	83.5%	1.8%	0.8%	0.0%	0.0%
10	群馬県	B	35.8%	21.2%	12.6%	52.5%	16.0%	64.0%	0.0%	18.7%	1.3%	36.3%	75.9%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
15	新潟県	B	33.2%	22.1%	14.1%	61.2%	18.4%	71.9%	7.0%	23.7%	2.7%	25.3%	76.1%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
17	石川県	B	31.3%	23.7%	12.0%	52.5%	16.1%	70.1%	12.0%	17.0%	1.3%	26.0%	70.3%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%
24	三重県	B	34.9%	23.9%	11.0%	52.8%	14.1%	70.3%	0.0%	17.2%	2.6%	31.2%	72.4%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%
26	京都府	B	36.5%	23.9%	12.1%	58.5%	16.7%	70.8%	11.2%	23.5%	1.5%	26.2%	75.6%	1.8%	0.0%	0.0%	0.2%
28	兵庫県	B	34.9%	26.2%	10.6%	57.1%	14.5%	82.2%	16.3%	20.7%	2.0%	25.0%	72.5%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
31	鳥取県	B	37.0%	22.8%	10.5%	51.2%	17.3%	65.7%	10.5%	23.8%	3.1%	24.8%	77.2%	1.3%	0.1%	0.0%	0.2%
38	愛媛県	B	40.7%	21.0%	10.8%	58.7%	14.6%	67.9%	12.4%	23.7%	2.1%	25.4%	77.3%	1.4%	0.1%	0.0%	0.1%
47	沖縄県	B	43.4%	17.0%	23.1%	52.5%	14.8%	68.6%	8.0%	32.6%	1.0%	20.4%	82.9%	1.6%	0.6%	0.0%	0.1%
6	山形県	C	31.2%	16.0%	14.7%	—	15.5%	—	0.0%	29.9%	0.7%	31.2%	77.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%
22	静岡県	C	34.6%	20.7%	18.1%	—	13.6%	—	0.3%	24.8%	1.1%	29.5%	75.2%	1.3%	0.0%	0.0%	0.2%
33	岡山県	C	36.4%	18.6%	21.1%	—	14.7%	—	0.4%	26.8%	0.9%	27.2%	77.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.2%
41	佐賀県	C	38.5%	5.2%	15.8%	—	15.3%	97.7%	84.1%	31.8%	0.7%	20.9%	86.2%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
42	長崎県	C	36.5%	19.2%	17.2%	—	14.6%	—	0.4%	17.7%	1.4%	28.4%	76.9%	1.0%	0.1%	0.0%	0.1%
44	大分県	C	41.9%	15.0%	30.0%	—	13.8%	92.7%	0.0%	28.6%	1.0%	20.6%	78.5%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
45	宮崎県	C	28.3%	17.0%	15.8%	43.9%	15.6%	76.9%	47.8%	28.3%	1.4%	37.0%	76.9%	1.2%	0.2%	0.0%	0.3%
7	福島県	D	31.9%	14.0%	21.8%	—	15.7%	89.2%	0.0%	—	2.0%	41.7%	79.4%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
30	和歌山県	D	30.8%	19.8%	15.1%	—	15.6%	90.6%	0.0%	—	1.9%	39.8%	75.6%	0.7%	0.1%	0.0%	0.0%
37	香川県	D	25.7%	18.3%	19.1%	38.2%	16.3%	88.7%	0.0%	—	1.6%	43.5%	75.6%	1.1%	0.1%	0.0%	0.0%
43	熊本県	D	36.8%	14.9%	15.3%	60.5%	13.7%	80.5%	39.6%	26.3%	0.9%	27.2%	83.0%	2.4%	0.1%	0.0%	0.3%
46	鹿児島県	D	32.5%	19.8%	16.2%	—	12.6%	82.9%	2.3%	—	1.7%	28.4%	79.4%	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%
8	茨城県	E	32.5%	17.4%	17.6%	68.5%	15.2%	85.1%	7.6%	16.8%	4.3%	19.7%	—	—	0.1%	0.0%	0.0%
11	埼玉県	E	26.9%	19.9%	18.2%	48.3%	16.3%	89.8%	4.5%	15.7%	6.1%	26.5%	—	—	0.2%	0.0%	0.0%
34	広島県	E	31.7%	15.4%	23.7%	36.2%	15.9%	73.3%	20.8%	19.3%	4.0%	23.2%	70.2%	0.6%	0.4%	0.0%	13.4%
13	東京都	F	22.0%	20.3%	13.0%	—	16.7%	96.6%	0.0%	22.3%	1.7%	41.7%	54.5%	30.8%	0.0%	0.3%	0.0%
14	神奈川県	F	27.7%	24.1%	19.5%	53.4%	16.7%	96.8%	0.2%	23.3%	2.0%	42.4%	—	—	0.4%	0.0%	0.0%
20	長野県	F	22.7%	21.0%	17.0%	—	16.2%	96.2%	0.0%	23.3%	2.0%	41.1%	55.2%	30.7%	0.0%	0.7%	0.0%
21	岐阜県	F	25.0%	18.9%	13.6%	—	13.7%	96.0%	0.0%	22.6%	1.7%	40.5%	58.5%	27.8%	0.0%	0.8%	0.0%
23	愛知県	F	22.5%	17.2%	15.7%	—	14.5%	96.4%	0.0%	23.4%	2.1%	41.0%	60.5%	25.6%	0.0%	0.7%	0.0%
25	滋賀県	F	25.7%	18.5%	14.8%	—	16.2%	96.4%	0.0%	19.8%	1.4%	42.3%	52.8%	34.6%	0.0%	0.6%	0.0%
29	奈良県	F	27.6%	21.5%	13.6%	—	14.7%	96.9%	0.0%	20.9%	1.9%	45.4%	52.9%	31.7%	0.0%	0.5%	0.0%
35	山口県	G	37.6%	17.3%	24.0%	54.5%	16.5%	80.6%	11.6%	22.6%	2.7%	19.3%	83.0%	1.0%	23.8%	0.0%	1.3%
9	栃木県	地	37.2%	16.5%	20.3%	—	15.9%	14.7%	41.0%	—	0.4%	16.3%	—	—	0.0%	0.0%	0.0%
12	千葉県	地	44.0%	16.0%	41.2%	—	17.9%	99.8%	0.0%	16.8%	1.5%	28.3%	—	—	0.7%	0.0%	0.0%
19	山梨県	地	46.7%	13.1%	23.5%	—	15.1%	80.2%	0.0%	—	0.9%	24.4%	74.4%	13.1%	0.0%	0.0%	0.0%
27	大阪府	地	40.1%	20.9%	26.9%	—	15.3%	60.7%	60.7%	24.3%	0.9%	25.6%	37.3%	37.2%	0.0%	0.0%	0.0%
39	高知県	地	46.9%	14.8%	29.4%	—	16.2%	76.1%	19.6%	28.9%	0.0%	24.7%	82.7%	0.6%	0.0%	0.0%	1.3%

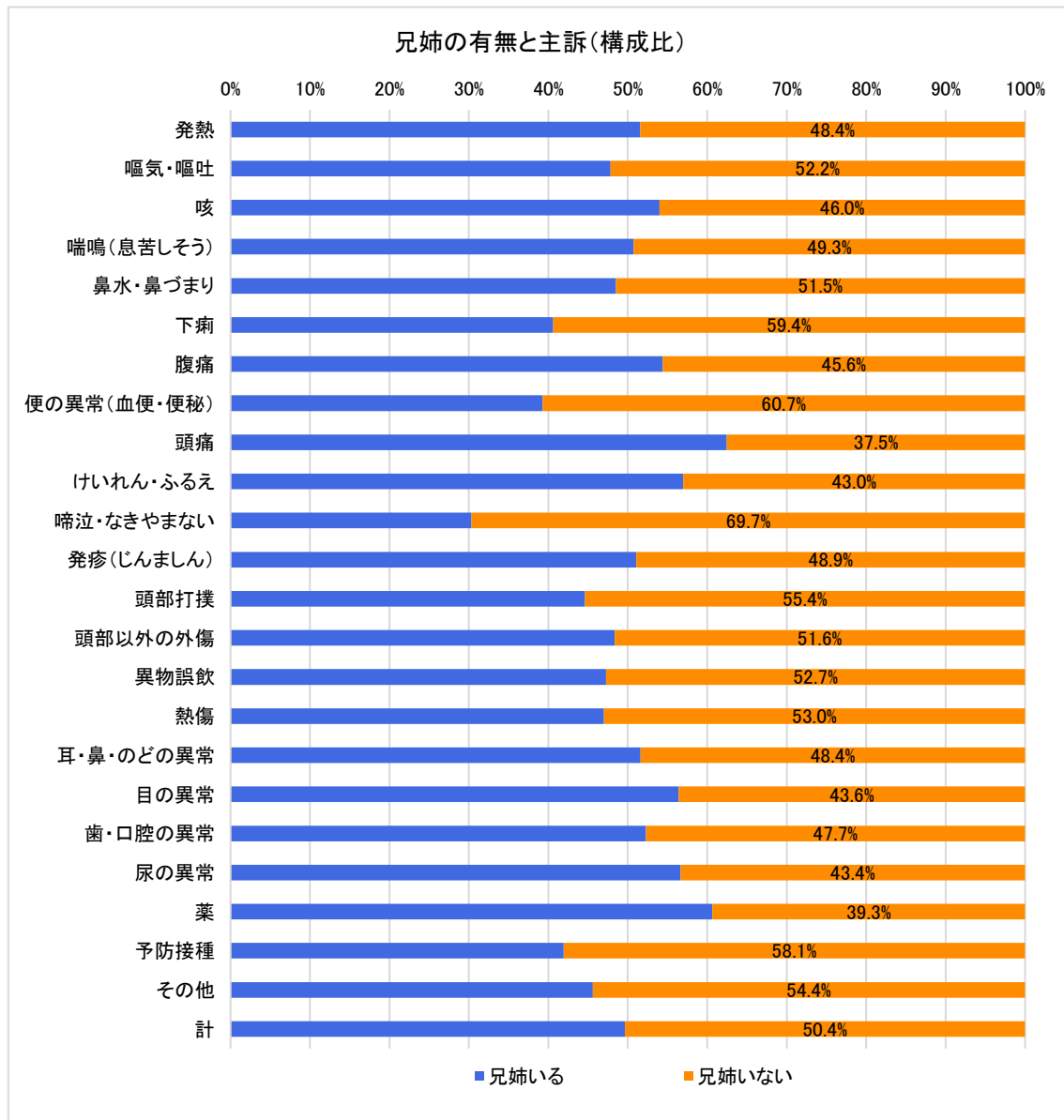
※ 広域民間事業者を記号 A～G で示す。

表 13 主訴別の第1子あるいは子ども一人の家庭の割合

主訴	兄弟の有無				第1子あるいは 子供1人の 家庭の割合
	兄弟いる		兄弟いない		
	件数	割合	件数	割合	
発熱	11,089	12.4%	10,415	11.6%	48.4%
嘔気・嘔吐	2,671	8.9%	2,915	9.7%	52.2%
咳	2,462	10.5%	2,098	9.0%	46.0%
喘鳴(息苦しそう)	1,453	13.9%	1,411	13.5%	49.3%
鼻水・鼻づまり	509	7.1%	540	7.5%	51.5%
下痢	538	3.9%	787	5.8%	59.4%
腹痛	1,310	7.3%	1,098	6.1%	45.6%
便の異常(血便・便秘)	507	4.2%	783	6.5%	60.7%
頭痛	697	12.2%	419	7.3%	37.5%
けいれん・ふるえ	703	14.7%	531	11.1%	43.0%
啼泣・なきやまない	369	7.2%	847	16.4%	69.7%
発疹(じんましん)	1,455	10.9%	1,393	10.5%	48.9%
頭部打撲	1,961	10.0%	2,434	12.4%	55.4%
頭部以外の外傷	2,199	10.8%	2,349	11.6%	51.6%
異物誤飲	1,045	10.3%	1,166	11.5%	52.7%
熱傷	173	8.8%	195	9.9%	53.0%
耳・鼻・のどの異常	1,396	13.0%	1,308	12.2%	48.4%
目の異常	233	15.1%	180	11.6%	43.6%
歯・口腔の異常	239	12.3%	218	11.3%	47.7%
尿の異常	111	16.8%	85	12.8%	43.4%
薬	586	11.3%	380	7.3%	39.3%
予防接種	192	13.6%	266	18.9%	58.1%
その他	2,987	7.6%	3,565	9.1%	54.4%
計	34,885	10.1%	35,383	10.2%	50.4%

※ 第1子あるいは子ども一人の家庭の割合が50%以上の主訴は、嘔気・嘔吐、鼻汁・鼻づまり、下痢、便の異常、啼泣・なきやまない、頭部以外傷、頭部以外の外傷、熱傷、予防接種で、特に平均+1SD 以上は啼泣・なきやまない、下痢、便の異常である。

図 10. 主訴別の第 1 子あるいは子ども一人の家庭の割合（第 1 子あるいは子ども一人の家庭ではどのような主訴が増えるか）



※ 第 1 子あるいは子ども一人の家庭では、啼泣・なきやまない、下痢、便の異常などの消化器主訴、頭部打撲、異物誤飲、熱傷など外因系主訴と予防接種が多い傾向がある。

IV-5. #8000 事業の相談者の分析

相談者の続柄、相談者の年代、相談の分類・目的、相談前受診の検討を行い、#8000 を利用する相談者、保護者の特徴を分析する。

《相談者の続柄》

相談者の続柄(p34、Ⅲ-7)は、母親 83.1%、父親 15.5%、祖母 0.3%、祖父 0.1%で、母親がほとんどで、父親の比率は増えていない(表 31)。相談時間帯別の父親/母親比は(表 14、図 11)、平均 0.19 で時間ごとでは 0.13~0.23 の間で変動し、20 時~3 時に 0.20 以上に増え、父親が夜間に育児に協力している状況がみられる。

《相談者の年代》

どの年代の保護者が利用するかをみた。未記入を除いた相談者の年代の割合(p35、Ⅲ-8)は、10 代 0.2%、20 代 16.3%、30 代 61.5%、40 代 20.0%で、40 代が増えてきている(表 31)。

《相談の分類・目的》

どのような目的で#8000 を利用しているかをみた。相談者が救急医療相談と医療機関案内の両方を要望する場合、相談対応者が両方を情報提供する場合もあるので「救急医療相談+医療機関案内」の選択肢を作ってデータ収集した(p33、Ⅲ-6)。救急医療相談合計(救急医療相談と救急医療相談+医療機関案内を合わせて)71.9%、医療機関案内合計(医療機関案内と救急医療相談+医療機関案内を合わせて)10.8%、薬 2.3%、ホームケア 1.7%、育児相談 0.9%であった。救急医療相談が主であり、医療機関案内や育児相談は少ない。

《相談前受診》

相談前受診は、受診したが不安になって、あるいは再受診が必要か心配で、電話相談する場合である。相談前受診ありは 21.2%で(p37、Ⅲ-11)、新型コロナウイルスパンデミック時に低下したが、今年度は令和元年度レベルに戻っている。

《相談者が父親、相談の分類(目的):救急医療相談、医療機関案内、相談前受診についての都道府県比較》

主な調査項目の都道府県・広域民間事業者別比較(表 12-1、13-2)では、相談者が父親の割合は中央値 15.2%、最大値 18.4%、最小値 12.6%であった。相談の分類(目的)は、救急医療相談の割合は中央値 78.6%、最大値 99.8%、最小値 12.5%で、医療機関案内の割合は中央値 7.3%、最大値 84.1%、最小値 0%であった。佐賀県と大阪府が、医療機関案内の割合が特に高い。相談の分類(目的)は都道府県および広域民間事業者によって異なる傾向が見られる。相談前受診ありの割合は中央値 22.6%、最大値 32.6%、最小値 15.7%であった。これらの項目は、IV-3 相談対象児の場合と同じく、事業者による差は少なく、都道府県による差で、地域特性の影響が大きいと思われる。

《#8000 を利用する保護者・相談者の特徴》

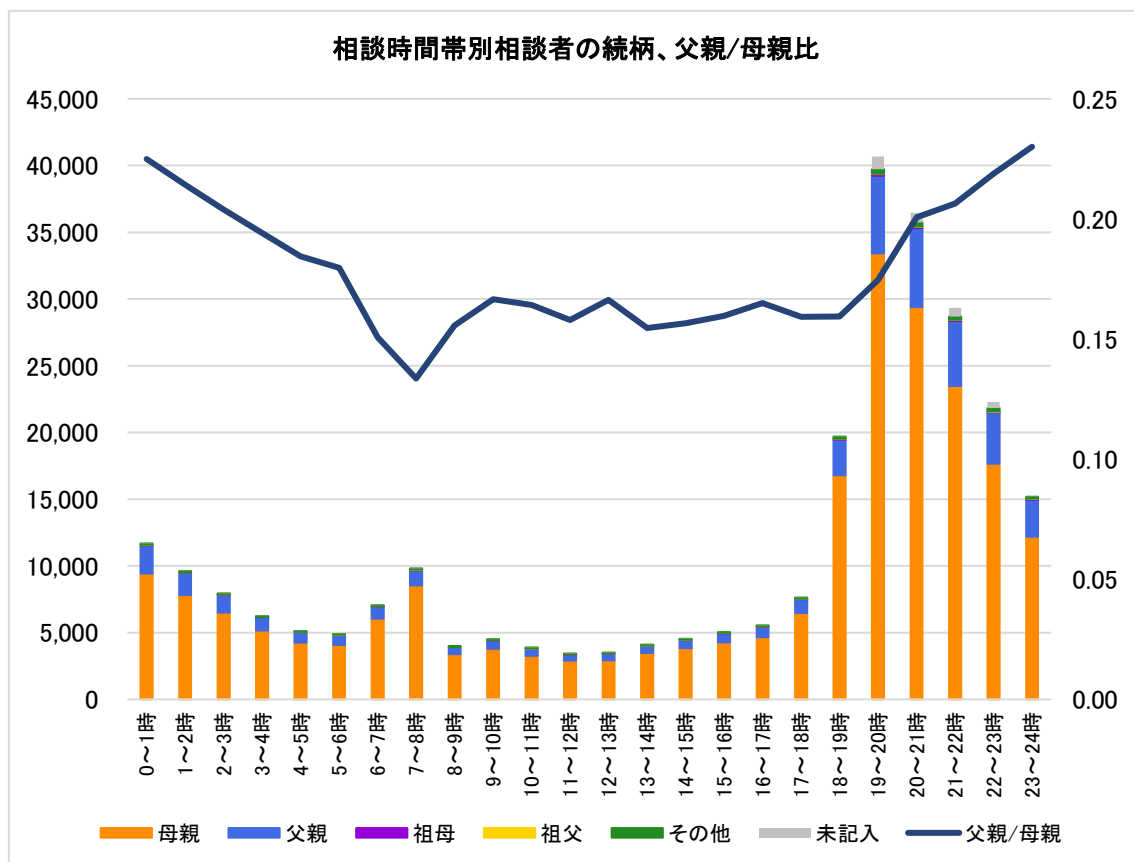
母親が主体で父親の利用は少ないが、父親が微増しており、また時間帯では深夜帯に父親が協力する状況がみえる。相談者の年代は 40 代が増えてきている。相談目的の分類・目的は救急医療相談が主で、医療機関案内や育児相談は比較的少ない。相談前受診ありは新型コロナウイルスパンデミック時期に低下したが、今年度はパンデミック以前の水準に戻ってきている。

表 14. 相談時間帯別相談者続柄

時間帯	母親	父親	祖母	祖父	その他	未記入	計	父親/母親
0～1 時	9,427	2,120	29	5	114	7	11,702	0.22
1～2 時	7,829	1,678	24	2	93	4	9,630	0.21
2～3 時	6,513	1,328	21	5	86	2	7,955	0.20
3～4 時	5,162	1,002	14	0	72	4	6,254	0.19
4～5 時	4,261	786	7	1	53	5	5,113	0.18
5～6 時	4,092	735	12	1	59	6	4,905	0.18
6～7 時	6,052	912	16	2	77	11	7,070	0.15
7～8 時	8,535	1,140	29	4	102	3	9,813	0.13
8～9 時	3,398	529	7	5	41	0	3,980	0.16
9～10 時	3,794	632	24	3	59	2	4,514	0.17
10～11 時	3,270	537	16	4	68	4	3,899	0.16
11～12 時	2,907	459	11	1	59	2	3,439	0.16
12～13 時	2,939	489	23	6	51	1	3,509	0.17
13～14 時	3,481	538	19	8	69	5	4,120	0.15
14～15 時	3,833	600	23	5	66	2	4,529	0.16
15～16 時	4,271	682	22	8	68	1	5,052	0.16
16～17 時	4,668	770	34	6	79	3	5,560	0.16
17～18 時	6,473	1,031	35	8	94	2	7,643	0.16
18～19 時	16,783	2,676	54	10	185	9	19,717	0.16
19～20 時	33,420	5,834	106	32	326	971	40,689	0.17
20～21 時	29,401	5,902	105	20	310	734	36,472	0.20
21～22 時	23,495	4,851	77	19	255	632	29,329	0.21
22～23 時	17,657	3,863	57	8	247	456	22,288	0.22
23～24 時	12,179	2,802	55	8	150	6	15,200	0.23
未記入	13	1	0	0	0	0	14	0.08
計	223,853	41,897	820	171	2,783	2,872	272,396	0.19

※ 父親/母親比は 0.13～0.23 の間で変動して、0.20 以上になる時間帯は 20 時～3 時である。

図 11. 相談時間帯別相談者の続柄、父親/母親比



※ 父親/母親比は平均 0.19、時間ごとでは 0.13～0.23 の間で変動して、0.20 以上になる時間帯は 20 時～3 時である。

IV-6. #8000 事業の相談対応の分析

#8000 の緊急度判定、発症時期、相談対応時間、満足度、対応困難、相談対応者が受診すべきと考えた診療科の検討を行い、#8000 相談対応について分析する。主訴と緊急度判定の 2 つは未記入が少ないデータなので、この 2 つそれぞれと他の調査項目のクロス集計を行う検討を加えた。

《緊急度判定(受診の判断)、都道府県別緊急度判定の分析》

#8000 における相談対応者(看護師)による緊急度判定は、今受診すべきか、明日まで待つのかの受診の判断を相談者が行うことを支援することである。さらに、自宅でどのように療養するか、今後どうなったら受診を判断すべきか、などを伝えている。この点に注意してほしい。未記入を除かないで分析した。

緊急度判定の集計結果Ⅲ-13(p39)の構成比を図 12 に示す。119 番をすすめた 2.2%、直ぐに病院に行くようにすすめた 29.4%、翌日に受診することをすすめた 29.4%、何かあれば受診することをすすめた 21.0%、受診をする必要はない 13.4%、その他 2.1%、未記入 2.6%であった。直ぐ受診(119 番をすすめた+直ぐに病院に行くようにすすめた)は 31.6%で、前年度より増加した。119 番は経年変化が 0.9%、1.1%、1.5%、2.3%、2.2%で変わらないが、直ぐ受診は 21.9%、26.2%、29.4%、23.4%、29.4%と少しずつ増えている(表 31)。

都道府県別緊急度判定を都道府県番号順(表 15-1、図 13-1)、事業者順(表 15-2、図 13-2)に示した(表 12-1、13-2 も合わせて参照)。都道府県ごとに差があり、かつ、事業者別に一定の傾向がある。119 番は中央値 1.5%、最大値 6.1、最小値 0%で、直ぐ受診は中央値 25.8%、最大値 45.4%、最小値 12.4 であった。E 事業者は 119 番が多く、D 事業者と F 事業者は直ぐ受診が多い。しかし、群馬県や三重県のように事業者特性ではなく地域特性と思われる場合もある。翌日受診、何かあれば受診、受診不要は、事業者ごとに一定の傾向が見られ、用語の使い方や相談マニュアルのためと思われる。

《相談業務経験年数別の相談対応者(看護師)による緊急度判定(受診の判断)》

電話相談業務経験年数で緊急度判定に違いがあるか、相談業務経験年数を 5 年未満、5 年以上 10 年未満、10 年以上に分けて緊急度判定を分析した(p42、Ⅲ-17)。前年度までよりも相談業務経験年数による違いが少なくなつて、均てん化してきている。

《相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科》

相談対応者がどのような診療科の受診を勧めているかを分析した(表 16、図 14、p42、Ⅲ-16 の再掲)。小児科 68.7%、外科系脳神経外科 5.5%、耳鼻科 4.1%、整形外科 2.5%、小児外科・一般小児科 2.4%、皮膚科 2.2%、歯科口腔外科 1.3%、眼科 1.1%、その他 12.3%であった。外科系診療科は 19.0%であった。経年変化は、相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科の割合は、小児科が 68.7%で、前年度(64.1%)より少し増えて、外科系が 19.0%で前年度(23.8%)より減った。

都道府県別に検討した表 12-1、13-2 で、小児科は、中央値 76.6%、最大値 86.9%、最小値 37.3%で、その他の診療科は、中央値 1.3%、最大値 37.2%、最小値 0.1%であった。東京都と大阪府は小児科がそれぞれ 54.5%、37.3%と少なく、その他の診療科が 30.8%、37.2%と多い。聞き取りから、急患センター、夜間休日診療所をその他の診療科としていて、実質的には小児科医や臨床研修医・総合医が診療していることが多いようである。その他の県でも、その他の診療科が多い場合は同様の傾向である。それ以外にその他の診療科に含まれる場合には、産婦人科(婦人科疾患の場合と、出生して産科退院後間もない新生児の場合)、泌尿器科、形成外科などを含んでいると思われる。

《都道府県別の医師の助言、医師の対応、対応困難》

全体では医師の助言 0.4%、医師の対応 0.1%で(p40、Ⅲ-14)、対応困難あり 0.3%(p42、Ⅲ-18)であるが、主な調査項目の都道府県・広域民間事業者別比較(表 12-1、13-2)において、医師の助言は中央値 0%、最大値 23.8%、最小値 0%で、山口県が 23.8%と多く、医師の対応は中央値 0%、最大値 0.8%、最小値 0%で、いずれの県も事業者も少ない。対応困難は中央値 0%、最大値 13.4%、最小値 0%で、広島県が 13.4%が多い。すなわち、一部の県のみで多い。個別会議で、状況を追加調査している。

《主訴と緊急度判定(受診の判断)の検討(表 17)》

主訴と緊急度判定(受診の判断)は、主訴別の直ぐ受診(「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)は平均 27.4%、最小 5.2%、最大 54.3%、SD11.5%である。平均+1SD38.9%以上すなわち緊急度が高いのは、(割合の高い順)けいれん・ふるえ 61.0%、熱傷 56.8%、喘鳴(息苦しそう)54.1%、腹痛 47.2%、咳 44.9%、尿の異常 42.1%、下痢 39.7%、頭部打撲 39.6%であった。特に平均+2SD(50.4%)以上は、けいれん・ふるえ 61.0%、熱傷 56.8%、喘鳴(息苦しそう)54.1%の 3 つの主訴で半数以上に受診勧奨している。他に呼吸器系、消化器系、泌尿器系で受診勧奨が多い主訴があることは、これらの疾患群の中に、保護者が観察する症状だけでは判断しにくい疾患を含む場合、急に状態が変化する疾患を含む場合があるために、電話相談では受診勧奨が増える傾向があるものと思われる。

《乳児期早期の発熱主訴例の緊急度判定(表 18)》

今年度初めて、相談対象児年齢の乳児期分類(1 か月未満、1 か月～3 か月未満、3 か月～6 か月未満、6 か月～1 歳未満)のデータが十分に得られた。近年、乳児期早期の予防接種が進んでいて予防接種による 2～3 か月児の発熱機会が増えているので、乳児期早期の発熱時の緊急度判定を検討した。1 か月～6 か月未満にまとめている茨城県、埼玉県、広島県、佐賀県 4 県を除いた 42 都道府県(該当 42 都道府県の相談対象児年齢分布 p30Ⅲ-4)で、発熱主訴例の相談対象児年齢と緊急度判定を検討した。1 か月未満と 1 か月～3 か月未満は直ぐ受診が 62～64%で、翌日受診と何かあれば受診がそれに続き、受診不要は 4～5%とまれであった。新生児から 3 か月未満までの発熱は受診を勧奨することが多い。6 か月以降は年長児例と同様の判断がなさ

れている。3 か月～6 か月未満は 3 か月未満と 6 か月以上の中間(すぐ受診が 30%)であった。6 か月未満、特に 3 か月未満の発熱は受診勧奨をすることが多い。次年度は、発熱と予防接種と緊急度判定の関連を検討する予定である。

発熱の緊急度判定は、相談対象児年齢 1 か月未満と 1 か月～3 か月未満は受診勧奨が多く(62～64%)、6 か月以降は年長児例と同様で、3 か月～6 か月未満は 3 か月未満と 6 か月以上の中間(30%)である。

《緊急度判定 119 番の主訴、相談対象児年齢の検討(表 19、21)》

119 番ケースを全国的に集めることができたので、119 番ケースの主訴と相談対象児年齢を分析した。主訴は、多い順にけいれん・ふるえ 14.3%、発熱 12.0%、喘鳴(息苦しう)11.6%、嘔気・嘔吐 11.4%、咳 8.0%、発疹 5.3%であり、けいれん・ふるえが特に多いのではなく、呼吸器症状や嘔気・嘔吐が比較的多くなった。119 番ケースの相談対象児年齢は、多い順に 1～2 歳未満 18.6%、0～1 才未満 13.1%、2～3 歳未満 13.0%、3～4 歳未満 10.2%であった。年少児の対応の重要性を示している。1～2 歳未満が最も高いのは、熱性けいれんが好発する年齢であることが影響していると思われる。

《発症時期、相談前受診、相談者の満足度、相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科それぞれと緊急度判定の検討(表 21～25)》

緊急度判定と、発症時期、相談前受診(受診後電話相談)、相談者の満足度(相談対応者による印象)、相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科の関連を検討した。

発症時期は(p36、Ⅲ-10)、1 時間前以内が 53.4%で、12 時間前以内が 74.7%である。発症時期と緊急度判定(表 21)は、1 時間～6 時間未満が最も緊急度が高いが、6 時間以降でも大差はなく、発症時期と緊急度に強い関連性はない。

相談前受診(受診後電話相談)(p37、Ⅲ-12)のあり/なしで緊急度判定を見ると(表 22)、相談前受診ありは緊急度が低い。相談前受診の都道府県比較は(表 12-1、13-2)、中央値 22.6%、最大値 32.6%、最小値 15.7%で、都道府県間で少し差違があり、秋田県、佐賀県、沖縄県が 30%以上であった。その理由は不明で、今後、個別会議等で情報収集を行う。

相談者の満足度(相談対応者の印象)で不満気は 1,242 件、0.5%のみで、満足 99.5%で非常に満足度が高い。満足度と緊急度判定を検討したところ(表 23)、翌日受診と何かあれば受診の 2 について満足度が高く(満足/不満気比がそれぞれ 3.09、3.58)、特に何かあれば受診の満足度が高い。このようなことがあれば受診しましょうと丁寧に伝えることが、#8000 の大きな利点であるとする。事業者、相談対応者が「何かあれば受診」の説明のスキルを高めて頂くことを望む。

相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科と緊急度判定は(表 24)、脳神経外科、一般外科、整形外科、その他の診療科で受診勧奨が多い。その他の診療科は前述のように、夜間休日診療所受診を示すので受診勧奨が大半になる。脳神経外科、一般外科、整形外科は緊急度が高い外科系疾患である。

《主訴と相談前受診、相談対応時間 15 分以上、医師の助言・対応、相談対応者の対応困難それぞれとの検討(表 25～29)》

相談前受診(受診後電話相談)の有無と主訴で(表 25)、相談前受診あり/なし比は平均 17.8%、SD9.9%で、平均+1SD の 27.7%以上は、発熱 32.8%、咳 36.3%、薬 38.8%であった。発熱と咳は受診時にその後の経過と対応をよく説明すること、薬局での服薬説明の充実が今後必要であると思われる。

相談対応時間(相談対応に要した時間)15 分以上の主訴の割合、全体よりの増加率で検討した(表 26)。全体よりの増加率は、平均 0.75、SD0.32 で、平均+1SD の 1.07 以上は、下痢、腹痛、便の異常、啼泣・なきやまない、薬であった。消化器系主訴は急性腹症、脱水を想起するため、相談者の不安が強く、相談対応者の説明も長くなると思われる。薬は、医療者および薬局の服薬説明の不足が考えられる。

医師の助言・対応と主訴は(表 27)、助言+対応の割合の平均 0.58%、SD0.87%、平均+1SD が 1.44%で、薬(4.40%)のみ多かった。ただし、都道府県別の医師の助言・対応の割合の検討で(表 12-1～2)、山口県のみが医師の助言 23.8%で非常に高い(他県は 1%未満)ため、今後、山口県を除いた検討も行う予定である。

相談対応者(看護師)の対応感想(対応で困ったこと、対応困難)と主訴は(表 28)、相談対応者の対応困難は 295 件、0.3%で、対応困難あり/(対応困難あり+対応困難なし)比は平均 0.51%、SD0.28%で、平均+1SD の 0.78%以上は、鼻汁・鼻づまり 0.97%、目の異常 0.86%、尿の異常 1.31%、薬 1.03%であった。鼻汁・鼻づまり、目の異常、尿の異常は、相談者の不安が強いこと、日頃から保護者により詳しい情報提供が必要なことが考えられる。目の異常は眼科の救急医療体制、救急担当医療機関が明示されていない等の問題があるのかも知れない。薬は、前述のように、薬局の服薬説明の不足が考えられる。対応困難の都道府県比較(表 12)では広島県が 13.4%と高いが、広島県の地元事業者が NDS-8000-2 を新たに導入した影響があるかも知れない。都道府県版で分析する。

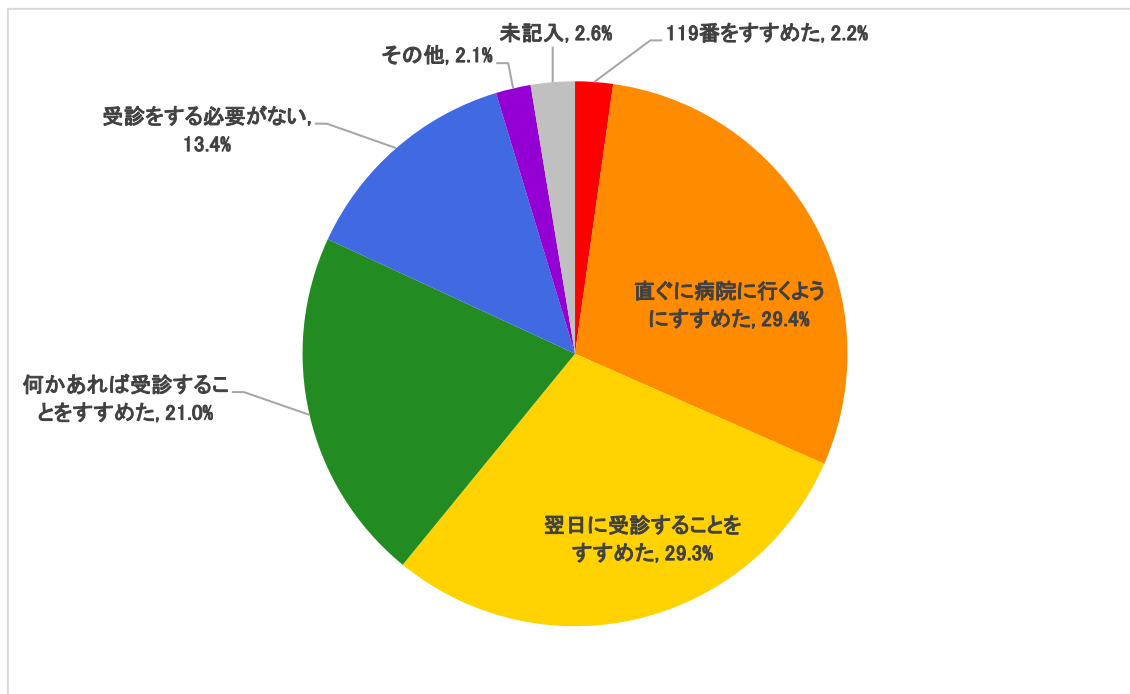
《諸状況によって割合が高くなる主訴(表 29)》

今までの主訴と他の因子との関連の検討をまとめた。それぞれの因子によって主訴の割合が平均+1SD 以上になる場合を有意とした。詳細は前述のそれぞれの検討を参照されたい。

119 番あるいは直ぐ受診をすすめる主訴は、咳、喘鳴(息苦しう)、下痢、腹痛、けいれん・ふるえ、頭部打撲、熱傷、尿の異常で、とくに、喘鳴(息苦しう)、けいれん・ふるえ、熱傷は 50%以上になる。相談対象児が第一子あるいは子ども一人家庭は下痢、便の異常、啼泣・なきやまない、予防接種が多くなる。相談前受診(受診後電話相談)は発熱、咳、薬が多い。相談時間 15 分以上を要するのは、下痢、腹痛、便の異常、啼泣・なきやまない、薬が多い。医師の助言・対応を要した主訴は、薬が多い。相談対応者の対応困難が鼻汁・鼻づまり、目の異常、尿の異常、薬が多い。

この分析結果を、相談対応時、および啓発活動の参考にさせていただきたい。

図 12. 相談対応者（看護師）による緊急度判定（受診の判断）



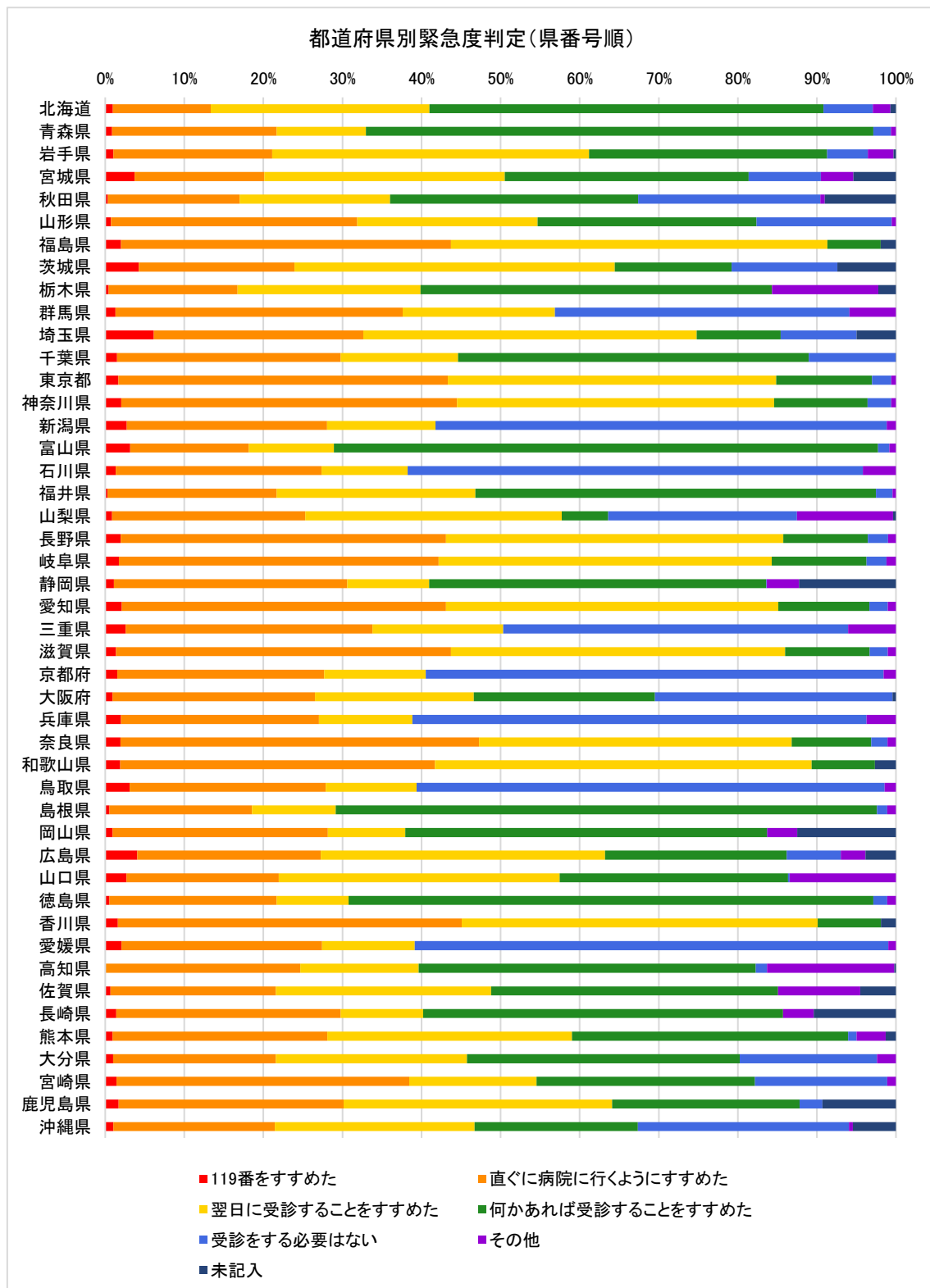
※ Ⅲ-13 を円グラフにした。未記入を除かない割合で検討する。119 番+直ぐ受診は 31.6%である。「119 番」は経年変化が 0.9%、1.1%、1.5%、2.3%、2.2%で昨年増加しそのまま変わらない。「すぐ受診」は経年変化が 21.9%、26.2%、29.4%、23.4%、29.4%と少し増えている。

表 15-1. 都道府県別緊急判定(受診の判断)の分析(県番号順)

都道府県番号	都道府県	事業者 (広域民間事業者 A～G)	119 番を すすめた	直ぐに 病院に 行くよう にすすめた	翌日に 受診する ことを すすめた	何かあ れば受 診する ことを すすめた	受診 する必 要は ない	そ 他	未記 入	計	(119 番+直 ぐ受 診)割 合	受診 不要 割合
46 都道府県			2.2%	29.4%	29.3%	21.0%	13.4%	2.1%	2.6%	100.0%	31.6%	13.4%
1	北海道	地 A	1.0%	12.4%	27.7%	49.8%	6.3%	2.2%	0.7%	100.0%	13.4%	6.3%
2	青森県	A	0.9%	20.8%	11.3%	64.2%	2.2%	0.6%	0.0%	100.0%	21.7%	2.2%
3	岩手県	地 A	1.0%	20.1%	40.1%	30.1%	5.1%	3.3%	0.3%	100.0%	21.1%	5.1%
4	宮城県	地 A	3.7%	16.4%	30.4%	30.8%	9.1%	4.1%	5.4%	100.0%	20.1%	9.1%
5	秋田県	地 B	0.3%	16.6%	19.0%	31.4%	23.0%	0.6%	9.0%	100.0%	17.0%	23.0%
6	山形県	C	0.7%	31.2%	22.8%	27.7%	17.1%	0.5%	0.0%	100.0%	31.9%	17.1%
7	福島県	D	2.0%	41.7%	47.6%	6.7%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%	43.7%	0.0%
8	茨城県	E	4.3%	19.7%	40.5%	14.8%	13.4%	0.0%	7.4%	100.0%	23.9%	13.4%
9	栃木県	地	0.4%	16.3%	23.1%	44.4%	0.0%	13.5%	2.2%	100.0%	16.7%	0.0%
10	群馬県	B	1.3%	36.3%	19.3%	0.0%	37.2%	5.9%	0.0%	100.0%	37.6%	37.2%
11	埼玉県	E	6.1%	26.5%	42.1%	10.7%	9.6%	0.0%	5.0%	100.0%	32.6%	9.6%
12	千葉県	地	1.5%	28.3%	14.9%	44.3%	11.0%	0.0%	0.0%	100.0%	29.8%	11.0%
13	東京都	F	1.7%	41.7%	41.5%	12.1%	2.4%	0.6%	0.0%	100.0%	43.3%	2.4%
14	神奈川県	F	2.0%	42.4%	40.1%	11.8%	3.0%	0.6%	0.0%	100.0%	44.5%	3.0%
15	新潟県	B	2.7%	25.3%	13.7%	0.0%	57.1%	1.2%	0.0%	100.0%	28.1%	57.1%
16	富山県	A	3.2%	15.0%	10.8%	68.8%	1.4%	0.8%	0.0%	100.0%	18.1%	1.4%
17	石川県	B	1.3%	26.0%	10.9%	0.0%	57.6%	4.2%	0.0%	100.0%	27.3%	57.6%
18	福井県	(地)A	0.3%	21.4%	25.1%	50.7%	2.1%	0.4%	0.0%	100.0%	21.7%	2.1%
19	山梨県	地	0.9%	24.4%	32.4%	5.9%	23.9%	12.2%	0.4%	100.0%	25.3%	23.9%
20	長野県	F	2.0%	41.1%	42.6%	10.7%	2.6%	1.0%	0.0%	100.0%	43.1%	2.6%
21	岐阜県	F	1.7%	40.5%	42.1%	12.0%	2.5%	1.2%	0.0%	100.0%	42.2%	2.5%
22	静岡県	C	1.1%	29.5%	10.3%	42.6%	0.1%	4.1%	12.3%	100.0%	30.6%	0.1%
23	愛知県	F	2.1%	41.0%	42.0%	11.5%	2.3%	1.0%	0.0%	100.0%	43.1%	2.3%
24	三重県	B	2.6%	31.2%	16.5%	0.0%	43.6%	6.0%	0.0%	100.0%	33.8%	43.6%
25	滋賀県	F	1.4%	42.3%	42.3%	10.7%	2.3%	1.0%	0.0%	100.0%	43.7%	2.3%
26	京都府	B	1.5%	26.2%	12.9%	0.0%	57.9%	1.6%	0.0%	100.0%	27.7%	57.9%
27	大阪府	地	0.9%	25.6%	20.1%	22.9%	30.0%	0.0%	0.4%	100.0%	26.5%	30.0%
28	兵庫県	B	2.0%	25.0%	11.8%	0.0%	57.4%	3.7%	0.0%	100.0%	27.0%	57.4%
29	奈良県	F	1.9%	45.4%	39.5%	10.1%	2.1%	1.1%	0.0%	100.0%	47.3%	2.1%
30	和歌山県	D	1.9%	39.8%	47.6%	8.0%	0.0%	0.0%	2.7%	100.0%	41.7%	0.0%
31	鳥取県	B	3.1%	24.8%	11.5%	0.0%	59.2%	1.4%	0.0%	100.0%	27.9%	59.2%
32	島根県	A	0.5%	18.0%	10.6%	68.5%	1.3%	1.1%	0.0%	100.0%	18.6%	1.3%
33	岡山県	C	0.9%	27.2%	9.8%	45.8%	0.0%	3.8%	12.5%	100.0%	28.2%	0.0%
34	広島県	地 E	4.0%	23.2%	36.0%	23.0%	6.8%	3.1%	3.9%	100.0%	27.2%	6.8%
35	山口県	G	2.7%	19.3%	35.5%	28.9%	0.2%	13.4%	0.0%	100.0%	21.9%	0.2%
36	徳島県	A	0.5%	21.2%	9.1%	66.4%	1.8%	1.1%	0.0%	100.0%	21.7%	1.8%
37	香川県	D	1.6%	43.5%	45.0%	8.0%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%	45.1%	0.0%
38	愛媛県	B	2.1%	25.4%	11.7%	0.0%	59.9%	1.0%	0.0%	100.0%	27.4%	59.9%
39	高知県	地	0.0%	24.7%	15.0%	42.6%	1.4%	16.1%	0.2%	100.0%	24.7%	1.4%
41	佐賀県	地 C	0.7%	20.9%	27.2%	36.3%	0.0%	10.4%	4.5%	100.0%	21.6%	0.0%
42	長崎県	C	1.4%	28.4%	10.4%	45.5%	0.0%	3.9%	10.4%	100.0%	29.8%	0.0%
43	熊本県	地 D	0.9%	27.2%	30.9%	34.9%	1.1%	3.7%	1.3%	100.0%	28.1%	1.1%
44	大分県	地 C	1.0%	20.6%	24.2%	34.5%	17.4%	2.4%	0.0%	100.0%	21.6%	17.4%
45	宮崎県	C	1.4%	37.0%	16.1%	27.6%	16.7%	1.1%	0.0%	100.0%	38.4%	16.7%
46	鹿児島県	地 D	1.7%	28.4%	34.0%	23.7%	2.9%	0.0%	9.3%	100.0%	30.1%	2.9%
47	沖縄県	地 B	1.0%	20.4%	25.3%	20.6%	26.7%	0.5%	5.5%	100.0%	21.5%	26.7%

※ 緊急度判定「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」は、全体では 31.6%、都道府県別では中央値 27.8%、最大 47.3%、最小 13.4%で、前年度より少し増えている。

図 13-1. 都道府県別緊急度判定(受診の判断)の分析(県番号順)



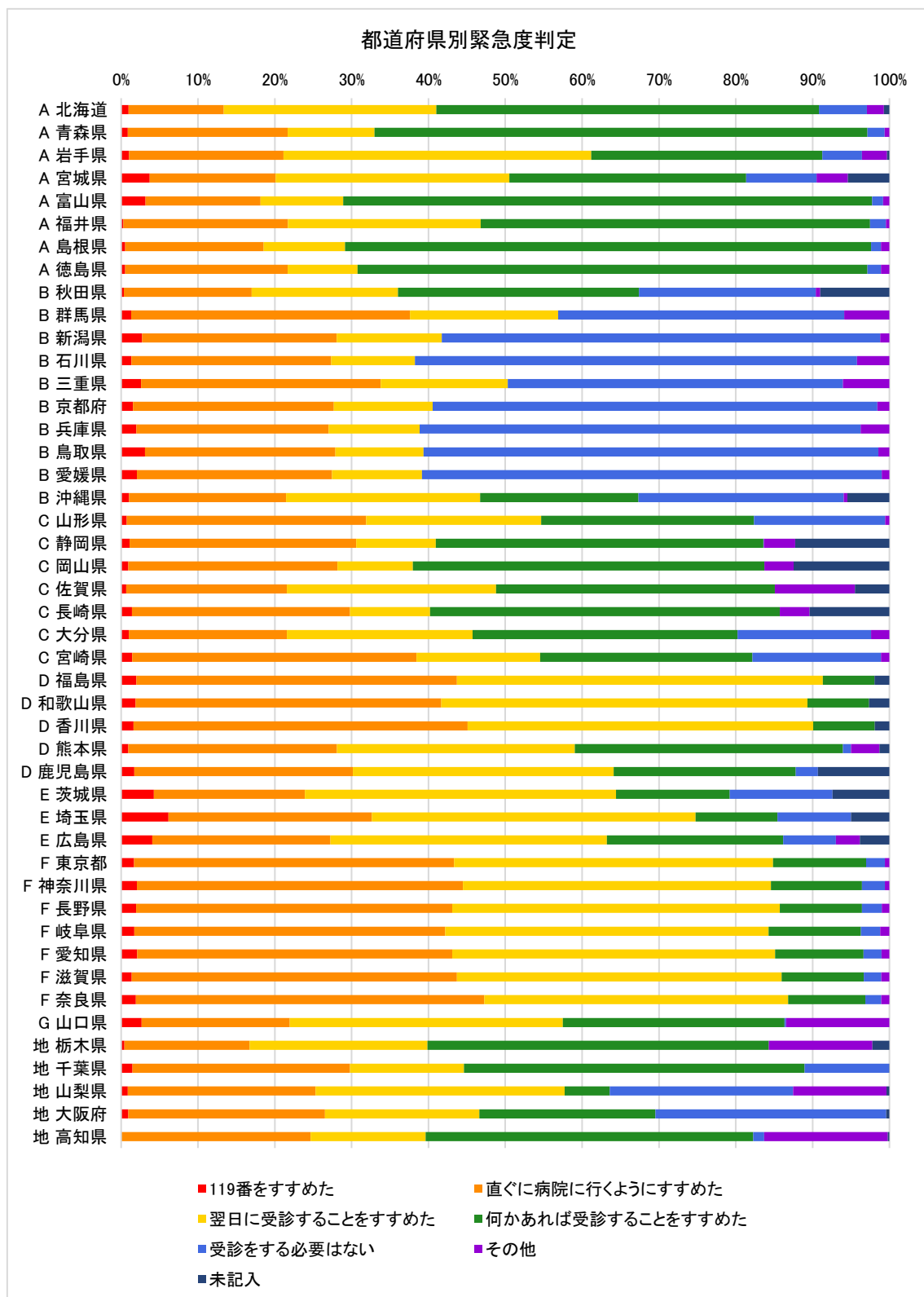
※ 緊急度判定「119番をすすめた」+「すぐに病院に行くようにすすめた」は、全体では31.6%、都道府県別では中央値27.8%、最大47.3%、最小13.4%で、前年度より少し増えている。

表 15-2. 都道府県別緊急判定(受診の判断)の分析(事業者順)

都道府県 番号	都道府県	事業者 記号	119番を すすめた	直ぐに病 院に行く ようにす すすめた	翌日に受 診するこ とをすす めた	何かあれ ば受診す ることを すすめた	受診をす る必要は ない	その他	未記入	計	(119番+ 直ぐ受 診)割合	受診不要 割合
46都道府県			2.2%	29.4%	29.3%	21.0%	13.4%	2.1%	2.6%	100.0%	31.6%	13.4%
1	北海道	A	1.0%	12.4%	27.7%	49.8%	6.3%	2.2%	0.7%	100.0%	13.4%	6.3%
2	青森県	A	0.9%	20.8%	11.3%	64.2%	2.2%	0.6%	0.0%	100.0%	21.7%	2.2%
3	岩手県	A	1.0%	20.1%	40.1%	30.1%	5.1%	3.3%	0.3%	100.0%	21.1%	5.1%
4	宮城県	A	3.7%	16.4%	30.4%	30.8%	9.1%	4.1%	5.4%	100.0%	20.1%	9.1%
16	富山県	A	3.2%	15.0%	10.8%	68.8%	1.4%	0.8%	0.0%	100.0%	18.1%	1.4%
18	福井県	A	0.3%	21.4%	25.1%	50.7%	2.1%	0.4%	0.0%	100.0%	21.7%	2.1%
32	島根県	A	0.5%	18.0%	10.6%	68.5%	1.3%	1.1%	0.0%	100.0%	18.6%	1.3%
36	徳島県	A	0.5%	21.2%	9.1%	66.4%	1.8%	1.1%	0.0%	100.0%	21.7%	1.8%
5	秋田県	B	0.3%	16.6%	19.0%	31.4%	23.0%	0.6%	9.0%	100.0%	17.0%	23.0%
10	群馬県	B	1.3%	36.3%	19.3%	0.0%	37.2%	5.9%	0.0%	100.0%	37.6%	37.2%
15	新潟県	B	2.7%	25.3%	13.7%	0.0%	57.1%	1.2%	0.0%	100.0%	28.1%	57.1%
17	石川県	B	1.3%	26.0%	10.9%	0.0%	57.6%	4.2%	0.0%	100.0%	27.3%	57.6%
24	三重県	B	2.6%	31.2%	16.5%	0.0%	43.6%	6.0%	0.0%	100.0%	33.8%	43.6%
26	京都府	B	1.5%	26.2%	12.9%	0.0%	57.9%	1.6%	0.0%	100.0%	27.7%	57.9%
28	兵庫県	B	2.0%	25.0%	11.8%	0.0%	57.4%	3.7%	0.0%	100.0%	27.0%	57.4%
31	鳥取県	B	3.1%	24.8%	11.5%	0.0%	59.2%	1.4%	0.0%	100.0%	27.9%	59.2%
38	愛媛県	B	2.1%	25.4%	11.7%	0.0%	59.9%	1.0%	0.0%	100.0%	27.4%	59.9%
47	沖縄県	B	1.0%	20.4%	25.3%	20.6%	26.7%	0.5%	5.5%	100.0%	21.5%	26.7%
6	山形県	C	0.7%	31.2%	22.8%	27.7%	17.1%	0.5%	0.0%	100.0%	31.9%	17.1%
22	静岡県	C	1.1%	29.5%	10.3%	42.6%	0.1%	4.1%	12.3%	100.0%	30.6%	0.1%
33	岡山県	C	0.9%	27.2%	9.8%	45.8%	0.0%	3.8%	12.5%	100.0%	28.2%	0.0%
41	佐賀県	C	0.7%	20.9%	27.2%	36.3%	0.0%	10.4%	4.5%	100.0%	21.6%	0.0%
42	長崎県	C	1.4%	28.4%	10.4%	45.5%	0.0%	3.9%	10.4%	100.0%	29.8%	0.0%
44	大分県	C	1.0%	20.6%	24.2%	34.5%	17.4%	2.4%	0.0%	100.0%	21.6%	17.4%
45	宮崎県	C	1.4%	37.0%	16.1%	27.6%	16.7%	1.1%	0.0%	100.0%	38.4%	16.7%
7	福島県	D	2.0%	41.7%	47.6%	6.7%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%	43.7%	0.0%
30	和歌山県	D	1.9%	39.8%	47.6%	8.0%	0.0%	0.0%	2.7%	100.0%	41.7%	0.0%
37	香川県	D	1.6%	43.5%	45.0%	8.0%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%	45.1%	0.0%
43	熊本県	D	0.9%	27.2%	30.9%	34.9%	1.1%	3.7%	1.3%	100.0%	28.1%	1.1%
46	鹿児島県	D	1.7%	28.4%	34.0%	23.7%	2.9%	0.0%	9.3%	100.0%	30.1%	2.9%
8	茨城県	E	4.3%	19.7%	40.5%	14.8%	13.4%	0.0%	7.4%	100.0%	23.9%	13.4%
11	埼玉県	E	6.1%	26.5%	42.1%	10.7%	9.6%	0.0%	5.0%	100.0%	32.6%	9.6%
34	広島県	E	4.0%	23.2%	36.0%	23.0%	6.8%	3.1%	3.9%	100.0%	27.2%	6.8%
13	東京都	F	1.7%	41.7%	41.5%	12.1%	2.4%	0.6%	0.0%	100.0%	43.3%	2.4%
14	神奈川県	F	2.0%	42.4%	40.1%	11.8%	3.0%	0.6%	0.0%	100.0%	44.5%	3.0%
20	長野県	F	2.0%	41.1%	42.6%	10.7%	2.6%	1.0%	0.0%	100.0%	43.1%	2.6%
21	岐阜県	F	1.7%	40.5%	42.1%	12.0%	2.5%	1.2%	0.0%	100.0%	42.2%	2.5%
23	愛知県	F	2.1%	41.0%	42.0%	11.5%	2.3%	1.0%	0.0%	100.0%	43.1%	2.3%
25	滋賀県	F	1.4%	42.3%	42.3%	10.7%	2.3%	1.0%	0.0%	100.0%	43.7%	2.3%
29	奈良県	F	1.9%	45.4%	39.5%	10.1%	2.1%	1.1%	0.0%	100.0%	47.3%	2.1%
35	山口県	G	2.7%	19.3%	35.5%	28.9%	0.2%	13.4%	0.0%	100.0%	21.9%	0.2%
9	栃木県	地	0.4%	16.3%	23.1%	44.4%	0.0%	13.5%	2.2%	100.0%	16.7%	0.0%
12	千葉県	地	1.5%	28.3%	14.9%	44.3%	11.0%	0.0%	0.0%	100.0%	29.8%	11.0%
19	山梨県	地	0.9%	24.4%	32.4%	5.9%	23.9%	12.2%	0.4%	100.0%	25.3%	23.9%
27	大阪府	地	0.9%	25.6%	20.1%	22.9%	30.0%	0.0%	0.4%	100.0%	26.5%	30.0%
39	高知県	地	0.0%	24.7%	15.0%	42.6%	1.4%	16.1%	0.2%	100.0%	24.7%	1.4%

※ 緊急度判定「119番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」は、全体で 25.7%、最小 11.3%、最大 39.8%、で、前年度より均てん化している。

図 13-2. 都道府県別緊急判定(受診の判断)の分析(事業者順)



※ 事業者間の差があり、事業者 E の 119 番が、事業者 D、事業者 F で直ぐ受診が多い。

表 16. 相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科

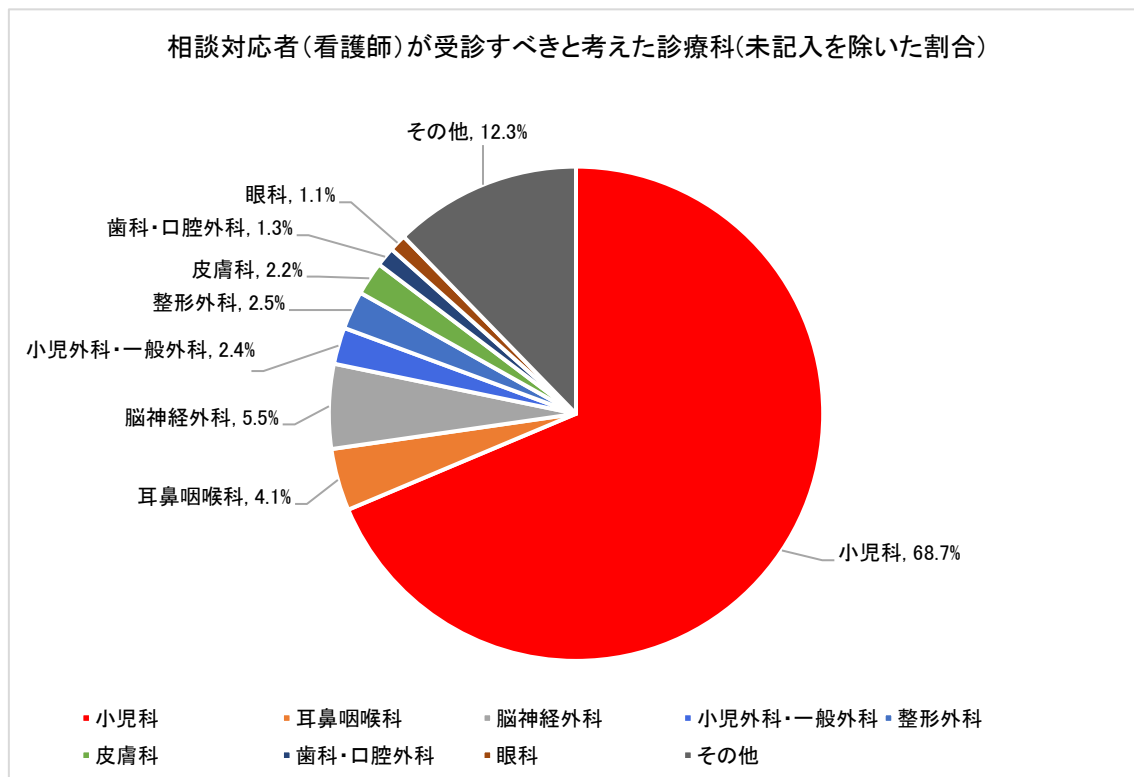
p41、Ⅲ-16 の再掲

診療科	件数	割合	未記入を除いた割合
小児科	110,908	40.7%	68.7%
耳鼻咽喉科	6,563	2.4%	4.1%
脳神経外科	8,933	3.3%	5.5%
小児外科・一般外科	3,875	1.4%	2.4%
整形外科	4,027	1.5%	2.5%
皮膚科	3,531	1.3%	2.2%
歯科・口腔外科	2,047	0.8%	1.3%
眼科	1,823	0.7%	1.1%
その他	19,839	7.3%	12.3%
未記入	110,850	40.7%	—
計	272,396	100.0%	—

※ 41 都道府県からデータが得られている。県ごとに全てでデータが得られるわけではなく、未記入率が高くなる(表 4)。未記入を除いて、小児科 68.7%、外科系脳神経外科 5.5%、耳鼻科 4.1%、整形外科 2.5%、小児外科・一般小児科 2.4%、皮膚科 2.2%、歯科口腔外科 1.3%、眼科 1.1%、その他 12.3%。都道府県別の小児科とその他の診療科の割合を表 11-1、12-2 に示した。

図 14. 相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科

p41、Ⅲ-16 の再掲



※ 41 都道府県からデータが得られている。県ごとに全てでデータが得られるわけではなく、未記入率が高くなる(表 4)。未記入を除いて、小児科 68.7%、外科系脳神経外科 5.5%、耳鼻科 4.1%、整形外科 2.5%、小児外科・一般小児科 2.4%、皮膚科 2.2%、歯科口腔外科 1.3%、眼科 1.1%、その他 12.3%。都道府県別の小児科とその他の診療科の割合を表 11-1、12-2 に示した。

表 17. 主訴と緊急度判定(受診の判断)

主訴	119 番 をすす めた	直ぐに 病院に 行くよ うにす すめた	翌日に 受診す ること をすす めた	何かあ れば受 診する ことを すす めた	受診を する必 要がな い	その他	未記入	計	119 番 + 直ぐに 病院に 行く
発熱	1.0%	20.3%	36.1%	23.5%	15.0%	2.3%	1.8%	100.0%	21.3%
嘔気・嘔吐	2.8%	34.6%	25.9%	23.5%	10.6%	1.3%	1.3%	100.0%	37.4%
咳	2.5%	42.4%	22.2%	22.0%	8.5%	1.2%	1.2%	100.0%	44.9%
喘鳴(息苦しそう)	8.1%	46.0%	18.6%	19.1%	6.2%	0.6%	1.4%	100.0%	54.1%
鼻水・鼻づまり	0.2%	22.7%	36.3%	27.2%	11.3%	1.2%	1.0%	100.0%	22.9%
下痢	1.7%	38.0%	37.3%	15.8%	6.0%	0.5%	0.7%	100.0%	39.7%
腹痛	2.0%	45.3%	27.5%	17.5%	6.0%	0.8%	0.9%	100.0%	47.2%
便の異常(血便・便秘)	1.9%	41.5%	37.6%	14.2%	3.7%	0.4%	0.7%	100.0%	43.3%
頭痛	1.9%	30.7%	26.4%	26.0%	11.1%	2.4%	1.5%	100.0%	32.5%
けいれん・ふるえ	21.8%	39.8%	14.9%	14.3%	6.9%	0.9%	1.4%	100.0%	61.6%
啼泣・なきやまない	1.0%	32.1%	18.7%	31.5%	14.2%	1.2%	1.4%	100.0%	33.1%
発疹(じんましん)	2.9%	35.1%	31.1%	20.8%	7.8%	0.9%	1.3%	100.0%	38.0%
頭部打撲	1.6%	38.0%	27.7%	21.2%	9.8%	0.4%	1.3%	100.0%	39.6%
頭部以外の外傷	1.0%	38.5%	22.4%	17.9%	17.4%	1.4%	1.4%	100.0%	39.5%
異物誤飲	1.3%	27.0%	21.0%	29.5%	16.1%	2.6%	2.4%	100.0%	28.3%
熱傷	3.5%	53.3%	20.8%	12.5%	8.1%	1.0%	1.0%	100.0%	56.8%
耳・鼻・のどの異常	0.5%	18.1%	41.5%	20.3%	15.7%	1.6%	2.2%	100.0%	18.6%
目の異常	0.6%	24.9%	39.3%	27.0%	4.3%	1.3%	2.5%	100.0%	25.6%
歯科・口腔の異常	0.5%	22.2%	35.2%	24.0%	13.4%	2.1%	2.7%	100.0%	22.7%
尿の異常	0.5%	41.7%	16.2%	32.6%	6.6%	0.9%	1.5%	100.0%	42.1%
薬	0.2%	5.2%	20.2%	26.6%	33.2%	10.5%	4.1%	100.0%	5.4%
予防接種	0.5%	17.9%	19.9%	22.3%	36.5%	1.7%	1.3%	100.0%	18.4%
その他	2.4%	25.9%	23.4%	20.8%	17.4%	3.9%	6.2%	100.0%	28.3%
計	2.1%	30.7%	29.1%	21.7%	12.6%	1.9%	2.0%	100.0%	32.8%

※ 主訴別の直ぐ受診(「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)は平均 27.4%、最小 5.2%、最大 54.3%、SD11.5% である。受診勧奨することが多い主訴、平均+1SD38.9%以上は、(割合が高い順に))けいれん・ふるえ 61.0%、熱傷 56.8%、喘鳴(息苦しそう)54.1%、腹痛 47.2%、咳 44.9%、尿の異常 42.1%、下痢 39.7%、頭部打撲 39.6%で、前 3 者のけいれん・ふるえ、熱傷、喘鳴(息苦しそう)は、平均+2SD 以上かつ 50%を超え、受診勧奨することが多い主訴である。

表 18 . 発熱主訴例の相談対象児年齢と緊急度(対象 42 都道府県)

相談対象児年齢	発熱の相談対応者(看護師)による緊急度判定						
	119番を すすめた	直ぐに病 院に行く ようにす すすめた	翌日に受 診するこ とをすす めた	何かあれ ば受診す ることを すすめた	受診をす る必要が ない	その他	未記入
1か月未満	0.4%	64.2%	8.0%	20.7%	5.2%	1.0%	0.4%
1～3か月未満	0.7%	62.4%	11.6%	19.6%	4.4%	0.3%	1.0%
3～6か月未満	0.4%	30.2%	33.4%	23.5%	10.3%	1.1%	1.1%
6か月～1歳未満	0.5%	16.0%	39.8%	25.0%	15.5%	1.7%	1.5%
1～2歳未満	1.3%	16.4%	34.9%	26.4%	16.8%	2.5%	1.7%
2～3歳未満	1.4%	18.3%	33.7%	25.2%	17.0%	2.7%	1.7%
3～4歳未満	1.1%	18.3%	31.2%	26.4%	18.9%	2.7%	1.5%
4～5歳未満	0.8%	18.4%	31.9%	26.5%	18.4%	2.5%	1.4%
5～6歳未満	1.0%	18.1%	32.1%	25.9%	18.4%	2.7%	1.8%
6～7歳未満	0.8%	19.8%	32.1%	25.1%	17.9%	2.7%	1.6%
7～8歳未満	0.6%	19.1%	33.1%	25.4%	17.2%	2.9%	1.8%
8～9歳未満	0.7%	17.2%	34.7%	25.0%	17.8%	3.1%	1.5%
9～10歳未満	0.7%	18.3%	33.2%	24.9%	17.8%	3.5%	1.7%
10～11歳未満	0.5%	18.4%	30.9%	27.3%	17.7%	3.5%	1.7%
11～12歳未満	0.8%	18.0%	31.1%	25.6%	19.6%	3.8%	1.2%
12～13歳未満	0.8%	17.5%	34.5%	22.7%	18.7%	3.8%	2.0%
13～14歳未満	0.8%	15.3%	35.6%	24.6%	17.7%	3.9%	2.1%
14～15歳未満	0.7%	15.9%	36.1%	23.4%	18.4%	4.0%	1.5%
それ以上	1.0%	14.4%	32.3%	25.8%	15.4%	8.4%	2.7%

※ 1 か月～6 か月未満にまとめている茨城県、埼玉県、広島県、佐賀県 4 県を除いた 42 都道府県を対象として、発熱主訴の緊急度判定を分析した。1 か月未満と 1 か月～3 か月未満は直ぐ受診が 60%以上で、受診を勧奨することが多い。6 か月以降は年長児例と同等で、3 か月～6 か月未満はそれより低年齢児と高年齢児の間(30%)である。

表 19. 緊急度判定 119 番の主訴の分類

主訴	相談対応者(看護師)による緊急度判定	
	119 番をすすめた	
	件数	割合
発熱	878	12.0%
嘔気・嘔吐	830	11.4%
咳	587	8.0%
喘鳴(息苦しう)	844	11.6%
鼻水・鼻づまり	17	0.2%
下痢	230	3.1%
腹痛	356	4.9%
便の異常(血便・便秘)	226	3.1%
頭痛	107	1.5%
けいれん・ふるえ	1,046	14.3%
啼泣・なきやまない	50	0.7%
発疹(じんましん)	386	5.3%
頭部打撲	315	4.3%
頭部以外の外傷	206	2.8%
異物誤飲	136	1.9%
熱傷	68	0.9%
耳・鼻・のどの異常	59	0.8%
目の異常	10	0.1%
歯・口腔の異常	9	0.1%
尿の異常	3	0.0%
薬	12	0.2%
予防接種	7	0.1%
その他	921	12.6%
計	7,303	100.0%

※ 多い順にけいれん・ふるえ 14.3%、発熱 12.0%、喘鳴(息苦しう) 11.6%、嘔気・嘔吐 11.4%、咳 8.0%、発疹 5.3%である。けいれん・ふるえが特に多いのではなく、呼吸器症状や嘔気・嘔吐が比較的多い。

表 20. 緊急度判定 119 番の相談対象児年齢

相談対象児年齢	相談対応者(看護師)による緊急度判定	
	119 番をすすめた	
	件数	割合
1 か月未満	36	1.1%
1～3 か月未満	86	2.6%
3～6 か月未満	79	2.3%
6 か月～1 歳未満	239	7.1%
1～2 歳未満	626	18.6%
2～3 歳未満	437	13.0%
3～4 歳未満	342	10.2%
4～5 歳未満	312	9.3%
5～6 歳未満	256	7.6%
6～7 歳未満	188	5.6%
7～8 歳未満	134	4.0%
8～9 歳未満	127	3.8%
9～10 歳未満	89	2.6%
10～11 歳未満	80	2.4%
11～12 歳未満	53	1.6%
12～13 歳未満	66	2.0%
13～14 歳未満	43	1.3%
14～15 歳未満	40	1.2%
それ以上	87	2.6%
未記入	44	1.3%
計	3,364	100.0%

※ 多い順に 1～2 歳未満 18.6%、0～1 才未満 13.1%、2～3 歳未満 13.0%、3～4 歳未満 10.2%である。

表 21. 発症時期と緊急度判定（受診の判断）

相談対応者（看護師）による 緊急度判定	発症時期					
	直前～ 1 時間未満	1 時間～ 6 時間未満	6 時間～12 時間未満	12 時間以 上	未記入	計
119 番をすすめた	2.2%	0.9%	0.9%	0.8%	3.4%	2.2%
直ぐに病院に行くようにすすめた	33.3%	36.3%	31.4%	25.3%	25.7%	29.4%
翌日に受診することをすすめた	21.3%	30.4%	29.6%	30.1%	35.8%	29.3%
何かあれば受診することをすすめた	23.6%	20.8%	20.7%	24.0%	17.5%	21.0%
受診をする必要はない	16.6%	8.9%	14.1%	17.1%	10.0%	13.4%
その他	1.4%	1.7%	1.9%	1.6%	3.0%	2.1%
未記入	1.5%	1.2%	1.5%	1.1%	4.7%	2.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
119 番をすすめた＋直ぐに病院に 行くようにすすめた	35.5%	37.1%	32.3%	26.1%	29.1%	31.6%

※ 1 時間～6 時間未満が最も緊急度が高いが、6 時間以降でも大差はなく、発症時期は緊急度に強い関連性はない。

表 22. 相談前受診（受診後電話相談）と緊急度判定（受診の判断）

相談対応者（看護師）による 緊急度判定	相談前の受診の有無							
	相談前受診あり		相談前受診なし		不明		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
119 番をすすめた	845	1.7%	4,268	2.4%	983	2.2%	6,096	2.2%
直ぐに病院に行くようにすすめた	11,806	24.5%	56,974	31.8%	11,268	25.0%	80,048	29.4%
翌日に受診することをすすめた	12,754	26.4%	51,429	28.7%	15,556	34.6%	79,739	29.3%
何かあれば受診することをすすめた	12,298	25.5%	35,977	20.1%	8,930	19.8%	57,205	21.0%
受診をする必要がない	8,464	17.5%	25,138	14.0%	2,948	6.6%	36,550	13.4%
その他	1,071	2.2%	1,910	1.1%	2,668	5.9%	5,649	2.1%
未記入	1,048	2.2%	3,415	1.9%	2,646	5.9%	7,109	2.6%
計	48,286	100.0%	179,111	100.0%	44,999	100.0%	272,396	100.0%
119 番をすすめた＋直ぐに病院に 行くようにすすめた	12,651	26.2%	61,242	34.2%	12,251	27.2%	86,144	31.6%

※ 相談前受診ありは、緊急度が低い。

表 23. 相談者の満足度(相談対応者による印象)と緊急度判定(受診の判断)

相談対応者(看護師)による 緊急度判定	満足		不満気		不明		計		満足割合 /不満気 割合
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
119番をすすめた	4,908	2.0%	41	3.3%	1,147	4.8%	6,096	2.2%	0.60
直ぐに病院に行くようにすすめた	74,516	30.2%	249	20.0%	5,283	21.9%	80,048	29.4%	1.50
翌日に受診することをすすめた	70,589	28.6%	115	9.3%	9,035	37.5%	79,739	29.3%	3.09
何かあれば受診することをすすめた	53,395	21.6%	75	6.0%	3,735	15.5%	57,205	21.0%	3.58
受診をする必要がない	34,178	13.8%	239	19.2%	2,133	8.8%	36,550	13.4%	0.72
その他	4,227	1.7%	501	40.3%	921	3.8%	5,649	2.1%	0.04
未記入	5,239	2.1%	22	1.8%	1,848	7.7%	7,109	2.6%	1.20
計	247,052	100.0%	1,242	100.0%	24,102	100.0%	272,396	100.0%	-
119番をすすめた＋直ぐに病院に行くようにすすめた	79,424	32.1%	290	23.3%	6,430	26.7%	86,144	31.6%	1.38

※ 何かあれば受診は満足度が高い。

表 24. 相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科と緊急度判定(受診の判断)

相談対応者が受診 すべきと考えた診療 科	緊急度判定							
	119 番を すすめた	直ぐに病 院に行く ようにす すすめた	翌日に受 診するこ とをすす めた	何かあれ ば受診す ることを すすめた	受診をす る必要が ない	その他	未記入	119 番 ＋ 直ぐに病 院に行く
小児科	1.1%	24.6%	31.8%	23.3%	15.7%	1.6%	1.8%	25.8%
耳鼻咽喉科	0.9%	21.7%	42.5%	16.0%	15.9%	1.3%	1.7%	22.6%
脳神経外科	1.6%	42.8%	17.3%	23.5%	13.0%	0.4%	1.3%	44.4%
小児外科・一般外科	1.0%	46.7%	14.2%	14.6%	20.4%	1.3%	1.8%	47.7%
整形外科	0.5%	46.5%	25.6%	19.0%	6.2%	0.8%	1.4%	47.0%
皮膚科	0.9%	30.2%	32.8%	16.5%	17.6%	0.8%	1.3%	31.1%
歯科・口腔外科	0.4%	26.7%	38.8%	18.5%	12.8%	1.1%	1.7%	27.1%
眼科	0.7%	25.3%	42.1%	18.5%	10.9%	0.4%	2.0%	26.1%
その他診療科	0.4%	76.1%	8.4%	9.8%	1.4%	3.7%	0.2%	76.5%
未記入	4.0%	24.0%	30.8%	21.3%	13.1%	2.6%	4.2%	28.0%
計	2.2%	29.4%	29.3%	21.0%	13.4%	2.1%	2.6%	31.6%

表 25. 相談前受診(受診後電話相談)の有無と主訴

主訴	相談前受診の有無							
	相談前受診あり		相談前受診なし		不明		計	相談前受診あり/(あり+なし)
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	
発熱	24,400	27.3%	50,046	55.9%	15,053	16.8%	89,499	32.8%
嘔気・嘔吐	4,956	16.5%	20,703	68.9%	4,371	14.6%	30,030	19.3%
咳	7,201	30.7%	12,638	53.9%	3,597	15.3%	23,436	36.3%
喘鳴(息苦しそう)	1,738	16.6%	6,740	64.3%	2,001	19.1%	10,479	20.5%
鼻水・鼻づまり	1,752	24.5%	4,639	64.7%	774	10.8%	7,165	27.4%
下痢	2,656	19.5%	9,960	73.1%	1,007	7.4%	13,623	21.1%
腹痛	2,773	15.4%	13,271	73.5%	2,005	11.1%	18,049	17.3%
便の異常(血便・便秘)	1,941	16.1%	9,383	78.1%	695	5.8%	12,019	17.1%
頭痛	892	15.6%	3,805	66.4%	1,033	18.0%	5,730	19.0%
けいれん・ふるえ	839	17.5%	3,254	67.8%	703	14.7%	4,796	20.5%
啼泣・なきやまない	565	11.0%	3,693	71.7%	893	17.3%	5,151	13.3%
発疹(じんましん)	1,972	14.8%	9,188	69.0%	2,151	16.2%	13,311	17.7%
頭部打撲	468	2.4%	16,980	86.3%	2,230	11.3%	19,678	2.7%
頭部以外の外傷	630	3.1%	16,582	81.6%	3,118	15.3%	20,330	3.7%
異物誤飲	250	2.5%	8,413	83.2%	1,445	14.3%	10,108	2.9%
熱傷	58	2.9%	1,575	79.9%	337	17.1%	1,970	3.6%
耳・鼻・のどの異常	1,172	10.9%	7,263	67.6%	2,315	21.5%	10,750	13.9%
目の異常	181	11.7%	1,001	64.7%	366	23.6%	1,548	15.3%
歯科・口腔の異常	136	7.0%	1,421	73.4%	379	19.6%	1,936	8.7%
尿の異常	136	20.5%	398	60.1%	128	19.3%	662	25.5%
薬	1,720	33.2%	2,709	52.3%	749	14.5%	5,178	38.8%
予防接種	129	9.1%	1,134	80.4%	147	10.4%	1,410	10.2%
その他	7,057	18.0%	25,271	64.5%	6,854	17.5%	39,182	21.8%
計	63,622	18.4%	230,067	66.5%	52,351	15.1%	346,040	100.0%

※ 相談前受診あり/なし比が平均 17.8%、SD99.9%で、平均+1SD (27.7%) 以上は、発熱 32.8%、咳 36.3%、薬 38.8%である。

表 26. 相談対応時間(相談対応に要した時間)15 分以上の主訴の割合、全体よりの増加率

主訴	回答数	割合	相談件数	計	全体よりの増加率(割合比)
発熱	1,870	25.7%	89,499	91,369	0.78
嘔気・嘔吐	796	11.0%	30,030	30,826	0.99
咳	495	6.8%	23,436	23,931	0.79
喘鳴(息苦しそう)	139	1.9%	10,479	10,618	0.50
鼻水・鼻づまり	127	1.7%	7,165	7,292	0.66
下痢	491	6.8%	13,623	14,114	1.35
腹痛	528	7.3%	18,049	18,577	1.10
便の異常(血便・便秘)	462	6.4%	12,019	12,481	1.44
頭痛	110	1.5%	5,730	5,840	0.72
けいれん・ふるえ	113	1.6%	4,796	4,909	0.88
啼泣・なきやまない	147	2.0%	5,151	5,298	1.07
発疹(じんましん)	214	2.9%	13,311	13,525	0.60
頭部打撲	239	3.3%	19,678	19,917	0.46
頭部以外の外傷	240	3.3%	20,330	20,570	0.44
異物誤飲	149	2.1%	10,108	10,257	0.55
熱傷	14	0.2%	1,970	1,984	0.27
耳・鼻・のどの異常	75	1.0%	10,750	10,825	0.26
目の異常	31	0.4%	1,548	1,579	0.75
歯科・口腔の異常	28	0.4%	1,936	1,964	0.54
尿の異常	16	0.2%	662	678	0.91
薬	158	2.2%	5,178	5,336	1.14
予防接種	13	0.2%	1,410	1,423	0.35
その他	813	11.2%	39,182	39,995	0.78
計	7,268	100.0%	346,040	353,308	-

※ 全体よりの増加率は、平均 0.75、SD0.32 で、平均+1SD の 1.07 以上は、下痢、腹痛、便の異常、啼泣・なきやまない、薬であった。

表 27. 医師の助言・対応と主訴

主訴	医師の助言を受けた		医師が対応した		医師の助言・対応なし		不明		計	医師から助言＋医師が対応の割合
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合		
発熱	316	0.4%	34	0.0%	82,958	92.7%	6,191	6.9%	89,499	0.39%
嘔気・嘔吐	102	0.3%	10	0.0%	27,881	92.8%	2,037	6.8%	30,030	0.37%
咳	120	0.5%	15	0.1%	21,490	91.7%	1,811	7.7%	23,436	0.58%
喘鳴(息苦しそう)	88	0.8%	0	0.0%	9,998	95.4%	393	3.8%	10,479	0.84%
鼻水・鼻づまり	9	0.1%	7	0.1%	6,741	94.1%	408	5.7%	7,165	0.22%
下痢	8	0.1%	7	0.1%	13,099	96.2%	509	3.7%	13,623	0.11%
腹痛	64	0.4%	7	0.0%	17,160	95.1%	818	4.5%	18,049	0.39%
便の異常(血便・便秘)	8	0.1%	8	0.1%	11,814	98.3%	189	1.6%	12,019	0.13%
頭痛	27	0.5%	3	0.1%	5,193	90.6%	507	8.8%	5,730	0.52%
けいれん・ふるえ	40	0.8%	5	0.1%	4,653	97.0%	98	2.0%	4,796	0.94%
啼泣・なきやまない	10	0.2%	1	0.0%	4,872	94.6%	268	5.2%	5,151	0.21%
発疹(じんましん)	46	0.3%	11	0.1%	12,377	93.0%	877	6.6%	13,311	0.43%
頭部打撲	13	0.1%	0	0.0%	18,989	96.5%	676	3.4%	19,678	0.07%
頭部以外の外傷	74	0.4%	0	0.0%	18,853	92.7%	1,403	6.9%	20,330	0.36%
異物誤飲	66	0.7%	69	0.7%	9,521	94.2%	452	4.5%	10,108	1.34%
熱傷	4	0.2%	0	0.0%	1,827	92.7%	139	7.1%	1,970	0.20%
耳・鼻・のどの異常	27	0.3%	0	0.0%	9,947	92.5%	776	7.2%	10,750	0.25%
目の異常	6	0.4%	1	0.1%	1,378	89.0%	163	10.5%	1,548	0.45%
歯科・口腔の異常	0	0.0%	1	0.1%	1,829	94.5%	106	5.5%	1,936	0.05%
尿の異常	3	0.5%	0	0.0%	621	93.8%	38	5.7%	662	0.45%
薬	96	1.9%	132	2.5%	4,510	87.1%	440	8.5%	5,178	4.40%
予防接種	1	0.1%	0	0.0%	1,283	91.0%	126	8.9%	1,410	0.07%
その他	112	0.3%	57	0.1%	36,338	92.7%	2,675	6.8%	39,182	0.43%
計	1,240	0.4%	368	0.1%	323,332	93.4%	21,100	6.1%	346,040	0.46%

※ 医師の助言+対応の割合の平均 0.58%、SD0.87%、平均+1SD が 1.44%で、薬(4.40%)のみ多かった。

表 28. 相談対応者(看護師)の対応感想(対応で困ったこと、対応困難)と主訴

主訴	対応困難あり		対応困難なし		不明		計	対応困難あり/(対応困難あり+対応困難なし)
	件数	割合	件数	割合	件数	割合		
発熱	108	0.1%	34,081	38.1%	55,310	61.8%	89,499	0.32%
嘔気・嘔吐	41	0.1%	8,431	28.1%	21,558	71.8%	30,030	0.48%
咳	32	0.1%	7,448	31.8%	15,956	68.1%	23,436	0.43%
喘鳴(息苦しそう)	15	0.1%	2,751	26.3%	7,713	73.6%	10,479	0.54%
鼻水・鼻づまり	17	0.2%	1,732	24.2%	5,416	75.6%	7,165	0.97%
下痢	5	0.0%	1,848	13.6%	11,770	86.4%	13,623	0.27%
腹痛	22	0.1%	3,589	19.9%	14,438	80.0%	18,049	0.61%
便の異常(血便・便秘)	3	0.0%	1,343	11.2%	10,673	88.8%	12,019	0.22%
頭痛	5	0.1%	1,809	31.6%	3,916	68.3%	5,730	0.28%
けいれん・ふるえ	7	0.1%	1,841	38.4%	2,948	61.5%	4,796	0.38%
啼泣・なきやまない	7	0.1%	1,816	35.3%	3,328	64.6%	5,151	0.38%
発疹(じんましん)	21	0.2%	4,247	31.9%	9,043	67.9%	13,311	0.49%
頭部打撲	18	0.1%	5,857	29.8%	13,803	70.1%	19,678	0.31%
頭部以外の外傷	15	0.1%	8,318	40.9%	11,997	59.0%	20,330	0.18%
異物誤飲	11	0.1%	3,217	31.8%	6,880	68.1%	10,108	0.34%
熱傷	3	0.2%	677	34.4%	1,290	65.5%	1,970	0.44%
耳・鼻・のどの異常	19	0.2%	3,889	36.2%	6,842	63.6%	10,750	0.49%
目の異常	6	0.4%	691	44.6%	851	55.0%	1,548	0.86%
歯科・口腔の異常	7	0.4%	1,187	61.3%	742	38.3%	1,936	0.59%
尿の異常	6	0.9%	453	68.4%	203	30.7%	662	1.31%
薬	15	0.3%	1,438	27.8%	3,725	71.9%	5,178	1.03%
予防接種	3	0.2%	870	61.7%	537	38.1%	1,410	0.34%
その他	54	0.1%	11,998	30.6%	27,130	69.2%	39,182	0.45%
計	440	0.1%	109,531	31.7%	236,069	68.2%	346,040	0.40%

※ 対応困難あり/(対応困難あり+対応困難なし)比は平均 0.51%、SD0.28%で、平均+1SD の 0.78%以上は、鼻汁・鼻づまり 0.97%、目の異常 0.86%、尿の異常 1.31%、薬 1.03%であった。

表 29, 諸状況によって割合が高くなる主訴

主訴	119番ある いは直ぐ受 診をすすめ る	第1子あ るいは子ど も一人の 家庭	相談前受 診(受診後 電話相談)	相談時間 15分以上	医師の助 言・対応を 要する	相談対応 者の対応 困難
発熱			○			
咳	○		○			
喘鳴(息苦しそう)	◎					
鼻水・鼻づまり						○
下痢	○	○		○		
腹痛	○			○		
便の異常(血便・便秘)		○		○		
けいれん・ふるえ	◎					
啼泣・なきやまない		○		○		
頭部打撲	○					
異物誤飲						
熱傷	◎					
目の異常						○
尿の異常	○					○
薬			○	○	○	○
予防接種		○				

※ ○は平均+1SD 以上、◎は平均+2SD 以上とした。

IV-7. 新型コロナウイルス関連相談

表 30-1～2 に新型コロナウイルス関連の検討を示す。相談対象児年齢は 1 歳未満と 9 歳以上で新型コロナウイルス関連の方が多い。以前は年長児が多かったが、今年度は低年齢児も増えている。主訴は発熱が新型コロナウイルス関連の方が多いが、他の症状はいずれも少ない。主訴は、新型コロナ関連は新型コロナ以外に比べて、発熱、頭痛、薬が多く、咳、けいれん・ふるえは同じで、外因系が少ない。

表 30-1. 新型コロナウイルス関連相談と相談対象児年齢

年齢	新型コロナ関連		新型コロナ以外		未記入		総計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1 歳未満	1,171	28.5%	44,817	20.8%	10,761	20.3%	56,749	20.8%
1～2 歳未満	627	15.3%	34,933	16.2%	8,719	16.4%	44,279	16.3%
2～3 歳未満	313	7.6%	23,900	11.1%	5,948	11.2%	30,161	11.1%
3～4 歳未満	291	7.1%	21,746	10.1%	5,429	10.2%	27,466	10.1%
4～5 歳未満	266	6.5%	18,223	8.5%	4,478	8.4%	22,967	8.4%
5～6 歳未満	246	6.0%	16,132	7.5%	3,991	7.5%	20,369	7.5%
6～7 歳未満	214	5.2%	12,461	5.8%	3,034	5.7%	15,709	5.8%
7～8 歳未満	189	4.6%	9,967	4.6%	2,369	4.5%	12,525	4.6%
8～9 歳未満	155	3.8%	8,238	3.8%	1,973	3.7%	10,366	3.8%
9～10 歳未満	123	3.0%	5,989	2.8%	1,464	2.8%	7,576	2.8%
10～11 歳未満	129	3.1%	4,985	2.3%	1,278	2.4%	6,392	2.3%
11～12 歳未満	87	2.1%	3,518	1.6%	865	1.6%	4,470	1.6%
12～13 歳未満	75	1.8%	2,798	1.3%	733	1.4%	3,606	1.3%
13～14 歳未満	75	1.8%	2,236	1.0%	562	1.1%	2,873	1.1%
14～15 歳未満	74	1.8%	1,929	0.9%	427	0.8%	2,430	0.9%
それ以上	57	1.4%	1,907	0.9%	934	1.8%	2,898	1.1%
未記入	14	0.3%	1,504	0.7%	42	0.1%	1,560	0.6%
総計	4,106	100.0%	215,283	100.0%	53,007	100.0%	272,396	100.0%

※ 相談対象児年齢は、年長児が多いという、以前の傾向はなくなった。

表 30-2. 新型コロナウイルス関連相談と主訴

主訴	新型コロナ関連		新型コロナ以外		不明		総計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
発熱	2,746	56.0%	67,245	24.1%	19,508	31.4%	89,499	25.9%
嘔気・嘔吐	214	4.4%	25,415	9.1%	4,401	7.1%	30,030	8.7%
咳	324	6.6%	19,519	7.0%	3,593	5.8%	23,436	6.8%
喘鳴(息苦しそう)	85	1.7%	9,253	3.3%	1,141	1.8%	10,479	3.0%
鼻水・鼻づまり	85	1.7%	6,177	2.2%	903	1.5%	7,165	2.1%
下痢	131	2.7%	12,555	4.5%	937	1.5%	13,623	3.9%
腹痛	157	3.2%	16,030	5.7%	1,862	3.0%	18,049	5.2%
便の異常(血便・便秘)	112	2.3%	11,323	4.1%	584	0.9%	12,019	3.5%
頭痛	65	1.3%	4,730	1.7%	935	1.5%	5,730	1.7%
けいれん・ふるえ	54	1.1%	4,096	1.5%	646	1.0%	4,796	1.4%
啼泣・なきやまない	48	1.0%	4,328	1.6%	775	1.2%	5,151	1.5%
発疹(じんましん)	72	1.5%	11,225	4.0%	2,014	3.2%	13,311	3.8%
頭部打撲	11	0.2%	16,831	6.0%	2,836	4.6%	19,678	5.7%
頭部以外の外傷	16	0.3%	14,105	5.1%	6,209	10.0%	20,330	5.9%
異物誤飲	7	0.1%	8,379	3.0%	1,722	2.8%	10,108	2.9%
熱傷	0	0.0%	1,516	0.5%	454	0.7%	1,970	0.6%
耳・鼻・のどの異常	48	1.0%	8,536	3.1%	2,166	3.5%	10,750	3.1%
目の異常	4	0.1%	1,272	0.5%	272	0.4%	1,548	0.4%
歯科・口腔の異常	4	0.1%	1,372	0.5%	560	0.9%	1,936	0.6%
尿の異常	11	0.2%	507	0.2%	144	0.2%	662	0.2%
薬	105	2.1%	4,124	1.5%	949	1.5%	5,178	1.5%
予防接種	2	0.0%	686	0.2%	722	1.2%	1,410	0.4%
その他	604	12.3%	29,874	10.7%	8,704	14.0%	39,182	11.3%
未記入	35	0.7%	1,978	0.7%	171	0.3%	2,184	0.6%
総計	4,905	100.0%	279,098	100.0%	62,037	100.0%	346,040	100.0%

※ 主訴は、新型コロナ関連は新型コロナ以外に比べて、発熱、頭痛、薬が多く、咳、けいれん・ふるえは同じで、外因系が少ない。

V. 総括

V-1. 令和 5 年度#8000 情報収集分析事業の要約

《全都道府県の#8000 事業の実施状況》準夜帯は全都道府県が実施し、深夜帯は 1 時までの 1 県を除く 46 都道府県が朝まで実施し、日祝日日勤帯は 28 都県が実施している。3 県が 24 時間 365 日実施している。17 道府県を地元事業者が担当し、そのうち 5 府県は地元事業者単独、12 道県は地元事業者と広域民間事業者を併用している。広域民間事業者は 5 社から 7 社に増えて、42 都道府県を担当している。都道府県が年々#8000 事業の実施体制を充実させてきている。《データ分析システム》データ分析システムを、Microsoft Dynamics 365 を用いた NDS-8000-1 から、kintone を用いた NDS-8000-2 に変更した。時差問題がない、カスタマイズが容易、ランセンス料金が安価など、機能性、効率性が改善した。広島県の地元事業者が NDS-8000-2 を用いている。データ取得方法はシステム直接入力、マークシート、Excel/CSV ファイル提出に加えて、AI-OCR 方式を加えた 4 方式とした。AI-OCR 方式は 3 県で用いた。

《各調査項目のデータ取得状況》データが得られない調査項目はあまり変わらないが、相談対象児年齢のデータ取得状況は改善して、他の調査項目との検討が可能になった。今年度は、できるだけ多くの調査項目について、都道府県別分析を行った。

《参加県、データ取得状況》福岡県を除く 46 都道府県が参加して、対象年少人口は全国の 95.5% となった。2023 年 9 月～11 月 3 か月 91 日間に#8000 データ 272,396 件を収集した。参加 46 都道府県の#8000 事業実施状況は、準夜帯 46 都道府県、深夜帯 45 都道府県、日祝日日勤帯 27 都県である。年少人口千人対相談件数/月は全体(全相談件数/全年少人口)6.5、都道府県別中央値 5.4、最大値 18.3、最小値 2.7 で、小児科医師・小児外科医師対相談件数/月は、全体 5.1、中央値 5.4、最大値 17.3、最小値 2.1 で、都道府県間差違は 6 倍以上と大きい。各都道府県内の年少人口対相談件数の小児医療圏間較差(最大/最小比)は、中央値 2.3、最大値 10.1、最小値 1.2 で、5.0 以上が 7 都県あった。年少人口対#8000 相談件数すなわち#8000 利用率は都道府県別、小児医療圏別でそれぞれ比較的大きな較差があり、#8000 実施体制、#8000 認知度、地理的社会状況が影響していると考えられる。今後、#8000 実施体制の都道府県間、小児医療圏間の均てん化が望まれる。

《相談件数の時間変動(1 時間ごとの相談件数)》平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群の対象年少人口対相談件数の時間変動を求めて、都道府県の実施体制の差違に影響されないように標準化した。準夜帯のピークは平日と土曜日・日祝日で異なり、平日は 19～20 時にピークがあり、土曜日・日祝日はピークが 18～21 時とより早く、幅広くなる。21 時～6 時は 3 群とも同様で、21 時から深夜帯に向けて急速に減少して、深夜帯は準夜帯ピーク時の 1/3～1/7 に減り、4～6 時が最低である。6 時以降は再上昇し始めて、平日と土曜日の日勤帯午前中は 8～10 時にピーク時の 1/3(0～1 時と同等)になる。日祝日は 7～8 時から上昇し始め、9～10 時にピーク時の 7 割まで上昇する。日祝日日勤帯の総和は準夜帯の総和と同等で、日祝日日勤帯のニーズは大きい。46 都道府県の相談件数時間変動曲線を作成すると、準夜帯早期にピークがあること、深夜帯にニーズが下がること、日祝日日勤帯のニーズは比較的多いことが共通してみられた。加えて準夜帯早期のピークが平日(除祝日)、土曜日(除祝日)、日祝日 3 群で等しい特徴的なパターン

の場合は回線数の飽和による話中が疑われた。これらを参考にして、#8000 実施体制(実施時間帯、回線数)を検討していただきたい。

《相談対象児の分析、#8000 を利用する小児の特徴》相談対象児年齢は、1 歳未満 20.8%、3 歳未満 48.2%で、低年齢児ほど多い。男女比は 1.10 で昨年より下がった。主訴は割合順では発熱 32.9%、嘔気・嘔吐 11.0%、咳 8.6%、頭部以外の外傷 7.5%、頭部打撲 7.2%、腹痛 6.6%、下痢 5.0%、発疹(じんましん) 4.9%、便の異常 4.4%、耳・鼻・のどの異常 3.9%、喘鳴 3.8%、異物誤飲 3.7%であった。系統別では、消化器系主訴(嘔気・嘔吐、下痢、腹痛、便の異常) 27.1%、呼吸器系主訴(咳、喘鳴(息苦しそう)、鼻水・鼻づまり、耳・鼻・のどの異常) 19.0%、外因系主訴(頭部打撲、頭部以外の外傷、異物誤飲、熱傷) 19.1%で、令和 2～3 年度の新型コロナウイルスパンデミックの時期にみられた発熱と消化器系主訴の減少と外因系主訴の増加は、いずれも令和元年度レベルに戻った。ただし、呼吸器系主訴のみ漸増傾向が続いている。第 1 子あるいは子ども一人の家庭は 50.8%で、50%を超えた。都道府県別の第 1 子あるいは子ども一人の家庭の割合は、中央値 51.8%、最大値 68.5%、最小値 36.2%であった。都道府県別の発熱の割合は、中央値 36.1%、最大値 46.9%、最小値 22.0%であった。都道府県別の外因系主訴の割合は、中央値 18.4%、最大値 26.2%、最小値 5.2%であった。都道府県別の呼吸器系主訴の割合は、中央値 17.8%、最大値 41.2%、最小値 10.5%であった。これらは、都道府県による差はあるが、事業者による傾向は見られない。

《相談者の分析、#8000 を利用する保護者の特徴》相談者の続柄は、母親 83.1%、父親 15.5%、祖母 0.3%、祖父 0.1%で、母親がほとんどで、父親の比率は増えていない。ただし、父親の相談は 20 時～3 時に増え、父親が夜間に育児に協力している状況がみられる。相談者の年代は、10 代 0.2%、20 代 16.3%、30 代 61.5%、40 代 20.0%で、40 代が増えてきている。相談の分類・目的は、救急医療相談合計(救急医療相談と救急医療相談+医療機関案内を合わせて) 71.9%、医療機関案内合計(医療機関案内と救急医療相談+医療機関案内を合わせて) 10.8%、薬 2.3%、ホームケア 1.7%、育児相談 0.9%で、救急医療相談が多い。相談前受診は 21.2%で、新型コロナウイルスパンデミック時に低下したが、令和元年度レベルに戻っている。都道府県別の相談者が父親の割合は中央値 15.3%、最大値 18.4%、最小値 12.6%であった。都道府県別の相談の分類(目的)の救急医療相談の割合は中央値 78.6%、最大値 99.8%、最小値 12.5%で、医療機関案内の割合は中央値 7.3%、最大値 84.1%、最小値 0%で、佐賀県と大阪府が医療機関案内の割合が特に高い。都道府県別の相談前受診ありの割合は中央値 22.6%、最大値 32.6%、最小値 15.7%であった。これらの項目は、事業者による差は少なく、都道府県による差で、地域特性の影響が大きいと思われる。

《相談対応の分析》緊急度判定は、119 番をすすめた 2.2%、直ぐに病院に行くようにすすめた 29.4%、翌日に受診することをすすめた 29.4%、何かあれば受診することをすすめた 21.0%、受診をする必要はない 13.4%、その他 2.1%、未記入 2.6%であった。直ぐ受診(119 番をすすめた+直ぐに病院に行くようにすすめた)は 31.6%で、前年度より増加した。119 番は経年変化で変わらないが、直ぐ受診は少しずつ増えている。都道府県別緊急度判定は、都道府県ごとに差があり、かつ、事業者別に一定の傾向がある。特に 119 番が多い事業者、直ぐ受診が多い事業者が見られる。

相談業務経験年数別の相談対応者(看護師)による緊急度判定は、相談業務経験年数による違いが少なくなって、均てん化してきている。

相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科は、小児科 68.7%、脳神経外科 5.5%、耳鼻科 4.1%、整形外科 2.5%、小児外科・一般小児科 2.4%、皮膚科 2.2%、歯科口腔外科 1.3%、眼科 1.1%、その他 12.3%であった。外科系診療科をまとめると 19.0%であった。小児科は前年度より少し増えて、外科系は減った。都道府県別検討で、東京都と大阪府は小児科が少なく、その他の診療科が多いが、これは、急患センター、夜間休日診療所をその他の診療科としていて、実質的には小児科医や臨床研修医・総合医が診療しているようである。それ以外にその他の診療科に含まれるものには、産婦人科(婦人科疾患の場合と、出生して産科退院後間もない新生児の場合)、泌尿器科、形成外科などを含んでいると思われる。医師の助言、医師の対応、対応困難ありは全体ではそれぞれ 0.4%、0.1%、0.3%と少ないが、都道府県別で、医師の助言は山口県が 23.8%と多い。《諸因子と緊急度判定(受診の判断)の検討》直ぐ受診(119 番をすすめた+直ぐに病院に行くようにすすめた)の割合が高い(平均+1SD 以上とした)、すなわち受診勧奨をすることが多い主訴は、けいれん・ふるえ 61.0%、熱傷 56.8%、喘鳴(息苦しそう)54.1%、腹痛 47.2%、咳 44.9%、尿の異常 42.1%、下痢 39.7%、頭部打撲 39.6%であった。発熱の緊急度判定は、相談対象時年齢 1 か月未満と 1 か月～3 か月未満は受診勧奨が多く(62～64%)、6 か月以降は年長児例と同様で(20%未満)、3 か月～6 か月未満は 3 か月未満と 6 か月上の中間(30%)である。119 番ケースの主訴は多い順にけいれん・ふるえ 14.3%、発熱 12.0%、喘鳴(息苦しそう)11.6%、嘔気・嘔吐 11.4%、咳 8.0%、発疹 5.0%で、相談対象児年齢は多い順に 1～2 歳未満 18.6%、0～1 才未満 13.1%、2～3 歳未満 13.0%、3～4 歳未満 10.2%であった。発症時期は、1 時間～6 時間未満が最も緊急度が高いが、6 時間以降でも大差はなく、発症時期は緊急度に強い関連性はない。相談前受診ありは緊急度が低い。相談前受診ありは、秋田県、佐賀県、沖縄県で 30%以上であった。相談者の満足度は、満足 99.5%で非常に満足度が高い。緊急度判定が翌日受診と何かあれば受診の 2 つの場合に、満足度が高い。相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科は、脳神経外科、一般外科、整形外科、その他の診療科で受診勧奨(直ぐ受診)が多い。

《諸因子と主訴の検討》相談対象児が第一子あるいは子ども一人家庭は下痢、便の異常、啼泣・なきやまない、予防接種が多い。相談前受診(受診後電話相談)は発熱、咳、薬が多い。相談時間 15 分以上を要するのは、下痢、腹痛、便の異常、啼泣・なきやまない、薬が多い。医師の助言・対応を要した主訴は、薬が多い。相談対応者の対応困難は、鼻汁・鼻づまり、目の異常、尿の異常、薬が多い。この分析結果を、相談対応時、および啓発活動の参考にしていきたい。

《新型コロナウイルス関連の検討》相談対象児年齢は 1 歳未満と 9 歳以上で新型コロナウイルス関連が多い。以前は年長児が多かったが、今年度は低年齢児も増えている。主訴は発熱が新型コロナウイルス関連の方が多いが、他の症状はいずれも少ない。主訴は、新型コロナ関連は新型コロナ以外に比べて、発熱、頭痛、薬が多く、咳、けいれん・ふるえは同じで、外因系が少ない。

V-2. #8000 事業の経年変化

#8000 情報収集分析事業(本事業)のこれまでの参加都道府県数/収集データ件数は、平成 29 年度 5 道府県/6,327 件、平成 30 年度 25 道府県/197,356 件、令和元年度 39 都道府県/241,387 件、令和 2 年度 44 都道府県/153,726 件、令和 3 年度 43 都道府県/179,280 件、令和 4 年度 45 都道府県/249,637 件、令和 5 年度 46 都道府県/272,396 件であった。令和 5 年度は本事業への参加都道府県数/収集データ件数ともに過去最多となった。対象年少人口全国比は 95.5%で、全国状況をみることが出来ている。全国展開となった令和元年度以降の 5 年間の経年変化をみた(表 31)。令和元年度は新型コロナウイルスパンデミック以前の 2019 年 12 月～2020 年 2 月にデータを収集したので、パンデミック以前からその後の変化を見ることが出来る。

対象年少人口千人対相談件数/月は、6.6→4.0→4.6→5.9→6.5 で、令和 2、3 年度は、新型コロナウイルスパンデミックによる受診抑制、小児感染症の減少の影響により一時的に減少し、令和 4～5 年度は以前に戻っている。相談対象児年齢は年少児が多く、1 歳未満が最多で、今年度は年長児が少し増える傾向が見られる。第 1 子あるいは子ども一人家庭からの相談割合は 50%を超えた。相談者は母親が主で、父親は 15～16%で変わらない。相談者年代は、30 代が主で、40 代が少しずつ増えて 20%になった。主訴は、新型コロナウイルスパンデミックの令和 2、3 年度に、発熱、消化器系が減少し、外因系は増加したが、令和 4～5 年度にはパンデミック前に戻っている。ただし、呼吸器系は漸増を続けている。呼吸器疾患に対する保護者の不安が増している状況が推察される。発症時期は、直前～1 時間前からが最多で 6～7 割であるが、今年度 53%に少し低下した。相談の分類・目的は、年度毎に変動があるが、救急医療相談が主体であること、医療機関案内のニーズは少ない。ただし地域差がある。相談前受診(受診後相談)は、新型コロナウイルスパンデミック時の受診行動の変化によって令和 2～3 年度に半減したが、今年度はパンデミック前に戻っている。119 番+および直ぐ受診と判定された割合は、これまでは 22.8%、27.3%、30.9%、25.7%、31.6%と増加傾向であるが、緊急度判定は事業者によって偏る傾向がある。都道府県、事業者との連携を強めて、均てん化するようにめざしたい。相談対応者が受診すべきと考えた診療科は、小児科が 7 割、外科系が 2 割、その他の診療科が 1 割であった。相談対応時間 15 分以上、医師の助言・対応、不満気(相談対応者の印象)、相談対応者の対応困難については件数が少ないものの、経年的にわずかに変化を認め、都道府県や事業者により差違が見られる。

表 31. 令和元年～5 年度#8000 情報収集分析事業の経年変化

事業年度		令和元年度 全体	令和 2 年度 全体	令和 3 年度 全体	令和 4 年度 全体	令和 5 年度 全体
調査期間		2019 年 12 月～2020 年 2 月	2020 年 12 月～2021 年 2 月	2021 年 9～11 月	2022 年 9～11 月	2023 年 9～11 月
対象都道府県		39 都道府県	44 都道府県	43 都道府県	45 都道府県	46 都道府県
対象年少人口全国比		88.9%	92.5%	91.6%	94.9%	95.5%
総相談件数		241,387	153,726	179,280	249,637	272,396
対象年少人口千人対総相談件平均/月		6.6	4.0	4.6	5.8	6.5
相談対象児年齢 (割合)	1 歳未満	23.0%	22.0%	25.4%	22.5%	20.8%
	3 歳未満	57.0%	59.0%	61.7%	56.7%	49.2%
	6 歳未満	79.1%	78.5%	84.7%	83.2%	74.2%
相談者年代	20 代	15.5%	18.9%	17.4%	16.4%	16.3%
	30 代	68.6%	67.5%	68.1%	66.6%	61.5%
	40 代	14.6%	15.2%	14.1%	16.4%	20.0%
相談者父親		13.8%	16.0%	15.5%	15.9%	15.5%
主訴(割合)	主訴:発熱	31.9%	22.4%	23.3%	31.3%	32.9%
	消化器系	30.7%	24.1%	22.6%	20.5%	27.1%
	呼吸器系	12.7%	11.5%	17.2%	22.7%	19.0%
	外因系	18.6%	31.7%	28.8%	21.1%	19.1%
発症時期	直前～1 時間前	63.8%	72.6%	65.9%	65.3%	53.4%
	12 時間前から	84.7%	82.1%	80.1%	79.6%	74.7%
相談の分類・目的	救急医療相談	27.9%	32.2%	58.9%	48.4%	71.9%
	医療機関案内	15.0%	17.7%	23.5%	6.8%	10.8%
第 1 子あるいは子ども一人の家庭		42.2%	49.2%	48.7%	48.7%	50.8%
相談前受診(受診後電話相談)		21.3%	8.9%	10.5%	15.0%	21.2%
相談対応時間 15 分以上		1.2%	0.6%	0.4%	0.5%	1.9%
緊急度判定: 119 番+直ぐ受診	平均値	22.8%	27.3%	30.9%	25.7%	31.6%
	都道府県の 最小値、最大値	2.9%～42.2%	12.7%～ 43.9%	12.3%～ 49.2%	11.3%～ 39.8%	13.4%～ 47.3%
医師の助言・対応を要した		0.1%	0.1%	0.3%	0.2%	0.5%
相談対応者が 受診すべきと考えた診療科	小児科	76.1%	65.9%	66.8%	64.1%	68.7%
	一般外科・小児外科	3.2%	4.9%	4.5%	3.2%	2.4%
	脳神経外科	6.1%	10.0%	9.1%	7.3%	5.5%
	整形外科	2.4%	4.1%	3.5%	3.0%	2.5%
満足度(相談対応者の印象): 不満気		0.1%	0.1%	0.5%	0.4%	0.5%
相談対応者の対応感想: 対応困難		0.1%	0.6%	0.1%	0.05%	0.3%

V-3. #8000 情報収集分析事業から得られた課題と対策

前年度報告書にかかげた 11 の課題について、その現状と対策を述べる。

課題 1. 参加を得られない県や、地元データを得られない県がある。

[対策]手書き入力で本事業に参加出来ない県、地元データを取得出来ない県に対して AI-OCR 方式を導入して、山梨県の参加と岩手県・宮城県の地元データの取得を得た。得られた調査項目は少ないが、得られたデータに大きな問題はなかった。不参加県 1 県、地元データを得られない県が 1 県に改善した。

課題 2. データの取得率が低い(未記入率が高い)調査項目があり、都道府県間で異なる。(第 1 子あるいは子ども一人家庭、相談員の電話相談業務経験年数は、個人情報なのでデータ収集出来ないとする県や事業者がある。電話対応時間が得られない事業者がある。)

[対策]各調査項目の都道府県比較を行い提示した。調査項目によっては、どうしてもデータが得られない県・事業者があるので、都道府県#8000 担当者および#8000 事業者と個別会議を行って、少しずつ改善をめざしている。

課題 3. 報告書作成に時間がかかる。

[対策]データが揃い、突合作業・確認作業を終えて報告書作成を行うのが 3 月になっており、都道府県・事業者との個別会議は次年度に遅れている。都道府県・事業者との個別会議はデータの正確性のために必要な作業で、ここまです 3 月中に終わるように、突合作業・確認作業の改善に努める。

課題 4. 相談対象児年齢分布が全ての都道府県では得られていない。

[対策]改善した。年齢別、とくに乳児期を細分類して、様々な因子とのクロス集計分析を進める。今年度は、発熱主訴の相談対象児年齢、緊急度判定の分析を行えた。乳児に細分類がまだ出来ない県があり、引き続き、改善をお願いしていく。

課題 5. #8000 利用率の地域差がある。

[対策]背景には、#8000 実施体制(実施時間帯と回線数)、#8000 認知度(広報)、地理的社会的状況等の因子がある。準夜帯開始時間や日祝日日勤帯実施の統一など、#8000 実施体制の全国均てん化をめざして行く。

課題 6. 相談件数の時間変動が大きい。(話中問題、応答率の低下)

[対策]できるだけ標準化した相談件数時間変動曲線を作成した。これを用いて、実施体制、回線数の調整を進める。今後、応答率のデータを収集する。

課題 7. 外因系主訴が比較的多い。それに対する救急医療体制が不十分である。

[対策]医療提供体制の全国均てん化が必要である。小児科医の外科系診療、必要な外科系診療体制を検討していく。

課題 8. 相談の分類・目的で、医療機関案内のニーズが比較的多い。

[対策]各都道府県の医療機関案内情報について、現在、日本小児科医会 HP に掲載しているリンクを更新していく。医療情報ネット、こども救急ガイドブックにおける小児救急医療機関案内の充実と広報を都道府県に求めている。

課題 9. 都道府県間で緊急度判定の差がある。

[対策]事業者による偏り、傾向があるので、事業者との話し合い(個別会議)をより早く、繰り返す行う。#8000 マニュアルの改定を進める。

課題 10. 相談対応者が受診すべきと考えた診療科において、その他の診療科が 10%以上あり、その緊急度は高い。

[対策]急患センター、夜間休日診療所をその他の診療科としていることがわかった。都道府県、広域民間事業者と話し合い、統一した分類になるように努める。

課題 11. 相談対応時間が長い例(15 分以上)、医師の助言・対応、相談者の不満気(満足度、相談対応者の印象)、相談対応者の対応困難は、件数は少ないが、さらに詳細な検討を要する。

[対策]今年度は、できるだけ各調査項目と緊急度判定や主訴とのクロス集計を行った。今後、さらに検討を加える。都道府県別の調査項目検討で、一部の事業者に偏りがあったので、個別会議を行い、調整していく。

VI 結語

年少人口対#8000 相談件数、相談件数の時間変動の分析により#8000 ニーズを把握して、#8000 実施体制の充実を進めていく。各都道府県#8000 担当者、#8000 民間事業者との細かな連携、意見交換が有用であった。#8000 を利用する相談対象児、相談者と相談対応状況について詳しく分析することで、小児救急医療、特に年少児の医療について、様々な貴重な知見を得た。#8000 は子ども達とその親たちにとって貴重な相談窓口であること、#8000 はわが国が約 20 年間をかけて築いてきた大切な子育て支援事業である。

Ⅶ. 引用資料

- 1) 渡部誠一、中澤 誠、衛藤義勝、市川光太郎、他. 小児救急外来受診における患者家族のニーズ、日本小児科学会雑誌. 2006; 110(5): 696-702
- 2) いのちをまもり医療をまもる国民プロジェクト宣言(2019 年 11 月 21 日)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000473642.pdf>
- 3) 子発 0322 第 5 号「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針の変更について」(令和 5 年 3 月 22 日)
- 4) 医政地発 0418 第 1 号「子ども医療電話相談事業(#8000 事業)の推進について」(平成 30 年 4 月 18 日)
<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/10/dl/tp1010-3.pdf>
- 5) 医政指発第 0706001「小児救急電話相談事業の推進について」(平成 18 年 7 月 6 日)
- 6) 令和 5 年 1 月 1 日住民基本台帳年齢階級別人口(市区町村別)、e-stat 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査
https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200241&tstat=000001039591&cycle=7&year=20230&month=0&tclass1=000001039601&stat_infid=000040079249&result_back=1&tclass2val=0
- 7) 医師・歯科医師・薬剤師統計 / 令和 2 年医師・歯科医師・薬剤師統計 閲覧、
https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=2&layout=dataset&toukei=00450026&tstat=000001135683&year=20200&month=0&stat_infid=000032179787&metadata=1&data=1
- 8) 小児医療圏—市町村対応表、
<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000773562.pdf>
- 9) 市川光太郎. トリアージによる家庭看護力アップ「Ambulatory triage から Parent (Home) triage へ～危急疾患をトリアージで見抜こう」2016 年日本小児科医学会会報、p.97-100
- 10) 日本小児科医会小児救急医療委員会. 小児救急医療情報ツール
https://www.jpaweb.org/sharp8000/sharp8000_2.html